大胡町発掘調査報告書Ⅰ

勢多郡大胡町茂木

天神風呂遺跡

主要地方道、前橋・大間々桐生線〈仮称大胡バイパス〉
建設の事前埋蔵文化財発掘調査報告書

1981

群馬県勢多郡大胡町教育委員会

粕川村出土文化財管理センター

序　　文

大胡町は、中世に赤城南麓の荒砥川沿いの西部舌状台地に築城された、大胡城を中心として発展した城下町であるとともに、裏日光街道の宿場町として、そして前橋・大間々街道の中間地として、また地方農畜産物の集散地として栄えた町である。

さらに大胡町は、他面において歴史の町でもある。旧石器時代の三ッ屋遺跡から堀越古墳の切石積石室、足軽町住居跡（古墳時代）などもあり、県指定史跡大胡城を始めとして、横沢供養塔や大胡太郎墓などの中世石造美術品も貴重な文化財である。

近年、交通機関の著しい発達にともなって、城下町や宿場町として発達した曲折した中央街路は、前橋・桐生線国道５０号に平行した北部重要路線であり、朝夕のラッシュ時には道路は車両輻輳し長い列をなす混雑ぶりである。このような混雑と交通渋滞ぶりではいつ不測の事態が発生しないとも限らないので、地元住民はもとより、利用者の近隣住民にとって、主要地方道・前橋・大間々桐生線（仮称大胡バイパス、全長４㎞、路面幅１４ｍ）の早期実現は、切実な問題となっている。

さて、大胡町上毛電鉄路線南部の大字樋越、上大屋、茂木の地域一帯は、処々に丘陵地帯を形成しており、先住民の遺跡埋蔵地として貴重なところである。殊に茂木天神風呂地区は、古墳時代の大集落が存在したところとされており、また茂木寺院の推定地ともなっている。

今回、上記大胡バイパス建設にあたって、これらの地域を発掘調査し、出土品を整理保存し発掘経過を記録保存することにより、鮮明に後世に残すことは極めて意義深いことであり、予備調査以来、直接ご指導いただいた群馬県教育委員会文化財保護課の方々や関係者各位のご努力に厚く感謝の意を表し、序文といたします。

昭和５６年２月１５日

大胡町教育委員会

教育長　　田部井　正　七

例　　言

1. 本書は群馬県勢多郡大胡町茂木字天神風呂 247, 248－1, 237－1, 2, 236 所在の「天神風呂遺跡」（群馬県遺跡番号 2213）の発掘報告である。

2. 発掘調査は主要地方道・前橋、大間々桐生線（仮称大胡バイパス）建設事業主である群馬県前橋土木事務所の委託を受け、群馬県教育委員会文化財保護課の指導により、大胡町教育委員会が主体となり実施したものである。

3. 発掘調査期間は 1980 年 1 月 16 日から 8 月 31 日、12 月 5 日～10 日までである。

4. 発掘調査は大胡町教育委員会文化財担当職員、山下歳信が担当した。

5. 本書の報告は、執筆、編集、遺物写真、遺物実測は山下が担当し、遺物復元は調査補助員の高橋洋二、遺構、遺物トレースは八木原和江、石井匡子、山下雅江が行なう。

6. 発掘調査及び報告書作成にあたり下記の方々のご協力をいただきました。厚く感謝の意を表したい。

群馬県教育委員会文化財保護課、(財)県埋蔵文化財調査事業団、群馬県前橋土木事務所、丸山知良、相沢貞順、飛田野正佳、他

≪発掘調査参加者≫

赤田聖一、　石井みさ子、　今井克幸、　今泉英子、　江原美智子、　大竹里美、
大原きよ枝、　大原ひで子、　大原真由美、　荻野政雄、　奥野富子、　掛川きみ、
小暮礼子、　斉藤正樹、　坂川敏則、　坂部孝、　坂部辰雄、　品川時次郎、　中島トミ
平田弥生、　星野うめ、　本間藤枝、　森下正雄、　横沢健、　吉田尋枝

目　　次

序　　文 …… 大胡町教育長　田部井正七 …… i
例　　言 …… ii
目　　次 …… iii
挿図目次 …… iv・v
図版目次 …… vi・vii
1　発掘調査に至る経過 …… 1
2　立地と歴史的環境 …… 2～4
3　発掘調査の概要と経過 …… 4～6
4　標準土層 …… 7
5　竪穴住居址一覧 …… 8～9
6　竪穴住居の遺構と遺物 …… 11～116
7　掘立柱建築址遺構 …… 117～122
8　溝状遺構 …… 123
9　土壙遺構 …… 124～125
10　遺構以外からの縄文関係遺物 …… 126～130
11　考察　竪穴住居址と出土遺物について（編年試案） …… 131～139
12　結語 …… 140

挿　図　目　次

第1図	遺跡位置と包蔵地分布図	3
〃2〃	標準層序図	7
〃3〃	天神風呂遺跡遺構配置図	10
〃4〃	1・2号住居址実測図	12
〃5〃	1・2号住居址出土遺物実測図	13
〃6〃	3号住居址実測図	14
〃7〃	3号住居址出土遺物実測図	15
〃8〃	4号住居址実測図	16
〃9〃	4号住居址出土遺物実測図	17
〃10〃	5・6・7号住居址実測図	19
〃11〃	5号住居址出土遺物実測図	20
〃12〃	6号住居址カマド実測図	21
〃13〃	8号住居址実測図	22
〃14〃	9号住居址実測図	23
〃15〃	9号住居址カマド実測図	24
〃16〃	9号住居址出土遺物実測図	25
〃17〃	10号住居址実測図	26
〃18〃	10号住居址出土遺物実測図(1)	27
〃19〃	10号住居址出土遺物実測図(2)	28
〃20〃	11号住居址実測図	31
〃21〃	11号住居址カマド実測図	32
〃22〃	11号住居址出土遺物実測図(1)	33
〃23〃	11号住居址出土遺物実測図(2)	34
〃24〃	12号住居址実測図	36
〃25〃	12号住居址出土遺物実測図	37
〃26〃	13号住居址出土石鏃	37
〃27〃	13号住居址、土壙状掘り込み実測図	38
〃28〃	13号住居址、土壙状掘り込み出土遺物実測図	38
〃29〃	14号住居址実測図	40
〃30〃	14号住居址出土遺物実測図	41
第31図	14号住居址出土遺物実測図	42
〃32〃	15号住居址実測図	44
〃33〃	15号住居址出土遺物実測図	45
〃34〃	16号住居址出土遺物実測図	45
〃35〃	16号住居址実測図	46
〃36〃	16号住居址カマド実測図	47
〃37〃	17号住居址実測図	49
〃38〃	17号住居址出土遺物実測図	50
〃39〃	17号住居址第1カマド実測図	51
〃40〃	17号住居址第2カマド実測図	51
〃41〃	17号住居址第3カマド実測図	51
〃42〃	18号住居址実測図	52
〃43〃	18号住居址カマド実測図	53
〃44〃	18号住居址出土遺物実測図	54
〃45〃	19号住居址実測図	55
〃46〃	19号住居址出土遺物実測図	56
〃47〃	20号住居址実測図	57
〃48〃	20号住居址出土遺物実測図(1)	59
〃49〃	20号住居址出土遺物実測図(2)	60
〃50〃	20号住居址出土遺物実測図(3)	61
〃51〃	20号住居址カマド実測図	63
〃52〃	21・44号住居址実測図	64
〃53〃	22号住居址実測図	65
〃54〃	22号住居址カマド実測図	66
〃55〃	22号住居址出土遺物実測図	66
〃56〃	23号住居址実測図	67
〃57〃	23号住居址出土遺物実測図	68
〃58〃	24号住居址実測図	69
〃59〃	24号住居址カマド実測図	70
〃60〃	24号住居址出土遺物実測図	71
〃61〃	25・26号住居址実測図	72
〃62〃	25・26号住居址出土遺物実測図(1)	74

第63図　25・26号住居址出土遺物実測図(2)　75
〃64〃　26号住居址カマド実測図　76
〃65〃　27A・B号住居址実測図　77
〃66〃　27号A住居址カマド実測図　78
〃67〃　27A・B号住居址出土遺物実測図　78
〃68〃　28・29号住居址実測図　79
〃69〃　28号住居址出土遺物実測図　80
〃70〃　29号住居址カマド実測図　83
〃71〃　29号住居址出土遺物実測図　83
〃72〃　30・32号住居址実測図　84
〃73〃　30号住居址出土遺物実測図　85
〃74〃　32号住居址出土遺物実測図　86
〃75〃　31号住居址実測図　87
〃76〃　31号住居址出土遺物実測図　88
〃77〃　33・34号住居址実測図　89
〃78〃　33号住居址カマド実測図　90
〃79〃　33号住居址出土遺物実測図　90
〃80〃　34号住居址カマド実測図　92
〃81〃　34号住居址出土遺物実測図　92
〃82〃　35号住居址実測図　94
〃83〃　35号住居址カマド実測図　95
〃84〃　35号住居址出土遺物実測図　95
〃85〃　36号住居址実測図　97
〃86〃　36号住居址カマド実測図　98
〃87〃　36号住居址出土遺物実測図　99
〃88〃　37・38号住居址実測図　103
〃89〃　37・38号住居址出土遺物実測図(1)　104
〃90〃　37・38号住居址出土遺物実測図(2)　105
〃91〃　37・38号住居址出土石器実測図　105
〃92〃　39号住居址実測図　106
第93図　39号住居址出土遺物実測図　106
〃94〃　40号住居址実測図　107
〃95〃　40号住居址カマド実測図　108
〃96〃　40号住居址出土遺物実測図　109
〃97〃　41号住居址実測図　110
〃98〃　41号住居址出土遺物実測図　111
〃99〃　42号住居址実測図　112
〃100〃　42号住居址出土遺物実測図　113
〃101〃　42号住居址カマド実測図　113
〃102〃　43号住居址実測図　114
〃103〃　43号住居址出土遺物実測図　115
〃104〃　1号掘立柱建築址実測図　117
〃105〃　2号掘立柱建築址実測図　118
〃106〃　3号掘立柱建築址実測図　119
〃107〃　4号掘立柱建築址実測図　120
〃108〃　5号柱列址実測図　120
〃109〃　6号掘立柱建築址実測図　121
〃110〃　M－1・2実測図　123
〃111〃　1号土壙実測図　124
〃112〃　2号土壙実測図　124
〃113〃　3号A・B土壙実測図　125
〃114〃　4号土壙実測図　125
〃115〃　遺構以外からの縄文関係遺物(1)　128
〃116〃　遺構以外からの縄文関係遺物(2)　129
〃117〃　遺構以外からの縄文関係遺物(3)　130
〃118〃　住居址の規模、主軸方向　131
〃119〃　編年試案(1)　137
〃120〃　編年試案(2)　138
〃121〃　編年試案(3)　139

図　版　目　次

PL 1－1　遺跡遠景、赤城山を望む（南より）
　　2　遺跡近景（西より）
　　家と家の空間が調査区
PL 2－1　1・2号住居址
　　2　3号住居址
PL 3－1　4号住居址
　　2　5・6・7号住居址
PL 4－1　8号住居址
　　2　9号住居址
PL 5－1　9号住居址カマド前面遺物
　　出土状況
　　2　10号住居址
PL 6－1　10号住居址遺物出土状況
　　2　11号住居址カマド前面遺物
　　出土状況
PL 7－1　11号住居址
　　2　11号住居址カマド
PL 8－1　12号住居址遺物出土状況
　　2　13号住居址
PL 9－1　14号住居址カマド、遺物出土状況
　　2　15号住居址
PL10－1　15号住居址遺物出土状況
　　2　16号住居址
PL11－1　16号住居址カマド
　　2　17号住居址
PL12－1　18号住居址
　　2　19号住居址
PL13－1　19号住居址遺物出土状況
　　2　20号住居址
PL14－1　20号住居址　甑出土状況
　　2　21・44号住居址
PL15－1　22号住居址
　　2　23・24号住居址
PL16－1　24号住居址遺物出土状況
　　2　25・26号住居址
PL17－1　25号住居址カマド
　　2　27A・B号住居址
PL18－1　28・29号住居址
　　2　30・32号住居址
PL19－1　31号住居址
　　2　33・34号住居址
PL20－1　35号住居址
　　2　35号住居址カマド
PL21－1　36号住居址
　　2　36号住居址カマド
PL22－1　36号住居址墨書土器出土状況
　　2　37・38号住居址
PL23－1　38号住居址、埋甕出土状況
　　2　39号住居址、羽口等出土状況
PL24－1　40号住居址
　　2　41号住居址
PL25－1　42号住居址
　　2　遺跡西側掘立柱建築址群
　　（1・2・3B）
PL26－1　6号掘立柱建築址
　　2　M－1・2遺構
PL27－1　1号住居址出土遺物
　　2　3号住居址出土遺物
　　3　4号住居址出土遺物
PL28－1　5号住居址出土遺物
　　2　9号住居址出土遺物
　　3　10号住居址出土遺物
PL29－1　10号住居址出土遺物
PL30－1　11号住居址出土遺物

PL31－1　11号住居址出土遺物
2　12号住居址出土遺物
PL32－1　12号住居址出土遺物
2　13号住居址出土遺物
3　14号住居址出土遺物
PL33－1　15号住居址出土遺物
2　16号住居址出土遺物
3　17号住居址出土遺物
PL34－1　18号住居址出土遺物
2　19号住居址出土遺物
PL35－1　20号住居址出土遺物
PL36－1　20号住居址出土遺物
PL37－1　24号住居址出土遺物
2　25号住居址出土遺物
PL38－1　25号住居址出土遺物
2　27号住居址出土遺物
3　28号住居址出土遺物
PL39－1　28号住居址出土遺物
PL40－1　30号住居址出土遺物
2　31号住居址出土遺物
3　32号住居址出土遺物
号
4　33号住居址出土遺物
5　34号住居址出土遺物
PL41－1　34号住居址出土遺物
2　35号住居址出土遺物
3　36号住居址出土遺物
PL42－1　36号住居址出土遺物
2　39号住居址出土遺物
3　40号住居址出土遺物
PL43－1　40号住居址出土遺物
2　41号住居址出土遺物
3　42号住居址出土遺物
4　43号住居址出土遺物
PL44－1　43号住居址出土遺物
PL45－1　37・38号住居址出土遺物
PL46－1　37・38号住居址出土遺物
2　37・38号住居址出土石器
PL47－1　遺構以外の出土遺物
PL48－1　遺構以外の出土遺物
PL49－1　遺構以外の出土遺物
2　ゴミ穴出土瓦塔片

相模原市立図書館

1. 発掘調査に至る経過

昭和45年度　町内を通ずる主要地方道前橋、大間々桐生線の交通渋帯を緩和する為に、町の南部へ新路線を建設したいとの問題が起こる。

昭和46年２月　県道バイパス期成同盟会結成、町南部への路線決定

11月　公共事業へ採択を求める陳情

12月　大胡バイパス推進協議会結成

昭和47年２月　路線測量の開始

昭和50年３月　県教育委員会文化財保護課により、天神風呂、八ヶ峰地区の埋蔵文化財予備調査を行なう。

昭和53年度　第一工区（現在の主要地方道前橋・大間々桐生線から藤岡・大胡線の約 800 m）の境界杭、測量終了

昭和54年５月　用地買収費増額　早期建設への陳情

昭和54年12月　第一工区の 800 m 用地買収

同月　県教育委員会文化財保護課、前橋土木事務所、大胡町教育委員会の三者間で埋蔵文化財問題打合せ

昭和55年１月　前橋土木事務所長より、大胡町長へ天神風呂地区内の埋蔵文化財発掘調査依頼がある。

１月10日　上記依頼書を承諾し、当教育委員会発掘調査準備に入る。

１月16日　天神風呂遺跡の発掘に着手する。

2. 立地と歴史的環境

大胡町は県都前橋市の東方10Km、勢多郡の南西部に位置し、赤城山南麓の裾野上に立地する町域面積19.71Km、東西約5Km、南北約10Km、人口一万二千人余の南北に長いヤマトイモ形の境域を呈する町で、東に粕川村、西と南に前橋市、北は宮城村・富士見村に接する。

「すそのは長し赤城山」（上毛かるた）に詠われる赤城山の裾野に位置する町域の地形は、台地と侵食谷に二分され、台地は基盤である成層凝灰亜角礫層に堆積した軽石流により構成され、侵食谷は町の中央部を流れる荒砥川と寺沢川等によるものである。

大胡町の地名の初見は古く、高崎市山名町山柿谷に存在する国指定特別史跡「山上碑」に表記され、

「辛巳歳月三日記
佐野三家定賜健守命孫黒売刀自此
新川臣児期多多弥足尼孫大児臣娶生児
長利僧母為記定文也　放光寺僧」

「大児臣」が現在の大胡町に住んだ地方豪族と考えられ、大胡町堀越字房関の小谷地に面する傾斜地に構築されている県指定史跡「堀越古墳」がこの大児臣関係の古墳と想定されている。

大胡町は城下町でもあり、大胡氏　そして天正18年の徳川家康の関東入りによって大胡二万石に封ぜられた牧野氏によって、県指定史跡「大胡城」が整備されると同時に、城下町としての町割りも完成したのである。

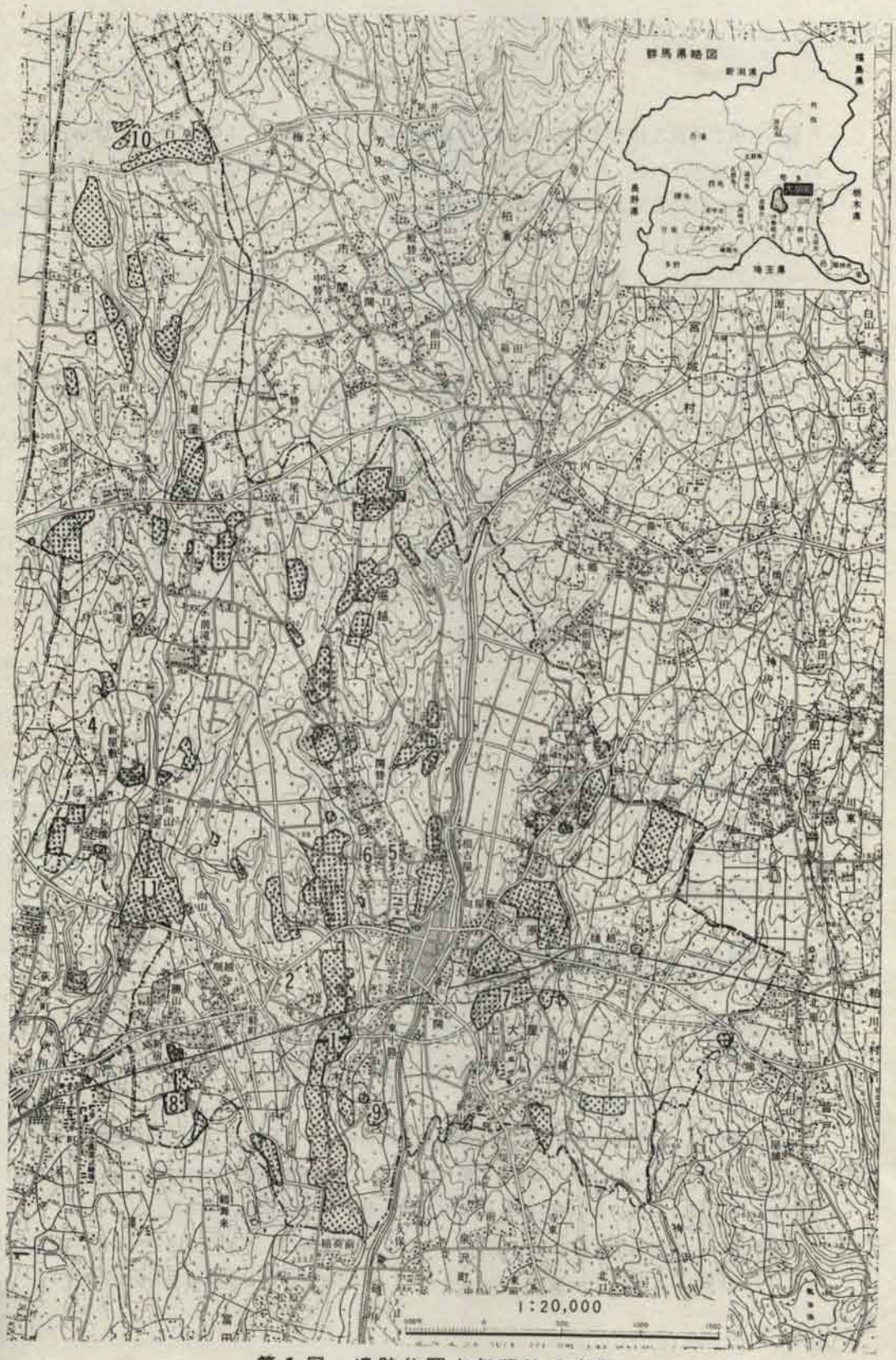
牧野氏は元和２年に越後長峯に転封されると、酒井家領となり、城代を置き城下町としての機能を保っていると同時に、日光裏街道、伊勢崎　五科道、沼田街道等が交わる地点として、商業取引の中心となり、又、宿場町としての機能も加味したのである。

この様な状況を「前橋風土記」によると

「大胡町、本町、古城の東に存り。道南北に通ず、北は上宿と名付け、南を下宿という。市有り、三八の日を期となす。群商ここに聚る。横町古城の南に在り。道東西に通ず、其の原は本町の半に列り、西は北に曲折す。古城に到るの道路なり。裏町此びて本町の東に在り、而して本町に此ぶ、北は上宿に列り、南は下宿に通ず。商と農と居を接せり、右大胡の坊街なり」と記している。

こうした時代背景から現在に至っている大胡町地内には、埋蔵文化財も多く、旧石器時代の遺跡としては　三屋遺跡が相沢忠洋氏によって調査され、その他、一本松、上大屋等の遺跡も知られている。縄文時代の遺跡も数多く知られているが、調査例は、足軽町五号住居跡、滝窪縄文遺跡が調査されたにすぎない状況である。

弥生時代に於いては金丸遺跡が知られ、本県の弥生時代を考える上で貴重な資料を呈示しているが、これも偶然に発見されたもので調査はされていない。「上毛古墳総覧」によると大胡には



第1図　遺跡位置と包蔵地分布図

41基の古墳が確認されているが、現在では破壊されたものも多く、半分ほど形状、痕跡をとどめているに過ぎないが、過去に於いて　7基が群馬大学、当教育委員会で調査されている。古墳時代～歴史時代の住居址の調査も1例を数えるだけであるが、町誌を参考にすると40ヶ所に近い場所が把握されている。

中世に於いては、大胡町の象徴とも言える大胡城の一部が、町立幼稚園建設の為、土地造成が始まった段階で調査を実施された状況である。又、近年新庁舎建設の為に、曲輪の一ヶ所が姿を消してしまっている。

本遺跡地は、上毛電鉄大胡駅の南西方向500 m、堀越古墳の南東方向400 m、主要主方道藤岡・大胡線の西に位置し、東西を小谷地に挟まれた標高150 mほどを測る台地上に立地している。小谷地からの比高差3 m～4 mを生じる。

この遺跡名天神風呂は、天神ほろから起ったと考えられ、騎馬による出陣の先端を行く旗さしのほろをかざしての騎馬練習をした所と考えられている地点である。又、この天神風呂からは、瓦塔の破片が発見され（長瀞総合博物館蔵）、寺院跡を推定している重要な個所でもあり、南北に前橋境まで続く、この台地上には多量の土器片が散布し、大集落を推定させると共に、大児臣との関連も考えられる重要な包蔵地域である。

1　天神風呂遺跡（発掘区）
2　県史跡、堀越古墳
3　県史跡　大胡城
4　県重要文化財、横沢の石塔婆
5　養林寺館址、牧野家の墓
6　長善寺、大胡太郎の墓
7　町史跡　稲荷塚古墳
8　足軽遺跡
9　山ノ上古墳、茂木古墳
10　金丸遺跡
11　紫崎古墳群

3. 発掘調査の概要と経過

天神風呂遺跡は、主要地方道・前橋・大間々桐生線（仮称大胡バイパス）建設に先がけて行なわれた発掘調査で、昭和47年度に県教育委員会文化財保護課の手により予備調査が行なわれ、今回の本調査に至っている。

遺跡の範囲は、現在の前橋・大間々桐生線の北の台地より、前橋境まで伸びる広大な地域になるものと思われ、今回の新設予定の道路部分は、この包蔵地区のほぼ中央に位置し、台地を横断する全長２７５m、平均幅15 m、4100 m²余を数える調査範囲となった。

調査方法は、全面発掘を前提とした為、グリット方式を採用し、道路建設用センター杭（Bライン）を利用し、仮原点（B－０グリットポイント）を最西端より東へ5 m間隔で1、2、

3・・・とし、南へA、北へC、Dラインとし、北東コーナー部杭をグリット名称とした。

調査は、町道茂木251号線以西の傾斜地は予備調査の段階で、南北方向に2m×10mのトレンチを開け遺構の存在が確認されていない為に、本調査では東西方向にセンターライン沿いに2本のトレンチを設定して遺構の追求を図り、東側の傾斜地の崖際は危険な為に1m前後ほどの範囲を発掘区より除き、町道251号線以東から52グリットラインの215mを全面発掘区とし、町道10号線下は工事との併用時期を選んで調査する事で開始された。

発掘調査は1980年1月17日より、町道251号線から10号線間重機による桑の抜根、表土剝ぎ作業、22日より確認作業を開始し、本格的調査体制に入った。

1月23日　1号、2号住居址確認、町道251号線の際まで住居址の広がりを追求
1月28日　3号住居址確認、掘り下げ開始
1月31日　4号住居址、5、6、7号住居址確認、掘り下げ開始
2月 2日　M－1、M－2の掘り下げ開始
2月 8日　掘立柱建築址群確認
2月18日　8号住居址確認、掘り下げ開始
2月26日　9号住居址確認、掘り下げ開始
2月29日　9号住居址北側柱穴群確認
3月 4日　桑根のかたづけ
3月15日　図面、写真関係開始
4月 1日　10号住居址確認、掘り下げ開始、重機による廃土処理
4月 3日　町道10号線以東の桑抜根、表土剝ぎ作業
4月 5日　11号住居址確認、掘り下げ開始
4月 8日　10号線以東の桑抜根、表土剝ぎ終了
4月11日　12号住居址確認、掘り下げ開始
4月14日　13号住居址確認、掘り下げ開始
4月18日　現在の10号線以前の道路址確認
4月19日　14号住居址確認、掘り下げ開始（約半分のスペースを掘り下げる）
4月23日　15号住居址確認、掘り下げ開始
4月25日　10、11、12、13、14、15号住居址の写真撮影
4月26日　16号住居址確認、掘り下げ開始
4月29日　17号住居址確認、掘り下げ開始、6号掘立柱建築址確認
5月 1日　18号住居址確認、掘り下げ開始、43号住居址確認
5月10日　19号住居址確認、掘り下げ開始
5月19日　20号住居址確認、掘り下げ開始
5月20日　21、44号住居址確認、掘り下げ開始

5月22日　22号住居址確認、掘り下げ開始

5月23日　23、24号住居址確認、掘り下げ開始

5月27日　25、26号住居址確認、掘り下げ開始

5月29日　16、17、18号住居址写真撮影

5月30日　28、29号住居址確認、掘り下げ開始

6月 2日　27A・B号住居址確認、掘り下げ開始

6月 5日　30、32号住居址確認、掘り下げ開始

6月10日　31号住居址確認、掘り下げ開始

6月12日　33、34号住居址確認、掘り下げ開始

6月17日　35号住居址確認、掘り下げ開始

6月19日　36号住居址確認、掘り下げ開始

6月21日　19～36号住居址写真撮影

6月24日　36号以東は耕作溝が多く、1m千鳥による遺構の確認

7月12日　37号住居址確認、掘り下げ開始

7月23日　38号住居址確認、掘り下げ開始

8月 4日　39号住居址確認、掘り下げ開始

8月 6日　40、41、42号住居址確認、掘り下げ開始、37、38号住居址写真撮影

8月15日　土層トレンチを開ける

8月19日　写真撮影、図面整理、第1、第2トレンチ開ける

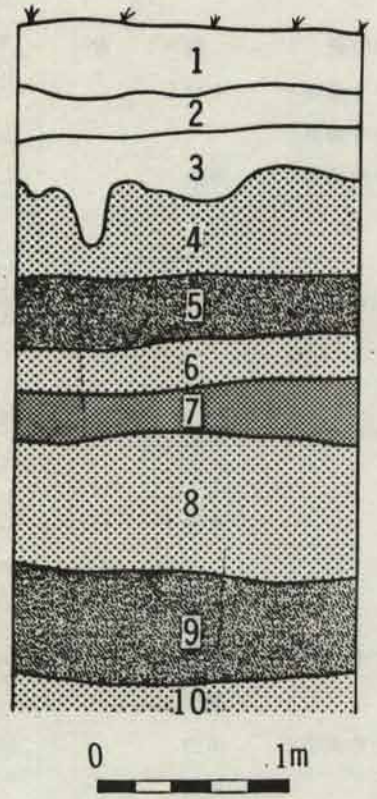
8月29日　全体整理

8月30日　作業終了

12月 5日　14号住居址　町道10号線下部分

12月10日　作業終了

4. 標準土層



第2図　標準層序図

1層　褐色砂質土　（耕作土）
浅間A軽石・B軽石を含む。20～30cm堆積

2層　黒褐色土　（遺物包含層）
上部に散在的ではあるが浅間B軽石を認める
FP・FA軽石を含む。20～30cm堆積

3層1　暗褐色土　（縄文時代遺物包含層）
オレンジ粒・白色軽石粒を含む。部分的に残る。
2　ソフトローム土

4層　黄褐色土（所謂ローム土）
ブロック状の非常にハードな堆積

5層　板鼻褐色軽石層（にぶい黄褐色砂質土）

6層　明黄褐色熱質土　非常にハード

7層　にぶい灰黄褐色粘質土（所謂暗色帯）

8層　にぶい褐色土　粘質帯びる。50～70cm堆積

9層　八崎軽石層　40～50cm堆積

10層　にぶい褐色粘質土

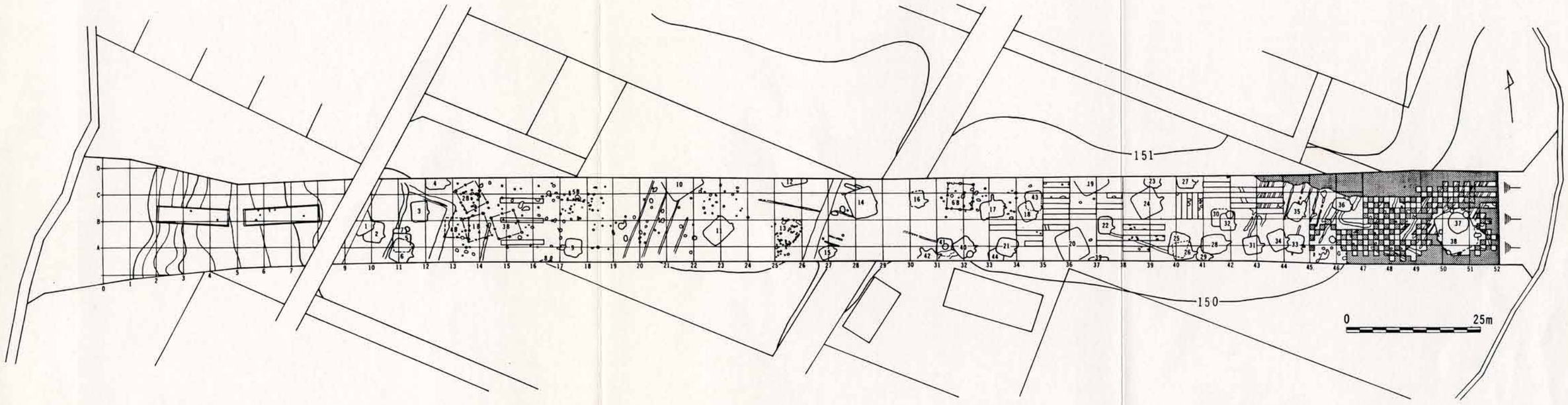
（注）住居址埋土中に使用するR粒、R・Bについて
R粒はローム粒子　R・Bはローム ブロックの略である。

5. 竪穴住居址一覧

住居No.	主軸方向	形状	規模	炉・カマドの位置	備考
1	N－83°－E	方形	3.65×3.25	東壁中央部やや南寄り	1→2
2	E－14°－S	方形	4.05×3.5	東壁中央部やや南寄り	
3	N－86°－E	長方形	3.85×2.8	東壁中央部やや南寄り	単独
4	E－ 5°－S	?	3.85× ?	?	
5	N－80°－E	長方形	4 ×3.	東壁南寄り	7→6→5
6	E－28°－S	方形	4.2 ×3.85	東壁中央部やや南寄り	
7	?	?	2.55× ?	?	
8	?	?	2.3 × ?	?	
9	E－20°－S	台形状	3.45×2.35	東壁中央部やや南寄り	単独
10	N－65°－E	方形?	6.3 × ?	?	
11	N－55°－E	長方形	5 ×3.4	東壁南寄り	単独
12	N－85°－E	?	4.5 × ?	?	
13	?	円形?	?		土壙と重複
14	N－79°－E	台形状	5.2 ×4.5	東壁中央部やや南寄り	平安期土壙と重複
15	N－85°－E	方形	2.55×2.3	東壁中央部	単独
16	真東	方形?	3.2 × ?	東壁中央部やや南寄り	単独
17	E－ 1°－S	長方形	4.2 ×3.15	1.北壁中央部 2.東壁中央部 3.東壁西寄り	単独
18	N－77°－E	長方形	3.8 ×2.85	東壁南寄り	18→43
19	N－69°－E	方形?	5.3 × ?	?	
20	N－77°－E	方形	5.5 ×5.1	東壁中央部	
21	E－22°－S	台形状	3.45×2.83	東壁中央部やや南寄り	44→21
22	E－ 5°－S	長方形	3.2 ×2.4	東壁南寄り	単独
23	E－21°－S	方形?	2.46× ?	東壁南寄り	24→23
24	N－66°－E	方形	4.8 ×4.9	東壁中央部やや南寄り	
25	E－25°－S	長方形	4.2 ×3.4	東壁南寄り	29→26→25
26	N－89°－E	方形	3.7 ×3.4	東壁南寄り	
27_A	E－10°－S	方形?	2.7 × ?	東壁南寄り	27_A→27_B
27_B	?	?	?	?	

28	E− 2°−S	長方形	4.6 × 3.7	東壁中央部	29→28
29	E−13°−S	方形	2.7 × 2.6	東壁中央部やや南寄り	29→26
30	E−10°−S	方形	3.5 × 2.9	東壁中央部やや南寄り	32→30
31	N−89°−E	方形	3.2 × 3.1	東壁中央部やや南寄り	単独
32	E−11°−S	方形	3 × 2.7	東壁南寄り	縄文土壙と重複
33	E−20°−S	歪んだ方形	3.4 × 2.85	東壁中央部やや南寄り	34→33
34	N−73°−E	方形	3.6 × 3.1	東壁中央部やや南寄り	
35	E−30°−S	方形	3.25× 3	東壁中央部	土壙と重複
36	E−23°−S	台形状	3.2 × 2.4	東壁中央部	単独
37	N−21°−E	円形	3.75× 3.8		38→37
38	N−15°−W	長方形	7.6 × 6.5	?	
39	?	?	3.8 × ?	?	
40	真東	正方形	3.47× 3.47	東壁南寄り	土壙と重複
41	E− 2°−S	方形	3.4 × 2.95	東壁中央部やや南寄り	41→42
42	N−55°−E	方形 ?	3.2 × ?	1.北壁中央部やや西寄り 2.東壁中央部か？	42→41
43	E− 5°−S	歪んだ方形	3.5 × 3.15	東壁南東コーナー付近	18→43
44	?	?	?	?	21→44

相模原市立図書館



第3図　天神風呂遺跡遺構配置図

6. 竪穴住居の遺構と遺物

1号住居址（第4図）

本住居址は調査区域の最西端に検出され、プランの一部が道路下に入る。この住居址は昭和49年度の予備調査により2軒の住居址の重複関係（1、2号住）が確認されている。

規模は3.65m×3.25mの方形プランで、N－83°－Eの主軸を呈し、残存壁高は40cm前後を測り、80°傾斜の掘り込みである。周濠は東壁中央部より北東コーナー部に存在し、巾16cm、深さ7cmを測る。床面はハードに踏み固められ、均一のレベルを保っている。柱穴状の掘り込みはP_1、P_2が確認され、P_1は南壁の中央付近に位置する23cm×19cm、深さ9cmの楕円形掘り込みである。P_2は南東コーナー部に位置し、貯蔵穴と思われる56cm×43cmの不整形プランで、深さ38cmを測り、底面に坏（第5図－1）が出土した。

カマドは東壁中央部のやや南寄りに掘り込まれているが、2号住居址との重複関係にある為に上部構造が破壊されている。主軸はN－86°－Eを呈し、93cm×60cmの楕円形プランで、燃焼部で30cmほどの深さを測る掘り込みとなる。

出土遺物（第5図、1～7）

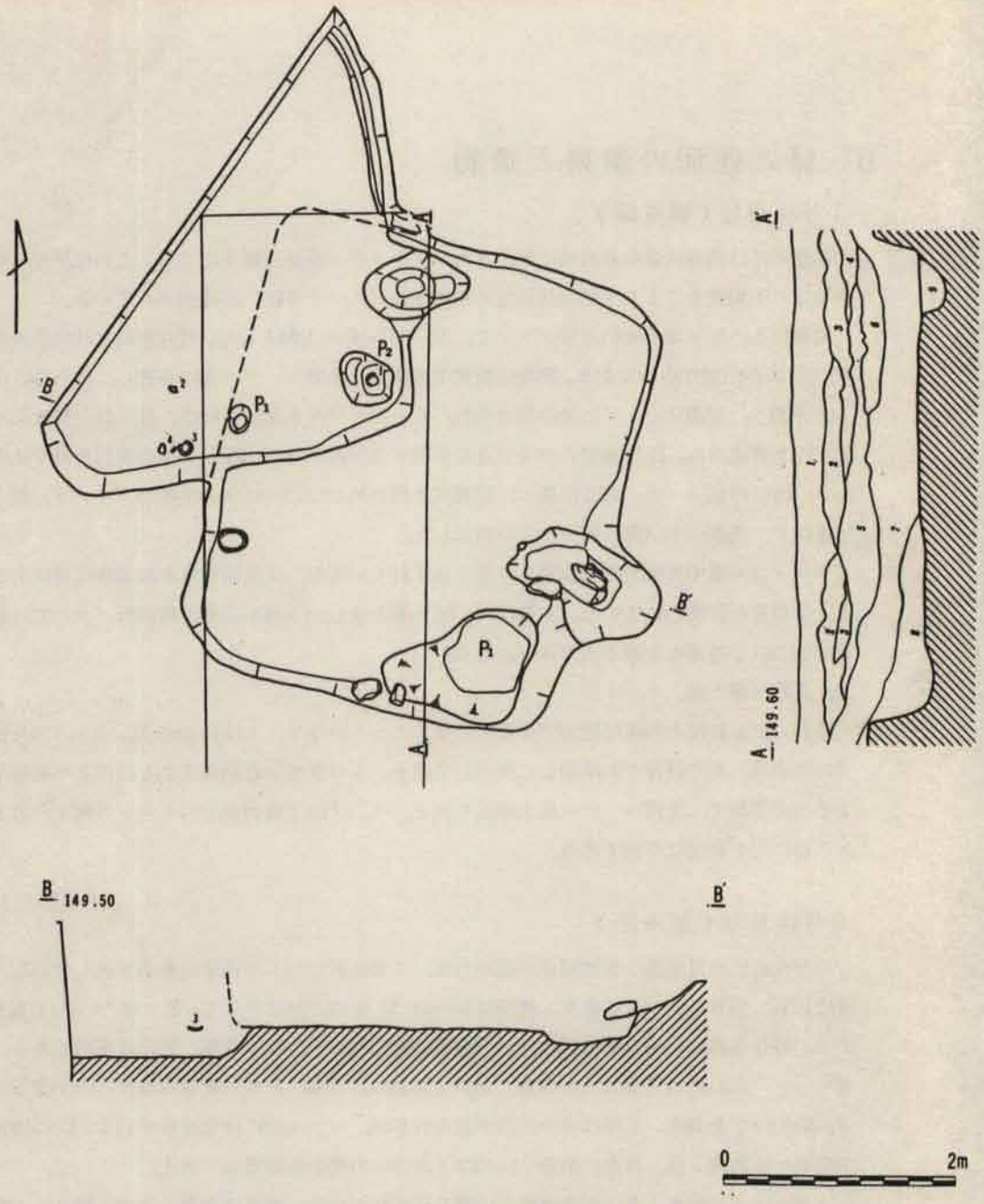
遺物の出土状況を明確に把握できたものは、1～4の坏で、1はP_2の底面、2～4の坏は南壁の中央部、やや西寄りの床面上に集中して出土。5の須恵壺は胴部下半と頸部より肩部片による復元実測で、北東コーナー部上面にて出土。6、7は予備調査でのトレンチ内での出土である為に出土状況は不明である。

2号住居址（第4図）

1号住居址の南東部に重複関係が認められ、2号住居址が1号住居址を切り込んでいる。位置は10B、11Bグリットに在り、規模は4.05m×3.5mの方形プランで、E－14°－Sの主軸を呈する。残存壁高は45cm前後を測り、75°傾斜の掘り込みである。周濠、柱穴は不明である。南東コーナー部のP_1は貯蔵穴らしき掘り込みと思われ、長軸1.2m×短軸1mほどの不整形方形で、深さ30cmを測る。床面は多少凹凸が見られるが、レベル的には安定している。P_1の西側、南壁沿いに角礫2個、西壁の南寄りに30cm×20cmの円礫が床面密着で出土。

カマドは東壁中央より、やや南寄りに掘り込まれており、規模は全長1.3m、幅0.6m前後の歪んだ方形を呈するもので、燃焼部は15cmほど掘り込まれ、煙道部への移行個所で80°傾斜で25cmほど立ち上り、緩やかな掘り込みに変化する。カマドの右脇と燃成部に袖石らしき礫が存在し、カマド内の礫は左袖部に利用されたものが横転したと思われる。尚、この礫下に長甕の胴部片が出土した。

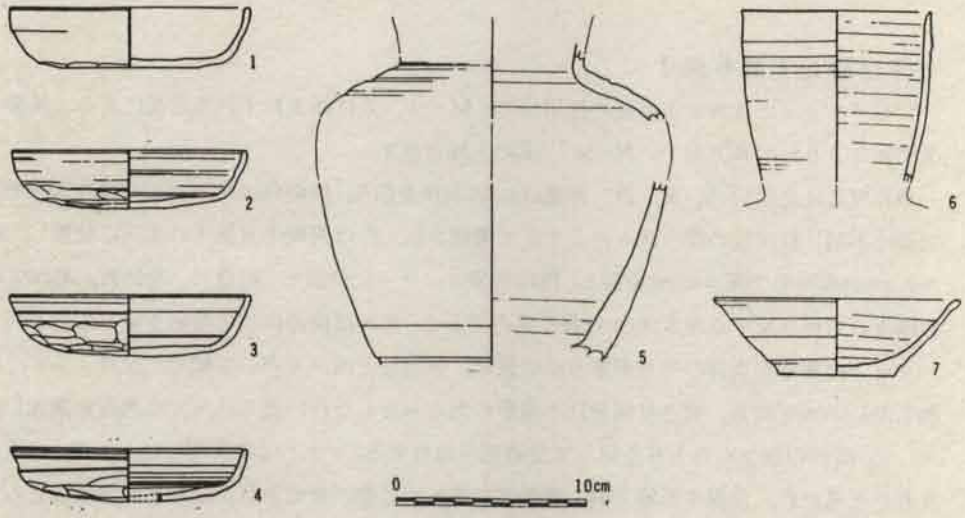
カマドの主軸は、E－25°－Sを呈し、住居址と11°の差を生じている。遺物はカマド内での出土品のみである。



第 4 図　1. 2 号住居址実測図

2号住居址埋土説明

1. 耕作土
2. 黒褐色砂質土（準攪乱）
3. 黒褐色砂質土（準攪乱で灰を含む）
4. 黒褐色砂質土
5. 黒褐色土　浮石を若干含む
6. 黒色土、浮石を多く含む
7. 黒色土、浮石を多く含む褐色味帯びる
8. 黒褐色土、褐色味を帯び、浮石を含む
9. 1号住居址カマド、焼土Bを含むローム



第5図　1．2号住居址出土遺物実測図

1.　2号住居出土遺物（第5図1～7）

1.　坏、口径12.8cm、器高3.1cmを測り、手持ヘラ削りの底部より深目に内彎し、口縁部へ移行、体部は横ナデ、色調－褐色を呈し口唇部にカーボン付着、焼成－良好、胆土－微砂粒を含む。

2.　坏、口径12.4cm、器高3.1cm、形態、手法上記と同じ。
色調－褐色～暗褐色を呈す。焼成、胎土上記と同じ。

3.　坏、口径12.8cm、器高3.2cmを測り、不安定な手持ヘラ削りの底部より、やや開広気味に内彎する口縁部へ移行。手持ヘラ削りを体部中位まで施す。
色調、焼成、胎土－1と同じ。

4.　坏、口径12.6cm、器高2.7cmを測り、上記の3よりも歪んだ底部より内彎し、口縁部はややゆがむ。内面が荒れ、斑点状のハガレが見られる。
色調－暗赤褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒多く含む。

5.　壺（須恵器）　胴部下位と頸部より肩部片による復元実測、直立気味に内彎する体部より強く肩部が張り、頸部へ移行。
色調－暗灰褐色、焼成－良好、胎土－精選されている。

6.　小瓶（須恵器）　長頸部片で、やや締まった頸部より、開き気味に直立し、口唇部は鋭り外反する。ロクロ成形。
色調－淡灰褐色、焼成－良好、胎土－微少粒多く含む。

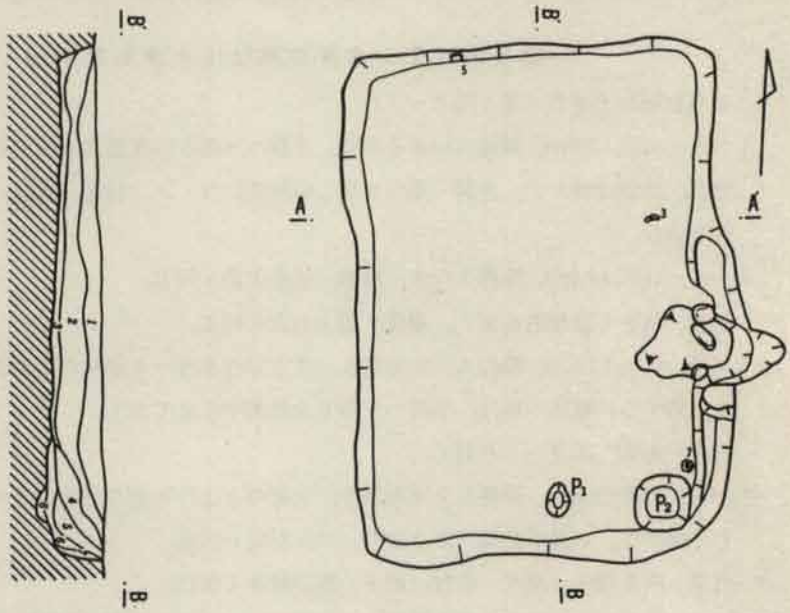
7.　坏（須恵器）　口径12.8cm、器高4cm、糸切り底の底部より開広気味に内彎し、口唇部は玉状に肥大して外反する。ロクロ成形、内面に墨書？
色調－淡灰褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。

3号住居址（第6図）

12Cグリットに位置する単独の住居址で、M－1、2に囲まれている状況にある。規模は3.85m×2.8mの長方形で、N－86°－Eの主軸を呈す。

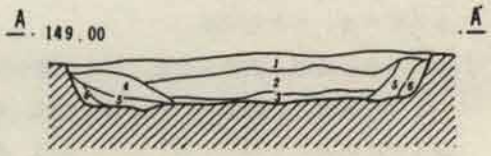
残存壁高は北壁30cm、東、西、南壁は40cm前後を削り、傾斜角は70°～80°の掘り込みである。周濠は不明。柱穴状の掘り込みは2ヶ所で確認され、P_1は南壁中央部下の床面に位置し、28cm×20cmの楕円形で深さ12cmを測る。P_2は南東コーナーに位置し、貯蔵穴と思われ、45cm×45cmの隅丸の方形を呈する深さ15cmの掘り込みである。床面は南方向への傾斜を呈している。

カマドは東壁中央部のやや南寄りに位置し、住居址と同一方向の主軸で、全長1.2m、幅（袖石間）32cmを測る。焚き口部分は不整形のだらっとした浅い掘り込みで燃焼部を構成し、20cm、55°傾斜の急な立ち上りを呈して煙道部へ移行する。カマドは暗灰褐色粘土と礫により構築されたと思われ、立脚する礫2個、燃焼部に横転する礫が検出され、右袖部の粘土が見られる



3号住居址埋土

1. 黒褐色土　浮石多く含む
2. 〃　暗褐色土粒多く含む
3. 暗褐色土　RB多く含みハード
4. 〃　3より明るい
5. 黒褐色土　少量の浮石含む
6. 暗褐色土　RB、R粒含む
7. ローム粒でソフト
8. 暗褐色土　R粒多く含みソフト



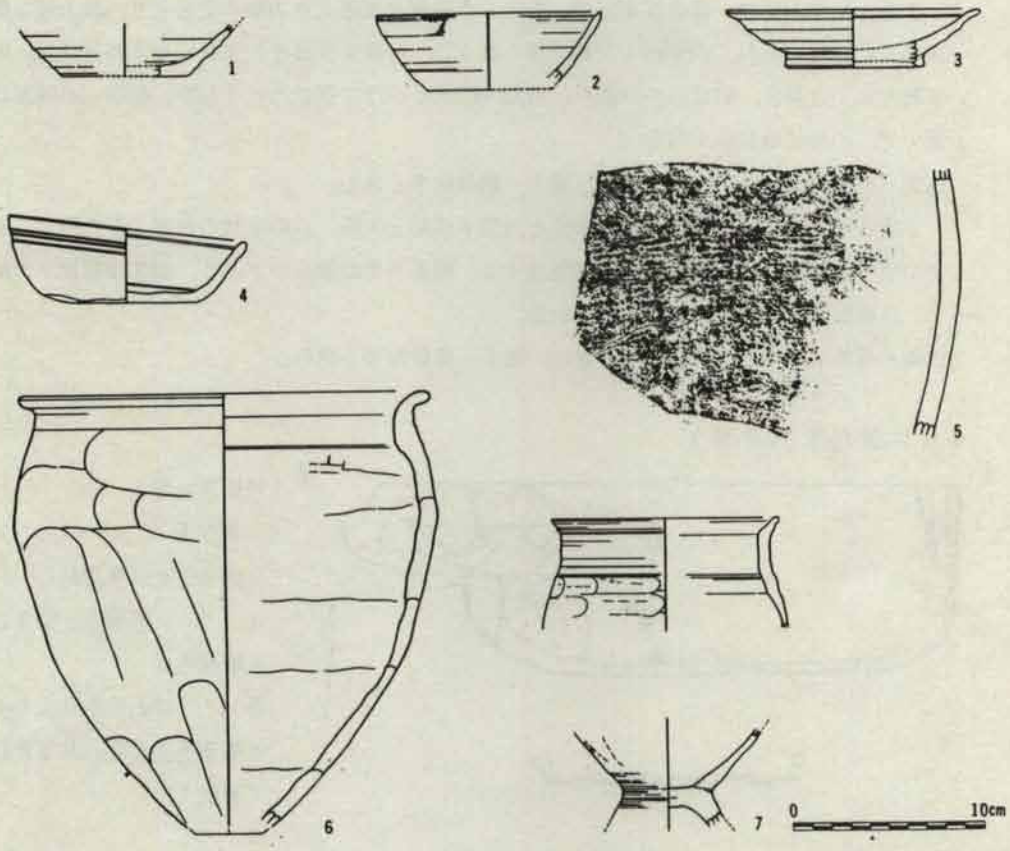
第6図　3号住居址実測図

0　2m

左袖部は不注意により除去してしまった。カマドの両脇にはテラス状の段が設けられている。

3号住居址出土遺物（第7図1～7）

遺物の出土量は少量で、床面密着での出土遺物は3の高台付皿、7の台付甕脚部片、西壁に密着して出土した5の須恵器片である。6は南壁中央部の埋土上面（第6図埋土説明－1層）で出土している。他は埋土中での出土である。



第7図　3号住居址出土遺物実測図

1. 坏（須恵器）底径6.4cm、糸切り底よりやや開広気味に内彎し口縁部へ移行する。ロクロ成形、色調－灰褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。
2. 坏（須恵器）口径11.8cm、底部欠損、ロクロ成形、口唇部に油カス付着。色調－灰褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒多く含む。
3. 高台付皿（須恵器）口径13.2cm、器高3cm、底径7.1cm、直立する付高台より開広気味に内彎し、口縁部は水平に外反する。

色調－淡灰褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒多く含む。

4. 坏、口径12.5cm、器高3.9cm、雑な手持ヘラ削りによる底部より内彎し口縁部へ移行、体部は荒いヘラ削りと未調整部分が残る。口縁部下に軽い沈線が廻る。口縁部から内面は横ナデ、内面底部は指ナデ痕が残る。

色調－黒褐色、焼成－やや甘い、胎土－粗砂粒含む。

5. 須恵大甕片

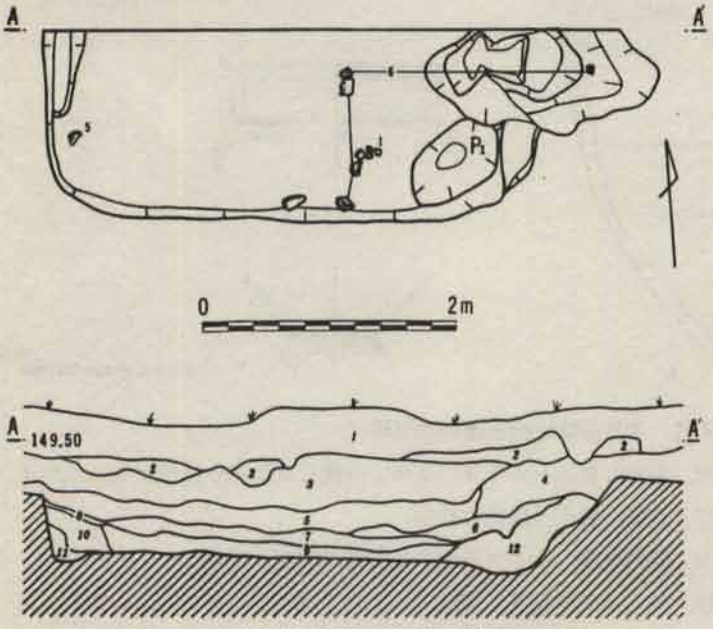
6. 土釜、口径20.9cm、器高推定23cm、小さく不安定な底部より力強く立ち上り、最大径は胴部の上位に求められ、頸部のくびれは短く直立し、口縁部分はやや玉状に短く外反する。胴部最大径下は斜位、縦位のヘラ削り、肩部～頸部にかけて横位のヘラ削り、頸部～口縁部は横ナデ、内面に輪積痕が残る。

色調－褐色～黒褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒多く含む。

7. 小型台付甕　口径11.8cm、体部中位と台部下半部を欠損、八の字状の台部より内彎し、肩部の張りは弱く、所謂コの字口縁を形成する。胴部下半は縦位ヘラ削り、肩部は横位ヘラ削り、口縁部は横ナデ。内外面荒れている。

色調－褐色～黒褐色、焼成－やや甘い、胎土－粗砂粒多く含む。

4号住居址（第8図）



1号住居址埋土
1 耕作土
2 黒褐色土（準攪乱）
3 〃　暗褐色土粒含む
4 暗褐色土
5 〃　浮石含み4より明
6 黒褐色土R粒、RB含む
7 褐色土、　〃
8 〃
9 暗褐色土R粒、RB含む
10 黒褐色土R粒含む
11 R粒褐色土の混合土
12 灰褐色粘土

第8図　4号住居址実測図

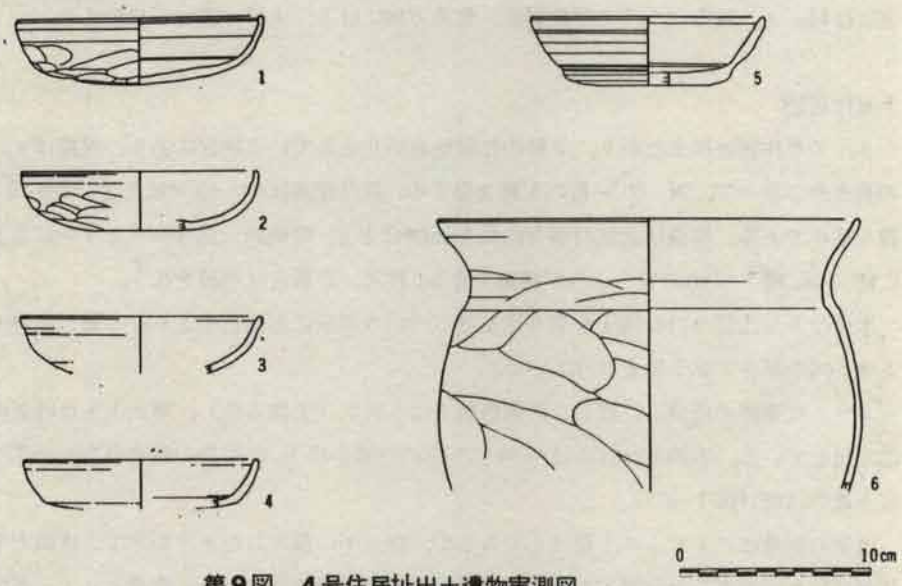
13Dグリットに位置し、調査区域内で全容は把握できない。南方向にはM－2、東方向には掘立柱建築址群が広がる。規模は、南壁で3.85mを測る方形プランと思われる。主軸はE－5°

－Sを呈す。壁高は55cm前後が残存し、78°傾斜の掘り込みで、周濠は西壁の一部に確認され、幅15cm、深さ7cmを測る。床面はハードで安定している。南東コーナーに位置するP_1は貯蔵穴と考えられる長軸57cm×短軸30cmの楕円形で、深さ22cmの掘り込みである。

カマドは東壁南寄りに掘り込まれ、全長は1.85mで、住居址と同一方向の主軸を呈すると思われる。焚き口部より燃焼部の深り込みは13cmほどを測り、煙道部は42°傾斜で立ち上がる。袖部、袖石等は確認出来なかった。

4号住居址出土遺物（第9図　1～6）

遺物出土量は少なく、床面にてP_1の西側に坏、西壁南西コーナー付近に須恵坏、長甕片がカマド内部より南壁沿いに広がり出土。



第9図　4号住居址出土遺物実測図

1. 坏、口径12.9cm、器高3.5cm、不安定な手持ヘラ削りの底部より内彎する。形態・手法は1号住居址出土坏（第9図－3）に類似する。
色調－褐色で黒斑が見られる、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。
2. 坏、口径12.4cm、器高推定3.1cm、底部よりスムーズに内彎し、口縁部は直立気味に内彎を強める。体部中位まで手持ヘラ削りを施している。
色調－褐色～暗褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒多く含む。
3. 坏、口径12.7cm、内彎する体部より口縁部下に軽いくびれを施し、口縁部をやや外反気味に内彎させる。
色調－褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒多く含む。
4. 坏、口径12.3cm、底部より浅目に内彎する口縁部へ移行する。

色調－褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。

5. 坏（須恵器）　口径12.2cm、器高3.5cm、底部より立ち上り部分にくびれ（土殺シ？）を呈し、器肉を肥大させ内彎する口縁部へ移行する。底部は回転ヘラ削り、体部はロクロ成形
色調－灰褐色～青灰褐色、焼成－良好、胆土－粗砂粒多く含む。

6. 長甕　口径21.7cm、体部下半欠損、均一な器肉を保ち、口径と胴部最大径は同じで頸部はやや締まり、口縁部は強力く内彎する。胴部は横位・斜位のヘラ削りを施す。
色調－黄・褐・赤褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒多く含む。

5、6、7号住居址（第10図）

11Aグリットポイントを中心に南北に三軒の住居址が並び、溝、土壙が重複関係にある。東方にはM－2、西方に1、2号住居址、北東方向には3、4号住居址が位置する。

5号住居址

6、7号住居址にまたがり、2軒の住居址を切り込んでいる状況にあり、規模は4m×3mの長方形プランで、N－80°－Eの主軸を呈する。残存壁高は40～50cmほどで、75°～80°傾斜の掘り込みである。周濠は北壁の西方に長さ85cmほどと、南壁の一部（セクションによる確認）に幅23cm、深さ10cmの掘り込みが確認できる。柱穴、貯蔵穴は明確を欠く。

床面は6号住居址内の埋土を切り込んだスペース部分に黒褐色土とロームBの混合土により、3～5cmの厚さで貼り床を設けている。

カマドは東壁の南側に位置し、灰褐色粘土は1.55m（主軸方向）、南北1.8mほどの広範囲に流出している。右袖部付近には40cm×25cmの円礫が出土。作業用の置き石なのか？

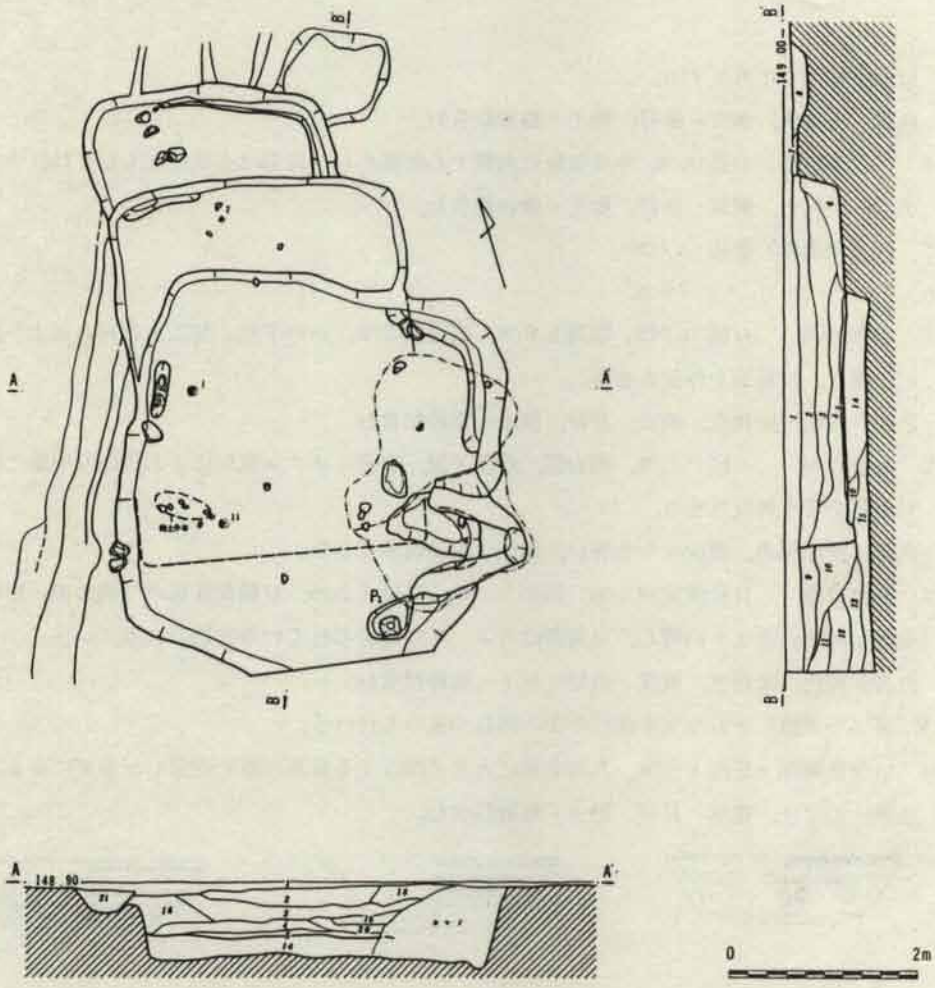
出土遺物（第11図1～11）

遺物の総量はパンケース1箱ほどであるが、埋土中に混入した小片が主で、床面上での出土状況は散在的であるカマド周辺での出土は見られず、西壁方面に出土。南東コーナー部に焼土分布が見られ、長甕の小片が出土している。尚、埋土中より坏、高台付椀、蓋、台付甕脚部等が出土した。

1. 坏　、口径12.3cm、器高3.6cm、手持ヘラ削りのやや歪んだ底部よりやや開広気味に内彎し、口縁部を直立気味に内傾させる。口縁部下の体部は斜位のヘラ削りを施す。内面から口縁部は横ナデ、口唇部にはカーボンの付着が見られる。
色調－赤褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。

2. 坏　（須恵器）口径12.7cm、器高3.9cm、底径5.5cm、糸切り底の平底より内彎し、口縁部は外反して開く。ロクロ成型。
色調－淡灰褐色、焼成－良好、胎土－精選され、微砂粒少量含む。

3. 坏　（須恵器）口径13.5cm、器高3.6cm、底径6.9cm、糸切り底の平底より内彎し、口縁部



第10図　5.6.7.号住居址実測図

5、6、7号住埋土

1. 耕作土
2. (5号埋土)黒褐色土　R・B 暗褐色土含
3. (　〃　)　〃
4. (　〃　)暗褐色土斑点状に黒褐色土含
5. (　〃　)黒褐色土
6. (　〃　)　〃　R粒 R・B多量含
16. (　〃　)　〃　暗褐色土を多く含
18. (　〃　)　〃　16に似る
19. (　〃　)暗褐色土、焼土粒を含
20. (　〃　)黒褐色土と暗褐色土の混合土
21. (M-1埋土) 褐色土　多量のR粒含
9. (6号埋土)黒褐色土　浮石を多く含
10. (　〃　)　〃　浮石 R粒 R・Bを含
11. (　〃　)　〃　10より明るい
12. (　〃　)　〃
13. (　〃　)　〃　暗褐色土含
14. (　〃　)　〃　斑点状にR・Bを含
15. (　〃　)　〃　カーボン R粒 R・B含
7. 黒褐色土
8. (土壙埋土)暗褐色土、黒褐色土、R粒、R・B含

はやや肥大して外反する。

色調－灰褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒含む。

4. 坏（須恵器）口径14㎝、外反気味に内彎する体部から口唇部は五状に肥大して外反する。

色調－灰褐色、焼成－良好、胎土－微砂粒含む。

5. 坏（須恵器）底径 6.7㎝

6. 坏（ 〃 ） 〃 7.8㎝

7. 高台付椀　口径16.9㎝、器高5.8㎝、底径9.2㎝、ハの字状に開広する高台部より直線的に開き、口唇部を外反させる。

色調－褐色～暗褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒含む。

8. 高台付椀　口径13.9㎝、高台部、底部欠損、器面にロクロ成形による凹凸を明瞭に残し、口唇部を若干外反させる。

色調－淡赤褐色、焼成－やや甘い、胎土－粗砂粒多く含む。

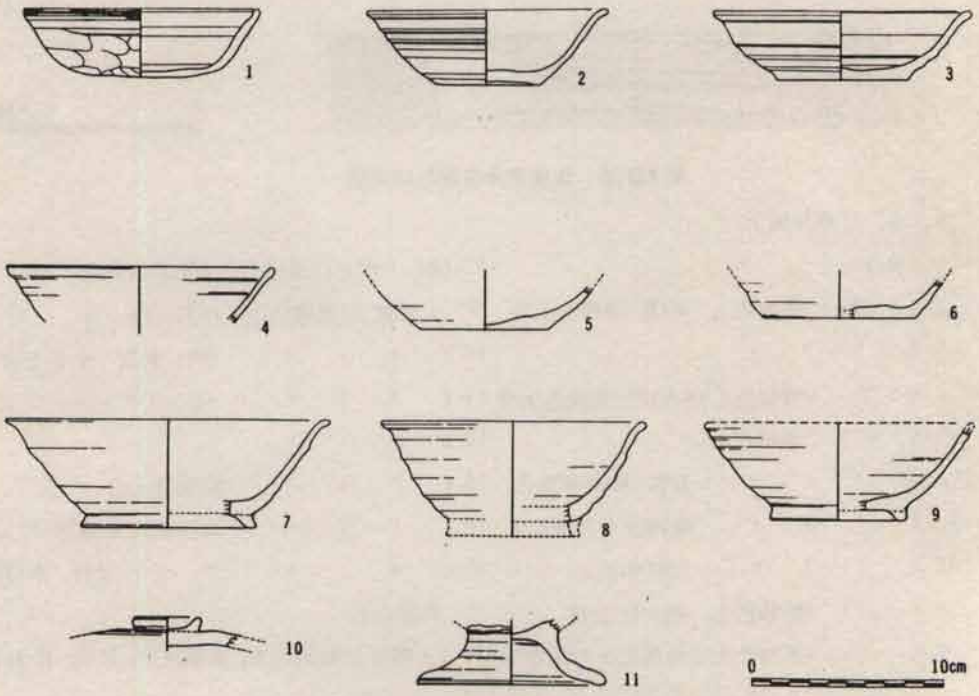
9. 高台付椀　口径推定14.2㎝、器高5.2㎝、底径7.2㎝、口縁部底部の一部欠損、短かく安定した高台部より内彎し、口唇部はスムーズに丸められていると思われる。

色調－褐色～暗褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒含む。

10. 蓋（須恵器）平担な天井部に中央の凹むつまみを付ける。

11. 台付甕脚部　底径9.9㎝、八の字状に大きく開広する器高の低い安定した台部である。

色調－黄褐色、焼成－良好、胎土－粗砂粒含む。



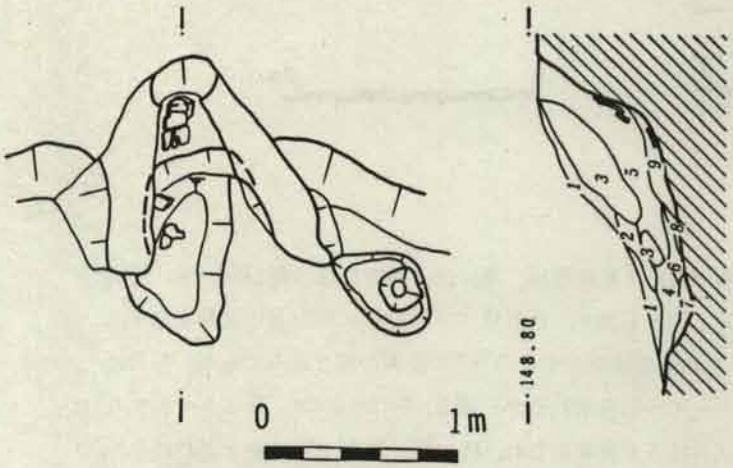
第11図　5号住居址出土遺物実測図

6号住居址（第10図）

11Aグリットポイントに位置し、中央部より北方に5号住が重複しているが、形状を著しく破壊するには至っていない。南コーナー部は調査区外となるが、ほぼ全容は解明された。

規模は4.2m×3.85mの方形プランで、カマド付近にて東壁がやや張り出す。主軸はE－28°－Sを呈す。残存壁高は80cm前後を測り、80°ほどの傾斜角で掘り込まれている。周濠は東コーナー部分に東壁から西壁にかけてL字状に残り、幅28cm、深さ10cmを測る。又、西壁中央部の北側に長さ60cmほど残存する周濠内には小柱穴が2ケ所見られる。P_1は南コーナー部、カマド右袖部に接し、58cm×40cm、深さ25cmほどの楕円形プランで貯蔵穴と思われる。床面は多少凹凸が認められるが、ハードにしまっている。

カマドは東壁中央部やや南よりに切り込まれ、E－23°－Sの主軸を呈す。規模は全長1.5m、袖部先端間は1.1mほどを測り、灰褐色粘土により八の字状の袖部を作り出している。焚き口部から燃焼部は深さ15cmで、左袖部寄りに掘り込まれている。煙道部は60°傾斜で立ち上り、35cm×45cmの楕円形の煙り出し口となる。側壁部は非常によく焼け、ガチガチの焼土Bとなる。煙道部の立ち上り部に長甕片が出土したが、非常に脆い状況であった。



第12図　6号住居址カマド実測図

6号住居址カマド

1. 黒褐色土、R・B、灰褐色粘土Bを少量含む
2. 黒褐色土、焼土B、灰褐色粘土Bを少量含む
3. 灰褐色粘土B
4. 黒褐色土、焼土B多く含む
5. 焼土粒、焼土B
6. 灰層
7. 暗褐色土、R・B、焼土粒、カーボン含む
8. 灰層、焼土粒含む
9. 灰褐色土、焼土Bを含む

7号住居址（第10図）

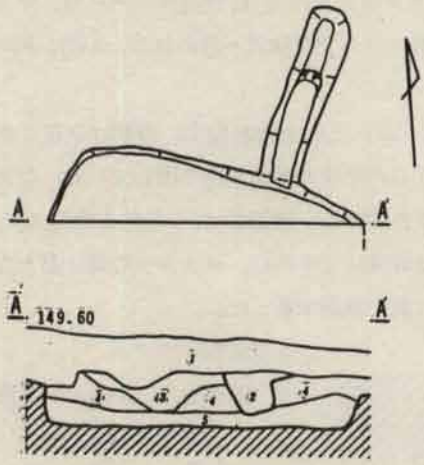
10B、11Bグリット、5号住居址の北側に位置し、北東コーナーに土壙、中央部には南北に走向するM－1が接する。全容は5号住居址が切り込んでいる為に不明であるが、北壁辺2.55mを測るやや歪んだ方形プランを呈するものと思われる。壁高は20～30cmが残存し、65°～70°傾斜の掘り込みで、北東コーナー部には周濠が見られる。床面はハードに固められたローム で、西方には大小6個の円礫が出土した。

8号住居址（第13図）

16Aグリットに位置し、調査区域内にわずかに確認された住居址で、北壁中央部やや東寄りに、耕作上の溝、北東方向に9号住居址、北、西方には柱穴群が広がる。

規模は、北辺で2.3mを測り、残存壁高は30cm前後で、70°～85°傾斜の掘り込みを呈す。柱穴、周濠、カマドは不明。床面はしっかりした安定のあるロームである。

遺物は埋土中より数片出土しただけである。



8号住居址埋立

1. 耕作土
2. 溝（耕作によるもの）
3. 黒褐色土　ソフトで浮石少量含む
4. 暗褐色土　斑点状に褐色土を含む
5. 黒褐色土　浮石、R粒　R·Bを含む

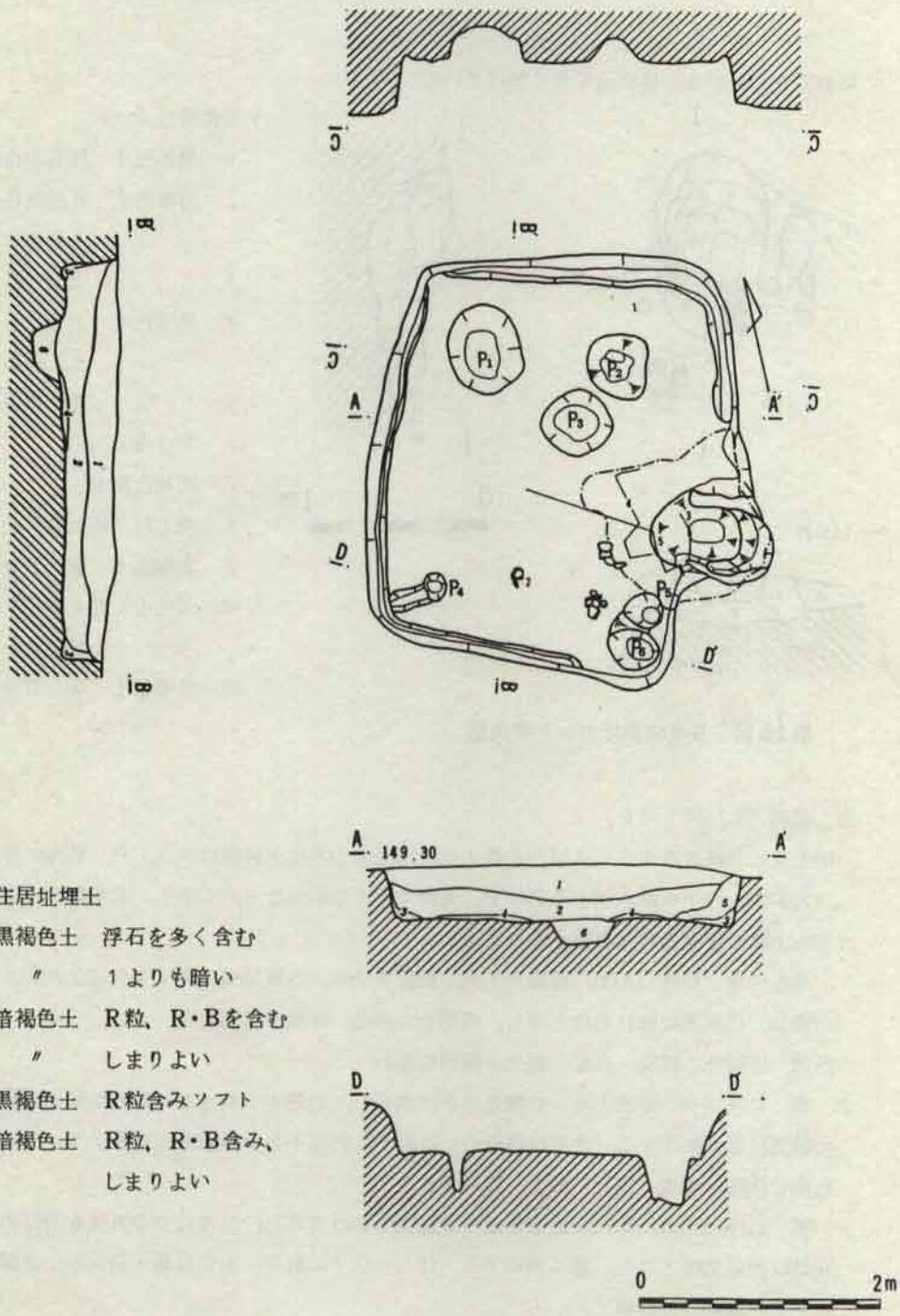
0　2m

第13図　8号住居址実測図

9号住居址（第14図）

17A、Bグリットに位置し、南西方向に8号住居址、東、北、西方に柱穴群が広がる。規模は東辺3.45m、西辺2.95m、南北辺2.35mを測り、台形状プランでE－20°－Sの主軸を呈す。残存壁高は35cm～45cmで南方向に連れ壁高は減少する75°～85°傾斜の掘り込みである。周濠はカマドの両脇を除いて（北西コーナーで一部途切れるが）廻る、幅15～20cm、深さ3～5cmの浅い掘り込みである。柱穴状掘り込みは6ヶ所検出され、P_1、P_2、P_4が主柱穴かと思われるが、明確を欠く。P_1は60×77cmの楕円形プランで深さ28cmの舟底状掘り込み。P_2は50×60cmのやや歪んだ円形で深さ20cmを測る。P_3は52cm直径の円形で深さ22cm、P_4は南西コーナー部に位置する18×25cm、深さ33cmの掘り込みで南西コーナー部まで溝状掘り込みが見られる。P_5、P_6は貯蔵穴か柱穴か不明であり、P_5は30cm直径ほどの円形で深さ32cm、P_6は44×35cmの楕円形で深さ38cmを測る。

カマドは東壁中央部の南寄りに切り込まれ、E－27°－Sの主軸を呈す。規模は全長1.02m、幅0.85mの楕円形プランで、灰褐色粘土と礫により構築されている。袖部は粘土により馬蹄形張り出しを呈し、先端間は45cmを測り、南側壁面には30cmほどの角礫を補強しているが、北側には存在しない。焚き口部分は半円形の浅い掘り込みで、燃焼部で10cmほどの深さを測り、45°

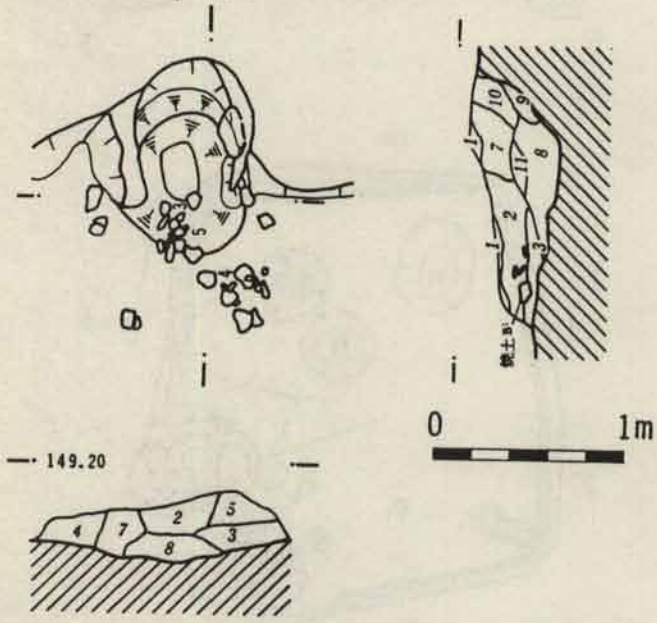


9号住居址埋土

1. 黒褐色土　浮石を多く含む
2. 〃　1よりも暗い
3. 暗褐色土　R粒、R・Bを含む
4. 〃　しまりよい
5. 黒褐色土　R粒含みソフト
6. 暗褐色土　R粒、R・B含み、しまりよい

第14図　9号住居址実測図

傾斜で立ち上がる。側壁面等良く焼けている。



9号住居址カマド

1. 黒褐色土　浮石を含む
2. 暗褐色土　灰褐色粘土、焼土Bを含む
3. 〃　2より暗い
4. 黒褐色土　少量の灰褐色粘土、浮石含む
5. 〃　4に類似
6. 欠　番
7. 灰褐色粘土
8. 焼土粒・焼土B
9. 黄褐色土　焼土B含む
10. 褐色土　焼土B・灰褐色粘土Bを含む
11. 黒褐色土　焼土Bを含む

第15図　9号住居址カマド実測図

出土遺物（第16図1～5）

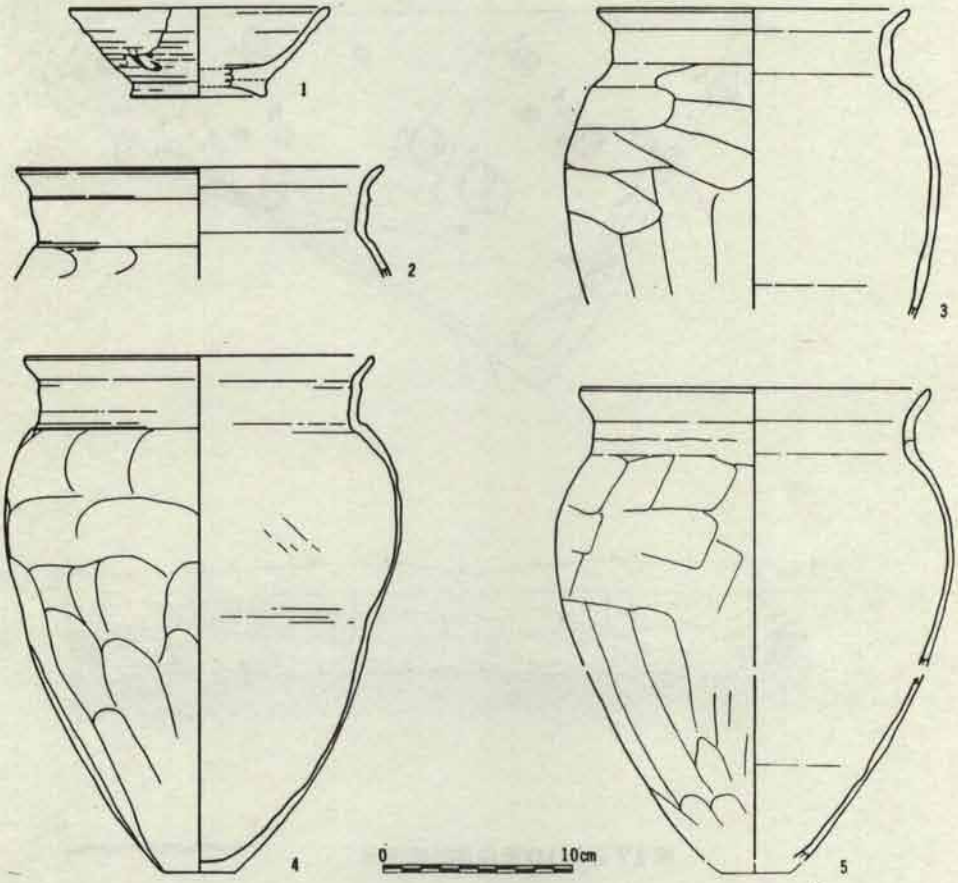
出土遺物の総数は400点以上を数える。床面上での出土状況はカマド内、前面に多く出土し、大半がコの字口縁を呈する甕片で、実測できうる個体は4点である。北東部出土の須恵坏は埋土上面で確認された墨書土器である。

1. 高台付埦　口径13.6cm、器高4.7cm、底径7.2cm、内彎気味に開く高台部より開き気味に内彎し、口唇部に連れ器肉を増し、端部を丸める。体部に墨書有り。
色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
2. 甕　口径14cm、体部上半～口縁部にかけ残存し、内彎する肩部から開き気味の頸部を呈し、口縁部は短く開広する。体部は横位のヘラ削り、内面から口縁部外面は横ナデ。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 甕　口径16.2cm、体部中位下半より口縁部にかけ残存し、体部はやや丸味を帯び内彎し、頸部は内傾気味となり、短く開広する。体部中位下は縦位、上位は横・斜位のヘラ削り。内面から口縁部外面は横ナデ。
色調－黄橙色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む
4. 甕　口径18.1cm、器高26.9cm、底径3.7cm、小さめの底部から最大径を体部上位に呈する胴長の体部から直立する頸部に移行し、口縁部は短く開広する。体部中位下は縦位、上位は

横位のヘラ削り、内面から口縁部外面は横ナデ、内面に斜位の軽いナデ

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

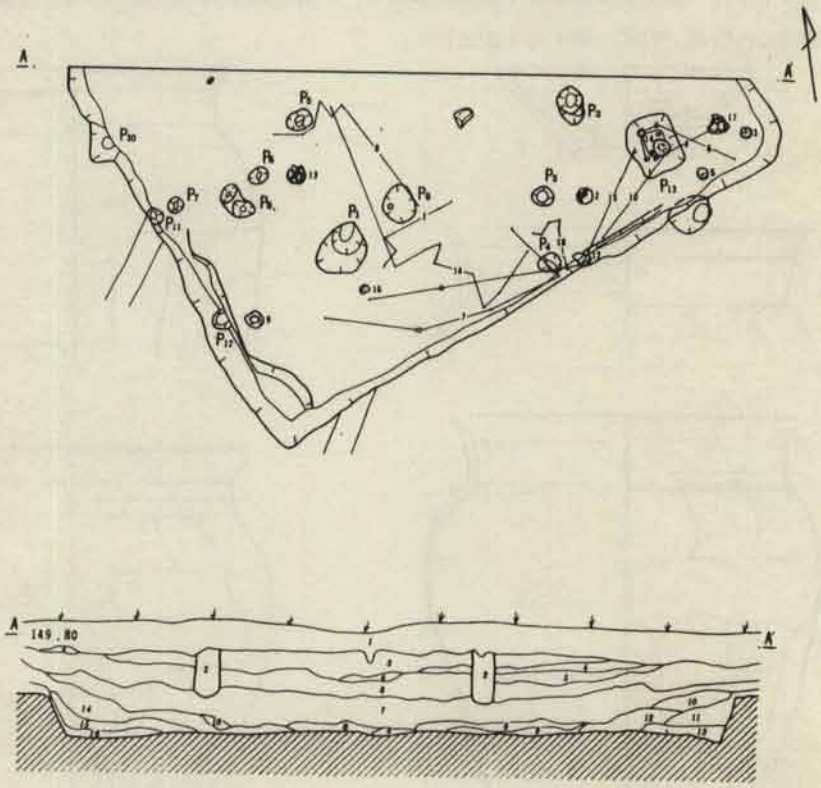
5. 甕　口径18.1㎝、器高推定25.2㎝、底径推定3.6㎝、最大径は胴部上位で、やや肩落ちの全体にやや丸味を呈する胴部より頸部に移行し、口縁部は斜方向に開広する。手法は上記とほぼ同じ。色調、焼成、胎土も上記と同じ。



10号住居址（第17図）　　**第16図　9居住居址出土遺物実測図**

21、22、23Dグリットに位置し、南東方向に11号住居址、柱穴群が広がる。南、南西方向に溝状遺構（耕作上のもの）、柱穴群が見られ、2本の溝が住居址埋土を切り込む状況にあるが、住居址の形状を破壊するには至っていない。調査区域内では約半分のスペースが確認され、規模は南辺で6.3mを測る方形プランと思われる。主軸はN－65°－Eを呈する。残存壁高は45～50㎝を測る65°～75°傾斜の掘り込みである。周濠は南壁中央部やや東寄りと西壁の南寄りに存在した。柱穴状掘り込は13ケ所され、P_1は45㎝×60㎝の円形、深さ65㎝、P_2は直径30㎝の円形深さ80㎝で主柱穴と思われ、2.75mのスパンを測る。P_{10}～P_{12}は壁崩壊防止の矢板止めの支柱

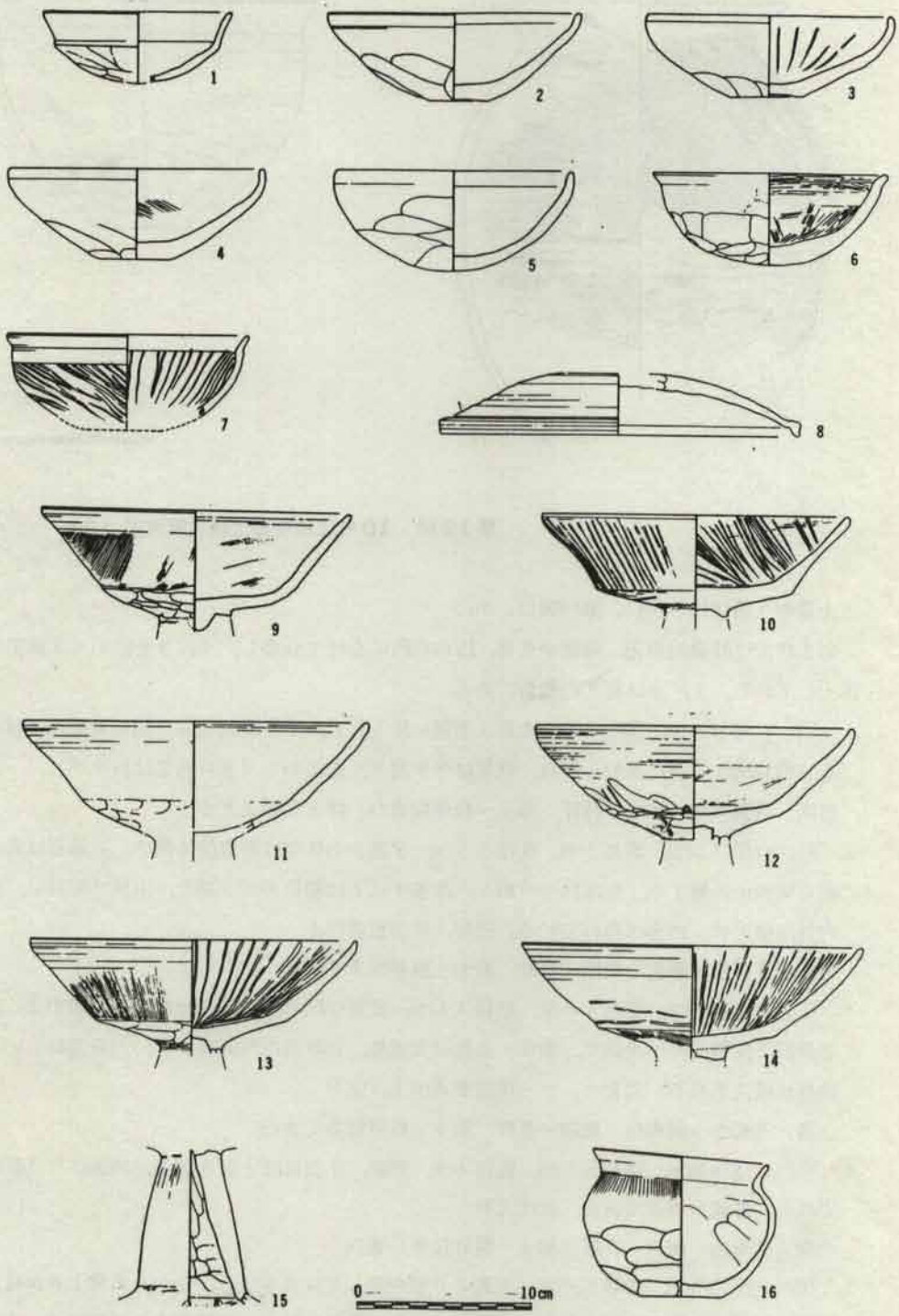
穴、P_4は20cm前後の円形で深さ21cmを測る入り口部と思われる掘り込みであろう。P_{13}は50×60cmの方形プランで深さ83cmを測る貯蔵穴と考えられる掘り込みである。床面は非常に固く、安定したレベルを保つ、カマドは明確を欠くが、東壁に位置すると考えられる。



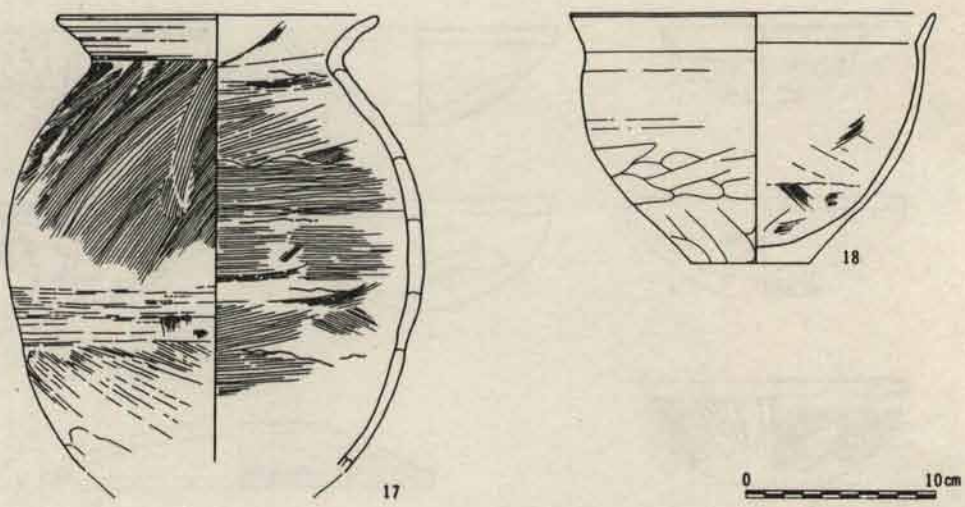
第17図　10号住居址実測図

10号住居址埋土

1. 耕作土
2. 溝状遺構（耕作上のもの）
3. 暗褐色土　B軽石を含む
4. 黒色土　B軽石を含む
5. 黒色土
6. 黒褐色土　暗褐色土を含む
7. 黒褐色土　FAを多く含む
8. 黒褐色土
9. 褐色土　R粒を多く含む
10. 暗褐色土　サラッとしている
11. 暗褐色土　R粒、褐色土含む
12. 暗褐色土
13. 焼土粒・焼土B
14. 黒褐色土　R粒を少量含む
15. にぶい褐色土　R粒・黒褐色土含む
16. 褐色土　斑点状にR粒、R·B多く含む



第18図　10号住居址出土遺物実測図（1）



第19図　10号住居址出土遺物実測図（2）

出土遺物（第18図1～16、第19図17、18）

出土状況は貯蔵穴周辺、南壁中央部、P_9からP_5にかけて分布し、1、8を除いて床面密着で出土している。1、8は混入の遺物である。

1. 坏　口径10.6cm、器高4cm、丸底より弱い陵を呈し、やや外反気味に開く口縁部に移行する。第17図P_9の南に飛散し接合、底部はヘラ削り、内面から外面口縁部は横ナデ
色調－淡黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む、埋土上層より出土
2. 坏　口径14.5cm、器高5cm、底径3.3cm、平底から体部は直線的に開き、口縁部は短かく直立気味に内彎する。底部はヘラ削り、体部中位下は斜位のヘラ削り、上位は未調整、口縁内外面横ナデ、内面は荒れている。完形、床面密着出土
色調－赤褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む
3. 坏　口径14.3cm、器高4.6cm、底径4.1cm、底部は凹み、口縁部は短かく内傾する。底部と体部下位斜位のヘラ削り、中位～上位は未調整、口縁部内外面横ナデ、内面荒れているが放射状暗文が残る。北東コーナー床面密着出土、完形
色調－赤褐色～黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む
4. 坏　口径14.8cm、器高5.2cm、底径4cm、形態、手法ほぼ上記と同じ、内面にヘラ研磨痕が残る、貯蔵穴周辺で出土、ほぼ完形
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む
5. 坏　口径13.8cm、器高5.7cm、丸底よりやや歪んだ体部を呈し、短かく内彎する口縁部へ移行、底部から体部中位に斜位のヘラ削り、未調整部分残す、口縁部内外面横ナデ、内面にヘラ研磨痕残る、貯蔵穴の南東方向、床面出土

色調－赤褐色～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

6. 坏　口径13.2cm、器高5.3cm、器肉の厚い丸底から短かく外反させる口縁部へ移行する。体部中位下は横位・斜位のヘラ削り、口縁部外面横ナデ、内面口縁部横位のヘラ研磨、内面は不定方向のナデ、貯蔵穴内部に集中出土

色調－(外)赤褐色～黒褐色(内)赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

7. 坏　口径13.9cm、内彎する体部から弱いくびれを呈し、短かく内彎する口縁部へ移行する。体部は斜位、口縁部は横位のヘラ研磨、内面口縁部は横ナデ、内面放射状暗文残る。南壁沿いに2、3mほど飛散している。

8. 蓋（須恵器）　口径20.5cm、残存器高3.5cm、天井部分は水平気味で、つまみ部は欠損、口縁部は鋭く折れる。体部はロクロ成形で、天井部は回転ヘラ削り、混入遺物

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－精選されている

9. 高坏坏部　口径17.1cm、体部下半に弱い陵を呈し、外反して大きく開く口縁部へ移行する。接合部は丸い突起状を呈している。陵下半は横位、斜位のヘラ削り、体部は弱い櫛状ナデ、口縁部内外面横ナデ、内面は荒れている。西壁南寄りの床面密着

色調－赤褐色～黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

10. 高坏坏部　口径17.4cm、盤状の坏底部から外面下半に陵を呈し、体部中位ほどまで外反して開き、口縁部をやや内彎させる。接合部は細かいヘラ研磨、底部は横ナデ、陵部分ヘラ研磨、体部内外面に放射状暗文施す。口縁部は横ナデ

色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

11. 高坏坏部　口径19.5cm、外面下半に陵を呈し、体部は大きく開広気味に内彎する。陵下半は横位のヘラ削り、未調整部残す、口縁部は横ナデ、内面は荒れている

色調－にぶい黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

12. 高坏坏部　口径18cm、外面下半に弱い陵を呈し、体部は外反して開き、口縁部を直立気味に内傾させる。陵部分は横位のヘラ削り、体部下半は斜位のヘラ削り、内面から口縁部外面は横ナデ、南壁中央部やや東寄りに出土

色調－黒～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

13. 高坏坏部　口径18.5cm、体部下半に弱い陵を呈し、体部は斜方向に大きく開き、口唇部を直立させ、端部を鋭り気味に丸める。陵下半は横位のヘラ削り、陵より上方向への軽いナデ、口縁部は横ナデ、内面に放斜状暗文を施す

色調－赤～黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒を多く含む

14. 高坏坏部　口径19.5cm、外面下半に陵を呈し、体部は大きく開き内彎する。端部は丸くおさめる、陵下半はヘラ削り後ヘラ研磨、体部下半に一部ヘラ研　が残る。口縁部内外面横ナデ、内面に放射状暗文を施す。貯蔵穴底面出土

色調－(外)赤～黒褐色(内)赤褐色　焼成－良好　胎土－精選されている

15. 高坏脚柱部　内彎気味に開く脚柱部から裾部は大きく屈曲されよう。外面はヘラ研磨、裾部はナデ、内面は指ナデ

色調－淡黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

16. 坩　口径10cm、器高8.2cm、底径4.6cm、底部から内彎する角張った体部形を呈し、最大径を肩部に測る。肩部よりくの字状頸部に移行し、口縁部は短かく斜方向へ開く。体部中位下は斜位・横位のヘラ削り。肩部に櫛描状ナデ、口縁部内外面横ナデ、内面に指ナデ残る。

色調－赤褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

17. 甕　口径16.5cm、胴長の体部を呈し、最大径は中位に設けられている。内彎する体部からくの字状頸部に移行し、口縁部は広き気味に内彎する。体部下位は斜位のヘラ削り、中位下半に横位のヘラ削り、上位は斜位の櫛描状ナデ、内面も櫛描状ナデ、口縁部内外面横ナデ

色調－黒褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

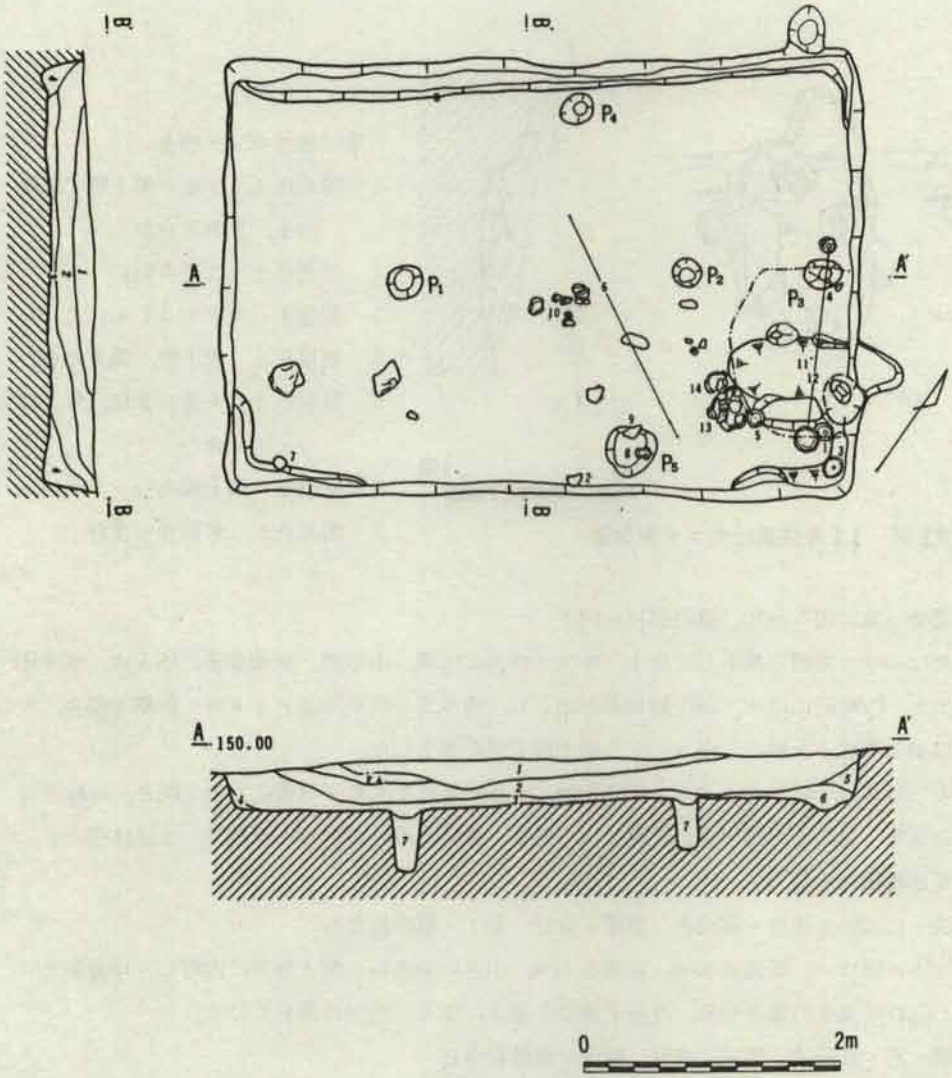
18. 鉢　口径19cm、器高13.1cm、底径6.2cm、平底の底部より内彎し、やや尻つぼみの下半より上部につれ開き気味となり、軽いくの字状くびれを呈し、口縁部は直立気味に開く、底部はヘラ削り、体部下位は斜位、上位は若干横位のヘラ削りが残る、全体にヘラ削り後、ヘラ研磨を施す　口縁部内外面横ナデ、内部下半はヘラ削り後、ヘラ研磨

色調　黒～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

11号住居址（第20図）

23Bグリットポイントより南西方向に広がり、北西方向に10号住居址、東方に13号住居址が位置する。規模は5m×3.4mを測る長方形プランで、主軸はN－55°－Eを呈す。残存壁高は30～40cmほどで、南方向に連れて壁高が減少する75°～80°傾斜の掘り込みである。周濠はカマド右脇のコーナー部、南コーナー部、北壁沿いに確認されるが、幅20～30cm、深さ5cm以下の浅いものである。柱穴状の掘り込みは6ヶ所確認され、P_1～P_3は住居址の主軸と同方向、短軸辺の中央ラインに設けられたもので、P_1は25cm直径の円形、深さ45cm、P_2は23cm直径の円形、深さ40cmを測る主柱穴と考えられる掘り込みである。尚、P_1、P_2は短辺壁より1.4m地点に位置する。P_3は27×35cmの楕円形プランの皿状を呈する浅いもので、支柱穴であろうか？　P_4は北壁の中央やや北寄りに位置する23×27cmの円形、深さ16cmを測る入り口部の掘り込みであろうか？P_5はカマドより南方0.75cmほど隔て位置する、40cm直径の円形で深さ65cmを測る貯蔵穴と思われる掘り込みであり、坩の完形が出土した。床面は固くしまり、安定している。

カマドは住居址と同一主軸で、東壁辺の$\frac{1}{4}$東寄りに掘り込まれ、全長1.37m、幅0.85mの規模を測る。焚き口部分と燃焼部、燃成部は住居址内に、煙道部は東壁を20cmほど掘り込み、10cmほどの段を設け、緩やかに傾斜して立ち上がり、35cmほどの舌状プランを呈する。袖部は粘土と小礫を混ぜて構築しており、北袖は途切れているが65cm、南袖は柱穴状掘り込みにより一

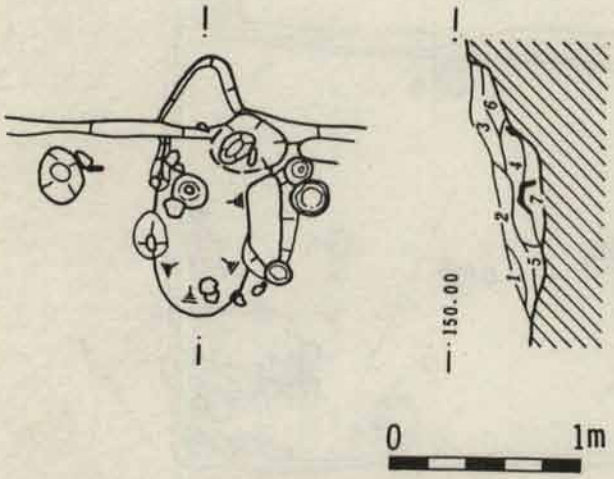


第20図　11号住居址実測図

11号住居址埋土

1. 暗褐色土　FP浮石、FA浮石、焼土粒含む
2. 黒褐色土　1より密でR粒を含む
3. 暗褐色土　R粒、R·Bを含む
4. 暗褐色土　ソフトでR粒を含む
5. 暗褐色土　ソフト
6. 暗褐色土　焼土粒、カーボンを含む
7. 暗褐色土　R粒、R·B多く含み3より暗い

部破壊されているが、70cmほどで袖部間は45cmを測る。焚き口部分は半円状の浅い掘り込みで、カマド内に高坏を伏せた支脚と思われるものが出土した。



第21図　11号住居址カマド実測図

11号住居址カマド埋土

1. 暗褐色土、少量の焼土粒・灰褐色土、RBを含む
2. 暗褐色土　1より暗い
3. 褐色土　サラサラしている
4. 暗褐色土　焼土粒、焼土B含む
5. 暗褐色土　多量のR粒、焼土粒カーボン含む
6. 褐色土　焼土粒含む
7. 暗褐色土　R粒多く含む

出土遺物（第22図1～10、第23図11～14）

遺物はカマド周囲に集中して出土、カマド前面には甕、小型甕、南袖部脇に坏3点、高坏坏部が出土、P_3周辺には坩、高坏脚柱部が出土し、南袖部の高坏坏部と1.4mの距離で接合。大甕片は中央部埋土上層に、南コーナー部上層で坩が出土した。

1. 坏　口径15cm、器高3.9cm、底径4cm、小さい平底から水平気味に大きく開き、口縁部は直立気味に短かく内彎する。底部はヘラ削り、体部下位は斜位のヘラ削り、上位は横ナデ、内面は櫛描状ナデ

色調－にぶい赤褐色～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

2. 坏　口径14cm、器高4.8cm、底部3.1cm、小さい平底から開き気味に内彎し、口縁部は直立し、口唇部を内傾させる。外面手法は上記1に似る、内面は荒れている。

色調－赤～黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

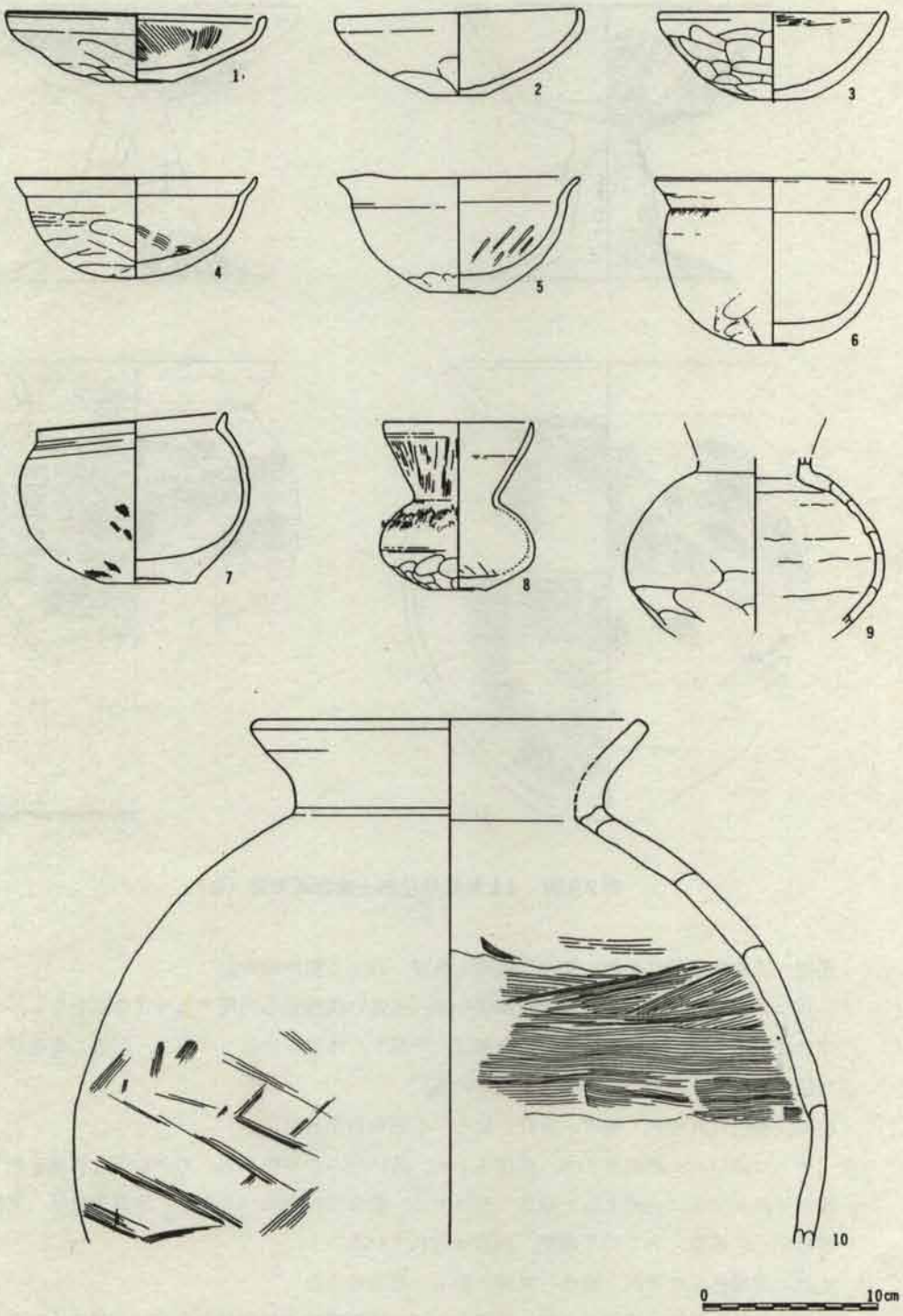
3. 坏　口径13cm、器高5cm、底径3×4cm、平底でやや丸底気味を呈す、体部は内彎し、そのまま口縁部へ移行する。底部はヘラ削り、体部上位まで斜位、横位のヘラ削り。内外面口縁部は横ナデ、内面荒れている。

色調－赤～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

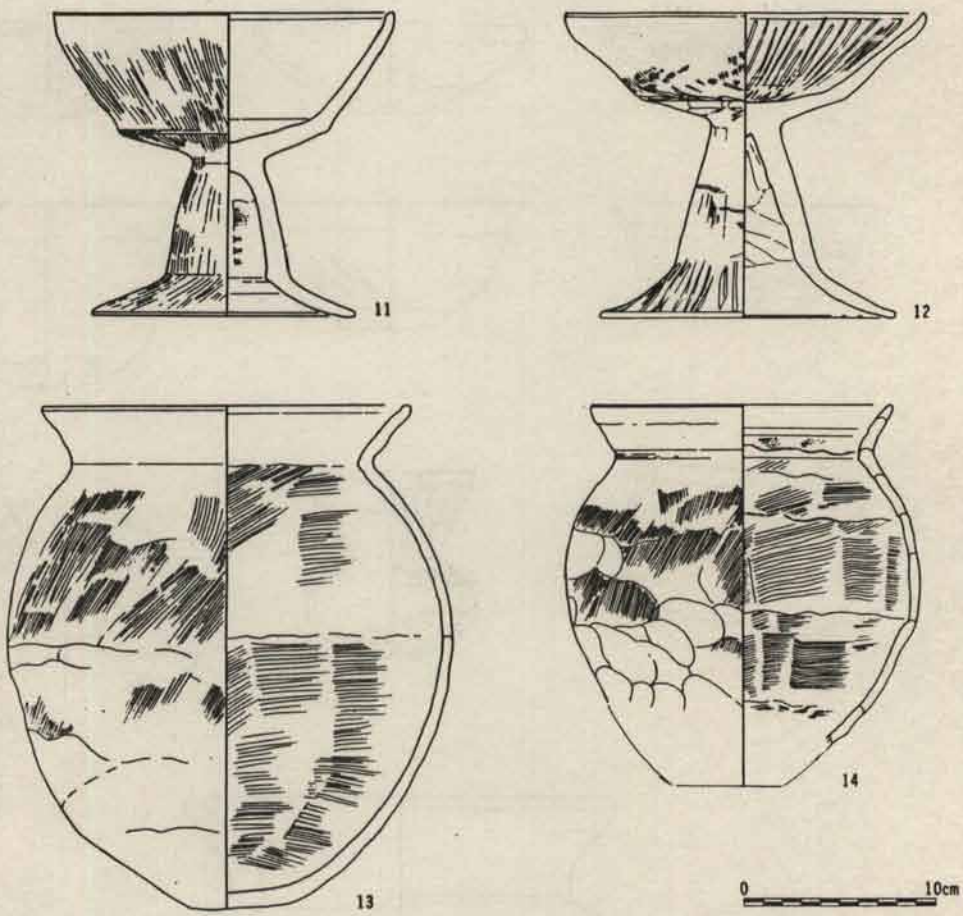
4. 坏　口径13.9cm、器高5.7cm、丸底より体部はやや開き気味に内彎し、短かく開き内彎する口縁部へ移行する。体部は斜位、横位のヘラ削りで、口縁部内外面横ナデ、内面は櫛描状ナデを施す。

色調－赤～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

5. 坏　口径14cm、器高6.6cm、底径4cm、凸みのある平底より内彎し、口縁部は短かく外反する。底部はヘラ削り、体部下位は斜位のヘラ削り、中位～上位は未調整、口縁部内外面横ナデ、内部は放射状暗文が若干残る。



第22図　11号住居址出土遺物実測図（1）



第23図　11号住居址出土遺物実測図（2）

色調－２次焼成受け多色に変化　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

6. 坩　口径13.6cm、器高9.6cm、底径3cm、小さい底部から内彎する球状体部を呈し、くの字状に短かく開く口縁部へ移行、底部はヘラ削り、体部下位にヘラ削り、頸部に櫛描状ナデ、口縁部内外面は横ナデ、内面は荒れている。

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

7. 坩　口径11cm、器高9.3cm、底径5.2cm、浅い凹みの平底から、やや扁平な体部を呈し、短かく直立気味に内彎する口縁部へ移行する。底部畳付部はヘラ削り、体部下位はヘラ削り後軽いヘラ研磨、大半が未調整、内面は荒れている。

色調－黒褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

8. 坩　口径8.5cm、器高9.7cm、底径3.4cm、所謂算盤玉状体部からくの字状にくびれ、直線的に開広し口縁部へ移行、口唇部は内傾しやや鋭り気味に丸める。底部はヘラ削り、体部

下半は斜位、横位のヘラ削り、頸部〜体部上位はナデ、筒部は縦位のヘラ研磨、口縁部内外面横ナデ。

色調－(外)淡黄褐色〜褐色(内)赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

9. 坩　大型の坩の体部片で、所謂算盤玉状の形状を呈す、体部下位はヘラ削り、上位は櫛描状ナデ、内面に粘土紐痕残す。

色調－黒褐色〜暗赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

10. 大型甕　口径21.7cm、球状の体部中位（最大径）部から口縁部片で、体部径に比べて口縁部がやや小さめとなる。体部は櫛描状ナデ、口縁部内外面横ナデ、内面に櫛描状ナデ、粘土紐痕残る。

色調－暗〜黒褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

11. 高坏　口径17.8cm、器高15.8cm、底径13.8cm、内彎気味に開く脚柱部から裾部は平たく大きく屈曲し内面に陵を呈する。坏部は外面に陵を呈し、直線的にやや開き、口縁部は内彎し直立気味となる。坏部、裾部の口縁部内外面横ナデ、坏部は底部〜体部ヘラ研磨、陵部分だけ横位のヘラ研磨、脚柱部〜裾部は縦位〜斜位のヘラ研磨、坏部内面荒れている。

色調－黄〜赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

12. 高坏　口径18.9cm、器高14cm、底径15.5cm、内彎しスムーズに開く脚柱部から裾広がりとなる。坏部外面に陵を呈し、大きく開広する体部から口縁部は鋭り気味に内傾させ丸める。脚柱部〜裾部はヘラ研磨、坏部外面は櫛描状ナデ、陵部分〜底部はヘラ削り後ヘラ研磨。口縁部内外面横ナデ、坏部内面は放射状暗文を施す。

色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

13. 甕　口径19.1cm、器高26.4cm、やや丸底気味の不安定な底部から最大径を体部中位に呈し、やや胴張りの胴部を呈し、口縁部は頸部よりくの字状に開く、体部は荒いヘラ削り後、櫛描状ナデ、口縁部内外面横ナデ、内部は横位の櫛描状ナデ、粘土紐痕残る。

色調－褐色〜黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

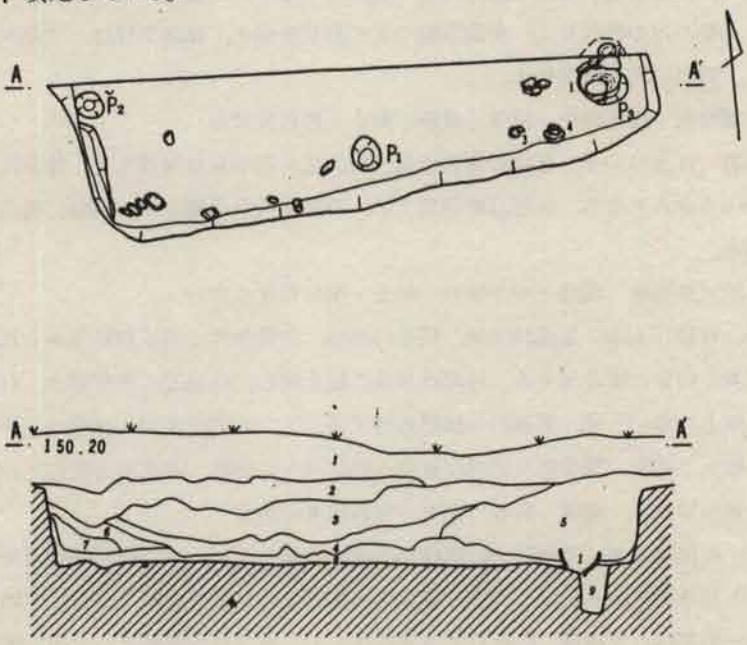
14. 小型甕　口径15.9cm、残存器高18cm、底部欠損、体部中位に最大径を呈す、体部は荒いヘラ削り後、斜位の櫛描状ナデ、口縁部内外面横ナデ、内面は横位の櫛描状ナデ、粘土紐痕残る。

色調、焼成、胎土は13と同じ。

12号住居址（第24図）

26、27Dグリットに位置し、調査区域内での確認面積はわずかで、南辺4.5mを測る方形プランが考えられる。主軸はN－85°－Eを呈する。残存壁高は60cm前後を測る80°傾斜の掘り込みである。周濠は西壁コーナー部に80cmほど確認されただけで、深さ5cmを測る。柱穴状の掘り込みは3ヶ所検出され、P_1は南壁中央部の床面に位置する34cm×38cmの円形、深さ20cmを測り

P_2は西壁、周濠の北に位置する20cm直径の円形で、深さ13cmの掘り込みである。P_3は南東コーナー部に位置する25cm×30cmの円形で、深さ53cmを測る貯蔵穴と思われる掘り込みである。床面は固く、安定している。



第24図　12号住居址実測図　0　2m

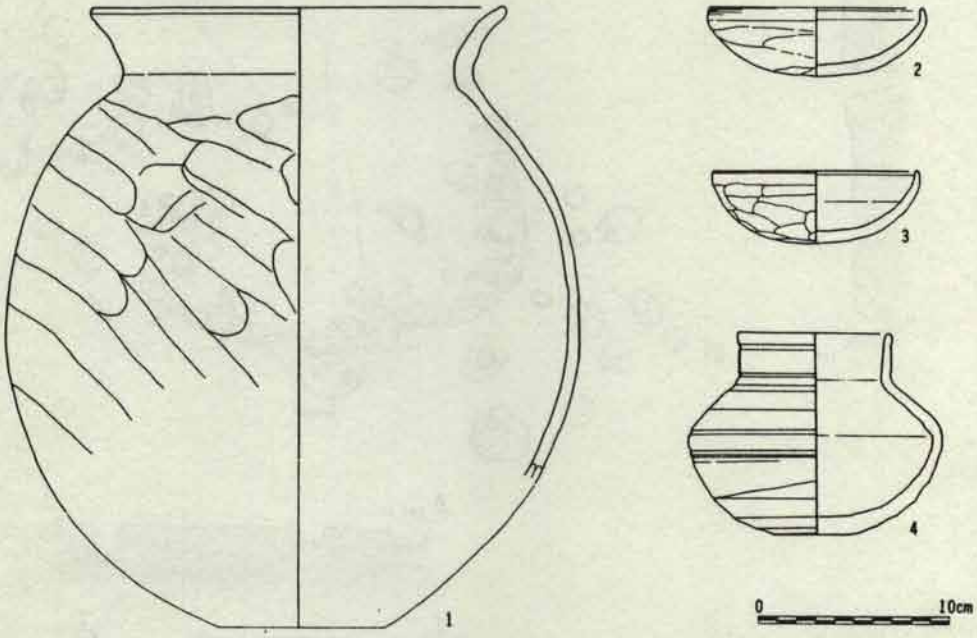
出土遺物（第25図1～4）

遺物は南東コーナー部に集中し、P_3上面に壺、坏、南壁沿いに坏と短頸壺が出土している。南西コーナー部床面に4個ほどの礫が見られる。埋土中より甑片が出土している。

1. 壺　口径21.5cm、全体の$\frac{3}{4}$ほどの形状を残し、体部は球状を呈し、くの字状頸部より内彎し、口唇部はやや開き気味となる。体部には斜位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデを施す。
色調－褐色～淡黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む
2. 坏　口径11cm、器高3.6cm、丸底より内彎し、口縁部は直立気味に内傾させる。底部から体部上位はヘラ削り、内面から口縁部外面は横ナデ。
色調－明褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 坏　口径10.7cm、器高3.8cm、2より全体に丸味を帯び、口縁部は直立気味となる。手法は2より丁寧なヘラ削りを施す。
色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
4. 短頸壺（須恵器）　口径7.8cm、器高10.5cm、平底気味の丸底より舟底状を呈する下部より最大径を中位に呈し、肩部は直線的に内彎する。口縁部はやや開き気味に直立する。底部

は回転ヘラ削り、体部はロクロ成形、体部（最大径上面）と口縁部下に沈線が廻る。

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

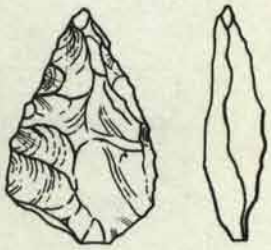


第25図　12号住居址出土遺物実測図

13号住居址、土壙状掘り込み

26Bグリットに位置する縄文時代の住居址と和泉期土壙と思われる掘り込みである。縄文時代の住居址は、周濠状掘り込みと柱穴により、一部の住居プランを想定できうるだけで、炉址、床面等は明確を欠いた。プラン確認時に石鏃（第26図）が1点出土した。

土壙状の掘り込みはP_1とP_2が概当する。P_1は70cm×60cmの円形で、深さ24cmを測る。P_2は1の字形を呈し、西側に30cm直径の円形で、深さ25cmを測り、焼土粒、焼土Bが多量に含まれる掘り込みである。遺物の出土分布はP_1の掘り込み内、周辺に多く見られ、南北2.9m、東西1.7mの細長い分布範囲状況を呈する。この時期の住居址が存在したのかも知れない。

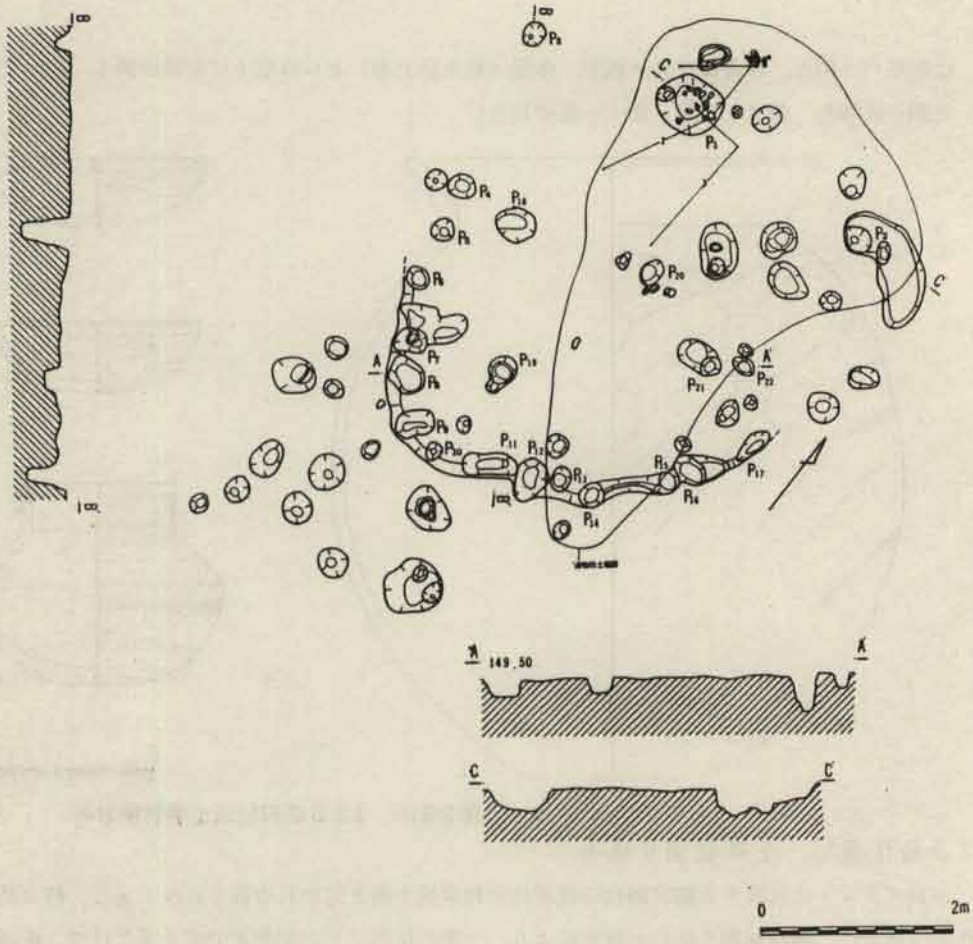


第26図　13号住居址出土石鏃

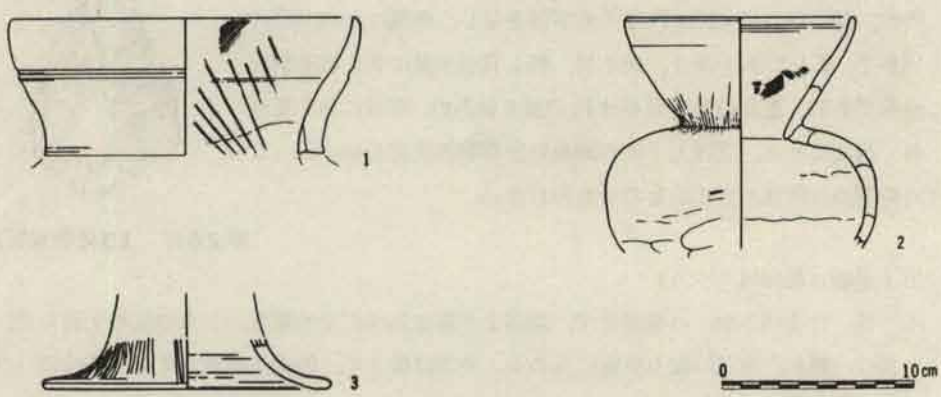
出土遺物（第28図1～3）

1. 壺　口径18.3cm、口縁部片で、頸部より直立気味にやや開き、一条の沈線を廻らせ、口縁部は内彎し、端部は鋭り気味に丸める。外面は横ナデ、内面に櫛描状ナデ、斜位のヘラ削り、粘土紐痕残る。

色調－黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む



第27図　13号住居址，土壙状掘り込み実測図



第28図　13号住居址，土壙状掘り込み出土遺物実測図

2. 坩　口径12.1cm、肩平な体部より強く肩が張り、筒部は良くしまった頸部より斜方向に開き、口唇部付近でやや直立気味となる。体部下半はヘラ削り、頸部はヘラ研磨、口縁部内外面横ナデ、筒部は若干の櫛描状ナデ、粘土紐痕残る。

色調－淡黄褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

3. 高坏脚部　径14.4cm、大きく水平気味に開く裾部片である。外面は縦位のヘラ研磨、内面は横位のヘラ研磨。

色調－暗赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

14号住居址（第29図）

約半分のスペースを茂木10号線下にかかる住居址で、28C、D、29C、Dグリットに位置する。東方に16号住居址、南西方向に15号住居址、北壁の中央部に長方形土壙、南西コーナーの一部に耕作上の溝が接する。規模は東辺5.2m、西辺4.7m、南辺4.5m、北辺4.65mを測る台形プランで、N－79°－Eの主軸を呈する。

残存壁高は40～55cmを測る80°～垂直に近い掘り込みで、カマド右脇の辺が一部攪乱されている。周濠はカマド左脇より北壁の$\frac{3}{4}$ほど、東南コーナー部より南壁沿い、西壁の一部に、幅10～20cm、深さ5～10cmを測る掘り込みである。柱穴状掘り込みは4ヶ所確認され、P_1は中央部やや南西寄りに位置する40×35cm、深さ30cmほどの掘り込みで、P_2は南西コーナー部周濠に接する45×35cm楕円形、深さ9cmを測り、P_3は南壁中央部に位置する35×40cmの円形、深さ24cmを測る。P_4は貯蔵穴と思われる掘り込みで、92×62cmの楕円形、深さ60cmを測る。床面は固くしまり、安定したレベルを保つ。

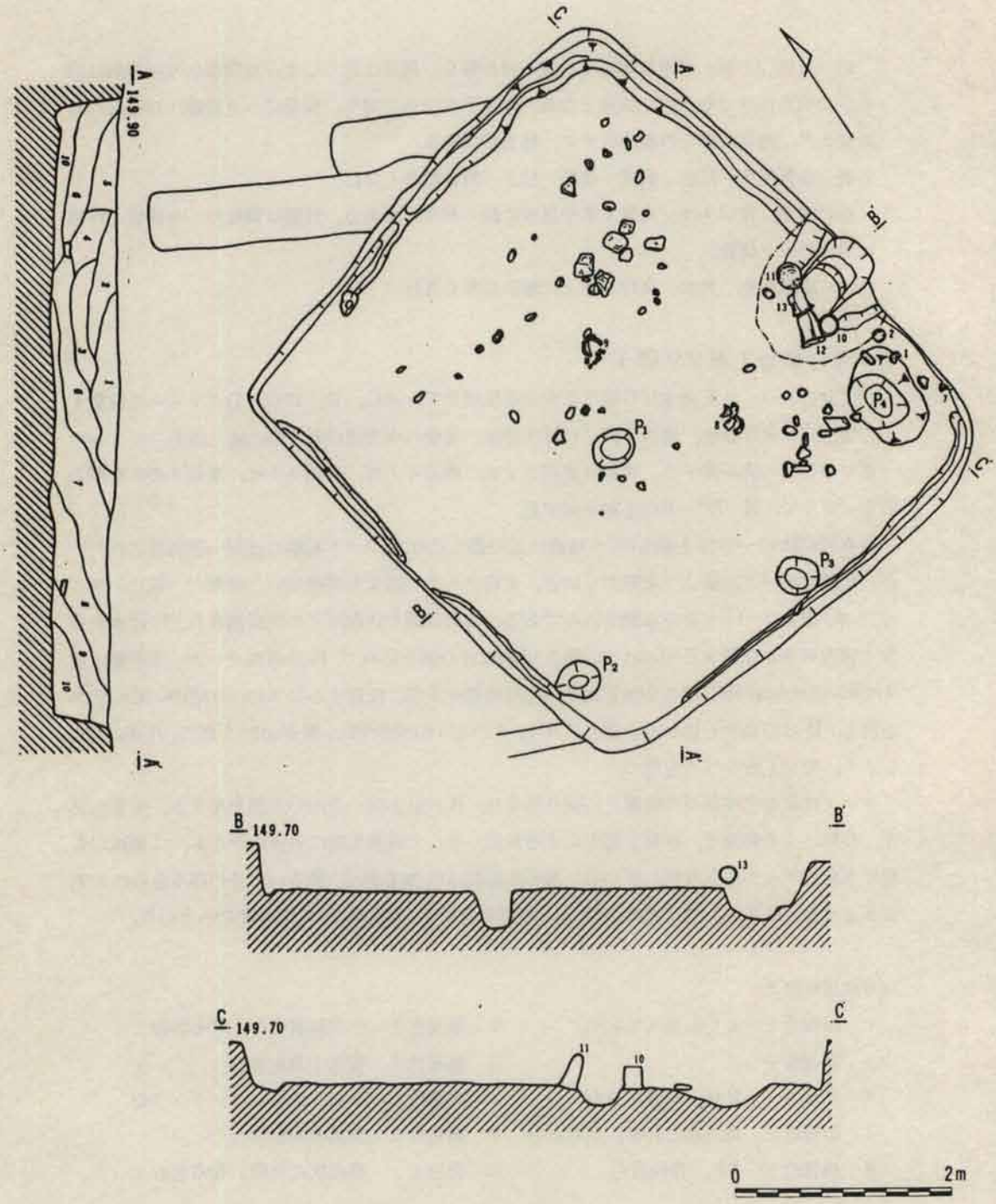
カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、住居址と同一方向の主軸を呈する。灰褐色粘土、長甕による構築で、灰褐色粘土による袖部、そして両袖先端に長甕を利用し、2個体の長甕でπ状のアーチを作り出している。袖部先端間は40cmを測る。焚き口部分の掘り込みは長甕直下より掘り込まれ、燃成部は30cmほどの深さを測り、煙道部は66°傾斜で立ち上がる。

14号住居址埋土

1. 暗褐色土　よくしまっている
2. 黒褐色土　多少粘質帯び、R•B含む
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土　褐色土Bを含む
5. 黒褐色土　R粒、R•Bを含む
6. 黒褐色土　5より暗く、カーボン含む
7. 暗褐色土　斑点状にR•B、R粒含む
8. 暗褐色土　多量のR粒含む
9. 黒褐色土　FP、R粒含む
10. 褐色土　斑点状にR粒、R•B含む

出土遺物（第30図1～8、第31図9～13）

床面中央部に壺、そしてカマド前面、カマド、貯蔵穴周辺に出土したが、貯蔵穴周辺出土の



第29図　14号住居址実測図

坏は当住居址に関連するものか疑問が残る。床面北部そしてカマド前面等に大小多種の礫が点在している。

1. 坏　口径11.1㎝、器高3.6㎝、丸底より内彎し、陵部は丸みを帯び張り出し、口縁部は陵より内彎してから開広し、端部を丸める。底部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－淡赤褐色～黄褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

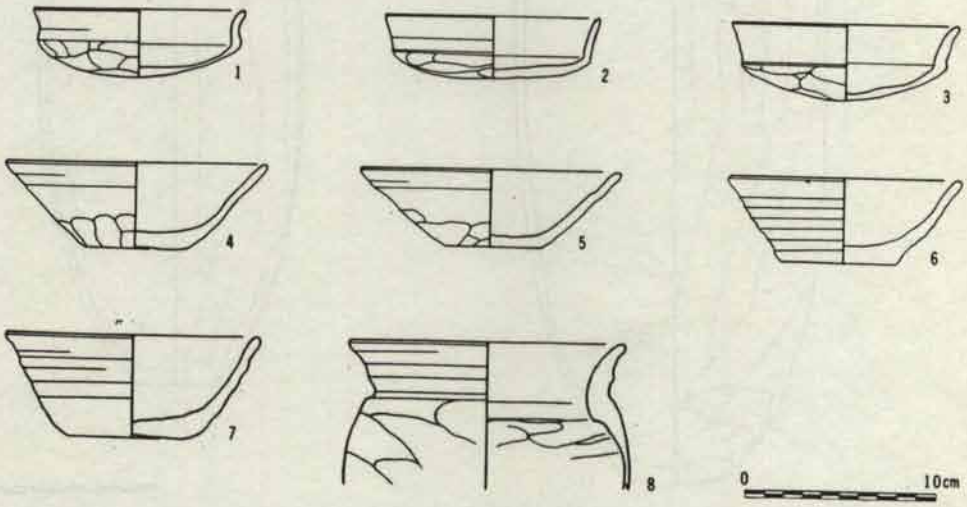
2. 坏　口径11.3㎝、器高3.2㎝、安定感のある扁平な丸底より軽い陵を呈し、口縁部は直立気味にやや開く。底部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－淡黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3. 坏　口径13.8㎝　器高4㎝、やや不安定な丸底より陵を呈し、口縁部は開き気味となる。底部はやや荒いヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

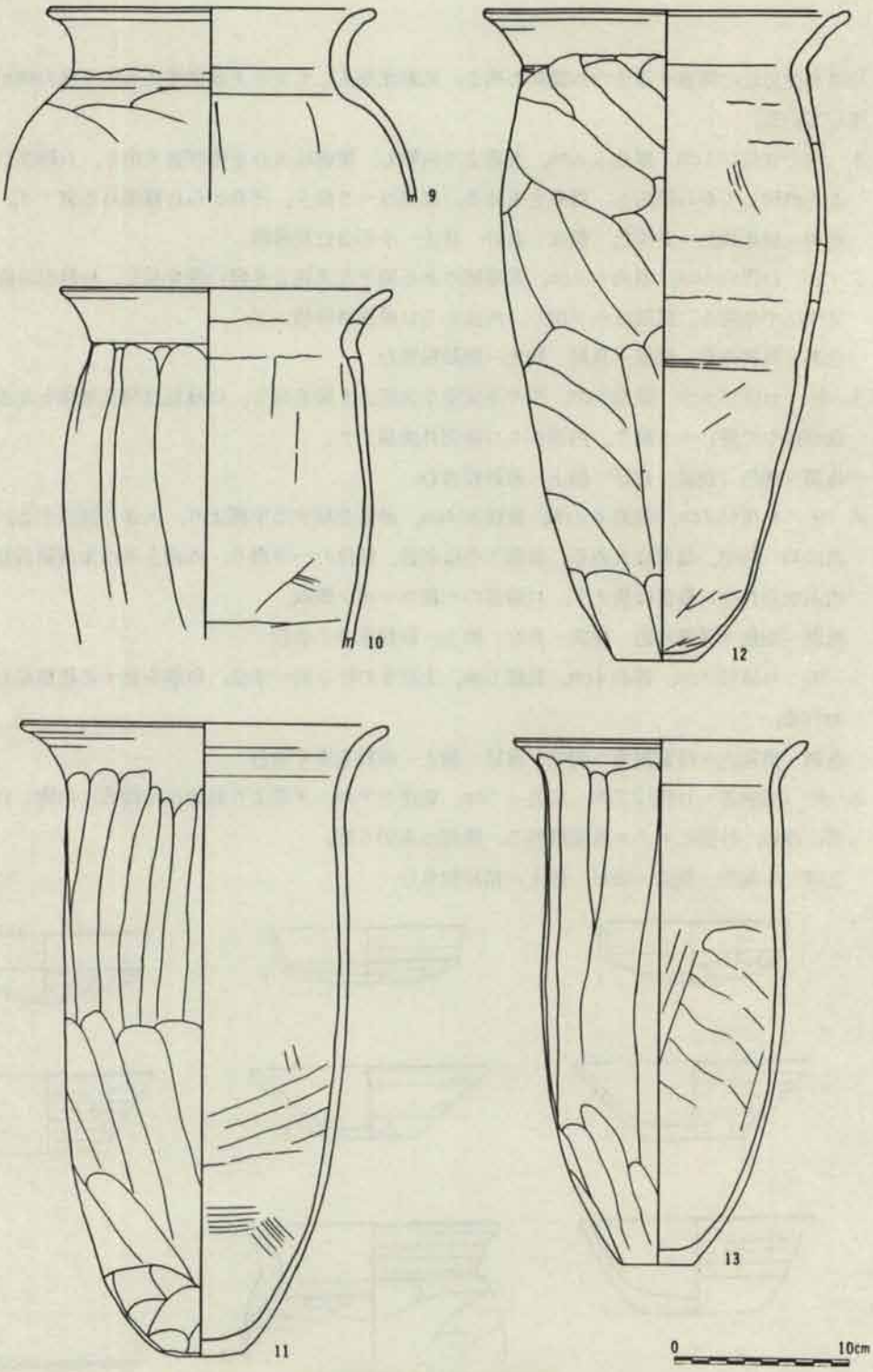
4. 坏　口径13.7㎝、器高4.6㎝、底径5.4㎝、砂底を呈する平底より、大きく開広する。器肉は均一的で、端部は丸める。体部下半は斜位、横位のヘラ削り、外面上半は未調整部分、内面から外面口縁部は横ナデ、口唇部の一部カーボン吸収。
色調－褐色～淡黄褐色　焼成－良好　胎土－砂粒を多く含む

5. 坏　口径13.7㎝、器高4㎝、底径5㎝、上記4の坏と同一手法、形態を呈する規格品と思われる。
色調－黒褐色～淡黄褐色　焼成－良好　胎土－砂粒を多く含む

6. 坏（須恵器）口径12.2㎝、器高6.5㎝、底径5.9㎝、平底より斜方向に開広に内彎し口縁部に移行、外面にロクロ水挽痕残る、底部は糸切り底。
色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む



第30図　14号住居址出土遺物実測図



第31図　14号住居址出土遺物実測図

7. 坏（須恵器）口径13.1㎝、器高5.5㎝、底径5.9㎝、平底より直立気味に内彎し、口縁部へ移行する深めの坏である。底部は糸切り底、体部にロクロ水挽痕残る、全体に磨耗している。

色調－淡灰褐色～暗灰褐色　焼成－甘い　胎土－粗砂粒含む

8. 壺形土器　口径14.5㎝、体部上半より口縁部片で、直立気味に内彎する体部より、強くしまったくびれを呈し、口縁部は斜方向にやや開く、体部外面は斜位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面は雑な横ナデ。

色調－淡褐色～暗褐色　焼成－甘い　胎土－粗砂粒多く含む

9. 壺　口径18.3㎝、体部上半より口縁部片で、球状を呈する体部より頸部は直立し、口縁部は開広し、端部は水平気味となる。体部上位は斜位のヘラ削り、口縁部内外面は横ナデ。

色調－にぶい褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

10. 長甕　口径18.6㎝、胴部中位下は欠損、やや胴張の体部より、弱いくびれを呈し、口縁部は斜方向へ開広する。胴部は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に若干のヘラ削り粘土紐痕残る。

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

11. 長甕　口径20.6㎝、器高36㎝、底径4.7㎝、やや丸底気味の不安定な平底より砲弾状の体部を呈し、頸部のくびれはなく斜方向へ開広する口縁部へ移行する。胴部下位は不定位なヘラ削り、中位下は斜位、上位は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面にヘラ削り痕、櫛描状ナデ、粘土紐痕が見られる。

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

12. 長甕　口径20.7㎝、器高37㎝、底径4.5㎝、ヘラ削りの平底より、胴部中位上付近に胴張りを呈し、器面に多少凹凸が見られる胴長の体部より、くの字状に外反する口縁部へ移行。胴部下位は縦位、中位下は斜位と縦位、上位は斜位の大きめなヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ、内面に多少不方位のヘラ削り、底面付近にヘラ削りを施す。

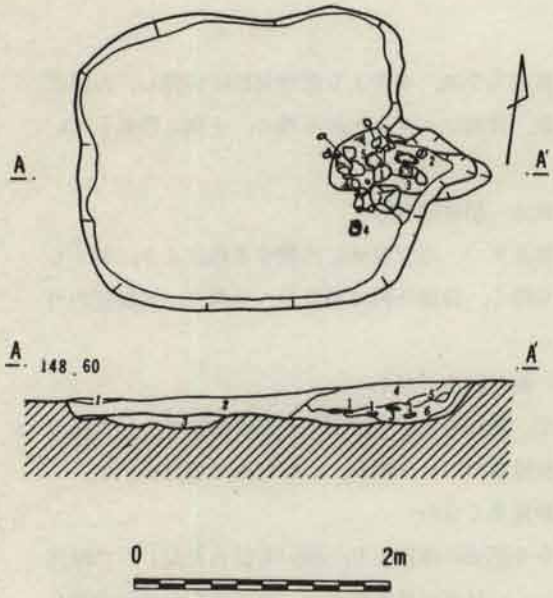
色調－黄褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

13. 長甕　口径16.6㎝、器高29.7㎝、底径4㎝、ヘラ削りの平底より砲弾状の体部を呈し、頸部のくびれはなく、スムーズに外反する口縁部へ移行する、胴部下位は斜位、上位から中位に長く縦位のヘラ削りを施す、口縁部内外面横ナデ、内面中位に斜位と縦位のヘラ削り。

色調－淡黄褐色～赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

15号住居址（第32図）

27Aグリットポイント南に位置し、茂木10号線が住居址の東を通り、西方には10号線以前の道路址、北東方向に14号住居址が確認されている。規模は2.55m×2.3mの方形プランを呈する小規模な住居址で、N－85°－Eの主軸で掘り込まれている。残存壁高は15～20㎝で緩やかな



第32図　15号住居址実測図

15号住居址埋土

1. 耕作土
2. 黒褐色土　斑点状にR粒、R·Bを含む
3. 黒褐色土（掘り方埋土）　2より明るく密
4. 暗褐色土　焼土粒、R粒、浮石を含む
5. 暗褐色粘質土　黒褐色土、焼土粒を含む
6. 暗褐色粘質土　多量の焼土粒、Bを含む

傾斜の掘り込みを残す。周濠、柱穴、貯蔵穴は不明である。床面は軟かく凹凸のある状況を呈する。

カマドは東壁の中央部を掘り込んで、住居址と同じ主軸を呈す。全長1.25mで東壁ラインよりも60cmほど張り出し、粘土と礫による袖部が残る。先端部の袖石間は35～40cmを測り、燃成部中央に支脚として利用された礫が在る。焚き口部分は、だらっとした歪んだ方形の掘り込みである。

出土遺物（第33図1～5）

遺物はカマド内に集中し、坏4点、長甕片が出土、埋土内では検出されなかった。

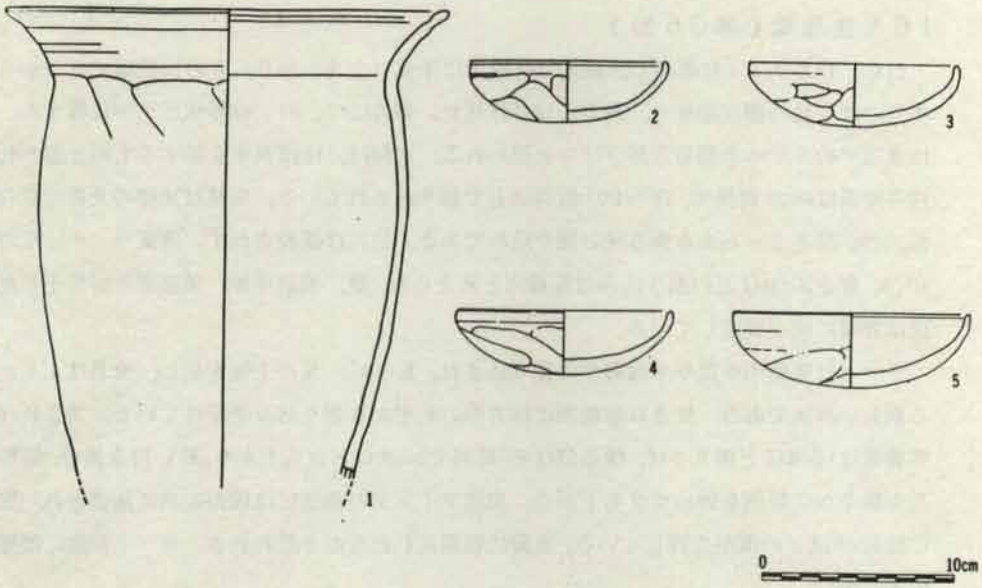
1. 甕　口径23.3cm、残存器高24.3cm、細くくびれた胴部下位より、胴張を呈する上位部に移行し、頸部はくの字状にくびれ、口縁部は大きく開広する。胴部上位は斜位のヘラ削り、下位は荒れて明確を欠く、内面は横ナデを施す。胎土－粗砂粒含む　色調－褐色　焼成－良好

2. 坏　口径10.5cm、器高3.2cm、丸底より内彎し、口縁部は短かく直立気味に内彎する。底部はヘラ削り。内面から口縁部外面は横ナデ。
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒を含む

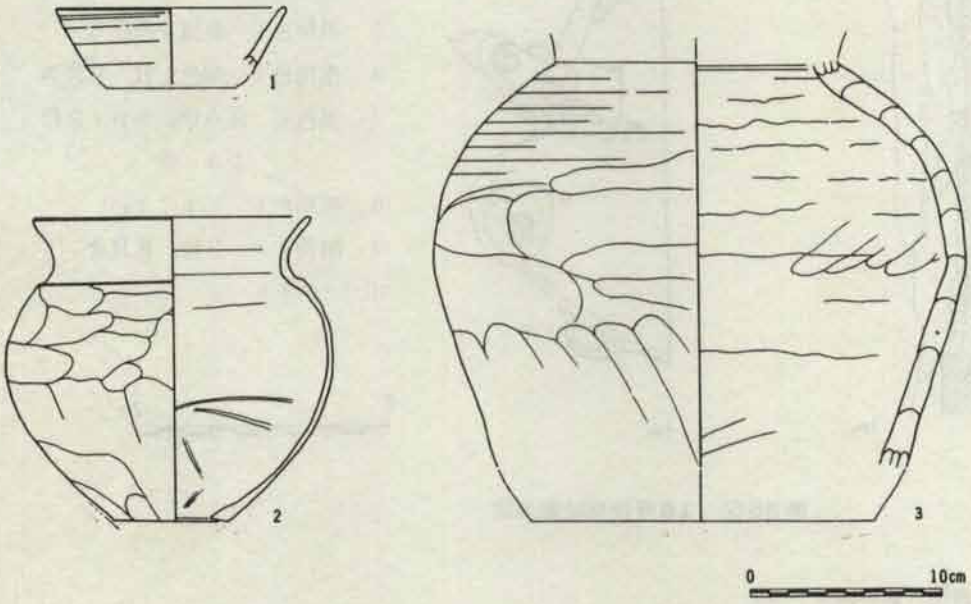
3. 坏　口径11.1cm、器高3.3cm、丸底より内彎し、口縁部は直立気味となる。手法は2とほぼ同じ。
色調、焼成、胎土も2と同じ。

4. 坏　口径11.5cm、器高3.3cm、形態、手法は上記とほぼ同じ。
色調－褐色　焼成、胎土は上記と同じ。

5. 坏　口径12.4cm、器高3.8cm、上記した坏よりもやや大きめの坏である。
色調、焼成、胎土は4.と同じ。



第33図　15号住居址出土遺物実測図

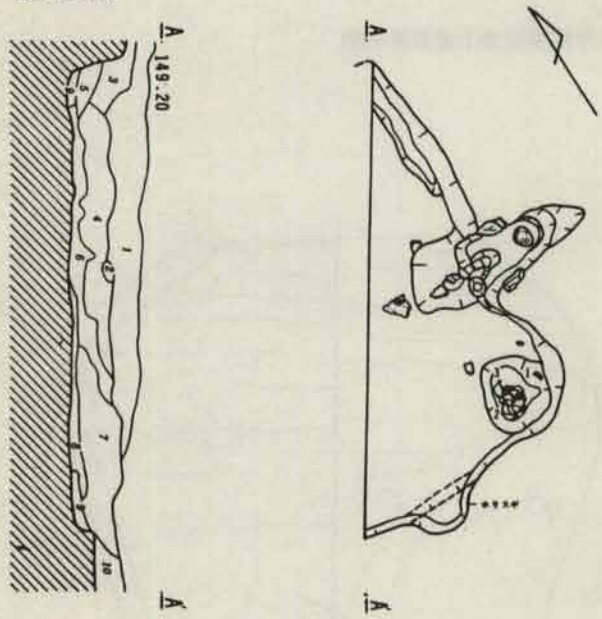


第34図　16号住居址出土遺物実測図

16号住居址（第35図）

31C、Dグリットに位置し、茂木10号線下に半分以上もかかり、全容は把握できなかった。東方には6Bの掘立建築址、西方に14号住居址、南方に40、41、42号住居址が位置する。規模は東辺で約3.2mを測る方形プランと思われる。主軸は、ほぼ真東を呈するものと思われる。残存壁高は40cm前後で、78°～80°傾斜ほどで掘り込まれている。周濠は東壁の北側に見られ、幅20cm、深さ3～5cmを測る浅い掘り込みである。柱穴は確認されず、南東コーナー部の50×60cm、深さ20cmほどの掘り込みは貯蔵穴と考えられ、甕、須恵坏片、須恵壺片が出土した。床面は非常に固く安定している。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、E－4°－Sの主軸を呈し、全長は1.5mを測る細長い形状である。焚き口部前面には方形のわずかな掘り込みを設けている。焚き口部より燃焼部は15cmほど掘り下げ、煙道部は45°傾斜で30cmほど立ち上がり、軽い段を設け、40°傾斜とやや緩やかに傾斜を弱めて立ち上がる。東壁ライン上の側壁には礫が左右に補強され、燃成部には30cmほどの礫が立脚している。支脚に利用されたものと思われる。カマド前面には甕片が出土した。



16号住居址埋土

1. 耕作土　2. 褐色土B
3. 黒褐色土質土
4. 黒褐色土　カーボン・R粒含
5. 黒褐色土　粘質を帯びる
6. 黒褐色土　褐色土B、R粒含
7. 褐色土　斑点状にR・B・R粒を多く含
8. 暗褐色土　しまりよい
9. 暗褐色土　R粒、RB含
10. ソフトローム

0　2m

第35図　16号住居址実測図

出土遺物（第34図1～3）

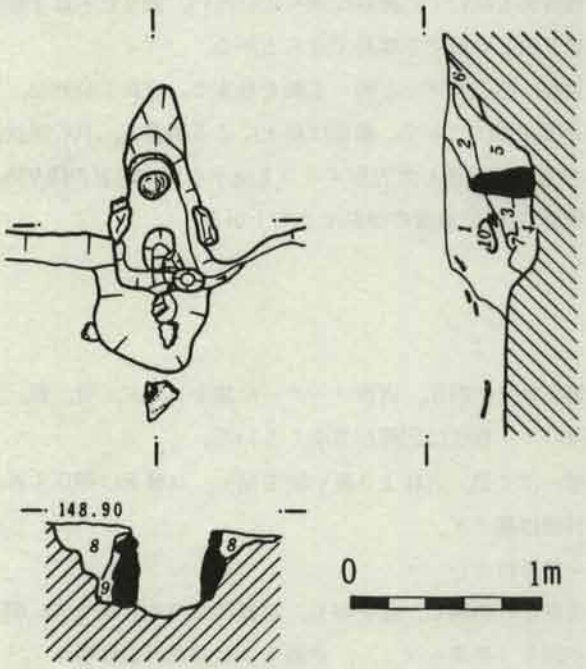
1. 坏（須恵器）　口径12.1cm、底部欠損、斜め上方向に直線的に開き、口縁部へ移行する。色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－精選されている。ロクロ成形

2. 甕　口径14.6cm、器高16cm、底径5.9cm、底部欠損、尻つぼみの底部より内彎し、胴部は球状を呈し、頸部は強くくびれ、口縁部は斜方向に開く。胴部下位は斜位、上位は横位のヘラ削り、内面より外面口縁部は横ナデ、内面に軽いヘラ削り。

色調－暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3. 壺（須恵器）　底部から胴部下半と口縁部を欠損する壺形土器で、全体が寸胴の形状を呈する。胴部下位は斜位、中位は横位のヘラ削り、上位部分は横ナデを施す、内面に粘土紐痕と若干のヘラ削りが残る。

色調－暗灰褐色　焼成－良好　胎土－小石を含む粗砂粒



16号住居址カマド

1. 黒褐色土　浮石、R粒、RB少量の焼土粒を含
2. 灰褐色粘土　焼土Bを含
3. 黄褐色土　斑点状にRBを含
4. 黄褐色土　斑点状にRBを含みソフト
5. 黄褐色土　焼土粒、焼土B、BRを含む
6. 褐色土　焼土粒を含む
7. 焼土B
8. 灰褐色粘土　非常に密で白色粘土Bを含む
9. 暗褐色土　ソフト
10. 灰褐色粘土

第36図　16号住居址カマド実測図

17号住居址（第37図）

33、34Cグリットに位置し、東方に18号住居址、43号住居址、南方に21号住居址、44号住居址、北西方向に6Bの掘立建築址が掘り込まれている。規模は4.2m×3.15mを測る長方形プランで、E－1°－Sとほぼ真東に近い主軸を呈す。残存壁高は50cmほどで、75°～80°傾斜の掘り込みである。周濠は東壁中央部、北壁の第一カマド前面、西壁中央部から南壁沿いに長く残る。東壁の周濠は、第三カマド右袖部より南東コーナー付近まで1.1m、幅16cm、深さ3cmを測り、北壁の周濠は、1.8m、幅20cm、深さ5cmを測る。西壁中央部から南壁沿いの周濠は、南西コーナー部分で幅広く、やや乱れた掘り込みとなり、南壁下の礫でとまる。柱穴状の掘り

込みは3ヶ所確認された。P_1は南西コーナー部に位置する90×70cmの楕円形で、深さ15cmを測る。P_2は北東コーナーに掘り込まれ、50×40cmの円形で深さ20cmを測る。P_3は第二カマドの前面に位置する38×40cmの円形、深さ50cmを測る掘り込みである。床面は非常に固くしまっているローム土である。

カマドは3ヶ所に掘り込まれ、第一カマドは北壁中央部に、真北の主軸で、25cmほどの段を設けて掘り込まれ、煙道部は全長1.15m、幅40～50cmの細長い形状を呈している。煙道側壁面はよく焼けている。煙道部を除いてカマドの施設は他に見られなかった。

第二カマドは東壁中央部に掘り込まれ、住居址と同一方向の主軸を呈する90×40cmの細長い掘り込みで、第一カマドと同様に、煙道部を除いての施設は残っていない。掘り込みは東壁の周濠を挟んで床面レベルの延長で、煙り出し口部で急傾斜で立ち上がる。

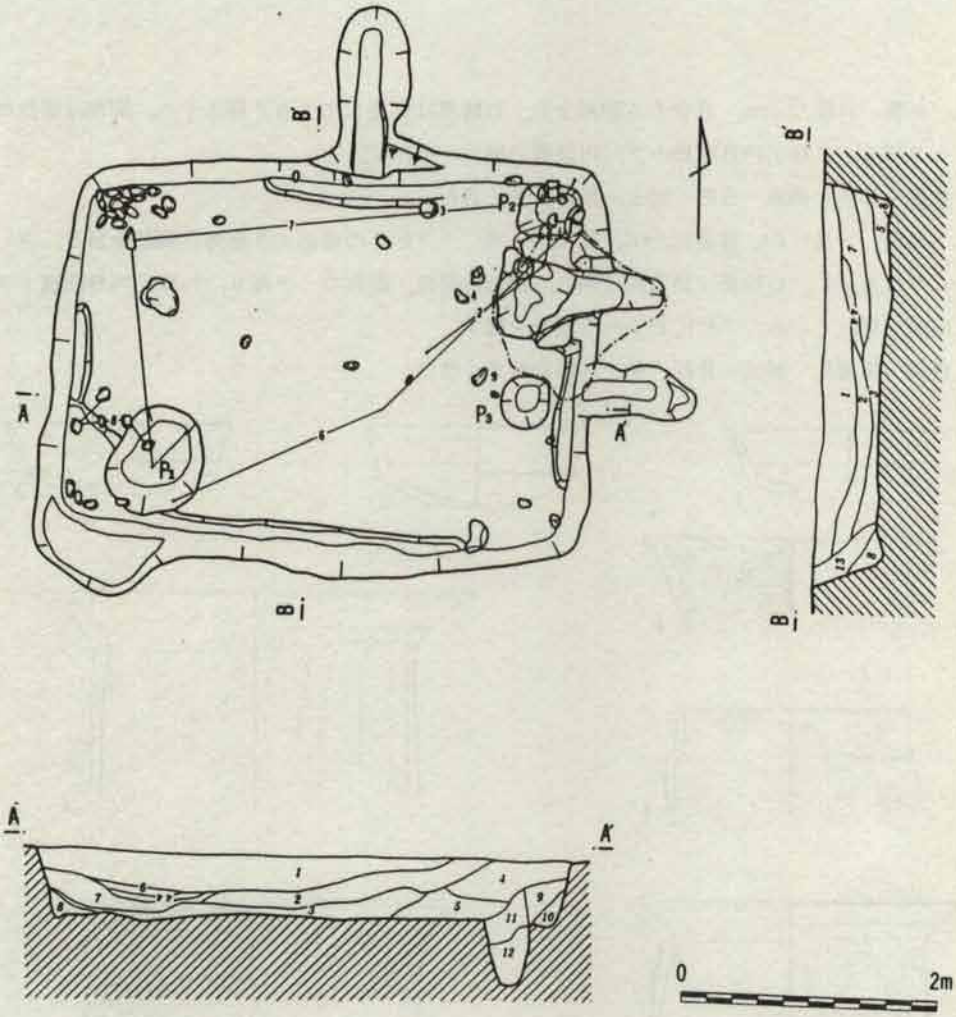
第三カマドは東壁北寄りに掘り込まれ、第二カマドと同一主軸を呈する。全長1.32mで、東壁ラインより40～50cmほど掘り込みが張り出している。袖部は粘土による構築で、八の字状に開広し、袖部先端間は80cmを測る。焚き口部は歪んだ方形プランを呈する18cmほどの掘り込みで、燃焼部は緩やかな傾斜を保ち、煙道部は55°前後の傾斜で立ち上がる。

カマドと貯蔵穴の関連は明確を欠く。

出土遺物（第38図1～9）

遺物は北東コーナー部P_2の上面、第三カマド前面、南西コーナーに集中し、坏、壺、甑、長甕が出土した。北西コーナー、南西コーナー部には円礫が集中している。

1. 坏　口径12.5cm、器高4cm、底部一部欠損、丸底より軽い陵を呈し、口縁部は開広する。底部はヘラ削り、内面より口縁部外面は横ナデ。
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
2. 坏　口径11.7cm、器高4.3cm、丸底より内彎し、陵を呈し、口縁部はやや直立気味に開き、端部は鋭り気味となる。底部はヘラ削り（明確を欠く）、内面より口縁部外面は横ナデ。
色調、焼成、胎土、上記1と同じ。
3. 坏　口径11.9cm、器高3.7cm、やや浅い皿状の丸底より弱い陵を呈し、口縁部は開広して端部は丸める。手法は上記2と似る。北壁周濠付近出土完形。
色調－淡赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
4. 坏　口径15.3cm、内彎する体部から口縁部は水平気味に開く。外面体部は未調整、内面口縁部は横位、内面斜位のヘラ研摩。
色調－(外)褐色 (内)暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
5. 壺形土器　口径12cm、直立気味に内彎する体部より段を設け、口縁部はほぼ直立する。体部は弱い斜位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－赤橙色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む



第37図　17号住居址実測図

17号住居址埋土

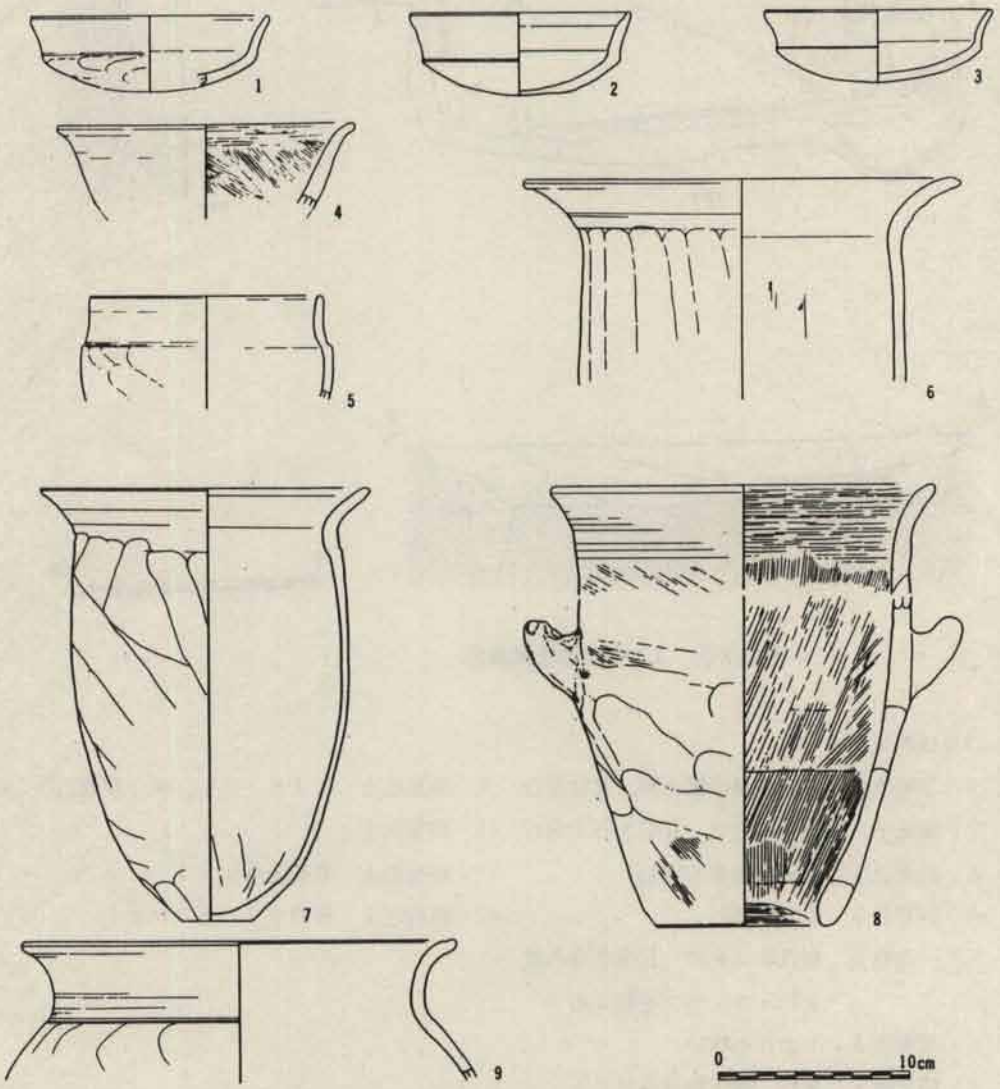
1. 黒褐色土　FP、少量の焼土粒、R粒含む
2. 褐色土　斑点状にR粒　R•Bを多く含む
3. 暗褐色土　焼土粒を多く含む
4. 暗褐色土　R粒を含む
5. 暗褐色土　斑点状にR粒　R•Bを含み焼土粒・カーボンを混える
6. 黒褐色土　1よりも暗い
7. 暗褐色土　R粒、焼土粒含みソフト
8. 暗褐色土　R粒多く含む
9. 暗褐色土　4よりソフト、焼土粒含む
10. 黒褐色土
11. 暗褐色土　R粒含みソフト
12. 暗褐色土　R•Bを多く含みソフト

6. 長甕　口径22.4cm、直立する胴部より、口縁部は外反して大きく開広する。胴部は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面軽い横位ヘラ削り。

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

7. 長甕　口径17cm、器高22.9cm、底径3.7cm、ヘラ削りの底部より砲弾状胴部を呈し、弱いくびれを呈し、口縁部は斜方向に開く、胴部は斜位、縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面は荒れている。下位に若干ヘラ削りを施す。

色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む



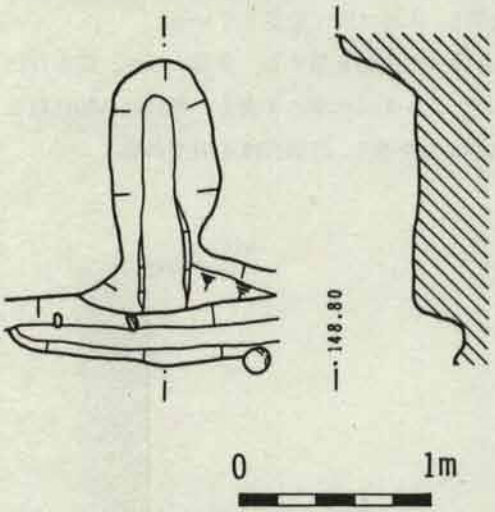
第38図　17号住居址出土遺物実測図

8. 甑　口径推定19.8㎝、器高推定23.3㎝、底径9㎝、内彎する円筒形に近い形状の体部に角状把手を接合し、口縁部は緩やかに開広する。体部全体にヘラ研磨を施す。把手下は斜位のヘラ削り、口縁部は横ナデ、把手部は手捏ね、内面口縁部は横位、中位から下位は斜位、縦位のヘラ研磨、孔縁部は横位のヘラ研磨、南西コーナー部埋土中出土。

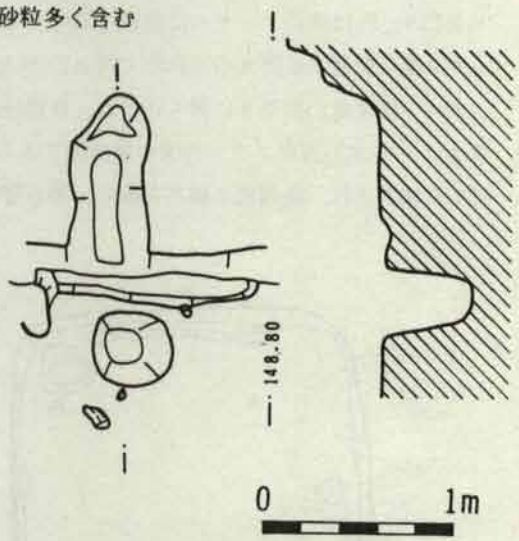
色調－暗～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

9. 壺　口径22.6㎝、球状胴部上位から口縁部片で、内面口唇部下に一条の沈線廻る。胴部は横位のヘラ削り、口縁部横ナデ、内面は荒れている。

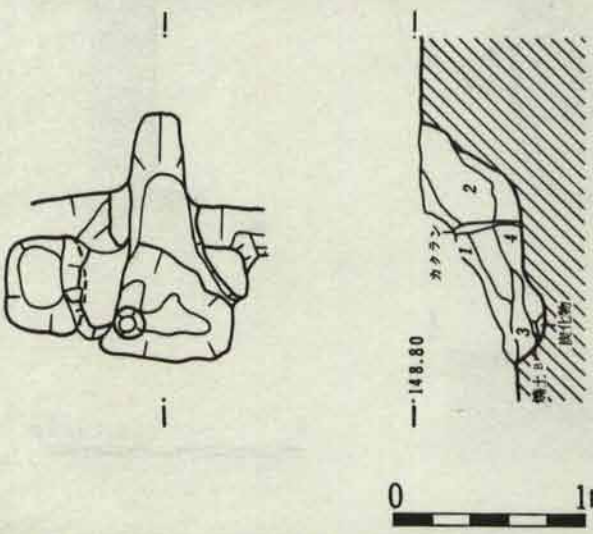
色調－暗褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む



第39図　17号住居址第1カマド実測図



第40図　17号住居址第2カマド実測図



17号住第3カマド

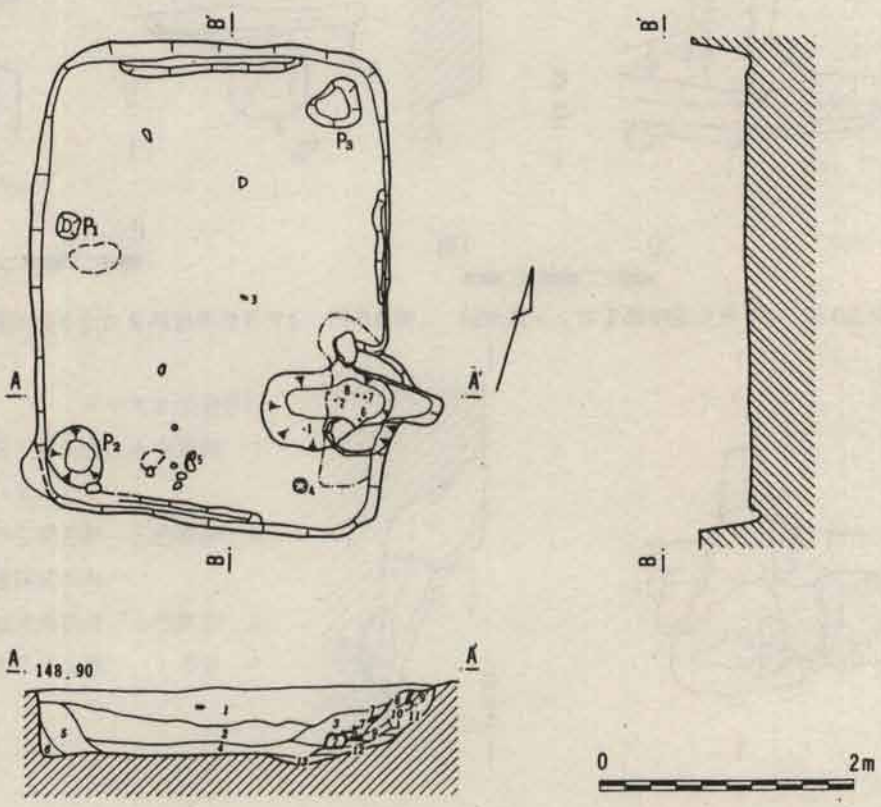
1. 暗褐色土　焼土B、R·Bを含みしまりよい
2. 暗褐色土　褐色味を帯び、斑点状にR·Bを含む
3. 暗褐色土　粘質を帯びる
4. 褐色土　焼土Bを多く含みソフト

第41図　17号住居址第3カマド実測図

18号住居址（第42図）

35B、Cグリットに位置し、43号住居址が北東コーナーに掘り込まれている重複関係にあるが、18号住居址の形状を変えるほどのものではない。西方には17号住居址、南西方向に21、44号住居址、南東には20号住居址が位置している。規模は3.8m×2.85mを測る長方形プランで、N－77°－Eの主軸を呈する。残存壁高は50cmほどで、80°～85°傾斜の掘り込みである。周濠は東壁中央部に90cm、北壁中央部に1.4m、南壁沿いに確認され、深さ5～10cmを測る。柱穴状掘り込みは3ヶ所検出され、P_1は西壁中央部下の床面に掘り込まれ、17×20cmの円形、深さ25cmを測り、P_2は南西コーナーに位置する40×50cmの歪んだ円形で深さ20cmを測る。P_3は北東コーナー部に位置する隅丸の三角形で深さ20cmを測る。床面は固く安定している。

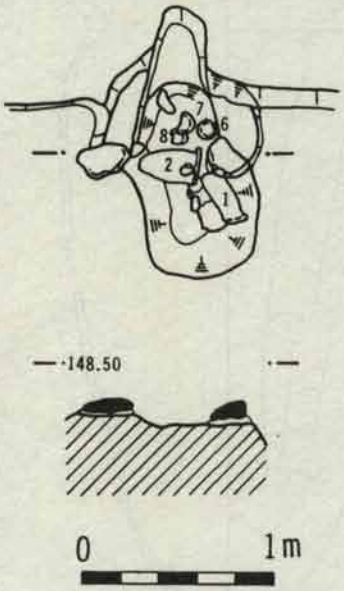
カマドは東壁の南寄りに掘り込まれ、住居址と同一の主軸を呈する。全長1.45m、焚き口部分は55×60cmの方形プランの浅い皿状掘り込みで、7～8cmの深さを測る。袖部は黄褐色粘土により構築され、先端部に袖石を配し、袖石間は40cmを測る。貯蔵穴は不明である。



第42図　18号住居址実測図

18号住居址埋土

1. 暗褐色土　FP、R粒、RBを含む
2. 黒褐色土　FPを含む
3. 黒褐色土　2よりも明るい
4. 黒褐色土　カーボン、焼土粒、R粒　RBを含む
5. 黒褐色土　斑点状にR粒・RBを含む
6. 黒褐色土　黒褐色で一番暗い
7. 黄褐色粘土
8. 暗褐色土　R粒を含む
9. 褐色粘土質
10. 黒褐色土　ソフト
11. 褐色土　多量の焼土Bを含む
12. 焼土粒・焼土B
13. 暗褐色土　焼土粒・灰・カーボン含む



第43図　18号住居址カマド実測図

出土遺物（第44図1～9）

遺物は、カマド内に集中し（第43図）、坏3点、長甕2点、床面中央部では、刀子が密着して出土。1と2はセットとして使用されたと思われる状況で横転して出土。

1. 長甕　口径22cm、器高34.5cm、底径3.9cm、底部欠損、やや角張った砲弾状胴部より、ややくびれを呈し、口縁部は大きく開く。胴部下半は斜位、上半は斜位から縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に軽いヘラ削り。
色調－黄橙色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

2. 長甕　口径20.5cm、器高34.6cm、底径2cm、小さい不安定な底部より砲弾状胴部を呈し、頸部は強くくびれ、口縁部は大きく開広し、口唇部辺で水平気味となる。胴部上位から中位は縦位、底部付近は斜位のヘラ削り、口縁部は内外面横ナデ、内面は荒れている。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

3. 刀子（鉄製品）残存全長6.9cm

4. 坏　口径12.8cm、器高3.6cm、不安定な丸底より内彎し、口縁部は短かく直立気味に内彎する。底部から体部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－(外)黒褐色(内)赤褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒多く含む

5. 坏　口径13.7cm、器高3.8cm、上記の4より一廻り大きく、手法、形態同じ。
色調－(外)暗褐色(内)褐色　焼成、胎土上記4と同じ

6. 坏　口径10.7cm、器高3.1cm、全体に厚めの器肉で、丸底よりスムーズに内彎して口縁部へ移行する。体部～底部のヘラ削りは丁寧、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－(外)褐色(内)黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

7. 坏　口径12.6cm、器高3.5cm、丸底より口縁部は直立気味にやや内傾する。体部はヘラ削

り内面からロ縁部は横ナデ。

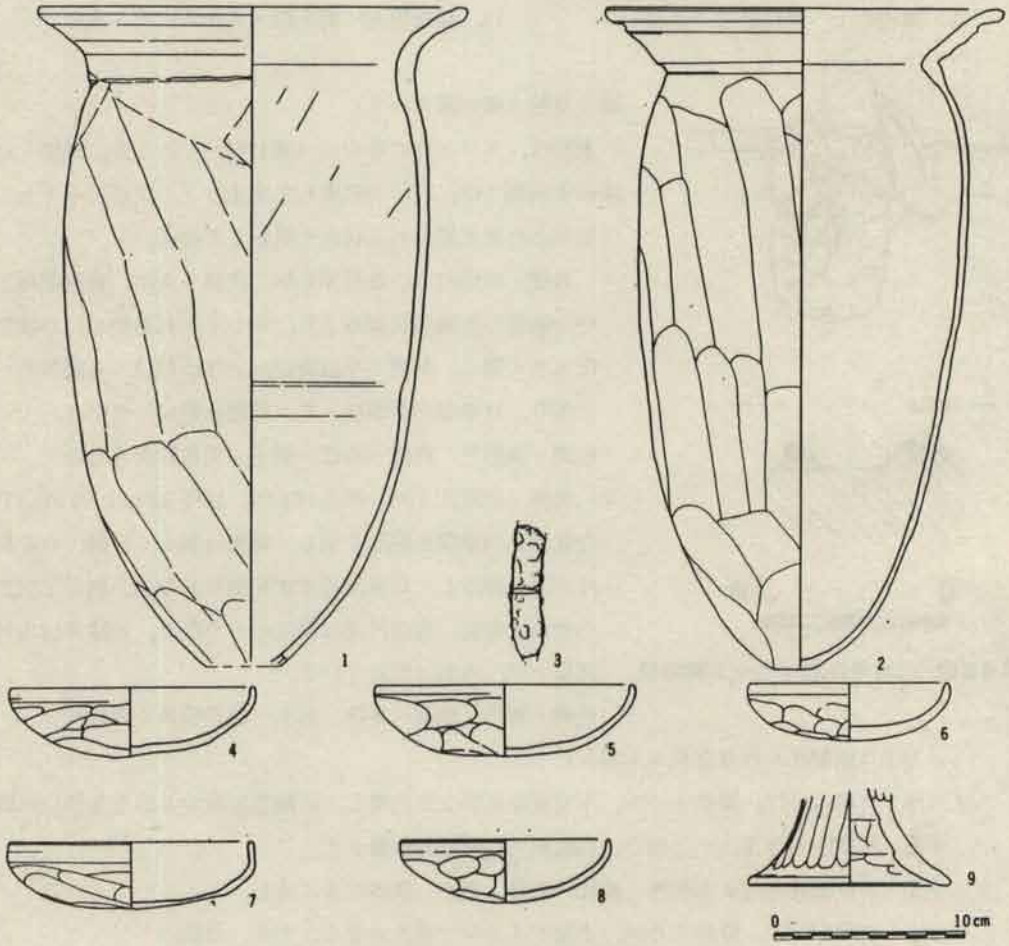
色調－にぶい褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

8. 坏　ロ径11㎝、器高3.3㎝、手法、形態は6に似る。

色調－(外)褐色(内)赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

9. 高坏脚部　底径10.7㎝、八の字状に開広する脚部片で、体部は縦位のヘラ削り、裾部は横ナデ、内面は荒いヘラ削り。

色調－(外)淡黄褐色(内)黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む



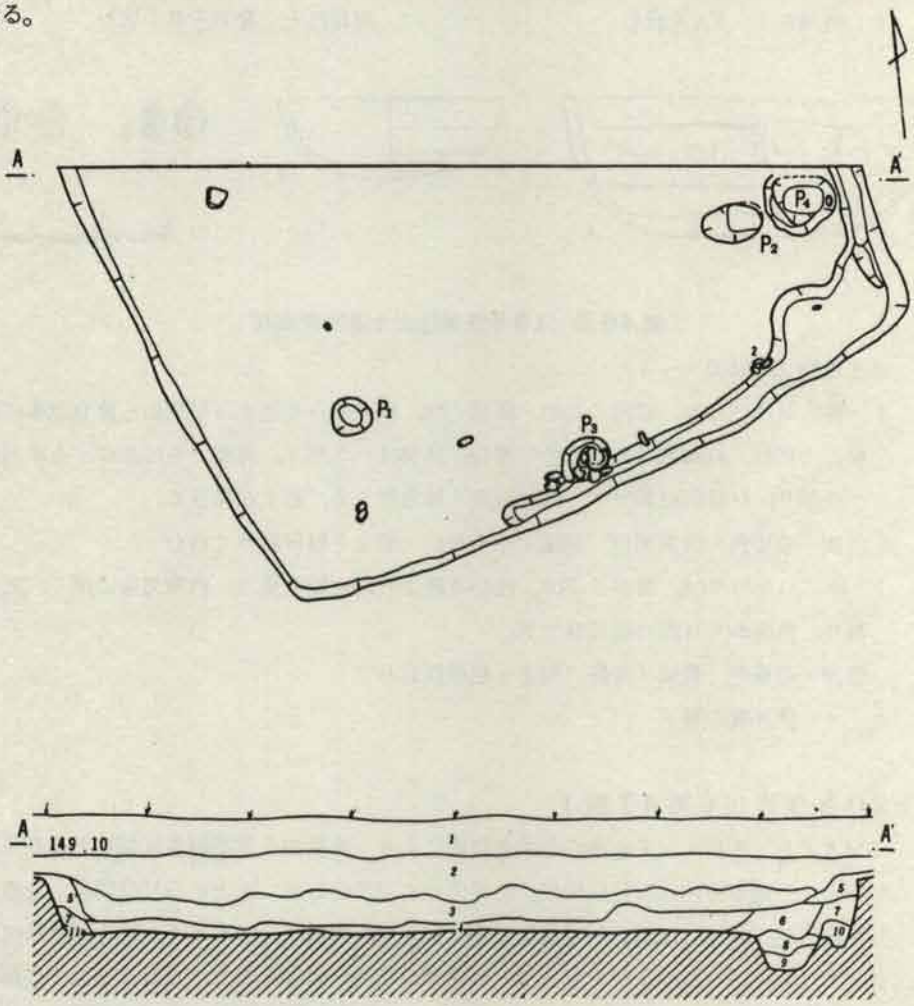
第44図　18号住居址出土遺物実測図

19号住居址（第45図）

37Cグリットポイントの北方に位置し、調査区域内で約半分のスペースを確認できた。規模は南辺で5.3ｍを測る方形プランを呈すると思われ、N－69°－Eの主軸を呈す。残存壁高は35

～45cmを測り、65°～垂直に近い傾斜の掘り込みである。周濠は東壁部より南壁沿いに確認され、南東コーナー部の乱れを除いて15～20cm幅、深さ8～10cmを測る。柱穴状掘り込みは4ヶ所検出され、P_1は直径33cmほどの円形、深さ40cm、P_2は28×45cmの楕円形、深さ30cmを測る主柱穴の掘り込みと思われ、スパンは3.45mを測る。P_3は南壁中央部付近に位置する30×40cmの円形、深さ20cmを測り、上面で埦形土器と礫が出土した。入り口部分に関係のある掘り込みと思われる。P_4はP_2の東側に位置し、貯蔵穴と思われる50×55cmの円形、深さ28cmの掘り込みである。

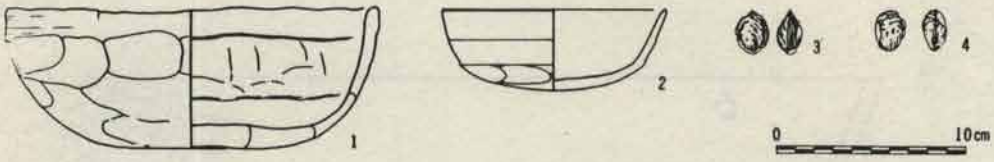
遺物の出土状況は、P_3の上面、周濠付近に出土した坏、埋土下層中出土の桃系統の種子2点である。



第45図　19号住居址実測図　0　2m

19号住居址埋土

1. 耕作土
2. 黒褐色土　R粒、FPを含む
3. 暗褐色土　若干のFP、FA、R粒 R·Bを含む
4. 暗褐色土　R粒、R·B・カーボンを含み、しまっている
5. 暗褐色土　FAを含む
6. 暗褐色土　斑点状にR粒、R·Bを含む
7. 黒褐色土　ソフト
8. 暗褐色土　6より暗い
9. にぶい黄褐色土　多少粘質を帯びる
10. 暗褐色土　一番明るい暗褐色土でR粒　R·Bを多く含む
11. 黒褐色土　R·Bを多く含む



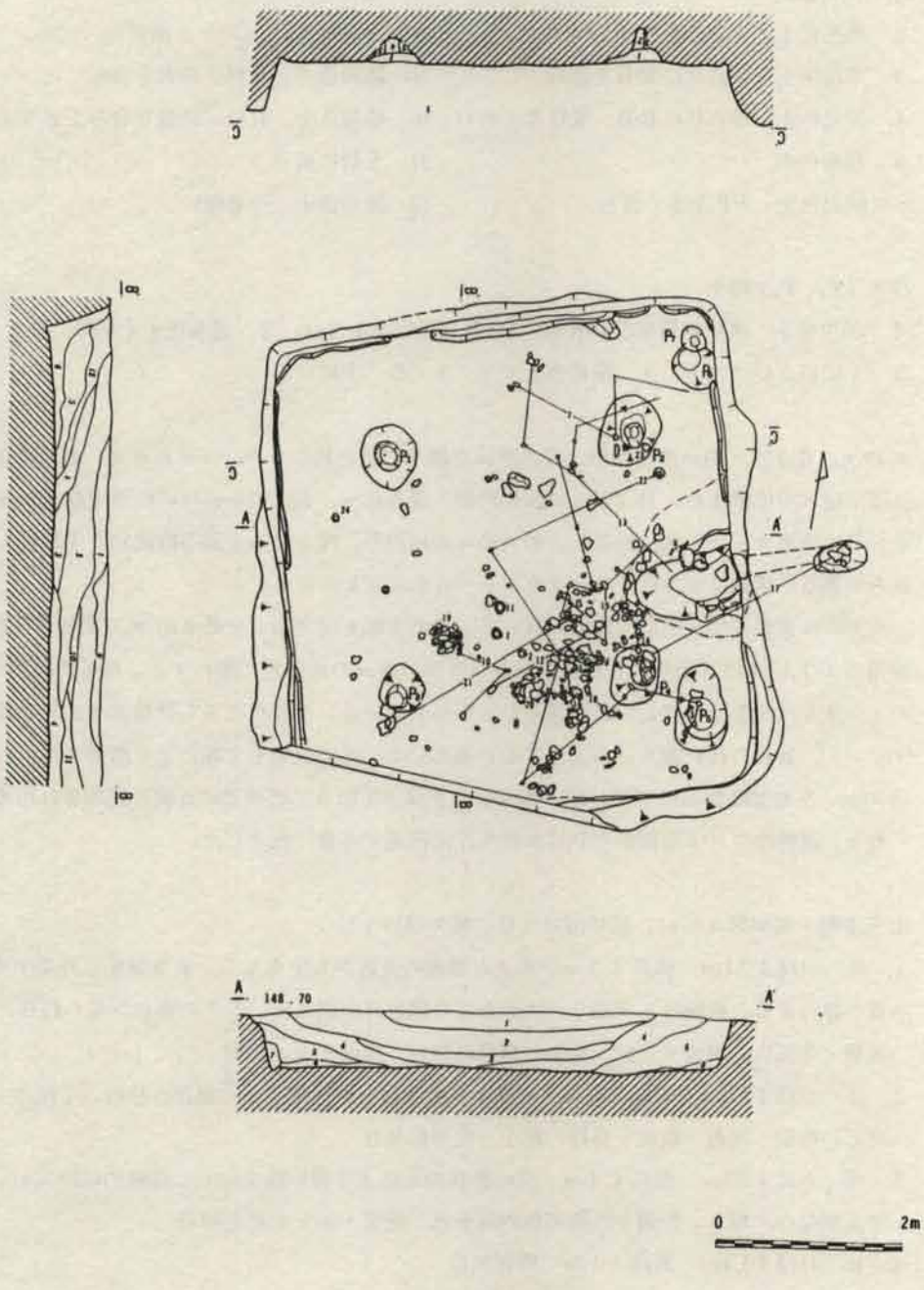
第46図　19号住居址出土遺物実測図

出土遺物（第46図1～4）

1. 埦　口径19.5cm、器高7.2cm、底径7cm、浅い凹みを呈する平底から直立気味に内彎し口縁部に移行、口唇部は波状にやや歪む。底部はヘラ削り、体部下半は斜位、上半部は横位のヘラ削り、口縁部は横ナデ、内面は荒く雑な指ナデ、粘土紐痕残る。
色調－黒褐色～淡黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む
2. 坏　口径11.9cm、器高4.2cm、浅い丸底より弱い陵を呈し、内彎気味に開く、底部はヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ。
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 4　桃系統の種子

20号住居址（第47図）

36Aグリットポイントを中心とする位置にあり、南壁の一部が調査区域外となり完掘はできなかった。南東方向に39号住居址、北東方向に22号住居址、北方に19号住居址、北西方向に18、43号住居址、西方には21、44号住居址が位置する。規模は5.5m×5.1mを測るほぼ正方形プランで、N－77°－Eの主軸を呈する。残存壁高は60～65cmを測り、良好な壁面での掘り込みは、80°傾斜ほどで、西壁と南東コーナー部壁の上部は緩やかな掘り込み（壁崩壊部か？）を呈している。周濠は南東コーナー部付近を除き、途切れ途切れではあるが、幅10～20cm、深さ3～5cmを測る掘り込みである。柱穴は主柱穴4本が明確に検出され、P_1は60×70cmの円形、深さ26cm、P_2は60×78cmの楕円形、深さ35cmで、スパン2.7mを測る。P_3は45cm前後の円形、深



第47図　20号住居址実測図

20号住居址埋土

1. 黒褐色土　サラサラしている
2. 黒褐色土　少量のFP.R粒を含む
3 黒褐色土　斑点状にR•Bを含む
4 暗褐色土　斑点状にR•B、R粒多く含む
5 黒褐色土
6 暗褐色土　FPを多く含む
7. 暗褐色土　ソフト
8 灰褐色粘土（カマド袖部）
9 暗褐色土　R粒、R•Bを含む
10 暗褐色土　R粒、R•Bを含み1まりよい
11 5層に似る
12 暗褐色土．一番暗い

柱穴（P_1．P_2）埋土

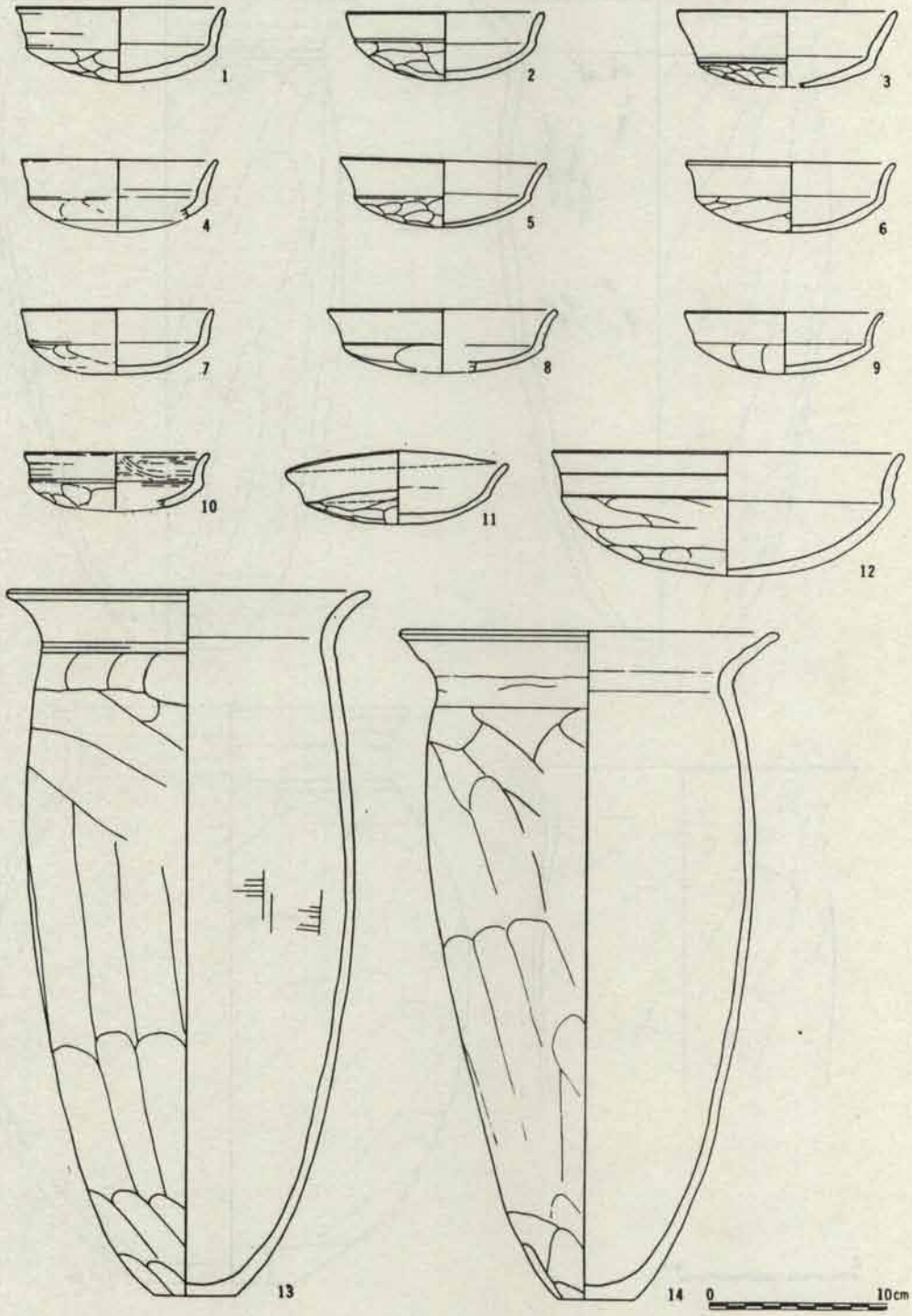
1. 暗褐色土　多少粘質帯び、R粒、R・B、黒褐色土含む。2. 黄褐色土（R•B、R粒）
3. 1に似るがソフト　4. 黒褐色土でソフト　5. 1に似る

さ40㎝、P_4は50×60㎝の楕円形、深さ50㎝を測り、P_1とP_3のスパンは2.6 mで、各対角線上にほぼ主柱穴が位置する。P_6は50×45㎝の円形、深さ10㎝、P_7は25㎝直径の円形で深さ13㎝を測る。P_5は南東コーナー部に位置し、90×55㎝の楕円形、深さ13㎝を測る貯蔵穴と思われる掘り込みである。床面は全体に固くしまり，レベルも安定している。

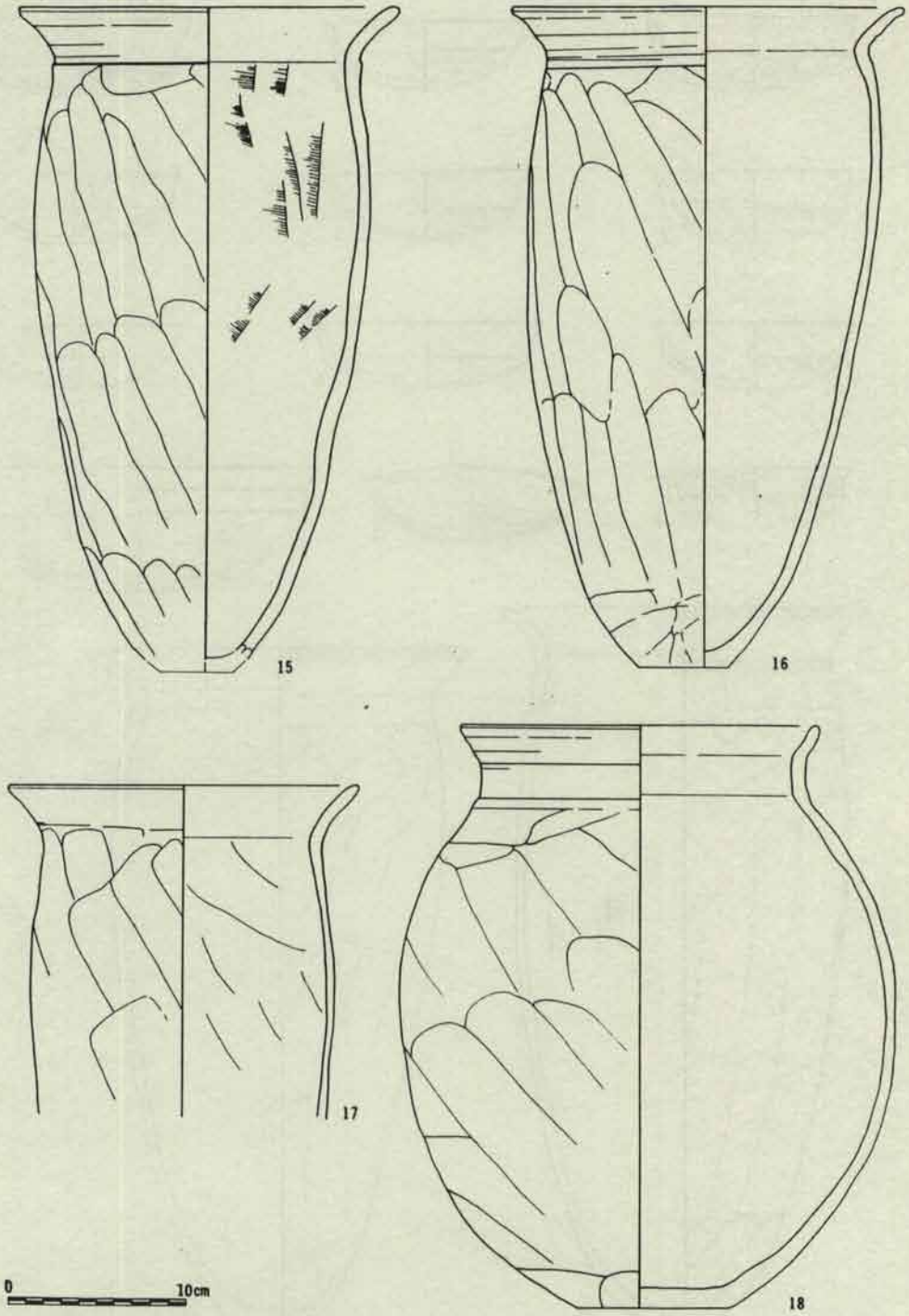
カマドは東壁の中央部に位置し、N－72°－Eの主軸を呈する。全長2.56 mで東壁を利用して煙道部が1.33mほど張り出し、煙り出し口は55×35㎝の楕円形で開口する。煙道部は20×35㎝のトンネル状況をよく残し、天井部もしっかりしている。焚き口部から燃焼部は細長い舌状のプランで、皿状の浅い掘り込みを呈する。袖部分は、灰褐色粘土と礫により構築され、右袖部は50㎝、左袖部は55㎝ほどで、50㎝幅で平行を保っている。燃焼部に支脚に利用された礫が見られる。遺物はカマド前面からP_3にかけて床面密着で多量に出土した。

出土遺物（第48図1～14、第49図15～18、第50図19～24）

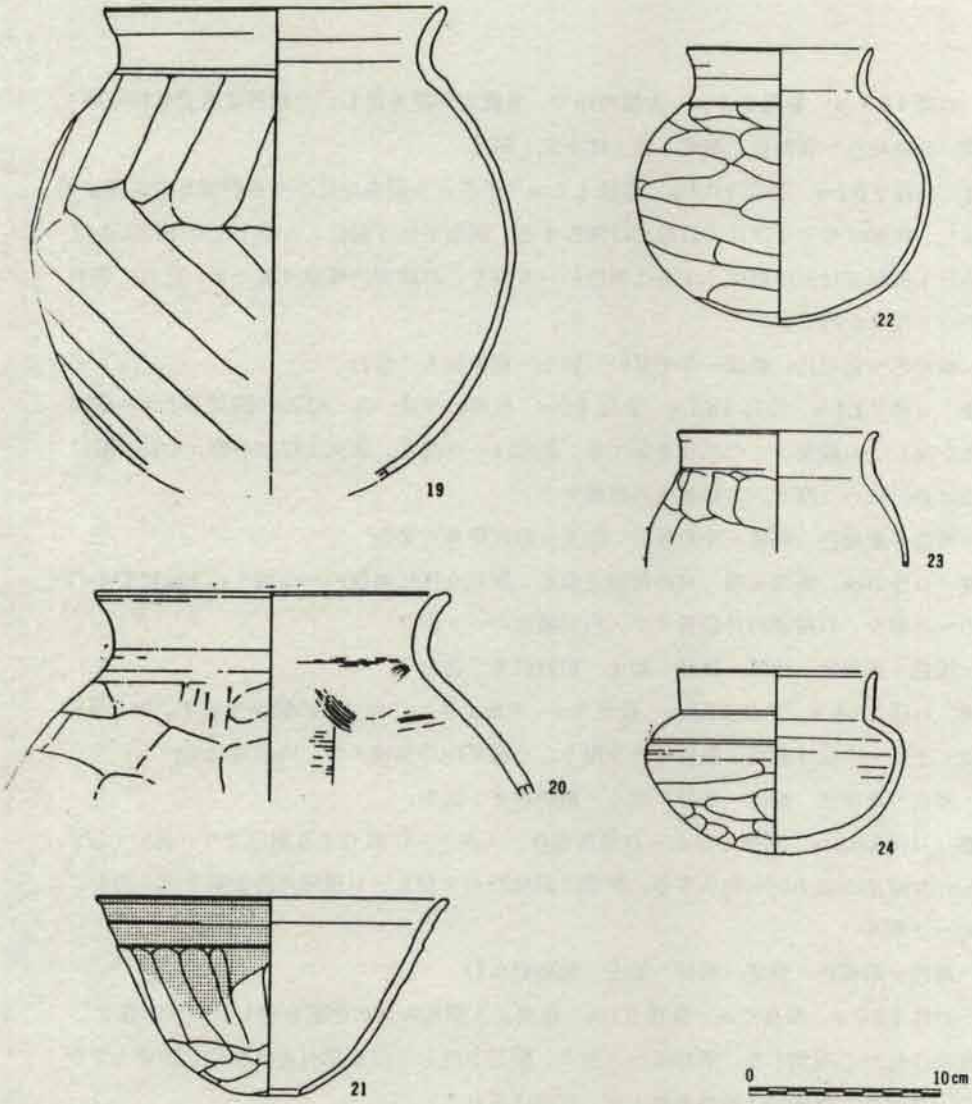
1. 坏　口径12.1㎝　器高4.3㎝　厚めな器肉の丸底から稜を呈し、直立気味に外反する口縁部へ移行する。底部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ、若干の赤彩が見られる。
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む、床面出土、完形
2. 坏　口径11.5㎝　器高3.9㎝　丸底より稜を呈し、内彎する口縁部へ移行、手法は上記と同じ、色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 坏　口径12.5㎝　器高4.4㎝　浅い皿状の丸底より弱い稜を呈し、直線的に開広し、底部は丁寧なヘラ削り、色調－(外)黒褐色(内)暗褐色　焼成・胎土上記と同じ
4. 坏　口径11.1㎝　器高4.1㎝　底部欠損
色調－(外)褐色(内)赤褐色　焼成・胎土上記と同じ
5. 坏　口径11.9㎝　器高3.7㎝　薄い器肉の丸底より稜を呈し、口縁部は大きく開く



第48図　20号住居址出土遺物実測図（1）



第49図　20号住居址出土遺物実測図（2）



第50図　20号住居址出土遺物実測図（3）

色調－褐色　胎土・焼成上記と同じ

6　坏　口径12㎝　器高4㎝　色調－淡褐色　胎土．焼成上記と同じ

7　坏　口径10.9㎝　器高3.8㎝　色調－(外)褐色(内)赤褐色　胎土．焼成上記と同じ

8　坏　口径13.2㎝　器高3.5㎝　色調一二次焼成受けくすんだ褐色　胎土．焼成上記と同じ

9　坏　口径11.4㎝　器高3.6㎝　色調－淡褐色　焼成．胎土上記と同じ

10　坏　口径10.5㎝　器高推定3.4㎝　丸底より陵を呈し、口縁部は直立し、口唇部を外反させる。色調－(外)黄褐色　内面は黒色処理を施す．焼成．胎土上記と同じ

11　坏　口径12.7㎝　器高3.2㎝　歪みがひどい　色調－黄橙色　胎土．焼成上記に同じ

12　坏　口径19.9㎝　器高7.2㎝　大型の坏で、丸底より稜を呈し、口縁部は直立気味に開く。色調－淡黄褐色～黄褐色．焼成．胎土は上記と同じ

13　長甕　口径20.2㎝　器高40.4㎝　底径4.5㎝　平底より胴部中位がやや胴張りの砲弾状胴部を呈し、頸部はややくびれ、口縁部は開広する。胴部下位は斜位、上位下より下位にかけて縦位、上位頸部付近は横位、下方は斜位のヘラ削り、口縁部内外面は横ナデ、内面に若干横位のヘラ削りが残る。

色調－暗褐色～黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

14　長甕　口径21.4㎝　器高38.1㎝　底径4.2㎝　底部は平底　尻つぼみの胴部下半より砲弾状胴部を呈し、口縁部はくの字状を呈する。底部はヘラ削り、胴部上位は斜位、中位は縦位、下位は斜位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ。

色調－褐色～赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

15　長甕　口径21㎝　底部欠損　14の形態と似る、胴部全体に斜位のヘラ削り、上位に若干の横位のヘラ削り，口縁部内外面横ナデ、内部横位のヘラ削り

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

16　長甕　口径21.8㎝　器高37.3㎝　底径5㎝　平底より、やや寸胴の胴部を呈す。胴部下位は斜位．上位～中位は斜位．縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面荒れている。

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む。

17　長甕　口径19.8㎝　胴部中位から口縁部残存、スムーズに直立する胴部より、弱いくびれを呈し、口縁部は斜方向へ開広する。胴部は斜位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面は斜位のヘラ削り

色調－褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土　粗砂粒含む

18　壺　口径19.9㎝　器高33㎝　底径8.1㎝　底部より胴長の球形胴部を呈し、頸部は直立し、口縁部は短かく内彎する、底部はヘラ削り、胴部上位と下位底部付近は横位、胴部大半が斜位のヘラ削り、口縁部は内外面横ナデ、内面は荒れている。

色調－赤褐色～黄褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

19　壺　口径17.5㎝　18の形能に似る、底部欠損、胴部下半は斜位、上半は縦位のヘラ削り、内面は荒れている。

色調－褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

20　壺　口径18.2㎝　胴部上半より口縁部残存、球状胴部より、くの字状にやや直立気味に外反する口縁部へ移行、口唇部下に一条の沈線廻る。口縁部内外面横ナデ、内面に櫛描状ナデ、横位のヘラ削りを施す。

色調－黄褐色　焼成－良好、胎土－小石含む粗砂粒

21　甑　口径18.2㎝　器高20.3㎝　底径（孔径）2.8㎝　所謂、植木鉢タイプの甑で、小さい楕円形の穿孔より緩やかに内彎して、口縁部は大きく開広する。体部下半は斜位．横位．上

位は縦位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ、外面に赤彩を施す。

色調－黄褐色～赤橙色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

22　丸底壺　口径9.5㎝　器高14.5㎝　球状の胴部から短かく直立気味に外反する口縁部に移行する、胴部は斜位・横位のヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ

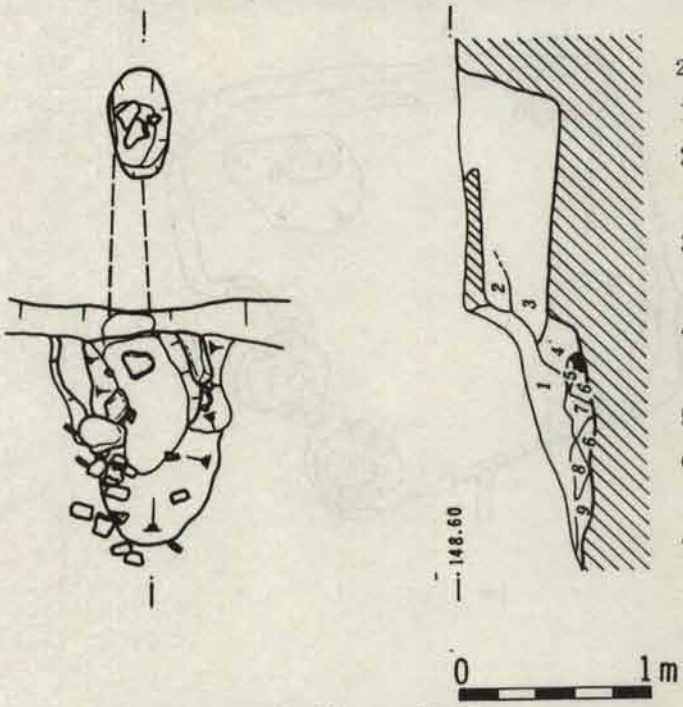
色調－赤黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

23　丸底壺　口径10.5㎝　胴部下半欠損　やや肩落ちする球形状胴部より直立し、口唇部を若平外反させる。胴部は斜位のヘラ削り、内面から外面口縁部は横ナデ

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

24　短頸壺（須恵器）口径10.2㎝　器高9.5㎝　丸味を帯びる舟底状底部より、最大径を肩部下半に設ける。口縁部は短かく直立する。底部は横位、斜位のヘラ削り、内面から外面口縁部はロクロ成形、埋土第2層中出土

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む



20号住居址カマド

1. 黒褐色土　少量のR粒含む
2. 黒褐色土　1より明るく、R粒・焼土粒を含む
3. 黒褐色土　1.　2より明るく、R粒　RB　焼土粒を含む
4. 暗褐色土　暗灰褐色粘土B・R•Bを含む
5. 暗褐色土　RB含む
6. 暗褐色土　多量のR•B　焼土Bを含む
7. 暗褐色土　焼土B・にぶい褐色土Bを含む
8. 暗褐色土　灰褐色粘土・焼土Bを含む
9. 灰褐色粘質土

第51図　20号住居址カマド実測図

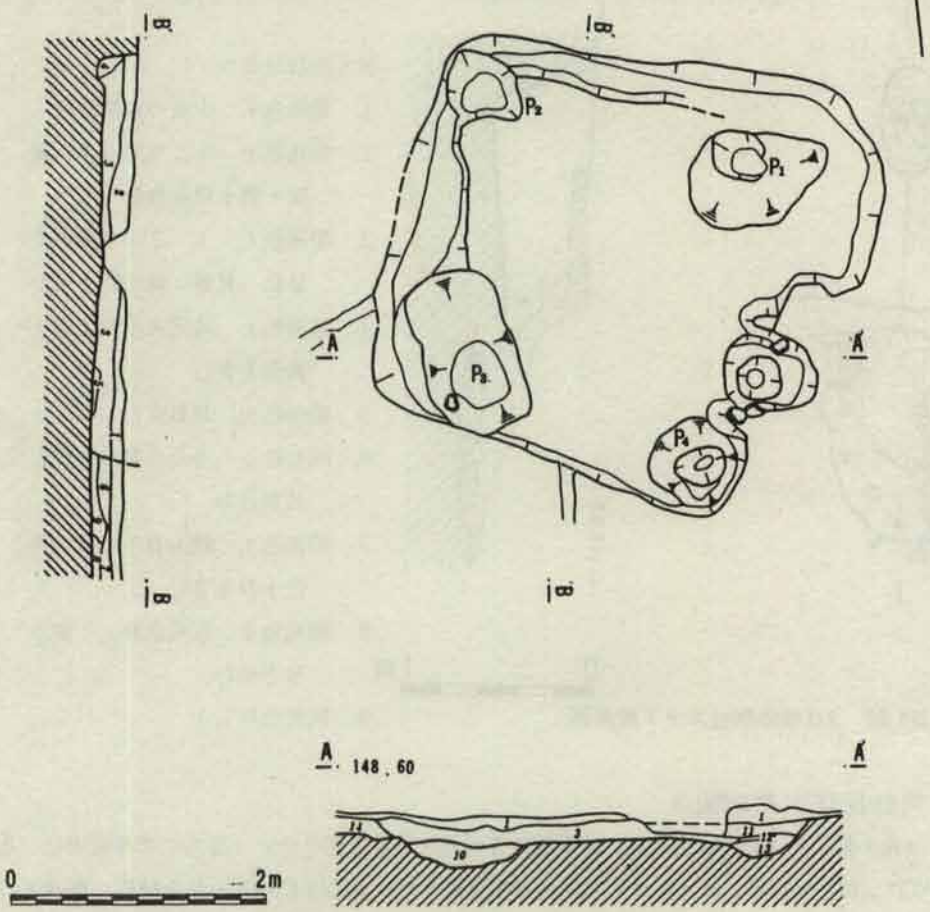
21号住居址（第52図）

34A・Bグリットに検出され、南西部にて44号住居址と切り合い、東方に20号住居址、北方には17、18号住居址、西方には40号住居址が位置する。主軸はE－22°－Sを呈し、東辺3.45m、西辺2.76m、南辺2.83m、北辺3.05mを測る台形プランの形状で、カマドの北側は張り出し

が見られる。住居址上面の建築物の基礎工事に於ける溝がL字形に作られているが、形状を著しく変形させるには至っていない。残存壁高は25㎝前後を測り、掘り込み傾斜は均一でなく、東西壁は緩やかである。周濠は西壁、北壁に認める。柱穴状掘り込み（掘り方？）は4ヶ所検出され、各コーナー部付近に位置する。P_1は1.1×0.8ｍの歪んだ楕円形で、掘り込み最深部24㎝を測る。P_2は北西コーナーに位置し、これも歪んだ円形の掘り込みで、深さ12㎝を測り、P_3は1.3ｍ×0.8ｍの長方形で、深さ19㎝を測る。P_4は南東コーナーに位置し、65㎝の円形、深さ30㎝の貯蔵穴と考えられる掘り込みである。床面は中央部が固くしまって安定しているが、各コーナー部に凹凸が目立つ。

カマドは東壁の中央やや南寄りに掘り込まれ、主軸はE－15°－Sを呈する。全長75㎝の円形の掘り込みで、左袖部30㎝、右袖部35㎝ほど残存する。袖部間は65㎝を測り、側壁には礫が補強されている。焚き口部は半円状の掘り込みで、燃焼部で約10㎝ほどの深さを測る。

遺物の出土量も少量で、全面に散在している。実測可能な土器片はなかった。



第52図　21. 44号住居址実測図

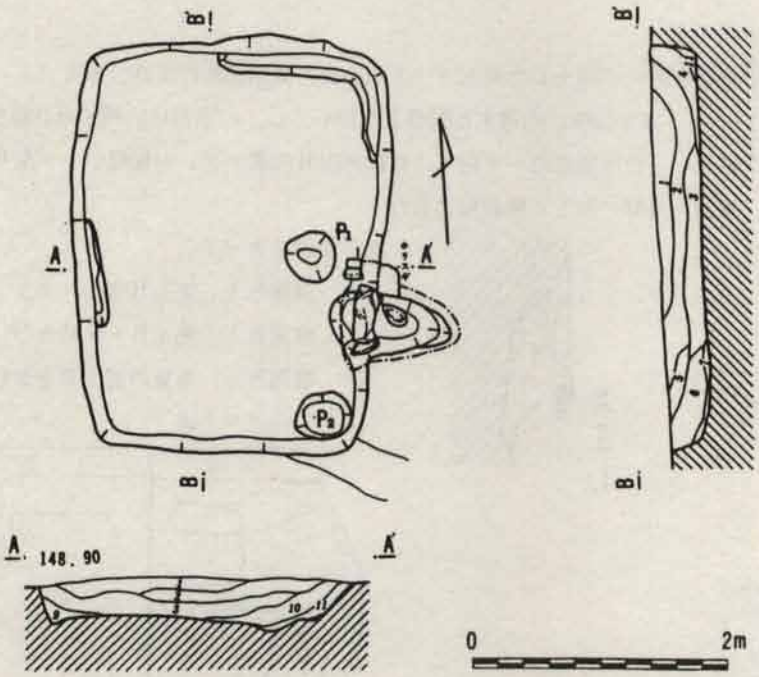
44号住居址は、21号の南西部に位置し、わずかに住居址らしき形状を認めるに終った。

21号．44号住居址埋土

1　建築址の構築土
2　黒褐色土(21)ソフト
3　黒褐色土(21)　FP　焼土粒を含む
4　暗褐色土(21)　R•Bを多く含む
5　R•B　(21)
10　黒褐色土(21)　RBを含む
11　黒褐色土（21．カ）明黄褐色粘土を含む
12　明黄褐色粘土（21．カ）
13　焼土粒・焼土B（21．カ）
6　黒褐色土(44)灰褐色粘土B・焼土B含む
7　黒褐色土(44)粘質あり
8　黒褐色土(44)R粒、R•B含む
9　14　黒褐色土(44)1より暗くFPを含む

22号住居址（第53図）

38B．Cグリットの西寄りに確認され、北東方向に24号住居址、北西方向に19号住居址、南方に39号、南西方向に20号住居址が位置する。規模は3.2×2.4m を測る長方形で、主軸はE－5°－Sを呈す。残存壁高は30～35cmを測り、70°前後の傾斜で掘り込まれている。周濠は北東



第53図　22号住居址実測図

22号住居址埋土

1　黒褐色土　下部に多量の炭化物含む
2　黒褐色土　暗褐色B・R粒　RBを含む
3　黒褐色土　1.2より暗い、斑点状にRB　R粒・焼土Bを含む
4　黒褐色土　R粒含みソフト
5　暗褐色土　大き目のR•B含む
6　黒褐色土　3よりR粒多く含む
7　暗褐色土　R粒　R•Bを含む
8
9　7層と同じ
10　黒褐色土　3より明るい
11　暗褐色土　焼土粒　R粒　R•B含む
1～11全体にFPを少量含む

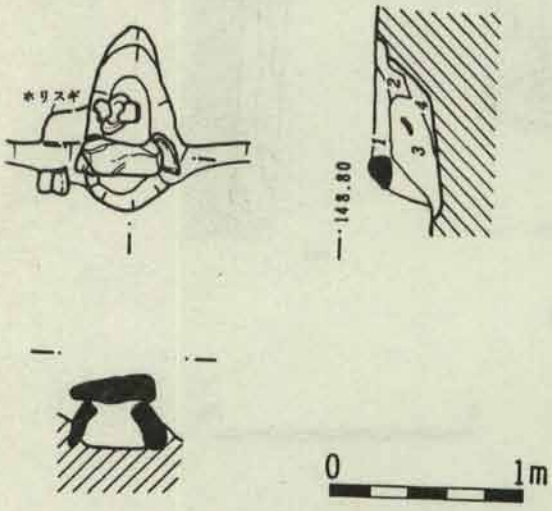
コーナー部と西壁中央部に90cmほど残る。柱穴状掘り込みは2ヶ所確認され、P_1は東壁中央部前面に位置し、40cm直径の円形、深さ20cmを測る、P_2は南東コーナーに位置し、40×35cmの円形、深さ22cmを測る貯蔵穴と思われる掘り込みである。

カマドは東壁南寄りに掘り込まれ、主軸E－10°－Sを呈す。全長95cmを測る楕円形プランで、東壁ライン上に礫を「π」状に構築し、燃焼部に支脚として利用された礫が立脚している。焚き口部分は半円状に床面より5cmほど掘り込み、煙道部は45°傾斜で立ち上がる。

出土遺物（第55図1）

遺物は東壁中央部壁沿いに出土した甕とカマド内出土の甕胴部片の2点である。

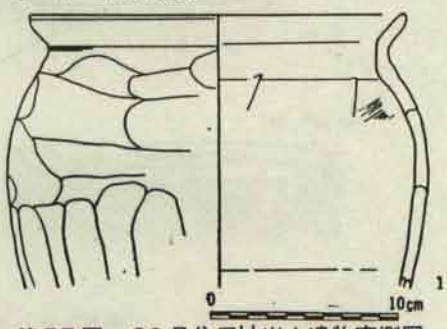
1　甕　口径19.5cm　直立気味に内彎する胴部より短かく「く」の字形に内彎する口縁部へ移行、胴部中位下は縦位、上位は横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面軽いヘラ削り
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒を含む



第54図　22号住居址カマド実測図

22号住居址カマド

1　黒褐色土　焼土B含みソフト
2　暗褐色土　焼土B・R粒含む
3　暗褐色土　多量の焼土Bを含む
4　カーボンと灰



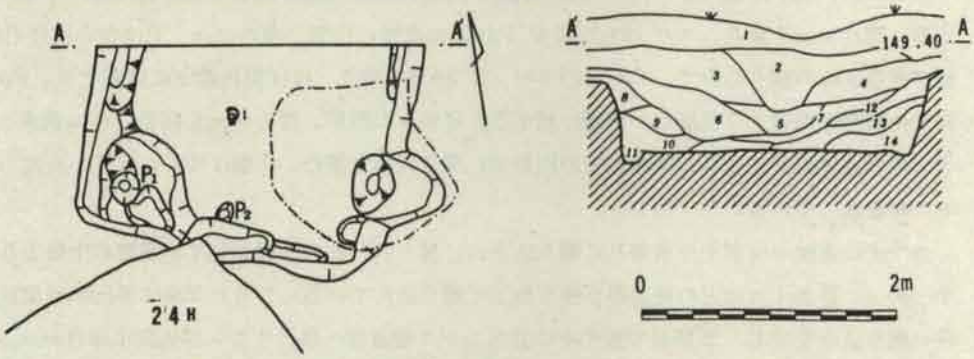
第55図　22号住居址出土遺物実測図

23号住居址（第56図）

39D．40Dグリットに確認され、24号住居址と南壁中央部で重複関係にある。東方に27号住居址、西方に19号住居址が位置する。調査区域内で全容は把握できず、南辺2.46mを測る方形プランが考えられる。主軸はE－21°－Sを呈している。残存壁高は50～55cmを測り、80°～85°傾斜で掘り込まれている。周濠は東壁の一部、南壁から西壁にかけて確認されたが、南西コーナー部分は荒れており、東壁部は幅17cm、深さ5cm、西壁部で幅18cm、深さ10cmを測る掘り込みである。柱穴状掘り込みは南西コーナー部の25cm直径、深さ15cmのP_1と南壁沿いの周濠に接している15×12cmの円形、深さ14cmのP_2が確認された。床面は固くしまっている。

カマドは住居址と同一方向の主軸を呈し、南東コーナー部近くの東壁に掘り込まれ、全長74cm、東壁より38cmほど張り出す掘り込みである。カマドは灰褐色粘土により構築され、右袖部が16cmほど残存したが、左袖部分は明確を欠いた。焚き口部は48×33cmの楕円形、深さ15cmの掘り込みで、燃焼部は床面レベルとなり、煙道部は垂直に近い傾斜で立ち上がる。

遺物は床面中央部分に密着出土の脚部片のみである。

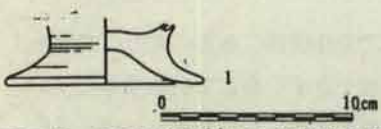


第56図　23号住居址実測図

23号住居址埋土

1　耕作土
2　暗褐色土（準攪乱）
3　暗褐色土　R粒、R•Bを少量含む
4　暗褐色土　斑点状にR粒、R•Bを含む
5　暗褐色土　R粒、カーボン含む
6　暗褐色土　4に似るが4より明るい
7　暗褐色土　少量のFP　.R粒．R•B含む
8　褐色土　サラッとしている
9　暗褐色土　多量のR粒、R•Bを含む
10　黒褐色土　少量のR•Bを含む
11　暗褐色土　R粒、R•B含む
12　暗褐色土　7層よりも明るい
13　暗褐色土　9層に類似する
14　黒褐色土　10層に類似する。

出土遺物（第57図1）



第57図　23号住居址出土遺物実測図

1. 脚部　底径10.2㎝ 八の字状に開広した安定感のある脚部で、ロクロ成形の手法が見られる。脚台付 埦の器形を呈するのか？
色調－暗赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

24号住居址（第58図）

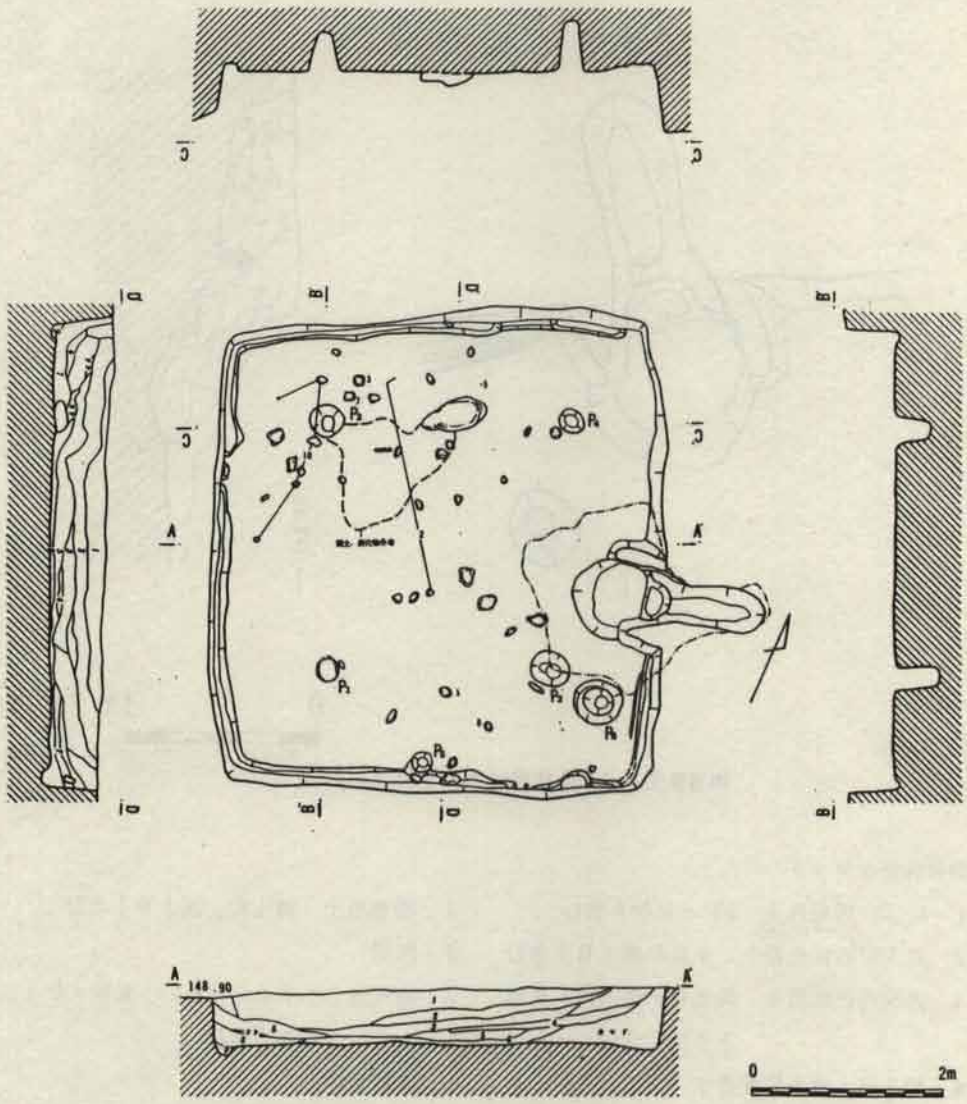
39Cグリットポイントが住居址北東部に位置し、39C．40Cグリットに広がる。北東コーナー部がわずかに23号住居址南壁と接し、北東方向に27号住居址．南東方向に25．26号住居址、北西方向には19号住居址、南西方向に22号．20号住居址が位置する。規模は4.8×4.9ｍ のほぼ正方形プランで、N－66°－Eの主軸を呈す。残存壁高は60㎝前後を測り、85°傾斜の垂直に近い掘り込みである。周濠は東壁のカマド北側を除いて途切れ部が若干見られるが、ほぼ連続し、幅15㎝前後、深さ5～10㎝を測る。柱穴状掘り込みは6ヶ所確認され、P_1～P_4が主柱穴、P_5が入り口部、P_6が貯蔵穴と考えられる。P_1は25×22㎝の楕円形、深さ43㎝、P_2は40×34㎝の楕円形、深さ30㎝を測り、スパンは2.35ｍ．P_3は35㎝直径の円形、深さ38㎝．P_4は25㎝直径の円形で深さ56㎝の掘り込みで、P_1～P_3のスパンは2.5ｍを測り、ほぼ対角線上に位置する。P_5は南壁中央やや西寄りに位置し、周濠に接する直径23㎝の円形、深さ40㎝を測る。P_6は南東コーナー部付近に掘り込まれ、50㎝前後の円形で、深さ75㎝を測る。床面は固くしまり、安定したレベルを保っている。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、N－74°－Eの主軸を呈す。東壁の中位より幅30～40㎝、長さ1ｍほどの煙道部が張り出して掘り込んでいる。焚き口部分は半円状に皿状の浅い掘り込みを呈し、35°傾斜で緩やかに立ち上がり煙道部へ移行する。煙道部は深さ40㎝より30㎝とだらっとした緩慢な傾斜で80㎝ほど続き、70°傾斜で煙り出し口を作り出している。袖部分は灰褐色粘土により左袖部60㎝、右袖部50㎝ほどを作る。燃焼部より煙道部の移行する個所で礫が立脚している。

遺物は北西部と南壁中央部付近に点在したが、大半が坏である。P_3～P_4のライン中央部に35×70㎝の大礫が床面に密着し、P_3と礫の南に焼土粒・炭化物が堆積し、炭化した桃系統の種子が2点出土した。

出土遺物（第60図1～12）

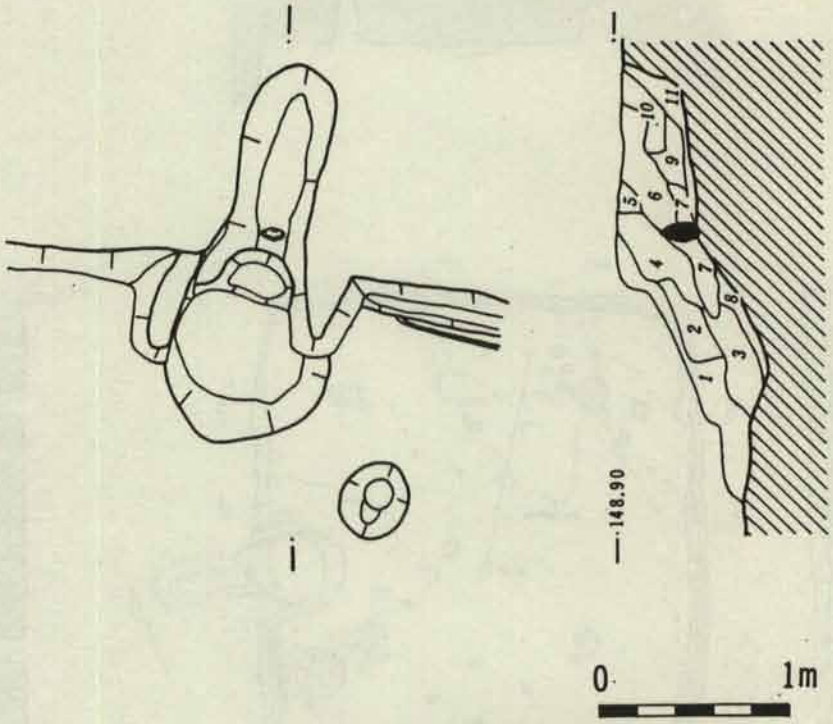
1. 坏　口径11.1㎝．器高3.7㎝　不安定な丸底より軽い陵を呈し、直立気味に外反する口縁部へ移行、底部は細かいヘラ削り、口縁部外面横ナデ、内面はヘラ研磨
色調－(外)淡褐色(内)黒色処理、焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
2. 坏　口径13.1㎝　器高3.7㎝　丸底より陵を呈し、口縁部は大きく開広する。底部はヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ



第58図　24号住居址実測図

24号住居址埋土

1　黒褐色土　FPを多く含む
2　黒褐色土　1より暗く、FPも多い
3　黒褐色土　1に似る
4　黒色土
5　黒褐色土　1番暗い黒褐色土で、1.2よりFPも多く含む
6　暗褐色土　カーボン、焼土粒、R•Bを多量に含む
7　暗褐色土　黒色土混り、R粒含む
8　暗褐色土　多量のR粒を含む
9　暗褐色土　サラサラで、R粒含む



第59図　24号住居址カマド実測図

24号住居址カマド

1　にぶい黒褐色土　FP・R粒を含む
2　にぶい灰褐色粘土、少量の焼土Bを含む
3　赤灰褐色粘質土　焼土B・焼土粒・R粒を多量に含む
4　焼土B・焼土粒混合土
5　暗褐色土　R•B、焼土粒含む
6　黒褐色土　R•B、R粒を含む
7　暗褐色土　焼土粒、焼土Bを含む
8　灰層
9　暗褐色土　7より明るい　R粒・焼土粒を多く含む
10　4層と同じ
11　暗褐色土　灰褐色粘質土　焼土粒を含む

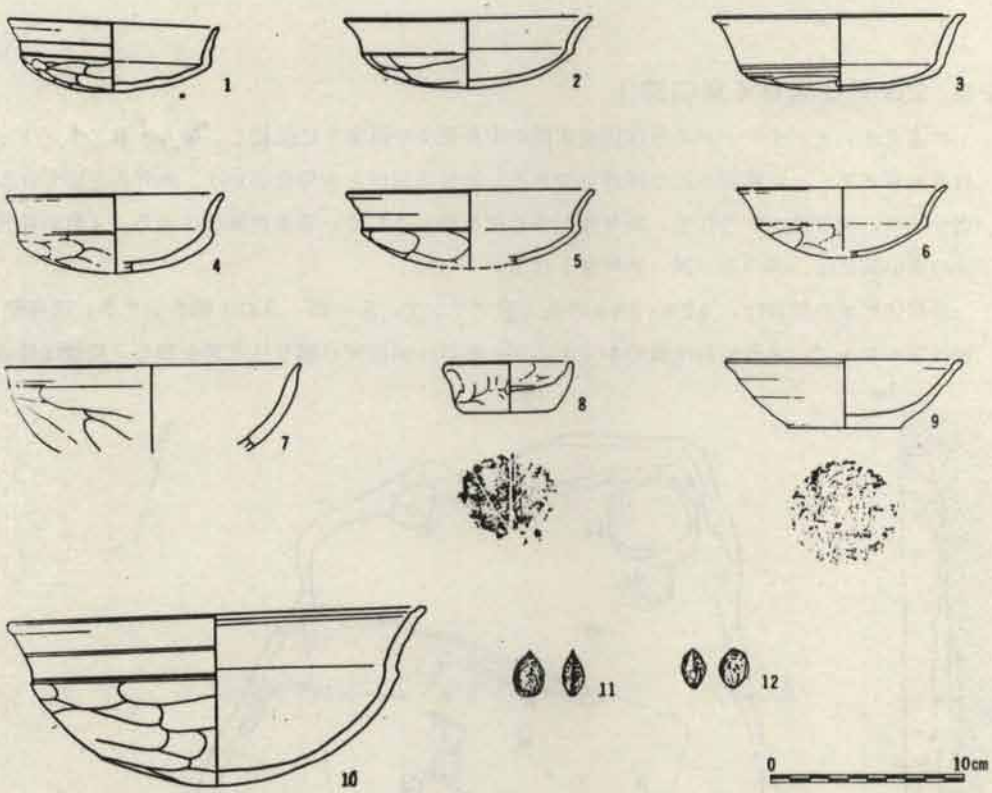
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3　坏　口径13.3cm　器高4cm　浅い皿状の丸底より、軽いくびれを呈し、やや開広する口縁部へ移行、口唇部は鋭り気味で外反する。底部はヘラ削り、内面より外面口縁部横ナデ
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

4　坏　口径11.3cm　器高4.2cm　色調－黄褐色～赤褐色　焼成、胎土上記と同じ

5　坏　口径12.9cm　推定器高4.1cm　色調－淡褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む

6　坏　口径10.9cm　器高3.7cm　均一な薄い器肉で、丸底より陵を呈し、口縁部は大きく開



第60図　24号住居址出土遺物実測図

広する。

色調－桃黄色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

7　坏　口径15.3cm　底部欠損．丸底を呈すると思われる、口唇部分は鋭り気味に丸める、体部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調－淡褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

8　手捏　口径6.9cm　器高2.7cm　底径4.7cm　平底から内彎し、器高の低い体部に移行する、底部は木葉痕、体部内外面指ナデ成形

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

9　坏（須恵器）口径12.4cm　器高3.6cm　底径5.9cm　プラン確認時西壁ライン上出土

平底より内彎し、玉状に丸くおさめた口唇部へ移行、底部は糸切り底、ロクロ成形

色調－淡灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

10　坏　口径21.8cm　器高9cm

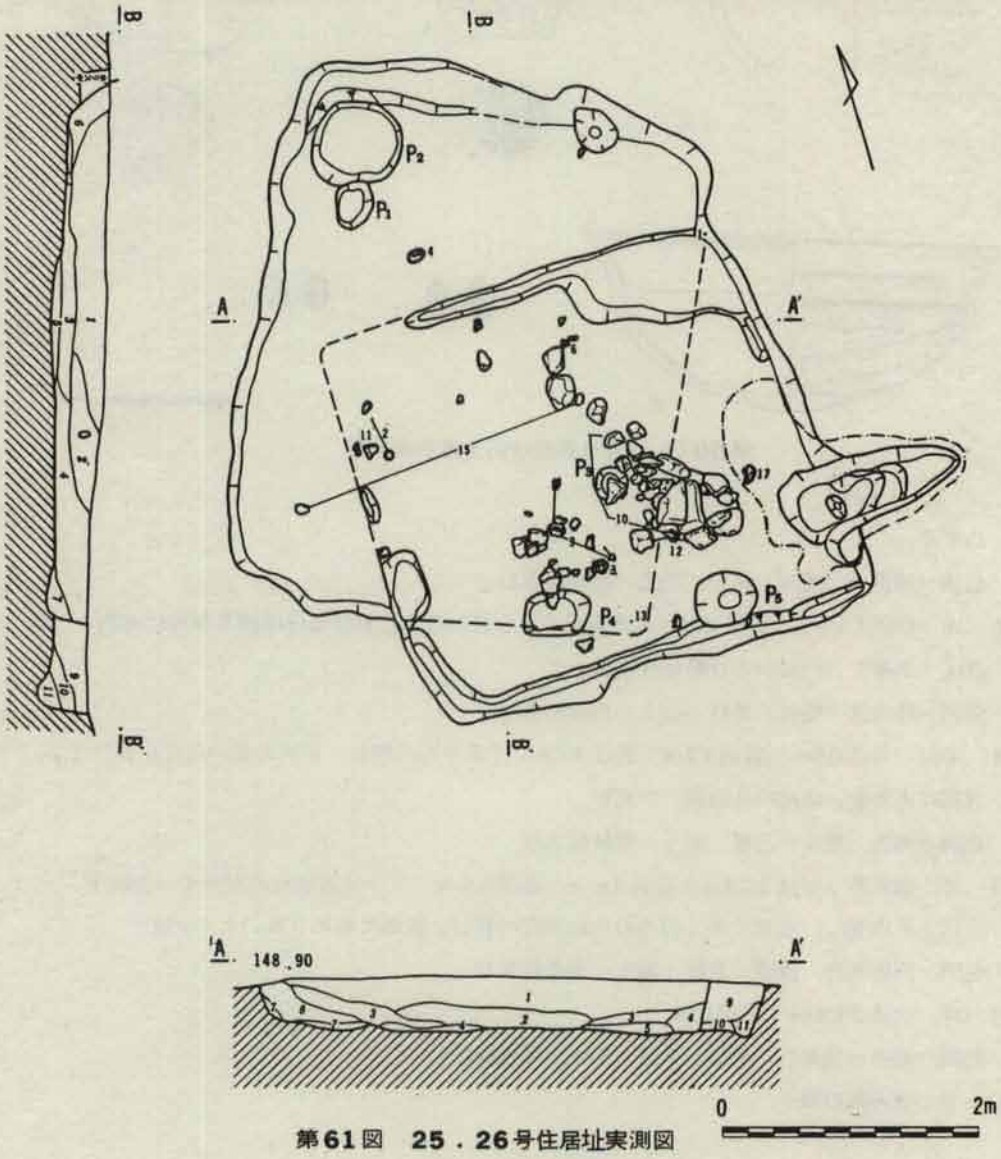
色調－褐色～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

11．12　桃系統の種子

25．26号住居址（第61図）

40Aグリットポイントが25号住居址床面の中央部やや西寄りに位置し、40A・Bグリット．41A・Bグリットに確認された住居址である。25号住居址と26号住居址は、26号住を25号住が切り込み、26号住が29号住を、28号住が29号住を切り込んでいる重複関係にある。4軒の住居址の新旧関係は、25→28→26→29号住となる。

25号住居址の規模は、4.2m×3.4mの長方形プランで、E－25°－Sの主軸を呈する。残存壁高は30～40cmで、北壁傾斜は緩やかであるが、他壁は80°前後の掘り込み角を測る。周濠は確認



第61図　25．26号住居址実測図

25．26号住居址埋土

1　黒褐色土㉕　FP・R粒含む　　2　黒褐色土㉕多量の焼土粒　R粒　FP含む
3　黒褐色土㉕　粘質帯び、少量FP　R粒含む　　4　黒褐色土㉕　2より暗い
5　黒褐色土㉖　多量のR•B　R粒含む　　6　黒褐色土㉕ソフトでR粒・RB少量含む
7　暗褐色土㉕　FP　R•B　R粒含む　　8　黒褐色土㉕　3より明るい
9　暗褐色土㉖　R粒・R•Bを含む　　10　黒褐色土㉖　R粒・RBを含む
11　暗褐色土㉖　ソフトでR粒を多く含む

されなかった。柱穴状掘り込みは北西コーナー部とカマド前面に検出され、P_1は30×40㎝の楕円形、深さ10㎝、P_2は60×70㎝の円形、深さ15㎝、P_3は25㎝直径の円形、深さ18㎝を測る。P_4は50×30㎝の方形状掘り込みで深さ22㎝を測るが、P_3、P_4と2軒の住居址との関連は不明である。床面は多少凹凸が認められるがレベルは安定している。

カマドは東壁南寄りに26号住居址埋土を掘り込んでいる石組みのカマドで、住居址と同一方向の主軸を呈している。東壁より約65㎝ほど張り出し、馬蹄形に粘土と礫により輪郭を構成し、天井石を2枚並べている。焚き口部、燃焼成は26号住居址の床面を利用し、非常にハードな焼成面となっている。

26号住居址は25号住居址に掘り込まれている為に、全体の$\frac{1}{3}$ほどの形状を残すだけであるが、北壁、西壁下に残った周濠の掘り込みにより、3.7 m×3.4 mを測る方形プランが確認された。主軸はN－89°－Eとほぼ真東を呈す。残存壁高は35㎝前後で、85°ほどの垂直に近い掘り込みである。周濠は南壁から西壁中央部、東壁中央部やや北寄りから北壁にかけて残存し、北東コーナー部の乱れを除いて、幅15～20㎝、深さ5㎝前後を測る。柱穴状掘り込みのP_5は、南壁下周濠に接し、42×50㎝の円形、26㎝の深さを測る。床面は壁周辺部分を除いて固くしまり、安定している。

カマドは東壁の南寄りに掘り込まれ、住居址と同一主軸を呈する。規模は全長1.45mの細長い掘り込みで、東壁より90㎝ほど張り出している。焚き口部は半円状に20㎝ほど掘り込んでおり、燃焼部より煙道部は45°傾斜ほどで立ち上がる。袖部は右袖部が若干残り、左袖部は明確を欠いてしまった。

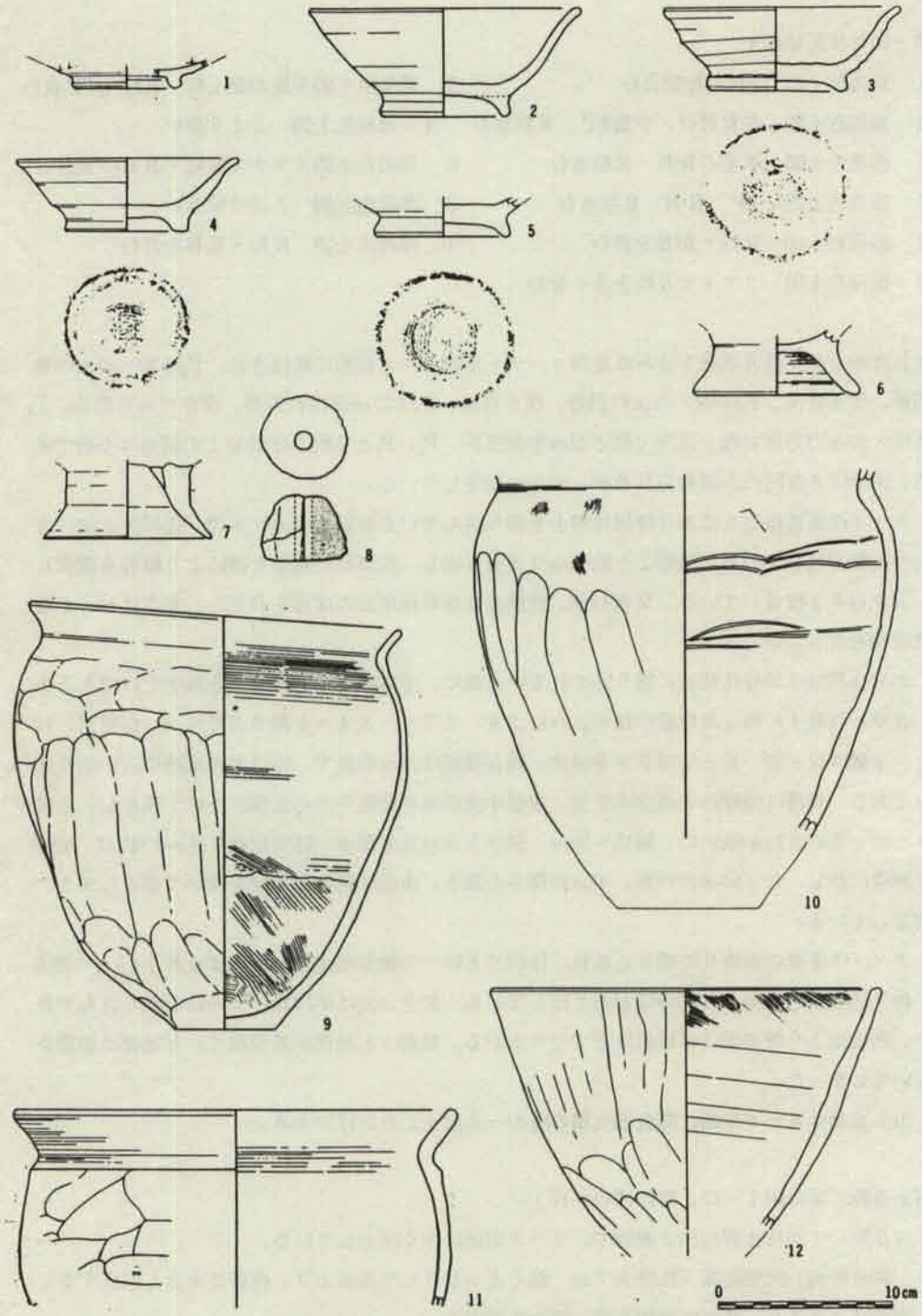
出土遺物はカマド前面に高台部欠損の埦が一点出土しただけである。

出土遺物（第62図1～12、第63図13～17）

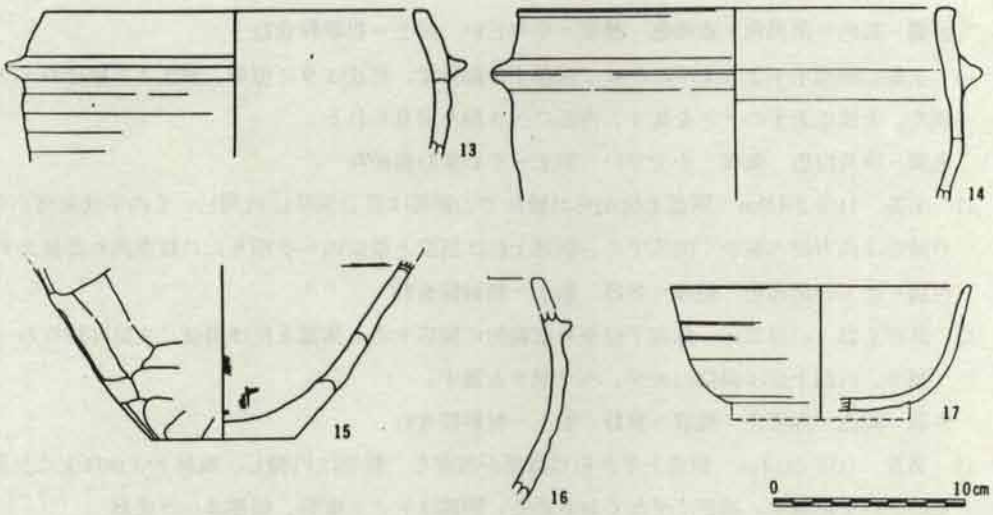
17を除いて25号住居址出土遺物で、カマド前面に多く出土している。

1　高台付埦（灰釉陶器）底径5.7㎝　低くどっしりした高台より、体部は大きく開広する。施釉はハケヌリ、底部は糸切り底、埋土上面出土

2　高台付埦　口径15.6㎝　器高6.2㎝　底径6㎝、小さく「く」の字形を呈する高台部より斜方



第62図　25，26号住居址出土遺物実測図（1）



第63図　25，26号住居址出土遺物実測図（2）

向に開き、口唇部付近にて水平気味となる。底部は糸切り底、体部はロクロ成形、内面は荒れている。

色調－褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒を含む

3　高台付椀　口径13.6㎝　器高4.7㎝　底径7.7㎝　外反して開く低い高台部より内彎する体部に移行し、口縁部は外反する。器面に水挽き痕明瞭に残す。手法は上記と同じ

色調－淡灰褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

4　高台付椀　口径12.7㎝　器高4.1㎝　底径7㎝、底く安定した畳付部が広い高台部より口縁に内彎しながら移行し、口唇部は若干外反する。手法、色調、焼成、胎土上記と同じ

5　高台付椀　底径7.5㎝　内彎するどっしりした高台部である。

色調－淡黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

6　高台付椀　底径9.2㎝　八の字状に開く高い高台部である。

上記5に色調、焼成、胎土似る。

7　脚台部片　底径9.4㎝　筒状脚柱部を呈し、裾部を八の字状に開き、端部を鋭り気味に丸める。ロクロ成形、須恵質

色調－にぶい灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

8　紡錘車　高さ3.6㎝　孔径8.5～9.5㎝　埋土中出土　軽石を加工

9　土釜　口径21.1㎝　器高23.6㎝　底径5.5㎝　小さく安定の悪い底部より内彎し、胴部はやや角張った寸胴形を呈し、くの字状頸部から短く斜方向に開く口縁部へ移行する。胴部下位は斜位、中位は縦位　上位は横位のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ、内面は櫛描状ナデ、底部は砂底で周縁部にリング状のハガレ痕残る、脚台付土釜と思われる。

色調－褐色～黄褐色・赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

10　土釜　胴部上半より上半にかけて残存する個体で、形状は９に似る、肩部より縦位のヘラ削り、上位に若干のナデを施す、内面にヘラ削り痕見られる。

色調－淡黄白色　焼成－やや甘い　胎土－小石含む粗砂粒

11　土釜　口径２4.9㎝　胴部上位から口縁片で、胴部は直立気味に内彎し、くの字状頸部から口縁部は斜方向へ短かく開広する、胴部上位は斜位と横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ

色調－にぶい黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

12　鉢形土器　口径22㎝　体部下位から直線的に開広する。体部下位は斜位、上位は縦位のヘラ削り、内面上位は斜位のナデ，ヘラ削りを施す。

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

13　羽釜　口径２0.1㎝　胴部上半から口縁部が残存し、胴部は内彎し、端部下３㎝ほどに三角形のツバを廻らす。端部は平たくおさめる。胴部はロクロ成形，端部はヘラ成形

色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

14　羽釜　口径２3.1㎝　胴部は直立気味に内彎し、口唇部はやや外反する。

色調－黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

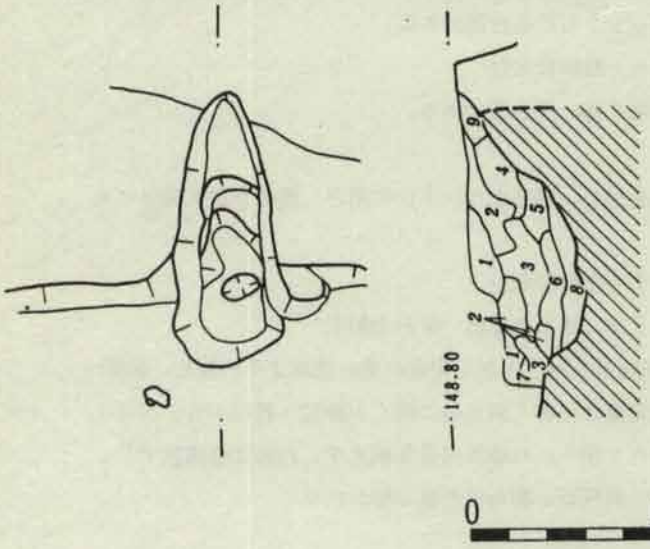
15　羽釜底部？　底径7.5㎝　平底より直線的に開広する、底部は板状円盤を呈し、外面は斜位のヘラ削り、内面は横ナデ

色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

16　羽釜片　形態　手法は13に似る　色調－黒褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

17　高台付椀（須恵器）26号住居址出土、高台部欠損、底部からスムーズに内彎し、口縁部は直線的にやや開広する、体部はロクロ成形、底部は回転ヘラ削り

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－精選されている



26号住居址カマド

1. 黒褐色土　R粒含む
2. 灰褐色粘土B
3. 黒褐色土、ソフト
4. 暗褐色土、多量の焼土B・灰褐色粘土B含む
5. 暗褐色土　ソフト
6. 暗褐色土　焼土B・RBを含む
7. 黒褐色土
8. 暗褐色土　RB　R粒を含む
9. 暗褐色土　ソフトでR粒を含む

第64図　26号住居址カマド実測図

27号A・B住居址（第65図）

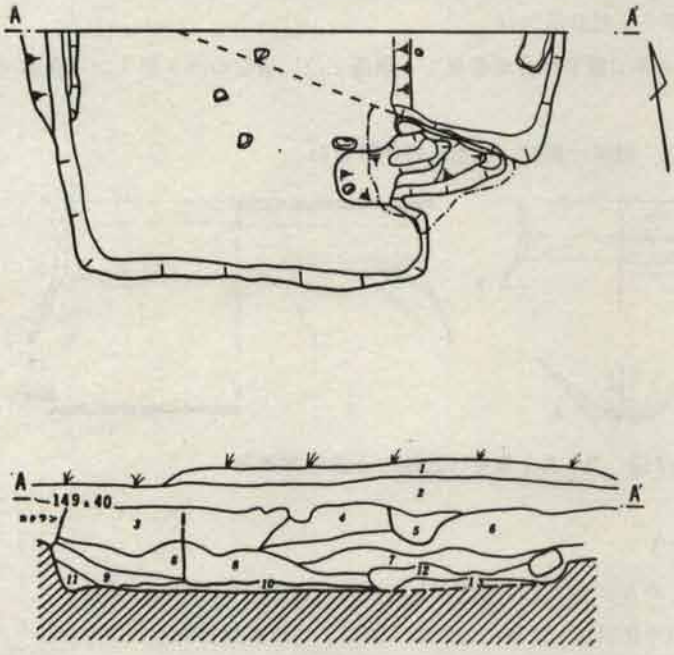
41Dグリットに確認された2軒の重複住居址で、調査区域内で27Aは約半分、27Bは住居址の形状を若干認めるだけであった。西方には23号住居址、南西方向に24号住居址、南方には25・26・28・29の住居址、南東方向に30・32号住居址が位置する。

A号住は南辺2.7 m×東辺で2 mほど確認できた方形プランの形状を呈すると思われ、E－10°－Sの主軸をとる。残存壁高は30㎝前後を測り、掘り込み傾斜は80°ほどである。周濠は西壁の中央部に見られ、幅16㎝、深さ3㎝ほどの掘り込みである。柱穴、貯蔵穴状の掘り込みは確認できなかった。床面は固くしまり安定したレベルを保っている。

カマドは東壁の南寄りに掘り込まれ、住居と同一の主軸を呈している。カマドの左袖部分にB号住の南壁の掘り込みが接して、やや形状を変えている。全長1.35mを測り、東壁ラインより70㎝ほど張り出して掘り込まれ、焚き口部分は右袖部寄りに隅丸方形で緩やかな傾斜の掘り込みを呈し、燃焼部で10㎝ほどの深さを測り、45°前後の傾斜で煙道部が立ち上がる、袖部は灰褐色粘土により構築され、わずかに痕跡を残している。

遺物は、大半が埋土中より出土したもので、カマド上面よりわずかに長甕片が認められた。

B号住居址はA号住居址カマドより、わずかに東方寄りに東壁の一部、カマド沿いに南壁一部が認められる、A号住居址より新しい掘り込みである。東壁に袖石に使用(?)された礫、セクションにカマドらしき粘土の堆積を見い出せるのみであった。

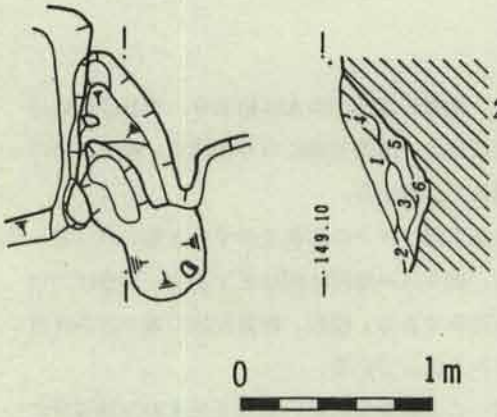


27A・B号住居址埋土

1．2　耕作土
3　黒褐色土　R粒　FPを含む
4　黒褐色土　砂質帯びる
5　耕作上溝
6　黒褐色土　4より明るい
7　暗褐色土　R粒、R•B含む
8　黒褐色土　A•B住居埋土で明確な差はない
9　黒褐色土　R粒含む
10　暗褐色土　R粒、R•B含む
11　暗褐色土　R粒多く含む
12　褐色土　粘質帯びる
13　黄褐色粘土B

0　2m

第65図　27A．B号住居址実測図



27号A住居址カマド

1　黒褐色土　少量の焼土粒含む
2　暗褐色土　少量の暗灰褐色粘土B含む
3　暗灰褐色粘土
4　暗褐色土　暗灰褐色粘土B、焼土粒含む
5　暗褐色土　焼土粒、焼土Bを多く含む
6　暗褐色土　R•B、R粒、灰を含む

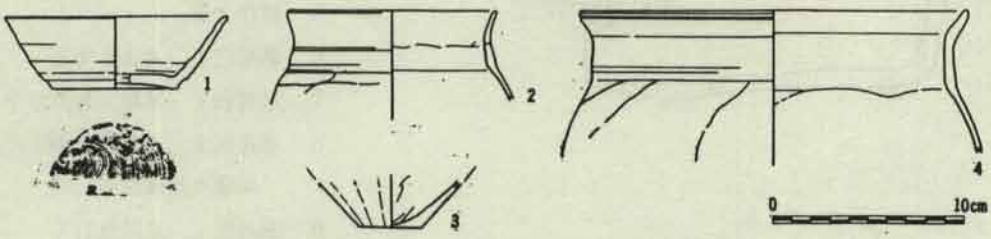
第66図　27号A住居址カマド実測図

出土遺物（第67図1～4）

1　坏（須恵器）口径11.6㎝　器高3.8㎝　底径6.5㎝　凹みのある平底より、直線的に斜方向に開き、口唇部を若干外反させる、底部は糸切り底、体部ロクロ成形
色調－青灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

2　3　小型甕　口径11㎝　底径3.1㎝　同一個体と思われる、胴部欠損、小さい平底から直線的に開き、口縁部は所謂コの字口縁を呈する。底部はヘラ削り、胴部下位は縦位、肩部に横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

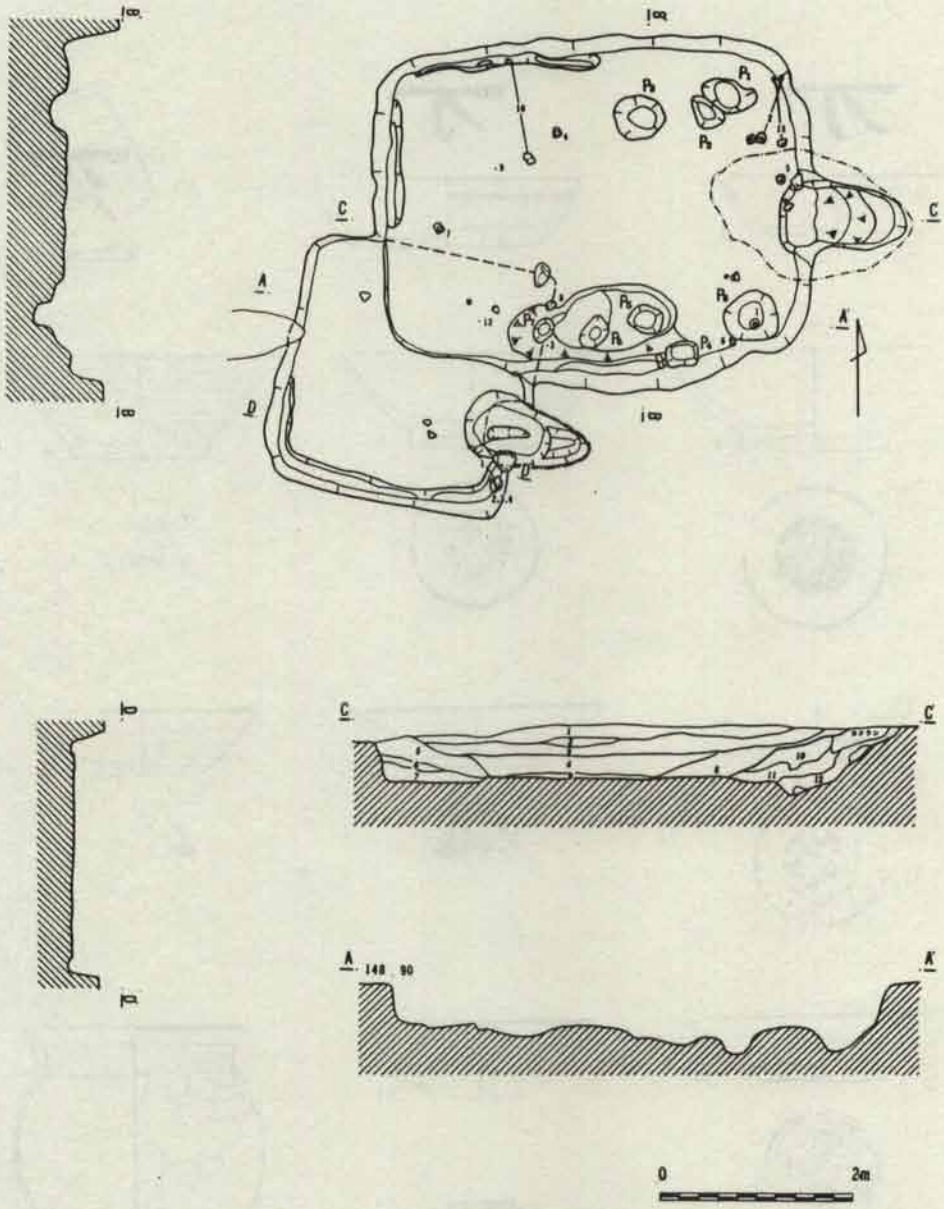
4　長甕　口径20.2㎝　所謂コの字口縁を呈する長甕で、胴部上位に横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ
色調－(外)褐色～暗褐色(内)暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む



第67図　27A．B号住居址出土遺物実測図

28．29号住居址（第68図）

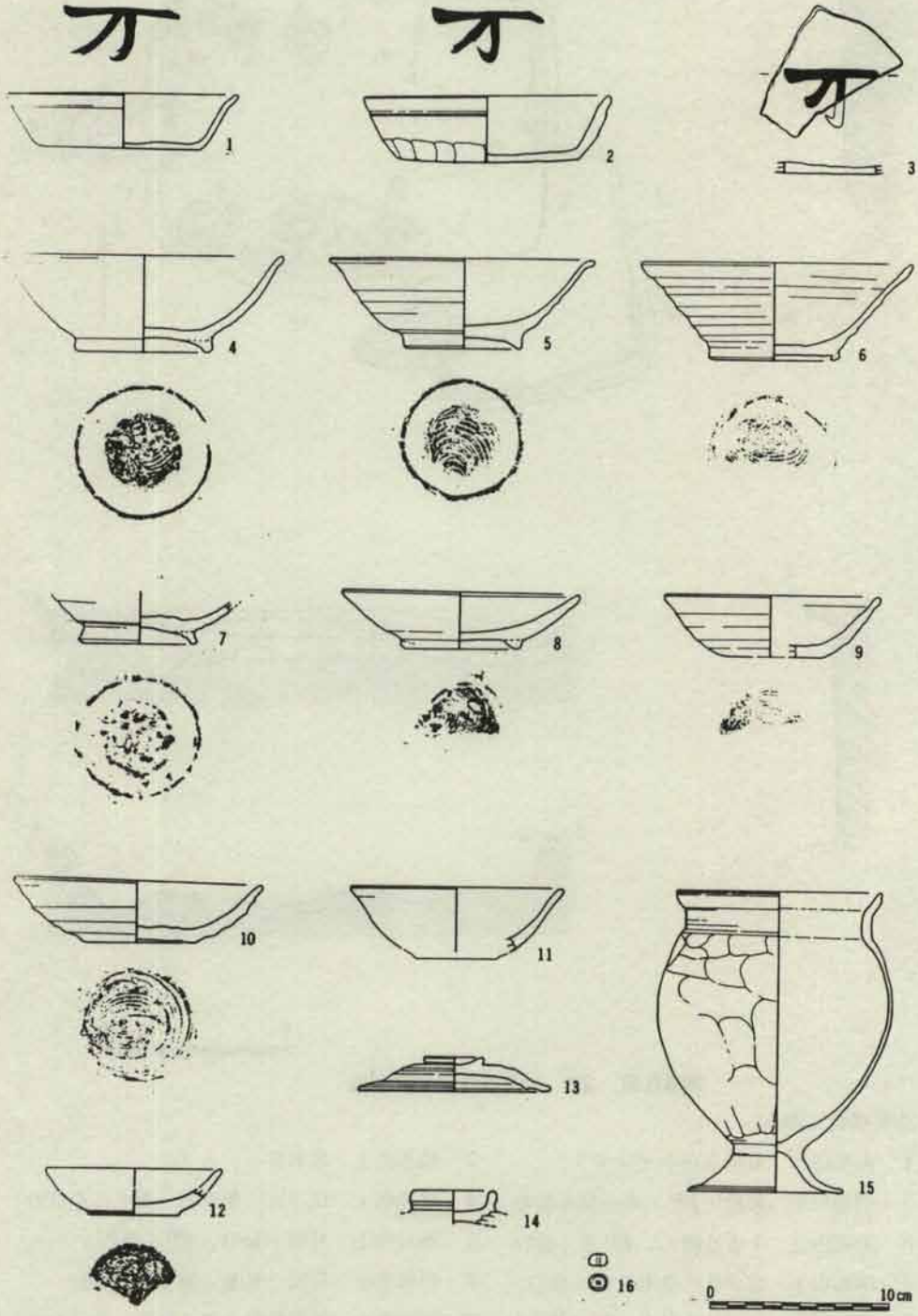
41Aから42Aグリットポイントの Aライン上に確認され、南西方向に29号住居址が重複し、西方に25．26号住居址、東方に31号住居址、北東方向に30．32号住居址が位置する。28号住は29号住を掘り込んでいる住居址で、規模は4.6ｍ×3.7ｍを測り、南壁中央部が胴張りを呈す



第68図　28．29号住居址実測図

28号住居址埋土

1　黒褐色土　B軽石含みザラザラ
2　暗褐色土　RB含みハード
3　黒褐色土　R粒・FP　焼土粒を含む
4　暗褐色土　斑点状に焼土B　焼土粒を含む
5　黒褐色土　1より暗く、FP多く含む
6　黒褐色土　R粒、R•B、FPを含む
7　暗褐色土　斑点状にRBを多く含む
8　黒褐色土　R粒、R•B、焼土粒を含む
9　黒褐色土　斑点状にRB、焼土B含む
10　黒褐色土　灰褐色粘土B、R粒、R•Bを含む
11　灰褐色粘土
12　焼土粒・焼土B



第69号　28号住居址出土遺物実測図

る長方形プランである。主軸はE－2°－Sを呈し、残存壁高は40㎝前後を測る約75°傾斜の掘り込みである。周濠は西壁中央部から北側に1.3m、幅20㎝前後、深さ5㎝の掘り込みと、北壁西寄りに2mほど確認された。柱穴状掘り込みは8ヶ所検出され、北東コーナー付近のP_1～P_3、南壁沿いのP_4～P_8で、P_1は45×35㎝の楕円形、深さ8㎝、P_2はP_1に接する隅丸三角形を呈す7㎝の掘り込みで、P_3は45×50㎝の円形で深さ15㎝を測る。P_4～P_7は入り口部分に関係するものと考えられる。南壁中央部下の1.75m×0.8mの楕円形の掘り込みに検出され、P_4は33×26㎝の方形、深さ10㎝、P_5は35×27㎝の円形、深さ20㎝、P_6は35×25㎝の円形、深さ35㎝、P_7は25×20㎝の円形、深さ12㎝を測る。この楕円形の掘り込みより45°傾斜で立ち上がり、15㎝～20㎝幅のテラスを設け、ほぼ垂直に傾斜して立ち上がる胴張りの南壁中央部を呈している。P_8は南東コーナー部に位置し、55㎝前後の円形、深さ25㎝を測る貯蔵穴と考えられる掘り込みである。

カマドは東壁中央部に掘り込まれ、住居址と同一の主軸を呈す。全長1.3m、幅0.6mの規模で、東壁ラインより1mほど張り出している。焚き口部から燃焼部の掘り込みは15㎝ほどで、45°傾斜で煙道部が立ち上がる。袖部の張り出しは確認されず、左袖部に礫が見られる。

出土遺物は坏5点、高台付椀5点、須恵蓋2点、台付甕1点、カワラケ1点が出土し、墨書土器3点が見られる。カワラケは埋土上層より出土している。又小玉は埋土下層中より出土したものである。

出土遺物（第69図1～16）

1　坏（墨書土器）口径12.9㎝　器高3.1㎝　底径8.8㎝　平底の底部より直線的に開き、口縁部は外反する、全体に器肉は薄く均一である。底部内面に「万」の墨書を記す。底部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ、未調整部分体部外面、貯蔵穴内出土。
色調－淡黄褐色～赤褐色、焼成－やや甘い、胎土－粗砂粒含む

2　坏（墨書土器）口径13.9㎝、器高3.7㎝　底径10.2㎝、やや歪みをもつ平底から直線的に内彎し、外面口唇部下に沈線廻る。底部内面に「万」の墨書を記す。底部はヘラ削り、体部下半から底部周縁部は横位のヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ、体部外面未調整部分残す。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3　坏底部（墨書土器）上記の墨書土器とセット関係が考えられる。底部内面「万」の墨書を記す

4　高台付椀　口径15.5㎝、器高5.4㎝　底径7.1㎝　内彎する低い高台部より内彎して大きく開く口縁部へ移行し、口唇部を若干外反させる。底部は糸切り底、ロクロ成形。
色調－灰黒褐色　焼成－やや甘い　胎土－小石含む粗砂粒

5　高台付椀　口径14.8㎝　器高5㎝　底径6.3㎝　直立する低い高台より大きく開広し、口縁部は水平気味に外反する。手法は上記と同じ。
色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

6　高台付埦　口径15.2㎝　器高5.4㎝　底径7㎝　短く「く」の字状に内彎する貧弱な高台より開広気味に大きく口縁部へ移行する。手法は上記と同じ。

色調－淡黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

7　高台付埦　底径6㎝　八の字状に開脚する高台部より内彎する体部へ移行

色調－暗灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

8　高台付埦　口径13.4㎝　器高3.2㎝　底径－6.4㎝　底い三角形の高台部より緩やかに内彎する。埦よりも皿に近い形状である。

色調－にぶい灰褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

9　坏（須恵器）口径11.9㎝　器高3.4㎝　底径5.3㎝　底部よりスムーズに内彎して体部へ移行する。

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－小石を含む粗砂粒

10　坏（須恵器）口径14㎝　器高3.4㎝　底径6.1㎝　底部中央部が凹み、体部は緩やかに内彎する。　上記9と同一の色調　焼成、胎土である。

11　坏（須恵器）口径11.8㎝　底部欠損

12　カワラケ底部、底径4.9㎝　色調－暗褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む

13　蓋（須恵器）口径10.8㎝　器高1.9㎝　鈕部口径3.3㎝　全体に扁平な形状を呈し、口唇部は水平気味に開広する。内面にわずかなかえりを有し、鈕部中心が皿状凹部を呈す。

体部ロクロ成形、肩部に一条の回転ヘラ削りを施す。

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

14　蓋　鈕部口径4.5㎝

15　台付甕　口径11.4㎝　器高16.9㎝　底径8.7㎝　八の字状に開広する台部より、胴部中位上に最大径を呈する、所謂コの字口縁の小型甕、胴部に移行する。台部は横ナデ、胴部下半は縦位のヘラ削り、上半は斜位・横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ

色調－(外)褐色～暗褐色(内)淡黄褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

16　小玉　高さ6.8㎜　径9.8㎜　孔径2㎜　土製

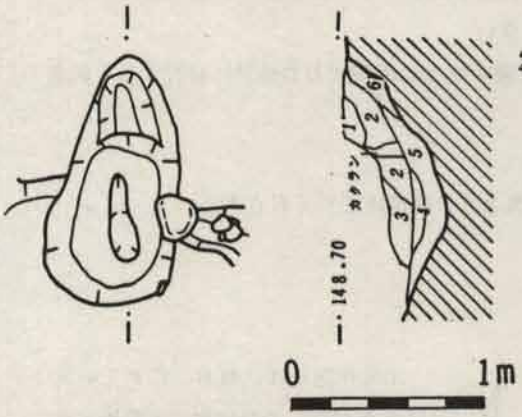
29号住居址（第68図）

41Aグリット南方に位置し、28号住居址により北東部分、26号住居址のカマドにより西壁の中央部が掘り込まれている状況にある。規模は2.7ｍ×2.6ｍのほぼ正方形プランを呈し、E－13°－Sの主軸を測る。残存壁高は40～45㎝ほどを測り、80°～85°傾斜の掘り込みである。周濠はカマド右袖より西壁中央南よりまで廻り、16㎝幅、深さ5㎝前後を測る。柱穴状掘り込みは不明である。床面は北西部に凹凸が見られるが、レベル的には安定している。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、住居址と同一の主軸を呈している。規模は全長1.35ｍで、東壁ラインより70㎝ほど張り出している。右袖部に凝灰岩を配しているが左袖部

は存在しなかった。貯蔵穴状掘り込みは不明である。

遺物は少量の出土であるが、南東コーナー部に坏、甑、長甕が集中出土している。



29号住居址カマド

1　暗褐色土

2　暗褐色土　焼土粒・焼土B、少量の灰褐色粘土Bを含む

3　灰褐色粘土

4　黒褐色土　R粒　R•B　焼土Bを含む

5　暗褐色土　R粒・焼土粒を含む

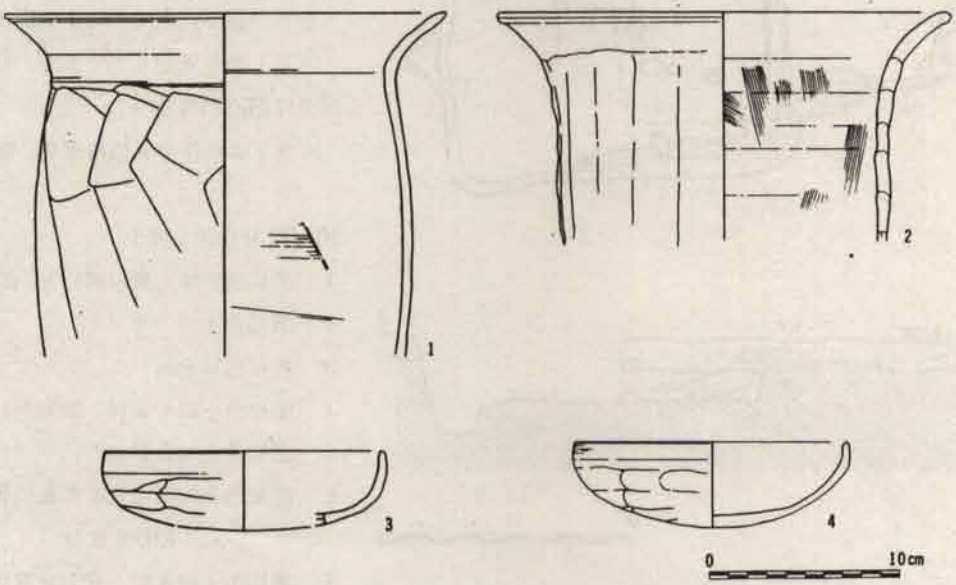
6　褐色土　　ソフト

第70図　29号住居址カマド実測図

出土遺物（第71図1～4）

1　長甕　口径22.9cm　胴部中位から口縁部にかけて残存、やや胴張を呈し、くびれは弱く、口縁部は大きく開広する。胴部は斜位、縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に軽いヘラ削り。

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む



第71図　29号住居址出土遺物実測図

2　甑　口径23.2㎝　やや外反気味に直立した胴部より、大きく開広する口縁部へ移行する。胴部は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面は軽いナデ、粘土紐痕。

色調－黄褐色　焼成－甘い　胎土－粗砂粒多く含む

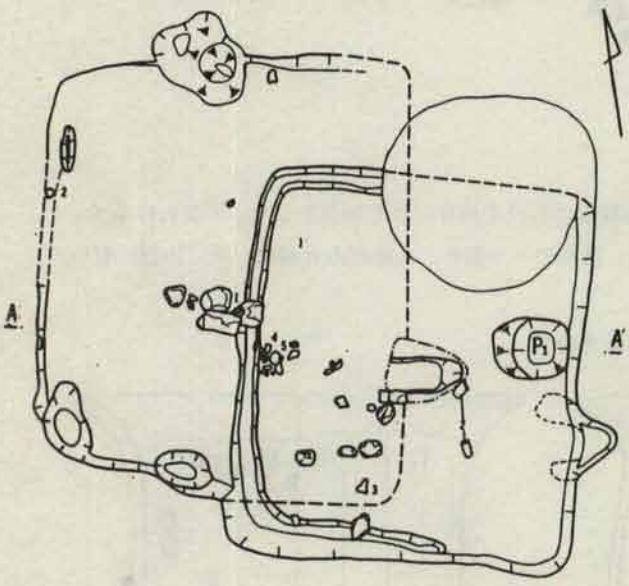
3　坏　口径14.5㎝　器高推定4.2ｍ　丸底より直立気味に内彎する口縁部に移行する。底部はヘラ削り、内面から口縁部は横ナデ。

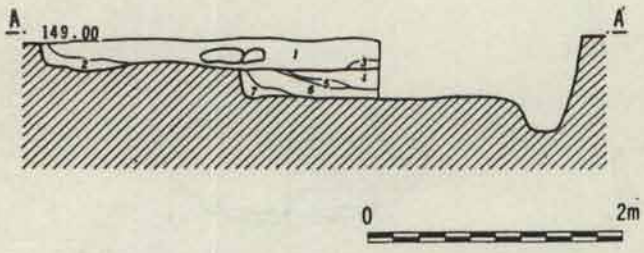
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

4　坏　口径14.3㎝　器高4.6㎝　やや深めの丸底より口縁部は短かく直立する。

色調－淡赤褐色、焼成、胎土上記と同じ。

30．32号住居址（第72図）





30号住居址は、42B．Cグリットにまたがり、32号住居址と重複している。規模は3.5ｍ×2.9ｍを測る、方形プランで、西・北壁の一部が明確を欠いている。主軸はE－10°－Sを呈し、残存壁高は良好な南壁部分で20㎝を測る。周濠は西壁の北部に若干認められる。柱穴状掘り込みは南壁沿いに存在するが、住居址より新しい掘り込みである。床面はハードにしまり安定しているが、周濠部分は凹凸が目立つ。

カマドは東壁中央部南寄りに掘り

30．32号住居址埋土

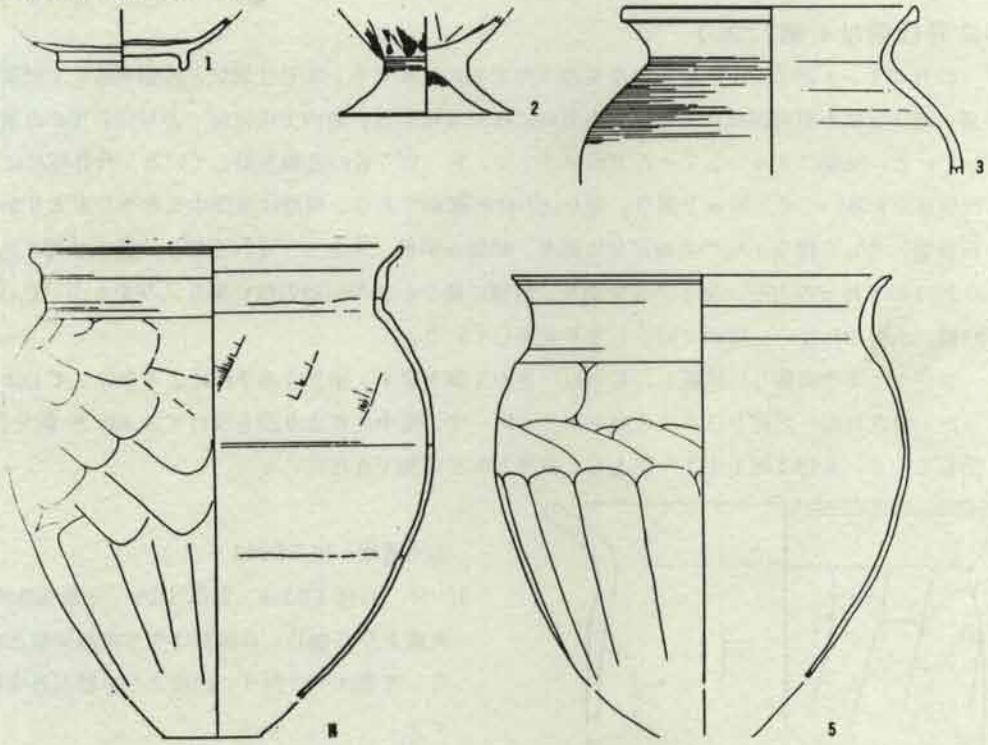
1　黒褐色土30　斑点状にFP含む
2　暗褐色土30　ソフト
3　灰褐色粘土30
4　暗褐色土32　R粒　RB含む
5　黒褐色土32RB含む
6　暗褐色土32斑点状に多量にR粒R•Bを含む
7　黒褐色土32R粒、R•B少量含む

第72図　30，32号住居址実測図

込まれ、E－6°－Sの主軸を呈している。東壁ラインより55㎝ほど張り出し、幅27㎝を測る小規模なカマドで、南袖部には礫が補強されている。焚き口部分は15㎝ほど掘り込んで、煙道部は30°傾斜で立ち上がる。

遺物は中央部礫の周辺に集中し、長甕、灰釉陶器が出土、長甕は床面密着である。

出土遺物（第73図1～5）



第73図　30号住居址出土遺物実測図

1. 高台付椀　底径6.4㎝　玉状に肥大し、直立気味に内彎する高台部より体部へ移行する。内外面の体部下位までハケヌリによる施釉、底部は糸切り底（灰釉陶器）
2. 台付甕　底径9.1㎝　八の字状に開脚する台部より内彎して体部へ移行する。台部は横ナデ、体部下位は割板状工具によるナデ。
   色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 短頸瓶（須恵器）、体部中位から口縁部片で、スムーズに内彎する体部より頸部は「く」の字状に強くくびれ、口縁部は斜方向に開き、口唇部は三角形を呈する。ロクロ成形。
   色調－淡青灰褐色　焼成－良好　胎土－精選されている。
4. 長甕、口径19.4㎝、所謂コの字口縁の長甕で、底部欠損、胴部上位は斜位、下位は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に斜位の軽いヘラ削りを施す。

色調－褐色と黒褐色の斑点状、焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

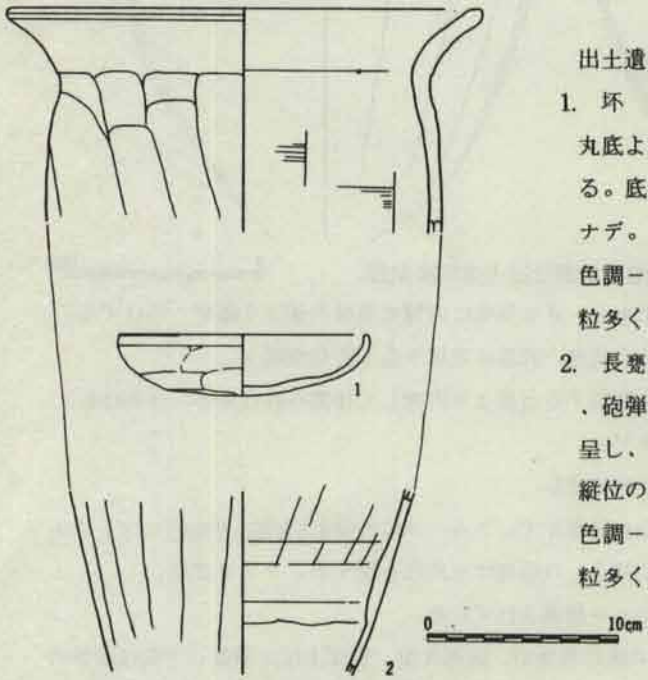
5. 長甕、口径19.6㎝　4と同じコの字口縁を呈する、胴部からコの字状のくびれ部がスムーズに移行し、口縁部は短かく開広し、口唇部はやや鋭り気味に丸める、胴部中位下は縦位のヘラ削り、上位下は斜位、肩部付近は横位のヘラ削り。

色調、焼成、胎土は4と同じ。

32号住居址（第72図）

42Bグリットポイントが住居址中央部やや北東に位置する。30号住居址と西側半分、北壁東側の縄文土坑が重複関係にある。南東方向には31号住居址、南西方向に28，29号住居址が位置している。規模は3m×2.7mの方形プランで、E－11°－Sの主軸を呈している。残存壁高は西壁部分を除いて45～50㎝を測り、掘り込みは85°傾斜である。周濠は南壁中央部やや東よりから西壁、そして縄文土坑の重複部分に廻り、幅20㎝前後、深さ3～5㎝を測る。柱穴状掘り込みP_1は40×46㎝の方形、深さ25㎝を測り、西側に緩やかな半円形の浅い掘り込みをもつ。P_1は貯蔵穴かも知れない。床面は固くしまり安定している。

カマドは東壁南寄りに位置し、E－11°－Sの主軸を呈す。袖部は不手際により削除してしまった。焚き口部分の掘り込みは床面レベルと同一で、壁中央部より段を設けて25㎝ほど張り出している。遺物は埋土中より出土し、長甕と坏が実測できた。



第74図　32号住居址出土遺物実測図

出土遺物（第74図1～2）

1. 坏　口径12.8㎝　器高3.2㎝　平底気味の丸底より内彎し、口縁部はやや内傾気味となる。底部はヘラ削り、内面より口縁部外面横ナデ。

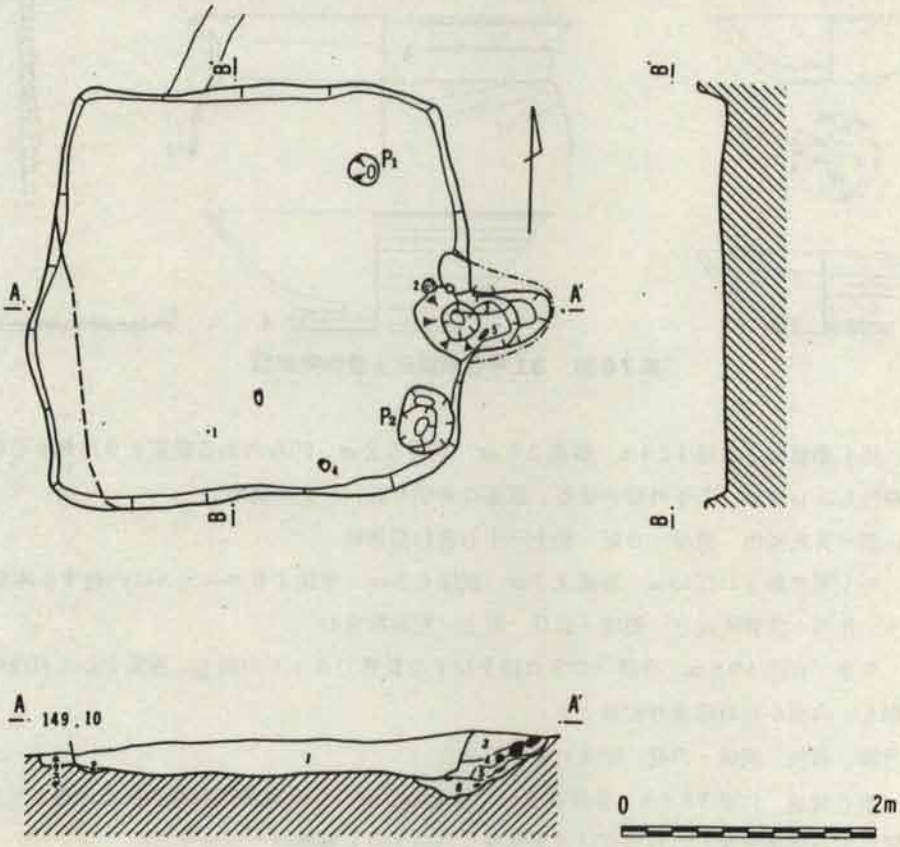
色調－赤褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む。

2. 長甕　口径24.5㎝　底部、胴部中位は欠損、砲弾状の長い胴部より、くの字状くびれを呈し、口縁部は大きく開広する。胴部は長い縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ。

色調－黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む。

31 号住居址（第75図）

43Aグリッドポイントがカマド前面に位置する住居址で、東方には33．34号住居址、西方に28．29号住居址、北西方向に30．32号住居址、北壁西側では耕作溝が接している。規模は3.2m×3.1mの方形プランで、N－89°－Eの主軸を呈す。西壁面は掘り過ぎて形状がやや歪んでしまった。残存壁高は良好な東壁で25cmを測り、西壁に連れて壁高は減少して残存悪くなる。周濠は確認できない。柱穴状掘り込みは2ヶ所確認され、P_1は北東部床面に位置し、直径23cm、深さ10cmを測る。P_2は南東コーナー部に検出された貯蔵穴と考えられる掘り込みで、40×50cmの方形状を呈し、深さ10cmを測る。床面は軟かく、多少凹凸を呈しているが、レベルは安定



第75図　31号住居址実測図

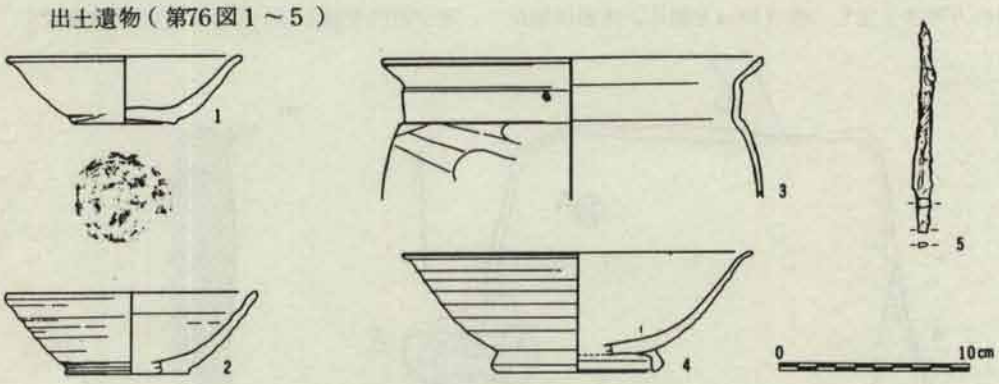
31号住居址埋土

1. 暗褐色土、FP　R粒　R•B　焼土粒含む
2. 暗褐色土　R粒多く含む
3. 暗褐色土　焼土粒　カーボン　R粒含む
4. 暗褐色土　3に似るがソフト
5. 褐色土　ソフトで焼土B含む
6. 黄褐色土　焼土粒　カーボン　灰を含む

している。

カマドは東壁中央やや南寄りに掘り込まれ、N－83°－Eと住居址よりやや北寄りを呈している。規模は全長1.1 m、幅0.5 mを測り、東壁より60cmほど張り出し、焚き口部分は半円状の浅い掘り込みで、東壁ライン上の燃焼部で15cmほど深さを測り、煙道部は40～45°傾斜で立ち上がる。袖部は左袖部が灰褐色土により構築されているが、右袖部は不明、左側壁部分に15cmほどの礫が補強されている。

出土遺物（第76図1～5）



第76図　31号住居址出土遺物実測図

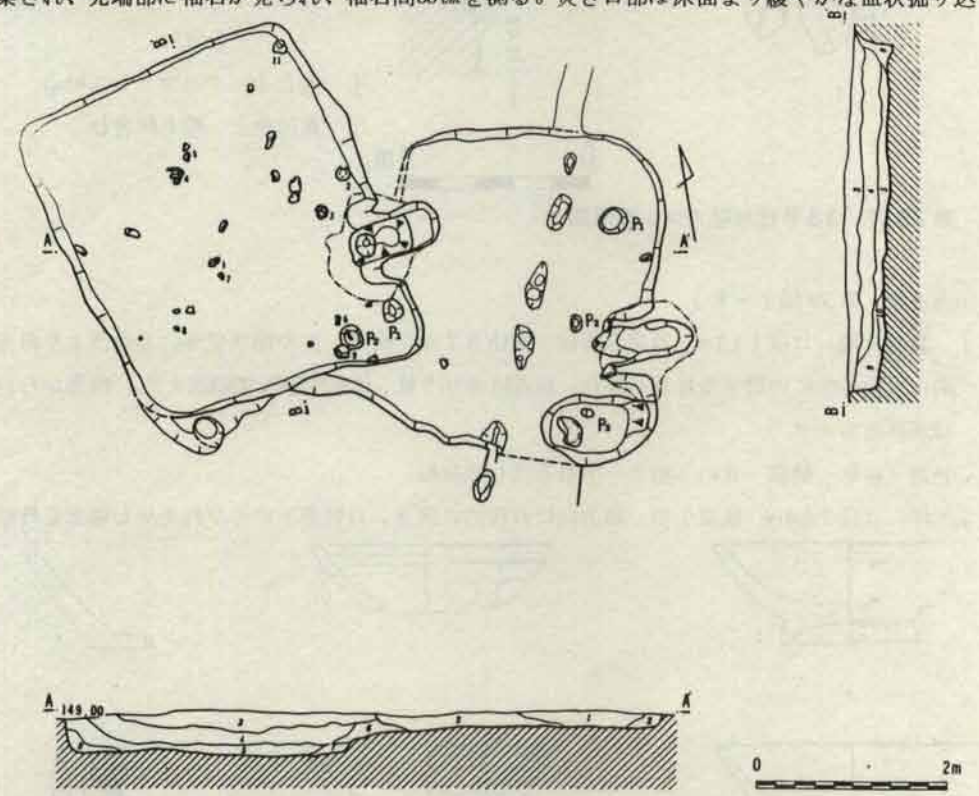
1. 坏（須恵器）口径12.4cm　器高3.5 cm　底径5.2 cm、凹みのある底部より内彎する体部へ移行し、口唇部は若干外反させる。底部は糸切り底，ロクロ成形。
色調－青灰褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒
2. 坏（須恵器）口径13cm　器高4.3 cm　底径6.5 cm　平底よりスムーズに内彎する体部を呈す。色調－淡青灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 長甕　口径19.8cm　所謂コの字口縁を呈する長甕でカマド内出土、胴部上位は斜位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
4. 高台付埦　口径18.4cm　器高6.3 cm　底径8.2 cm　くの字状に内彎する高台部より大きく開広する体部を呈し、口唇部は水平気味に外反する。施釉はハケヌリ(?)
5. 鉄製品、全長11.2cm　錐と考えられる、カマド内右側壁部出土。

33．34号住居址（第77図）

33号住居址は45A・Bグリットにまたがり、西壁部分が34号住居址と重複関係にある。耕作溝が、北東～南西方向に、住居址の中央部を横断して、点々と床面まで掘り込みが達している。北方に35号住居址、北東方向には36号住居址、西方に31号住居址が位置している。規模は3

4 m × 2.85 m で、やや歪んだ方形プランで、E－20°－Sの主軸を呈する。周濠の存在は不明柱穴状掘り込みは3ヶ所に確認され、P_1は25×30㎝の円形、深さ20㎝、P_2はカマド前面に位置し、10×15㎝の楕円形、深さ21㎝を測る。P_3は南東コーナーに位置する1.1 m × 0.7 m の楕円形、深さ15㎝の浅い掘り込みで、西側に30㎝ほどの礫が見られ、 貯蔵穴と考えられる。床面は安定したレベルを保つ。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、E－5°－Sの主軸を呈す。規模は全長1.05 m、幅35㎝ほどの細長い形状で、東壁ラインより50㎝ほど張り出す。袖部は灰褐色粘土により構築され、先端部に袖石が見られ、袖石間35㎝を測る。焚き口部は床面より緩やかな皿状掘り込



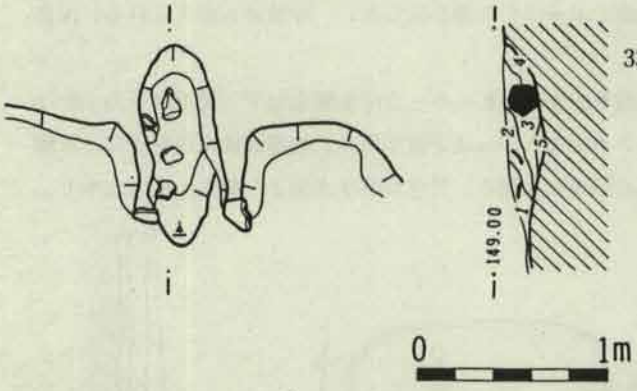
第77図　33．34号住居址実測図

33．34号住居址埋土

1. 溝状耕作土㉝
2. 暗褐色土㉝FP・R粒含む
3. 暗褐色土㉞1まりよい
4. 暗褐色土㉞3より明るくFP、R•B、R粒含む
5. 暗褐色土㉞黒褐色土．FP・R粒含む
6. 黒褐色土㉞
7. 黒褐色土㉞灰褐色粘質土を含む
8. 褐色土　㉞R粒含む
9. 暗褐色土㉞R粒．FPを含む
10. 暗褐色土㉞大きめのR•Bを含む

みで燃焼部に移行し、最深部分で8㎝ほどを測り、煙道部は45°傾斜で立ち上がる。カマド内に支脚として利用されたと思われる礫が存在する。

出土遺物は、カマド上面出土の勾玉を除いて、カマド内と埋土中出土である。



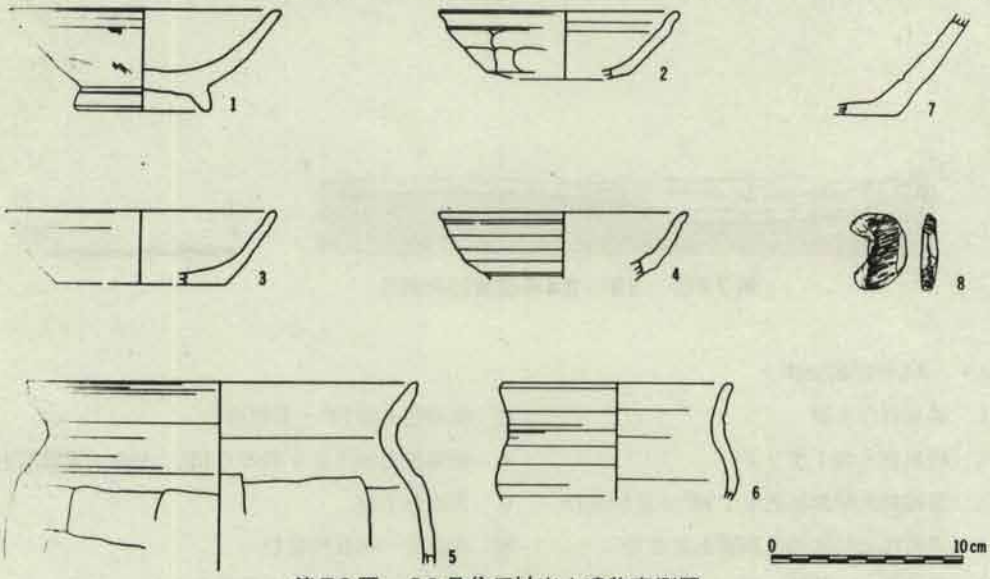
第78図　33号住居址カマド実測図

出土遺物（第79図1～8）

1. 高台付埦　口径14.1㎝　器高5.3㎝　底径6.7㎝　内彎しやや開き気味の高台部より斜方向に直線気味に内彎する体部へ移行、底部は糸切り底、体部外面軽い櫛描状ナデ、内面から口縁部外面横ナデ

色調－褐色　焼成－甘い　胎土－小石を含む粗砂粒

2. 坏　口径12.4㎝　底部欠損、斜方向に直線的に開き、口唇部下にくびれを呈し端部を外反



第79図　33号住居址出土遺物実測図

気味に丸める。体部はヘラ削り、底部周縁部は面取り状にヘラ削りを施す。内面から口縁部外面横ナデ。

色調－黄～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3. 坏　口径14.1㎝　器高3.8㎝　底径8.9㎝　平底より直線的に内彎する体部へ移行する。底部はヘラ削り、内面から外面口縁部は横ナデ、体部外面は大半が未調整。

色調－黄褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

4. 坏（須恵器）口径12.9㎝　底部欠損　体部外面にロクロ水挽き痕明瞭に残す。

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

5. 長甕　口径20.4㎝　胴部上位から口縁部片で、直立気味に内彎する胴部よりくの字頸部を呈し、斜方向に開く口縁部へ移行する。胴部は横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に横位のヘラ削りを施す。

色調－淡褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

6. 小甕　口径11.7㎝　くの字状に胴張りを呈する体部から弱いくびれを呈し、口縁部は直立気味に外反する。ロクロ成形で須恵質である。

色調－淡黄灰褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒含む

7. 底部片　土釜か羽釜の底部片であろう、底部はヘラ削り、体部に軽い櫛描状ナデを施す。

色調－淡黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

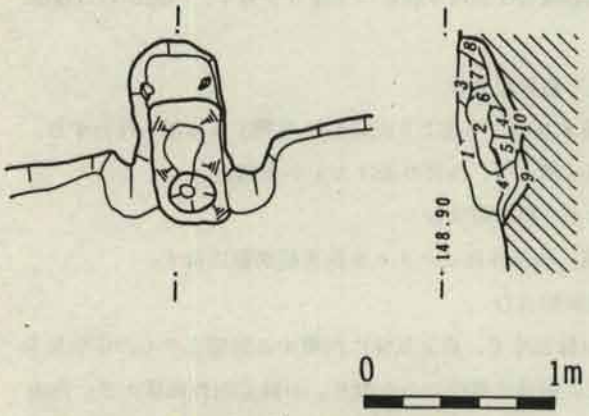
8. 石製模造品（勾玉）全長4㎝、最大厚6.4㎜、孔径2㎜

34号住居址（第77図）

44Aグリットポイントが住居址南東部に位置し、33号住居址によってカマド付近が掘り込まれているが、形状を著しく破壊するには至っていない。西方には31号住居址、北東方向に35号住居址が位置する。規模は3.6ｍ×3.1ｍの方形プランで、南東コーナー部分にやや張り出しの傾向が見られ、N－73°－Eの主軸を呈している。残存壁高は北壁、西壁が30㎝前後、南壁で35㎝を測り、75°傾斜の掘り込みである。周濠は不明である。柱穴状掘り込みは南東コーナー部に2ヶ所確認され、P_1はカマド右袖脇に位置する20㎝前後の円形、深さ14㎝を測り、P_2はP_1の西方に位置する20×25㎝の円形で深さ30㎝を測る。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、N－84°－Eの主軸を呈する。規模は全長1ｍ、幅46㎝を測る方形状の掘り込みで、袖部は灰褐色粘土により構築され、東壁ラインより左袖部35㎝、右袖部40㎝ほどを作り出し、袖間は48㎝を測る。焚き口部は袖部先端ラインより僅かに住居址内より掘り込まれ、最深部で15㎝を測り、燃焼部は煙道部に向け20°ほどの傾斜角で移行し、ほぼ垂直に12㎝ほど立ち上がる。

遺物は住居址全体に点在し、実測可能な個体は11点を数え、坏が10点、壺形土器底部1点である。



34号住居址カマド

1. 灰褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土　少量の焼土粒含む
3. 黒褐色土　灰褐色粘質土　R粒含む
4. 灰褐色粘土
5. 灰褐色粘土　焼土Bを含む
6. 褐色土　　ソフト
7. 灰褐色粘質土
8. 褐色土　　6に似る
9. 褐色土　炭化物を含む
10. 褐色土　多量の焼土Bを含む

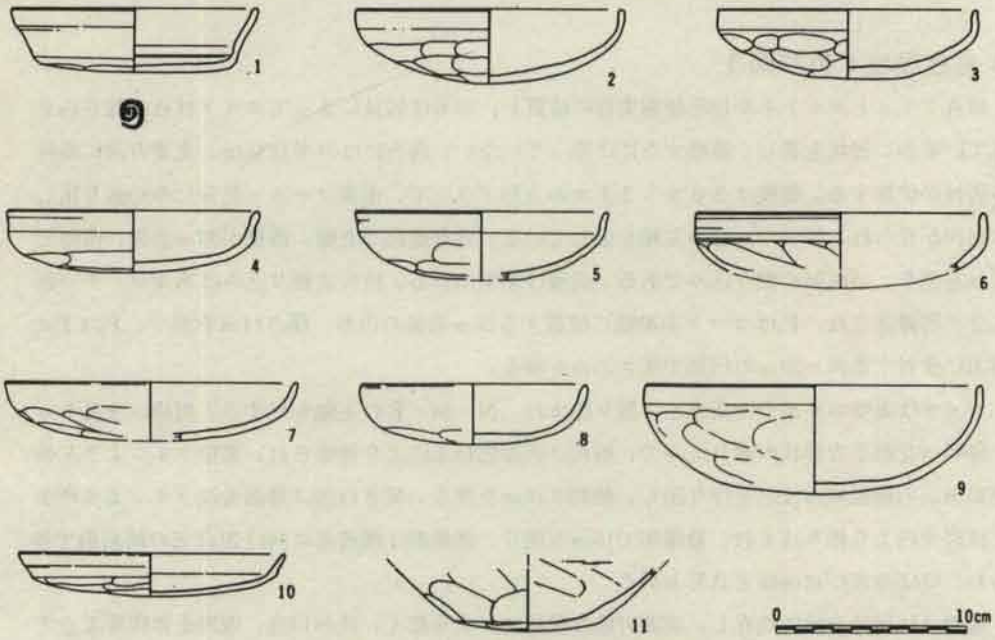
第80図　34号住居址カマド実測図

出土遺物（第81図1～11）

1. 坏（墨書土器）口径13㎝、器高3.4㎝、底径10㎝、底部は平底で周縁部が丸味を帯び皿状を呈し、体部は直立気味に内彎する。底部から周縁部へラ削り、内面から体部は横ナデ、底部中央部に「り」の墨書を記す。

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

2. 坏　口径14.1㎝　器高3.9㎝　丸底より直立気味に内彎する口縁部へ移行する。底部へラ



第81図　34号住居址出土遺物実測図

削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3　坏　口径13.8㎝　器高3.7㎝　平底気味の丸底を呈し、口縁部は短かくほぼ直立する。

色調－褐色　焼成－良好　胎土－小石含む粗砂粒

4　坏　口径13.3㎝　器高3.3㎝　扁平な丸底から直立気味に内彎し端部を丸める。

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

5　坏　口径13.2㎝　器高3.6㎝　丸底より短かくやや外反気味の口縁部へ移行する。

色調－赤褐色　焼成・胎土上記に同じ

6　坏　口径15㎝　底部欠損．　色調－褐色　焼成・胎土上記に同じ

7　坏　口径15.2㎝　推定器高3.1㎝　浅い丸底よりスムーズに内彎する口縁部へ移行する。

色調　焼成　胎土　6に同じ

8　坏　口径11.7㎝　器高3.3㎝　丸底より内彎しスムーズに口縁部へ移行する。ヘラ削りは底部だけで、内面から体部外面横ナデ

色調－赤褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

9　坏　口径17.8㎝　器高5.8㎝　大型の坏で、丸底より深めの体部を呈し、口縁部は直立気味に内彎する。底部～体部はヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調(外)くすんだ黒褐色(内)黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

10　坏　口径14㎝　器高2.4㎝　浅い盤状の丸底から軽い陵を呈し、短かく外反する口縁部へ移行する。皿状の形態を呈する坏である。カマド内出土

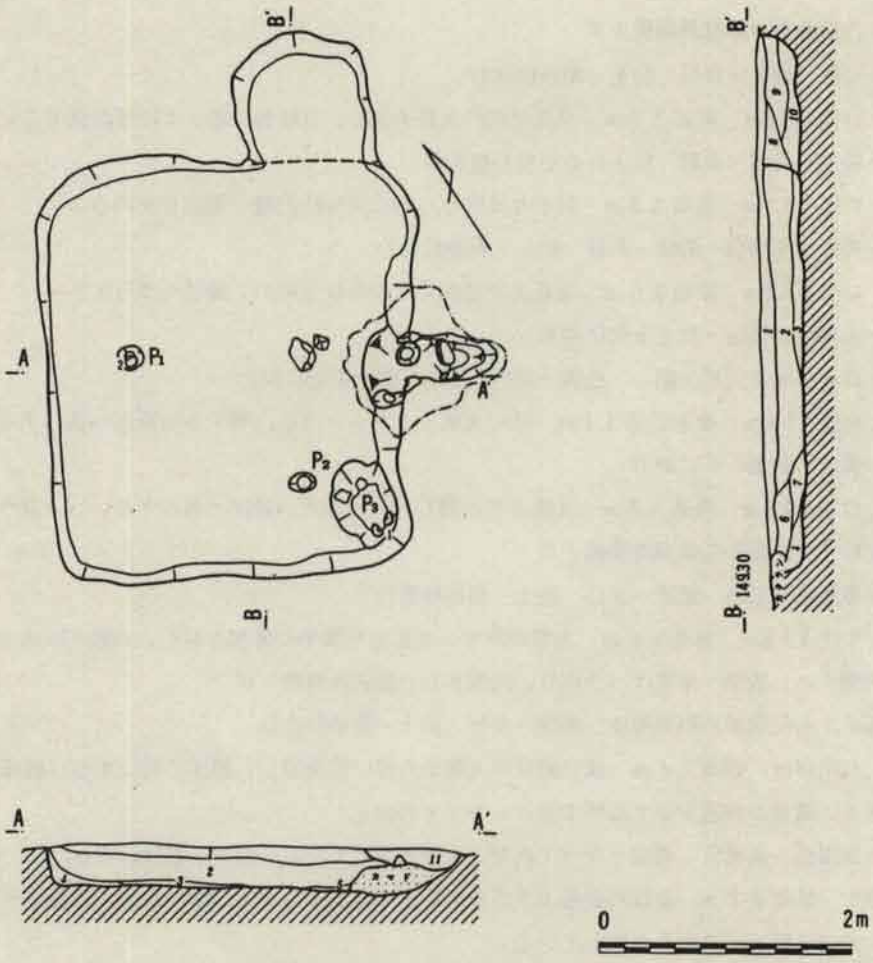
色調－黄褐色～赤褐色　焼成－カマド内で二次焼成受けている。胎土－粗砂粒含む

11　底部片　底径7.7㎝　皿状の底部より直線的に開く体部下位まで、残存、底部、体部はヘラ削り、内面は軽いヘラ削りを施している。

色調(外)黒褐色(内)赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

35号住居址（第82図）

45B．Cグリットに確認され、東方に36号住居址、南方に33、34号住居址が位置し、周辺部には耕作溝が北東～南西方向に走向している。その一本がカマド上面を横断しているが、形状を著しく変形させるには至っていない。北東コーナー部には土坑状掘り込みが重複している。規模は3.25m×3mの方形プランで、E－30°－Sの主軸を呈する。残存壁高は南壁で25㎝、他壁で35㎝を測り、60～70°傾斜で掘り込まれている。周濠の存在は認められなかった。柱穴状掘り込みは3ヶ所確認され、P_1は床面中央部西寄りに位置し、直径20㎝　深さ20㎝を測り、高台付椀が出土した。P_2は直径18㎝　深さ7㎝を測り、P_3は南東コーナー部に位置し、貯蔵穴の掘り込みと考えられ、50×65㎝の歪んだ方形で深さ20㎝を測る。コーナー部で真二つに割れた坏が出土。床面は軟らかなローム土であるがレベルは安定している。



第82図　35号住居址実測図

35号住居址と土壙埋土

1　黒褐色土　ソフトで部分的に耕作土が含まれる

2　暗褐色土　R粒・FP含みしまりよい

3　暗褐色土　R•B、R粒含み2より暗い

4　暗褐色土　R粒多く含みソフト

5　暗褐色土　黄褐色粘土B、焼土粒を含む

6　黒褐色土　FP少量含みしまりよい

7　暗褐色土　カーボン　焼土粒含む

8（土）暗褐色土　R•Bを多く含む

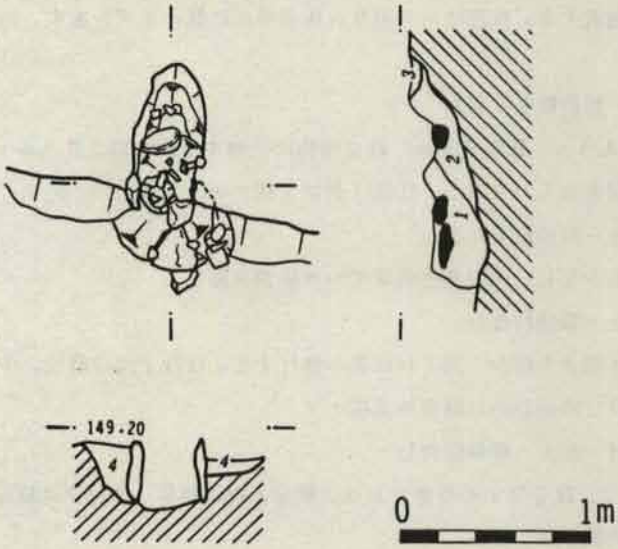
9（土）暗褐色土　8よりも暗い

10（土）暗褐色土　斑点状にR•B、R粒を含む

11　耕作溝

カマドは東壁中央部に掘り込まれ、E－25°－Sとやや住居址より東寄りの主軸を呈している

。規模は全長70㎝、幅33㎝の細長い形状で、焚き口部は半円状、燃焼部に向け浅い皿状の掘り込みを呈し、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。袖部の張り出しはなく、東壁ライン上に袖石を設けている。袖石間は26㎝を測る。カマド前面には礫が散在しており、「π」状の石組みが考えられる。カマド内には支脚として利用された礫が横転しているが、耕作時に倒されたものであろう。



35号住居址カマド

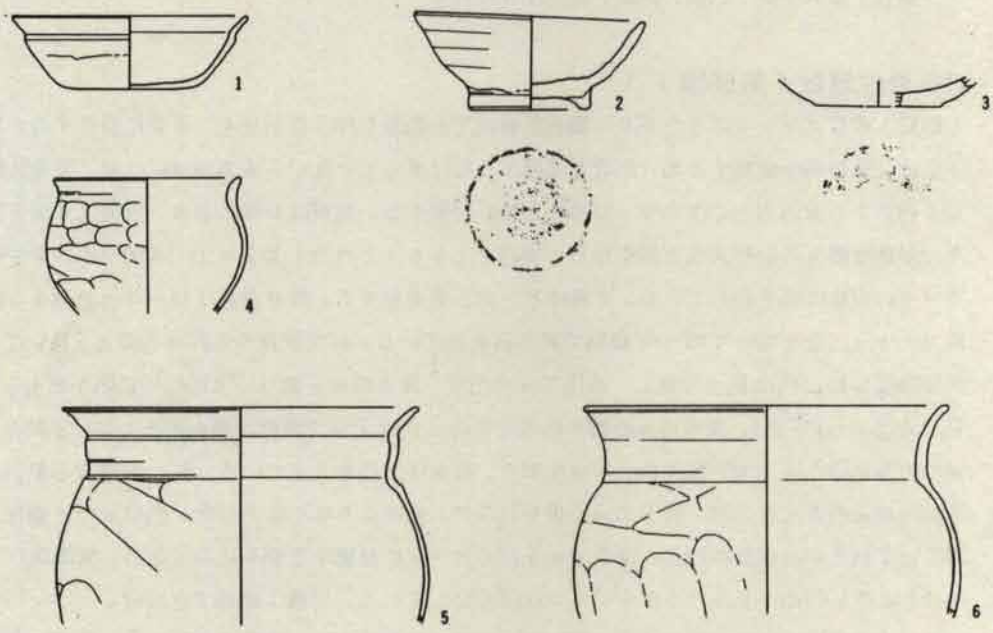
1　黒褐色土　焼土粒　R粒含む

2　明黄褐色粘質土　多量の焼土　Bを含む

3　耕作溝

4　暗褐色土　ソフトでR粒含む

第83図　35号住居址カマド実測図



第84図　35号住居址出土遺物実測図

出土遺物（第84図1～6）

1　坏　口径12.4㎝　器高3.9㎝　底径6.7㎝　平底から斜方向に直線的に内彎し、口唇部下に強いくびれを呈し、口縁部は開広する。底部はヘラ削り、体部外面に軽いナデを施す、内面から外面口縁部横ナデ

色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

2　高台付椀　口径12.2㎝　器高4.9㎝　底径6.2㎝　直立気味に内彎する高台部よりスムーズに内彎する体部に移行し、端部を丸くおさめる。底部は糸切り底、ロクロ成形

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

3　坏　推定底径6.4㎝　糸切り底を呈し、内面黒色処理でヘラ研磨を施す

色調－淡褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む

4　小型壺　口径9.6㎝　球状の体部より短かく開く口縁部へ移行する。体部下位は縦位、中位～上位は斜位と横位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調－褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

5　長甕　口径18.5㎝　所謂コの字口縁を呈する長甕である。胴部上位は斜位、中位下は縦位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調－褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

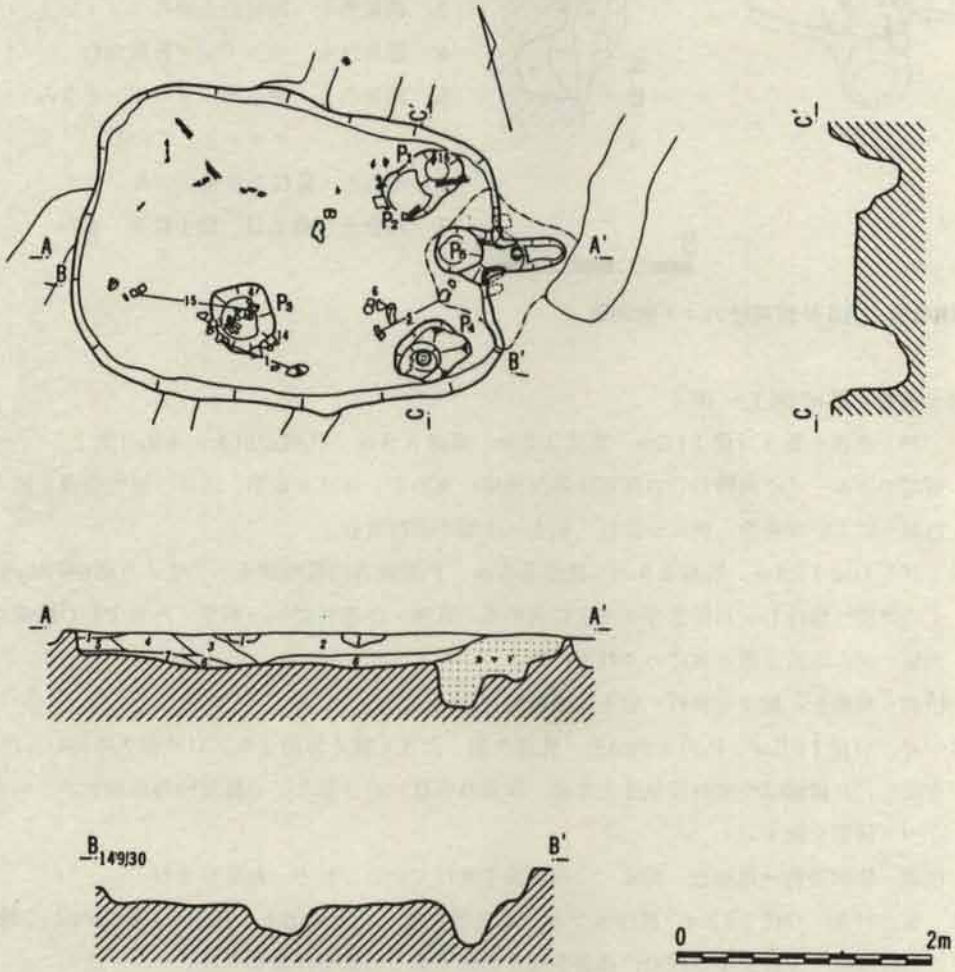
6　長甕　口径13.8㎝　上記コの字口縁を呈する長甕に似るが、頸部から外反して開く口縁部へ移行する。手法、色調、焼成、胎土は5に同じ

36号住居址（第85図）

46C．47Cグリットにまたがり、調査区域内で土師器を伴う住居址中一番東に位置する。埋土上面に耕作溝が横断するが、形状を破壊するには至っていない。東方15ｍには37．38号住居址、西方から南西方向には35号．33号住居址が位置する。規模は長軸3.2ｍ、短軸2.4ｍを測り、形態は隅丸の台形状長方形を呈し、東辺（1.5ｍ）と西辺（2.1ｍ）では60㎝の差を生じ、カマドの南脇は張り出している。主軸はE－23°－Sを呈する。残存壁高は15～25㎝を測り、南西コーナー部分を除いて75°～80°傾斜で掘り込まれている。柱穴状掘り込みは北西部を除いて5ヶ所確認され、P_1はP_2と重複し、直径35㎝の円形、深さ35㎝を測り、上面にて鉄鏃が出土した。P_2は直径40㎝の円形、深さ15㎝の掘り込みである。P_3は上面で遺物が集中出土している40×60㎝の方形状掘り込みで、深さ20～25㎝を測り、底面は凹凸を生じている。P_4は貯蔵穴と思われる45×60㎝の歪んだ方形、深さ45㎝の掘り込みで、底面より坏が出土した。P_5はカマド前面に掘り込まれた40㎝前後の円形、深さ30㎝を測るカマドに付属する掘り込みである。床面はハードにしまり、凹凸は見られるがレベルはほぼ安定している。周濠は確認できない。

カマドは東壁中央部を掘り込み、E－23°－Sの主軸を呈する。規模は全長60㎝、幅35㎝の細長い掘り込みで、前面にP_5を配し、燃焼部で深さ10㎝ほど掘り込み、煙道部への移行個所に10

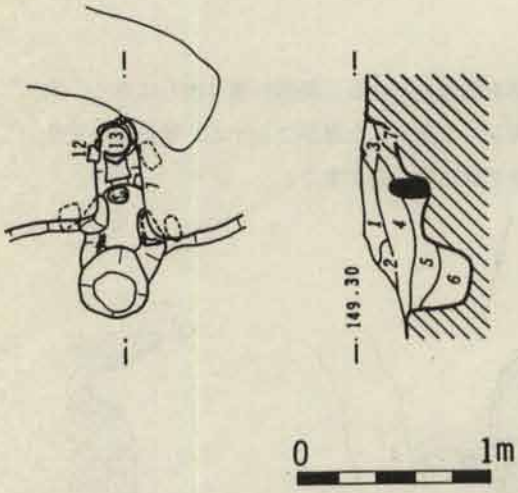
cmほどの段を設け、煙り出し口には長甕の口縁部を利用している。袖部の張り出しはなく、東壁ライン上に袖石を設けており、カマド内に支脚として利用した礫が立石する。袖石間は狭く上端で15cm、下端で20cmを測る。床面の北部を除き炭化物が散在する。



第85図　36号住居址実測図

36号住居址埋土

1. 耕作溝
2. 暗褐色土　焼土粒、FP少量含む
3. 暗褐色土　RBを多量に含む
4. 暗褐色土　2より明るい
5. 暗褐色土　多量の焼土粒、B、カーボン含む
6. 暗褐色土　少量焼土粒、カーボン含む
7. 暗褐色土　ソフトでR粒、R•Bを含む



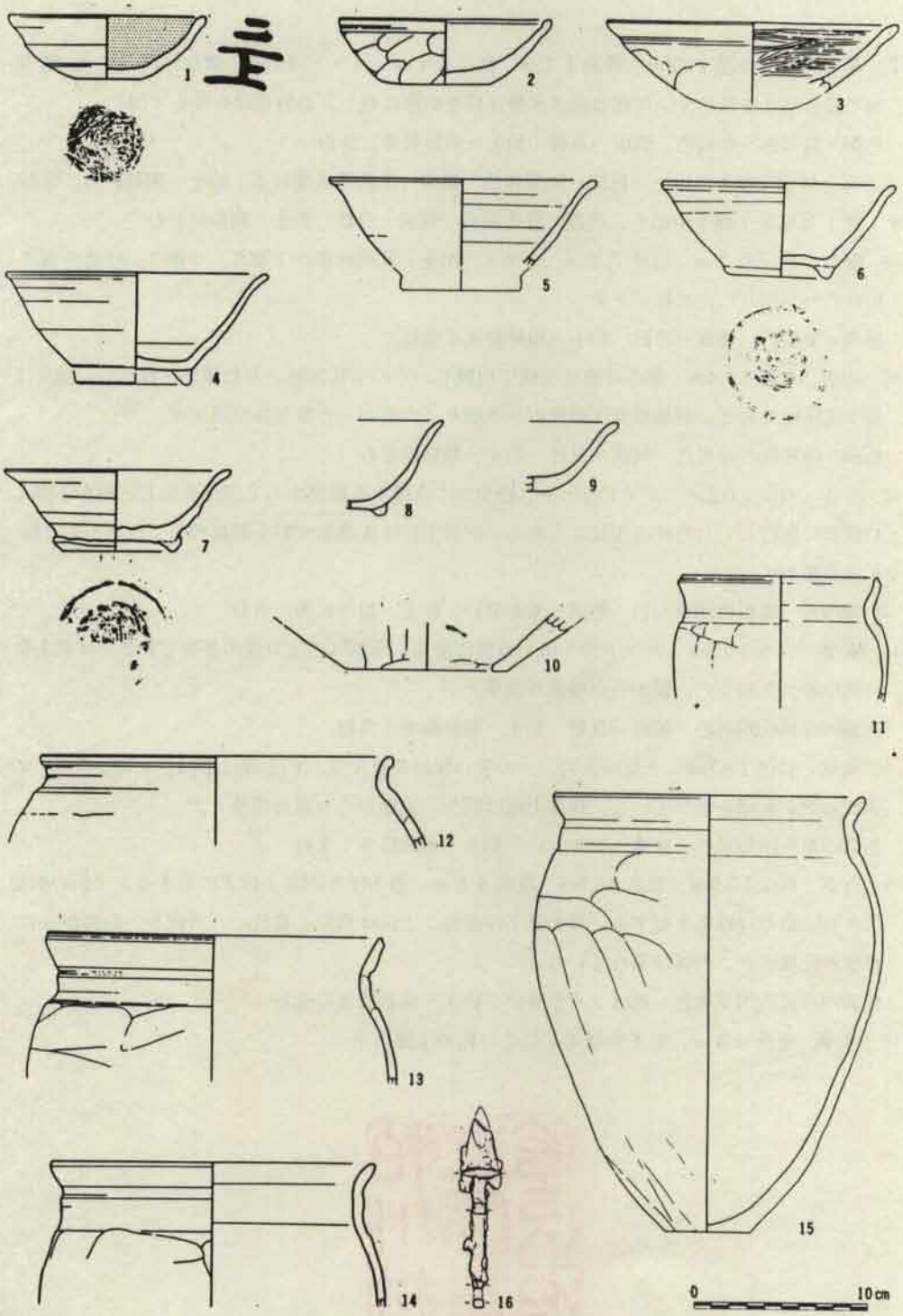
36号住居址カマド

1. 黄褐色粘土　多量の浮石を含む
2. 暗褐色土
3. 黄褐色土　暗褐色土含みソフト
4. 暗褐色土　カーボン・R粒含む
5. 暗褐色土　焼土B　カーボンを含み、サラッとしている
6. 褐色土　R粒を多量に含みソフト
7. 褐色土　焼土B　焼土粒多く含む

第86図　36号住居址カマド実測図

出土遺物（第87図1～16）

1. 坏（墨書土器）口径11.6㎝　器高3.7㎝　底径3.8㎝　P_3周辺出土。糸切り底より均一な器肉でスムーズに内彎し、口唇部は外反気味に丸める。ロクロ成形、内面は黒色処理を施す
色調－にぶい黄褐色　焼成－良好　胎土－少量の砂粒含む
2. 坏　口径12.4㎝　器高3.8㎝　底径6.5㎝　P_4貯蔵穴内底面出土　平底より直線的に内彎する体部へ移行し、口唇部分は玉状に丸める。底部・体部外面ヘラ削り、内面より口縁部外面横ナデ、内面は斑点状にハガれている。
色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む
3. 坏　口径16.9㎝　P_3の上面出土　底部欠損　大きく開く体部より、口唇部下に弱いくびれを呈し、口縁部はやや外反気味となる。体部外面軽いヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面はヘラ研磨を施す。
色調－紫赤褐色～黒褐色　焼成－二次焼成を受けている　胎土－粗砂粒含む
4. 高台付椀　口径15.2㎝　底径6.7㎝　高台部欠損　P_3上面出土　底部から斜方向に内彎し、口唇部はやや外反する深めの体部を呈する坏である。底部は糸切り底、ロクロ成形
色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む
5. 高台付椀　口径14.4㎝　底部欠損　カマド前面とP_4西側で接合
色調－灰褐色～淡褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む
6. 高台付椀　口径13.4㎝　器高5.4㎝　底径5.7㎝　P_4の北西30㎝出土　高台部は三角形を呈し、外反気味で、接合部は丁寧に仕上げている。体部は直線的に開き、口唇部はやや外反する。底部は糸切り底、ロクロ成形
色調(内)にぶい黄褐色(外)黄褐色と黒褐色が斑点状　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む



第87図　36号住居址出土遺物実測図

7　高台付椀　口径13.2㎝　器高4.7㎝　底径6.4㎝　カマド内出土、雑な付高台部は内彎気味で接合部は密着せず。体部器面は水挽き痕を明瞭に残し、口唇部は外反して開く。

色調－黄褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

8　高台付椀　埋土中出土、色調－灰黒褐色　焼成－二次焼成受ける　胎土－粗砂粒多く含む

9　坏（須恵器）埋土中出土、色調－青灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

10　甑片　底径9.3㎝　孔径7.7㎝　カマド内出土　孔周縁部は丁寧なヘラ削り、体部外面は縦位のヘラ削り、内面軽いナデ

色調－黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

11　小壺　口径11.4㎝　胴部は直立気味に内彎し、くの字状頸部より口縁部へ移行し、端部は鋭り気味に丸める。胴部外面は斜位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調－暗褐色～赤褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む

12　土釜　口径20.2㎝　カマド内出土、緩やかに内彎する胴部からくびれを呈し、短かく開く口縁部に移行し、口唇部は玉状に丸める。胴部上位は未調整で粘土紐痕残る。内面から口縁部外面横ナデ

色調(内)赤～黄褐色(外)黄褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

13　長甕　口径19.3㎝　カマド煙り出し口部に使用、所謂コの字口縁の長甕である。体部上位は斜位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ

色調(内)赤褐色(外)褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

14　長甕　口径18.7㎝　上記13と同じコの字口縁の長甕片で、P_3上面にて出土。13よりもコの字状頸部が丸味を帯びている。体部上位は斜位、内面から口縁外面横ナデ

色調(内)褐色(外)黒褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

15　長甕　口径17.9㎝　器高25.5㎝　底径4.8㎝　最大径を胴部上位下に呈する。寸胴の胴部より13に似る口縁部を呈する。最大径下は縦位、上位は斜位、横位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ、内面は荒れている。

色調(内)赤褐色(外)黒褐色　焼成－やや甘い　胎土－粗砂粒多く含む

16　鉄鏃　全長9.5㎝、若干先端部を欠く、P_1の上面出土

相川村立図書館

37号住居址（第88図）

51B、Cグリットに検出された縄文時代前期の竪穴住居址である。当住居址は38号住居址内を掘り込み、形態はすっぽり38号住居址北東部に入っている。37，38号住居址は調査区域内の最東端に位置し、小谷地への傾斜が強まる地点に当り、耕作土も浅く攪乱も著しい地点である。規模は3.75m～3.8mの歪んだ方形状プランで、N－21°－Eの主軸を呈する。残存壁高は50～60cmを測り、65°～75°傾斜の掘り込みである。周濠状掘り込みは確認されなかった。柱穴状掘り込みは2ヶ所確認され、P_1はほぼ中央に位置し、20cm前後の円形、深さ30cmほどで、P_2は南壁沿いに在り、20cm直径の円形、深さ5cmを測る。

炉址と思われる掘り込みは中央部西寄りに位置し、カーボン、焼土粒を含む75cm×55cmの楕円形、深さ3～5cmを測る。

床面はレベル的には安定しているが凹凸が目立つ。

37号住居址出土遺物（第89図1～10）

37号住居址を明確に性格づける遺物は、ほとんど見当らないが、北西の壁際に床面より若干の間層をもって（1）が出土し、東北の壁付近には石斧（第91図−1）が出土している。その他は埋土中出土のもので、38号住居址出土のものと接合するものもあった。

1. 胴部の小片で、半裁竹管による連続爪型文をその文様構成の主体としている。又、その連続爪型文は幅広の平行沈線によって上下を区画している。おそらく、深鉢型土器と思われ、厚手で砂粒を多く含んでいる。色調－淡褐色　焼成－堅緻である。
2. 竹管による連続爪型文と刺突文によって文様を構成し、爪型文はやや隆起させた区画内に施文している。褐色を呈し砂粒を含む、内彎するキャリパー状の口縁部小片で、焼成は良く堅緻である。

3.～5. 地文を斜縄文（単節）とし、竹管による平行沈線を横位に施したもので、5は胴部片である。いずれも褐色を呈し、砂粒を多く含んでいる。

6. 斜縄文の痕跡を認める。底部小片で、施文後、底部直上を指頭によって横位ナデを施す
7. 斜縄文をわずかに認める。深鉢型土器の底部に近い部分で、焼成もよく淡褐色を呈し堅緻である。

8.～10　いずれも竹管による平行沈線（縦　横　斜）によって文様を構成している。8は内彎する口縁部にボタン状の貼り付けを行なっている。砂粒を含み堅緻である。

石器（第91図1～3）

1. 撥型の石斧で、粘板岩製である。基部端に自然を残す。明瞭な使用痕は認められない。
2. 基部が抉入している貢岩製のものである。

3. チャート製の石錐で刃部はよく加工してある。

38号住居址（第88図）

50B・C、51A．B．C、52A、B．Cグリットに検出され、北東部は37号住居址と重複する。当住居址は予備調査（サブトレンチ）により西壁の一部が確認されている。規模は7.6 m×6.5 mの長方形で、N－15°－Wの主軸を呈する。残存壁高は、南東方向への傾斜に連れて減少し、南壁部から東壁部の一部が不明である。北壁から西壁の良好な壁高は50～70cmを測る。周濠は確認できなかった。柱穴状掘り込みは14ヶ所確認され，南西部に集中する。

炉址と思われる掘り込みは不明であるが、焼土、カーボンが若干37号住居址南東コーナー部方向に認められる。床面は37号住居址と同様である。

出土遺物（第89図11～14、第90図15～21）

住居中央部よりやや南西に二基の埋甕（11．12）が検出された他、床面上より遺物が検出された。

11．北側の埋甕に使用されていたもので、胴部より上半を欠損する。残存する器面は無文であるが、わずかに文様帯の痕跡（何か不明）が認められる。外面は全体的にヘラ削りで調整し，内面はナデている。底部径は12.4cmを測り、やや上げ底である。内面にカーボンの付着を認める。

色調－淡褐色　胎土－砂粒を含む　焼成－堅緻である

12．やや朝顔型に外反すると思われる口縁部下方から、一旦孕んでくびれる胴部にかけてのもので、11の南東に埋甕として検出された。文様構成は斜縄文を地文とし竹管による平行沈線を横位に三段施している。

色調－赤橙色　胎土－砂粒を多く含む　焼成－堅緻である。

13．底部径約8cmの小型の無文土器である。底部から立ち上がってくびれる台状の部分は、指頭によるナデ、やや厚みをもつ胴部はヘラ削りを施している。底部と胴部の接合痕はくびれ部分に認められる。

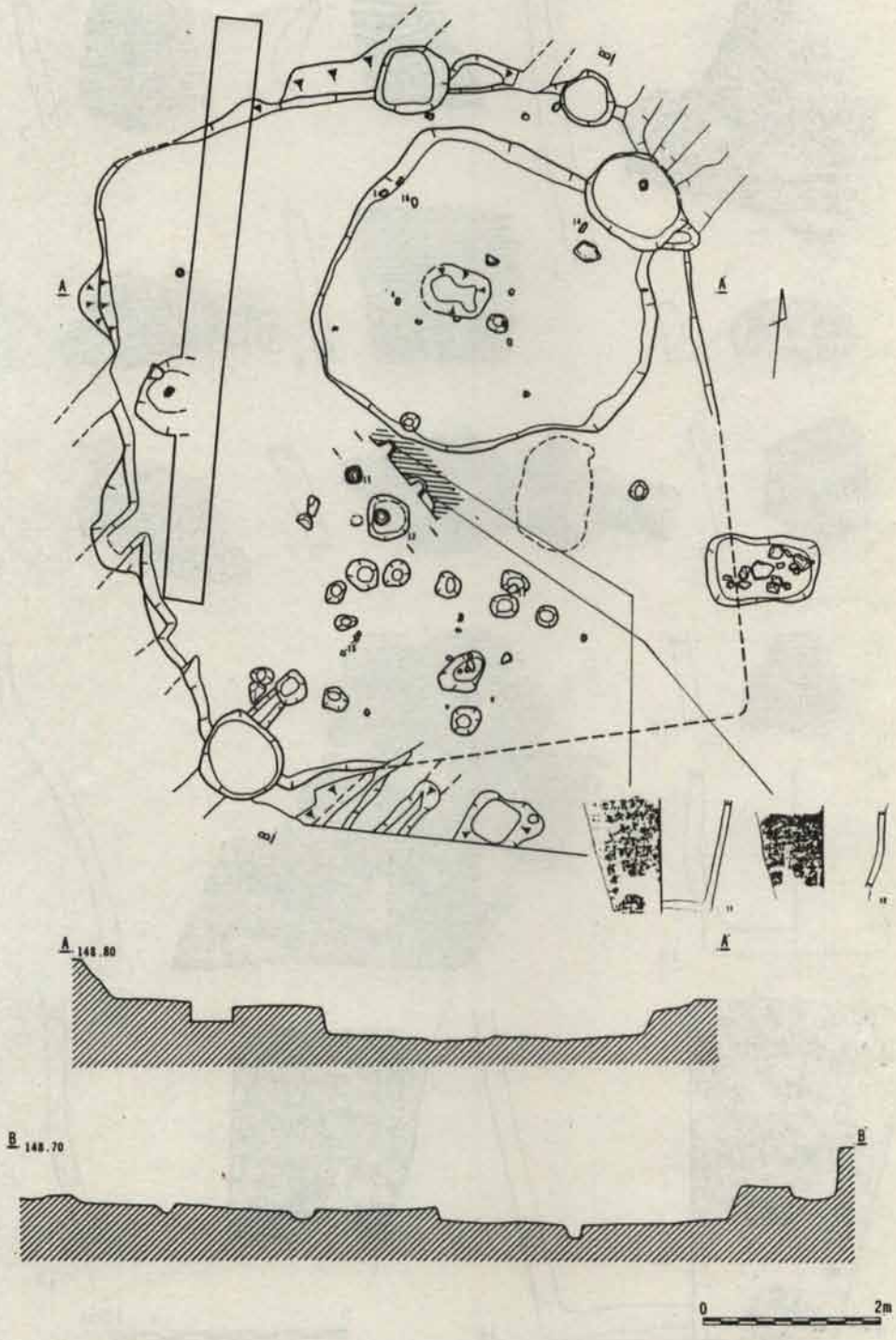
色調－淡褐色　胎土－砂粒を多く含む　焼成－堅緻である

14．単節斜縄文を地文とし，5条及び10条の平行沈線で文様構成している。内彎する深鉢型土器と考えられ、木の葉状の文様は5条，それを区画すると思われる平行沈線は10条で構成している。木の葉状文は二段想定できよう。内面は丁寧にナデを施す。

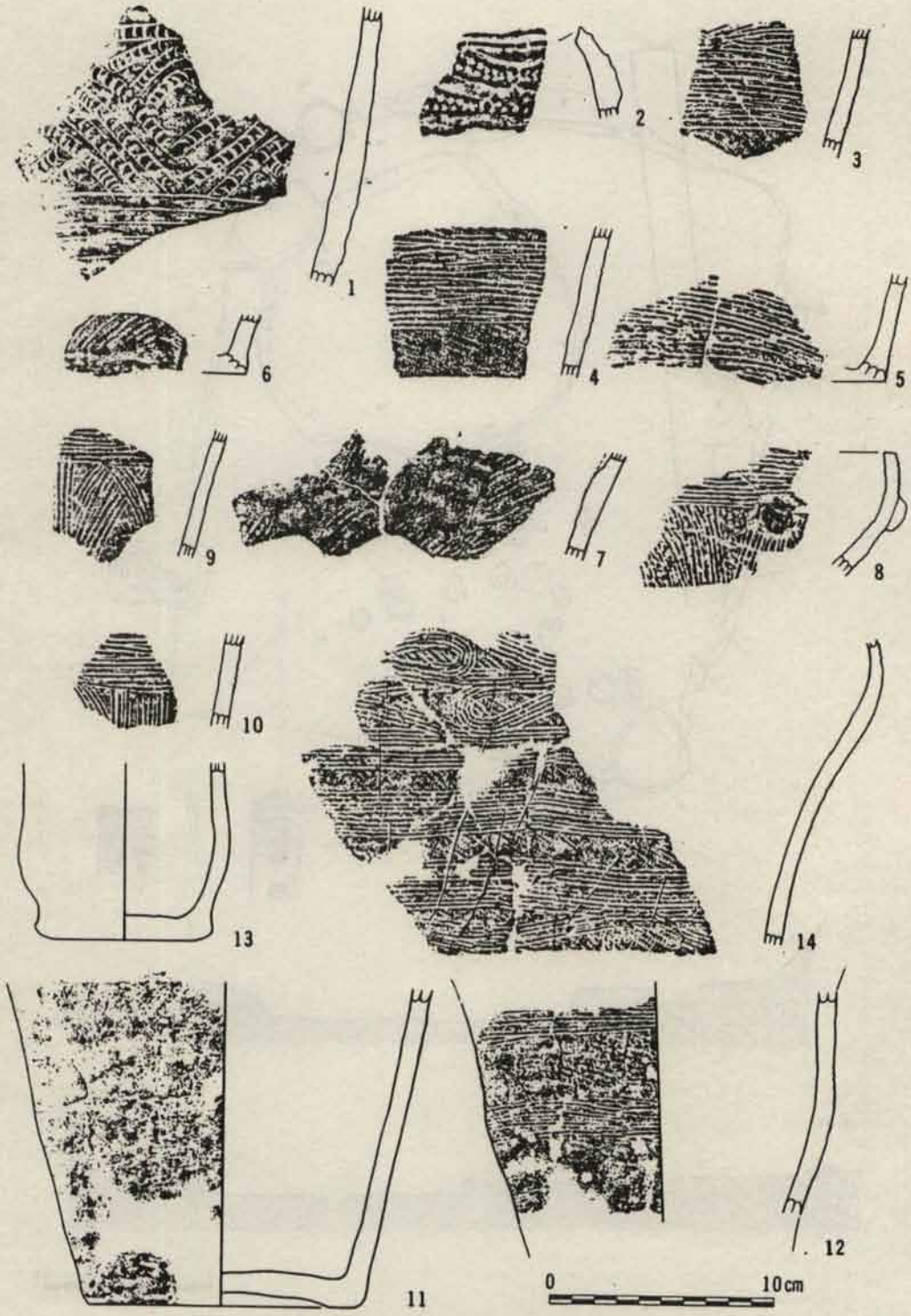
色調－褐色　胎土－砂粒を多く含む

15．縄文を地文として竹管による平行沈線で文様を構成している。おそらく，波状口縁の深鉢型土器と思われる。

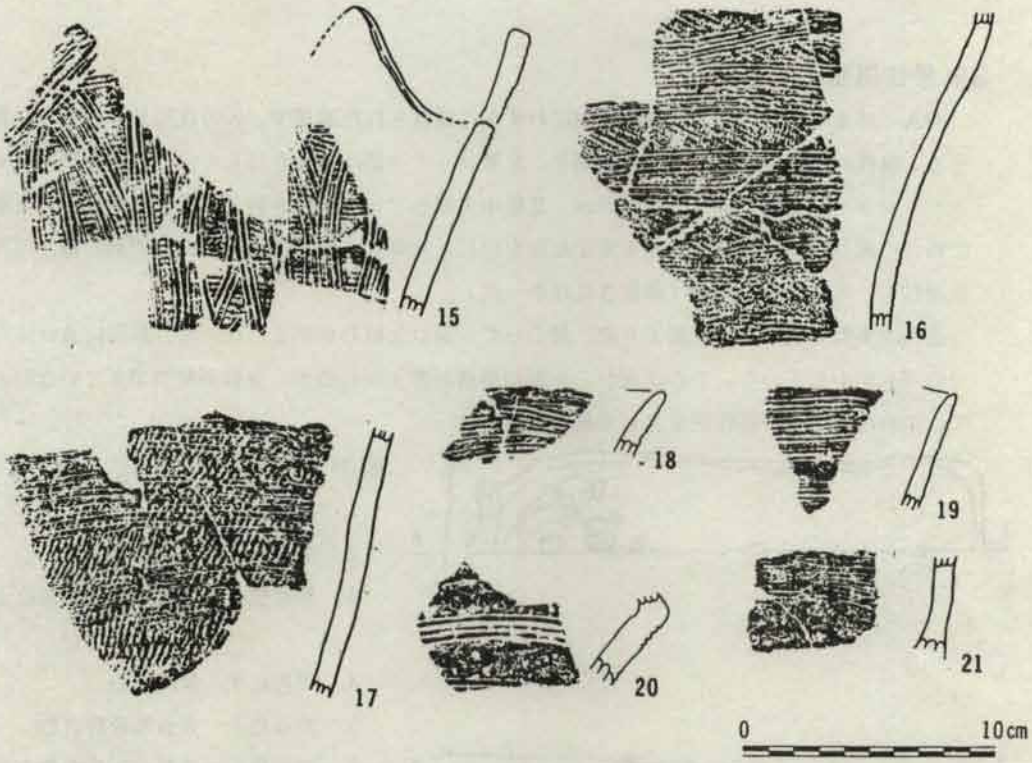
色調－褐色　胎土－微砂粒を含む　焼成－堅緻である。



第88図　37．38号住居址実測図



第89図　37．38号住居址出土遺物実測図（1）



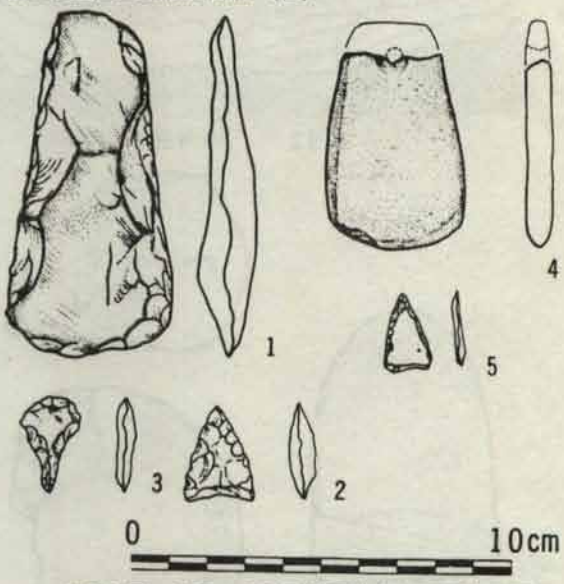
第90図　37．38号住居址出土遺物実測図（2）

16. 14と同一個体と考えられる。

17. 単節の斜縄文を地文とし、平行沈線を横位に施した胴部下半片である。沈線は弱く、ナデを内面に施している。概して淡褐色を呈し、砂粒を含む堅緻である。

18.～20.多条の平行沈線をもつ口縁部小片で、砂粒を含み堅緻である。20はくの字状に内彎する口縁部片であろう。

21. ヘラ磨きされ、内面にカーボンが多量に付着している。



第91図　37．38号住居址出土石器実測図

石器（第91図4.　5）

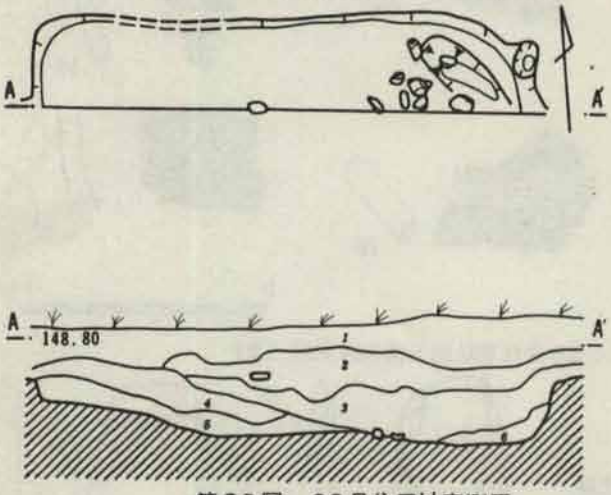
4.　石製垂飾で、孔を境に上部が欠損している。材質は砂岩である。

5.　材質はチャートで、刃部にのみ加工を行なっている剝片石鏃である。

39号住居址（第92図）

37A．38Aにまたがり、調査区域内にわずかに確認された遺構で、20号住居址の南東に位置する。規模は北辺で、3.8 mほどを測り、北東コーナー部は隅丸を呈している。残存壁高はセクションライン東壁で50㎝、西壁20㎝、北壁中央部分で18㎝ほどを測る。床面は西壁から東壁に斜々に掘り込みを増している不安定な面を呈し、北東コーナー部に細長い楕円形の掘り込みを設けている。周濠、柱穴は確認されなかった。

遺物は東側に集中して床面より礫に混じって、羽口と砥石が出土した。尚、床面に食い込んで鉄滓も出土している。この状況からか鍛冶遺構が考えられるが、全容が解明できていないので、この段階では一応住居址として扱っておく。



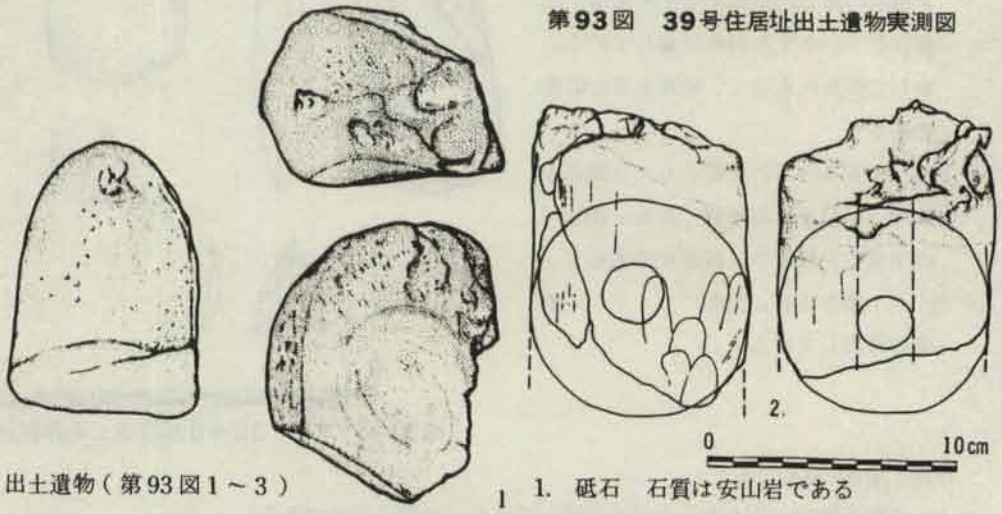
第92図　39号住居址実測図

第39号住居址埋土

1. 耕作土
2. 黒褐色土　FP含む
3. 黒褐色土　2より明るく褐色土　B．R粒含む
4. 黒褐色土　R粒含む
5. 暗褐色土　多量のR粒含む
6. 暗褐色土　多量の木炭を含みサラッとしている。

0　2m

第93図　39号住居址出土遺物実測図



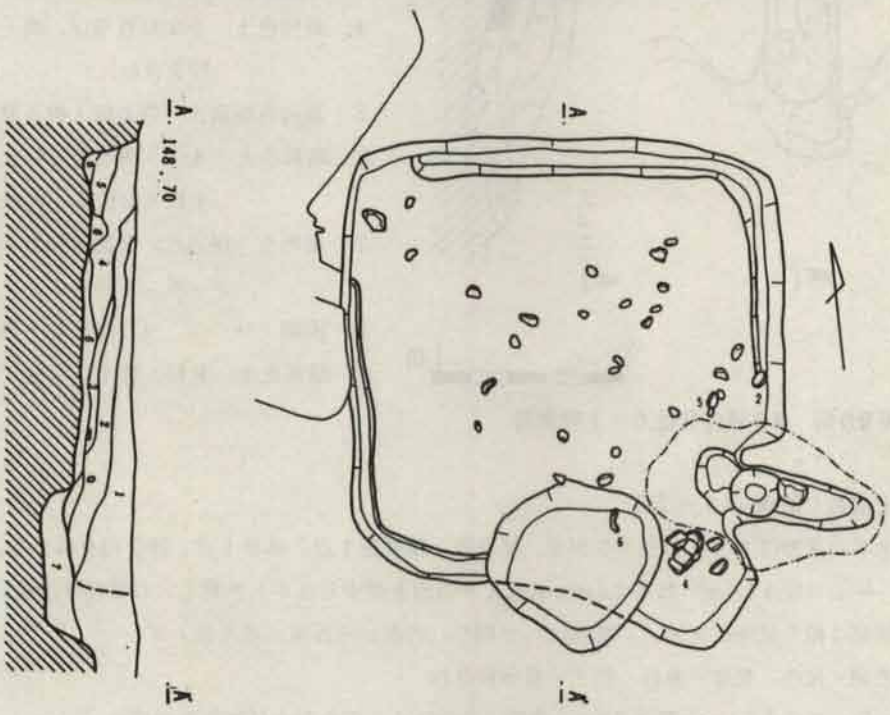
出土遺物（第93図1～3）

1. 砥石　石質は安山岩である
2. 羽口　長さ11.8㎝　径8.6㎝　孔径2.4㎝
3. 羽口　長さ11㎝　径8.4㎝　孔径2.2㎝

40号住居址（第94図）

32Aグリットポイントが床面中央部に位置する3.47mの正方形を基本とするプランで、南東コーナー部が60mほど張り出している。東方に21．44号住居址、北東方向に17号住居址、北方には6B掘立建築址、西方では接する様に41号住居址が位置している。主軸は真東をとる。残存壁高は40cm前後を測り、70°～80°傾斜の掘り込みを呈している。周濠はしっかりと安定した掘り込みで、北西、南東コーナー部分を除き連続し、幅15～25cm、深さ5～8cmを測る。床面は多少凹凸を呈しているが、レベル的には安定している。柱穴は確認されなかった。

カマドは東壁南寄りに掘り込まれ、E－11°－Sの主軸を呈す。規模は全長1.45m、幅36cmの



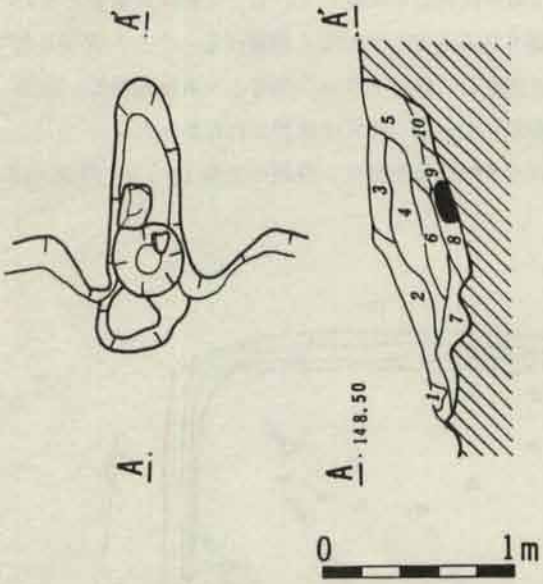
第94図　40号住居址実測図

0　2m

40号住居址埋土

1. 暗褐色土　R粒、焼土粒、R•B含む
2. 暗褐色土　1よりも暗い
3. 黒褐色土　多少粘質帯びR粒含む
4. 暗褐色土　多少粘質帯びFPを含む
5. 黒褐色土　3に似る
6. 暗褐色土　R粒　R•Bを含む
7. 褐色土（土壙）R粒　R•Bを多量に含む

細長い形状で、焚き口部は歪んだ半円形の浅い掘り込みを呈し、燃焼部は20°傾斜で立ち上がり、煙り出し口は60°傾斜を測る。袖部は灰褐色粘土により構築されている。燃焼部に出土した礫は支脚として利用したものであろうか？



40号住居址カマド

1. 灰褐色粘土B
2. 暗褐色土、R粒・焼土Bを含む
3. 暗褐色土　灰褐色粘土B　焼土B含む
4. 暗褐色土　多少粘質帯び、焼土B・R粒を含む
5. 黄褐色粘質土　焼土粒・焼土B含む
6. 暗褐色土　4より明るく、焼土B・焼土粒・R粒多く含む
7. 褐色土　斑点状にR粒・R•B、焼土B カーボンを含みソフト
8. 灰層　　9. 焼土粒・焼土B
10. 暗褐色土　R粒・焼土粒含む

第95図　40号住居址カマド実測図

出土遺物（第96図1～7）

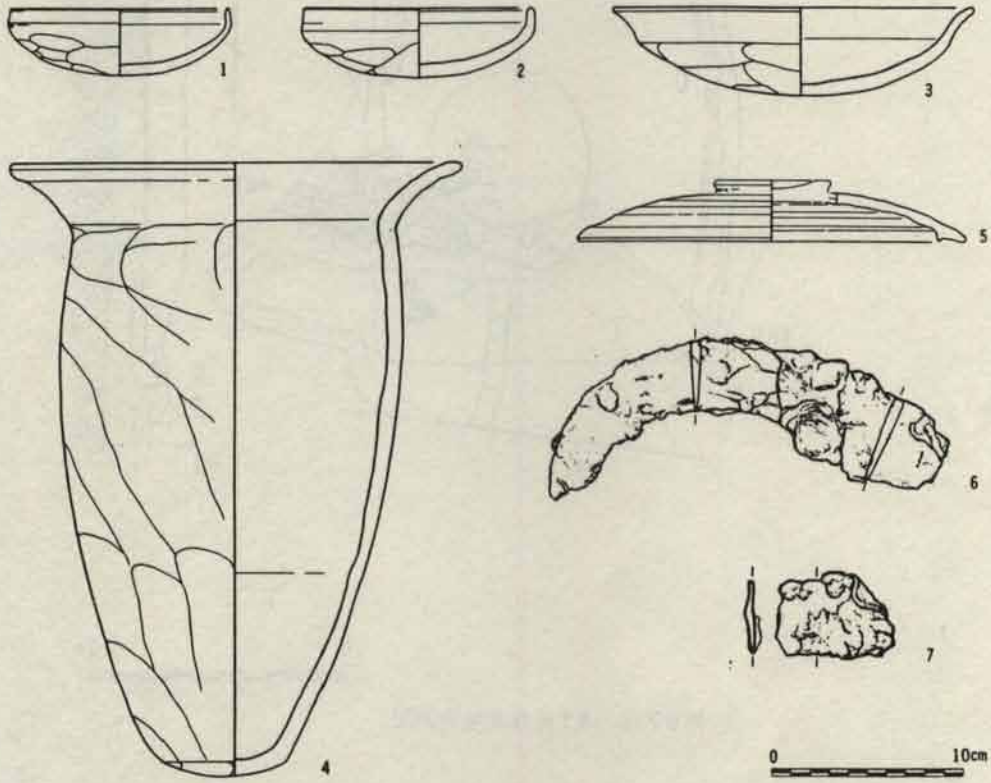
大半の遺物はカマド前面より出土、坏3点、須恵蓋1点、長甕1点、鎌2点を数える。

1. 坏、口径11.4㎝　器高3.4㎝　丸底より器肉を減少しながら内彎し、口縁部は内傾し、口唇部は鋭り気味に丸める。底部はヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
2. 坏　口径12.1㎝　器高3.6㎝　形態、手法は1に似るが全体に器肉が厚い
色調－赤褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 坏　口径18.5㎝　器高4.6㎝　浅い皿状の丸底より軽い陵を呈し、口縁部は大きく外反する。底部はヘラ削り、内面より口縁部外面横ナデ
色調－赤褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
4. 長甕　口径23.2㎝　器高31.9㎝　小さい丸底よりやや胴張りを呈す砲弾状胴部に移行し、くびれは弱く、口縁部は大きく開広する。底部はヘラ削り、胴部下位は縦位と斜位、中位は斜位、肩部は横位のヘラ削り、内面から口縁部外面横ナデ
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
5. 蓋（須恵器）口径－20.2㎝　天井部欠損、口唇部は丸くおさめ、内面に鈍く小さいかえり

を呈す

6. 鎌　全長11.2㎝の所謂曲刃鎌である。

7. 鎌　全長6.3㎝を測る．柄部分である。

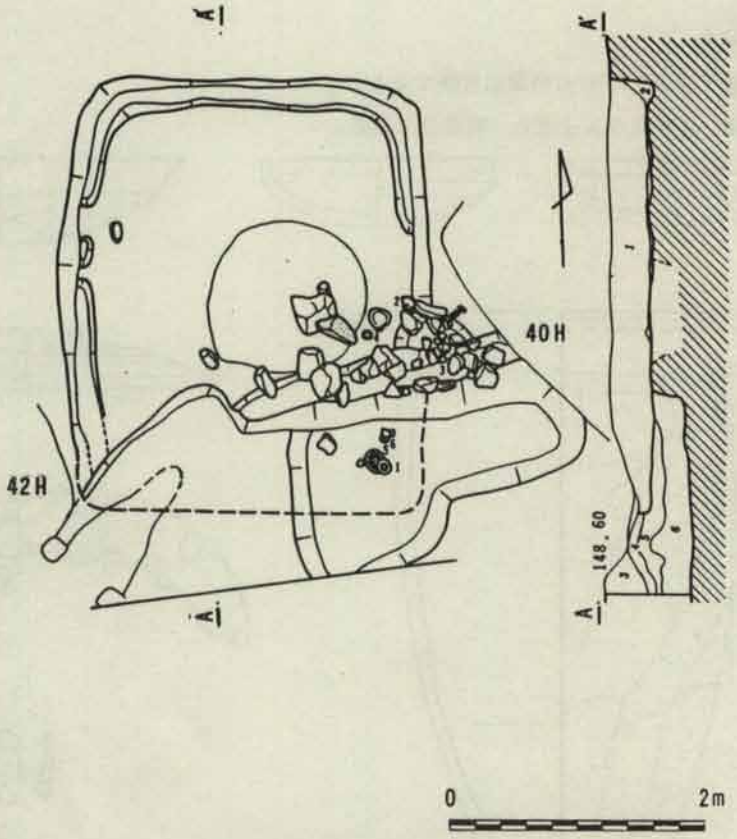


第96図　40号住居址出土遺物実測図

41号住居址（第97図）

32A・32Bグリットにまたがり、東方に隣接して40号住居址、西方に42号住居址と重複し、北方に6B掘立建築址が位置し、南方では不整形な土壙と重複関係にある。規模は3.4m×2.95mの方形プランで、E－2°－Sの主軸を呈する。残存壁高は30㎝前後を測り、掘り込みはほぼ垂直を呈している。周濠は東壁中央やや北寄り、一部途切れるが南西コーナー部付近まで廻り、幅20～25㎝、深さ7～8㎝を測る。柱穴は確認されなかった。床面は安定し、固くしまっている。

カマドは東壁中央部やや南寄りに掘り込まれ、住居址と同一の主軸を呈す。構築は礫と粘土による石組みのカマドと思われるが、崩壊がひどく明確を欠く。東壁部に65㎝×50㎝ほどの残い皿状掘り込みを呈し、東壁より40㎝ほど張り出している。



第97図　41号住居址実測図

出土遺物（第98図1～5）

遺物はカマド内、南東コーナー部に集中し、墨書土器2点が出土した。

1. 高台付埦（墨書土器）口径13.4㎝　底部欠損、内彎する体部から、口唇部はやや外反気味となる。体部に墨書「裳」(?)を記す。　ロクロ成形、南東コーナー出土
色調－黄褐色　焼成－良好　胎土－微砂粒含む

2. 高台付埦（墨書土器）口径13.3㎝　器高5㎝　底径6㎝　八の字状に開く高台部より内彎し、1と同様の器形を呈す。体部に墨書「我」(?)を記す。ロクロ成形、カマド左袖部出土
色調－にぶい黄褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3. 高台付埦　底径6㎝　体部上半欠損
色調－焼成　胎土は上記の2に似る

4. 高台付埦　底径6.5㎝　体部欠損
色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

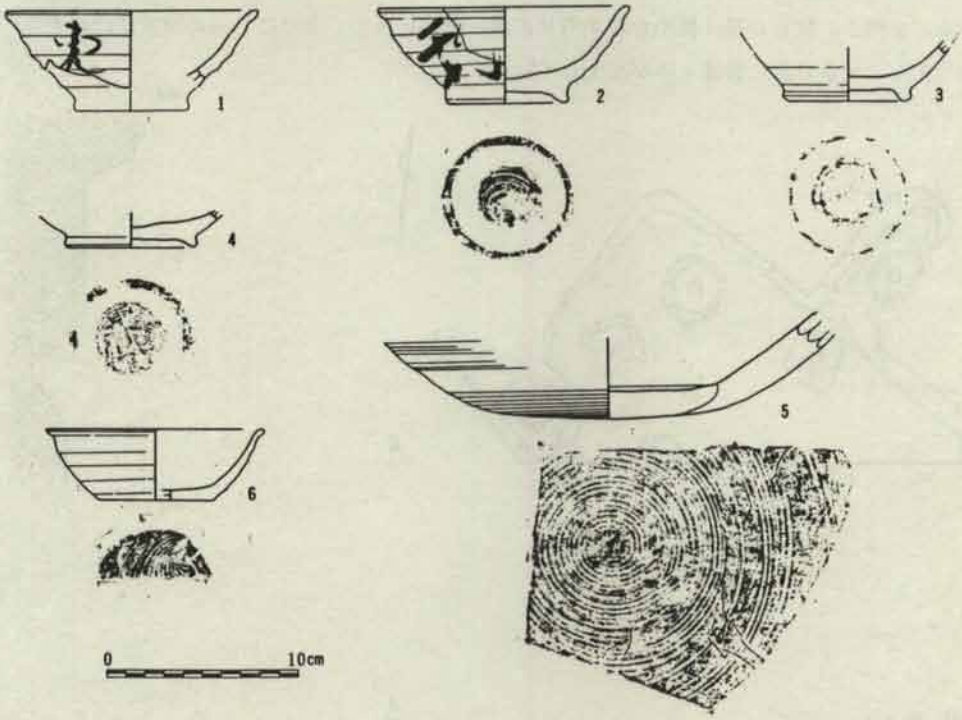
5. 須恵甕底部片、舟底状のやや丸味を帯びた底部より内彎して体部へ移行する。底部は回転

ヘラ削り。

6. 坏（須恵器）口径11.4㎝　器高3.7㎝　底径6㎝　糸切り底より内彎するロクロ水挽き痕を残す体部へ移行し、口唇部を外反させる。

色調－青灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

※墨書土器は群馬県議会図書室長の丸山知良氏、並びに議会図書室の方々に御教示いただき厚く感謝の意を表するしだいである。



第98図　41号住居址出土遺物実測図

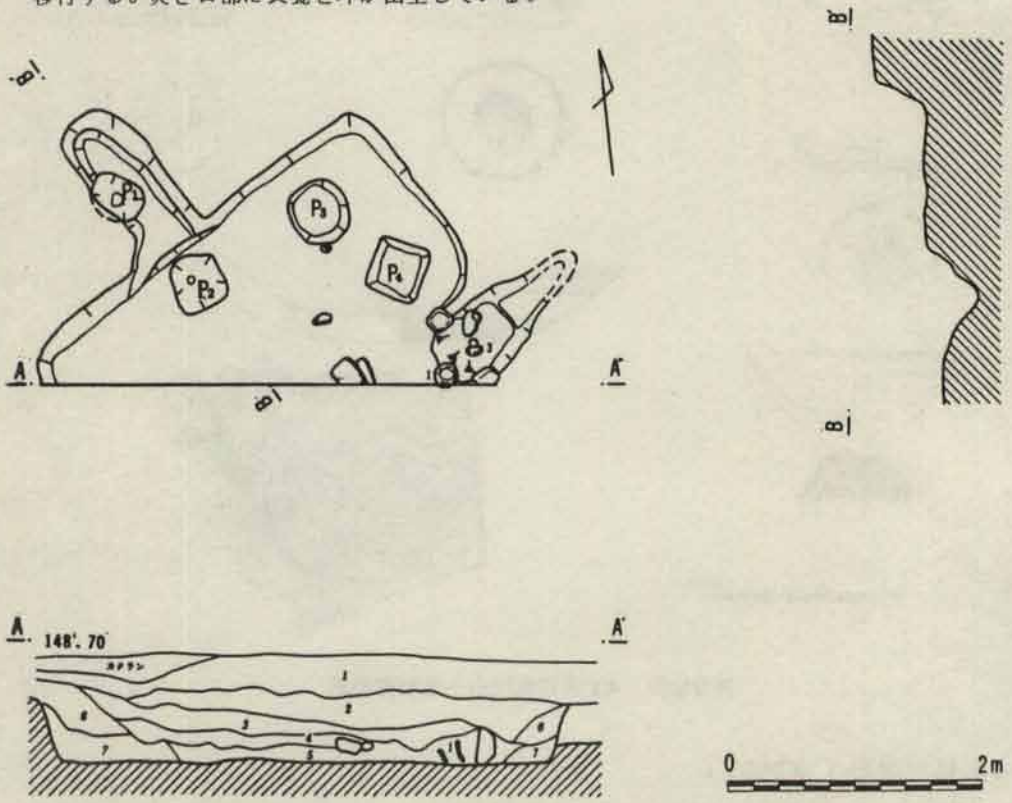
42号住居址（第99図）

31Aグリットに位置し、わずかにカマド部分が32Aグリットに入り調査区域内で半分ほど確認された住居址である。東方の41号住居址とカマド部分が重複し、煙道部分が破壊されている。北方に16号住居址、西方に茂木10号線を挟んで15号住居址が位置する。規模は北辺で3.2ｍを測り、方形プランを呈するものと考えられる。主軸はN－55°－Eを呈する。残存壁高は50㎝前後を測り、75°ほどの傾斜角で掘り込んでいる。周濠は確認されなかった。柱穴状掘り込みは4ヶ所確認され、P_1はイモ穴と思われる攪乱、P_2はカマド前面に位置し、第一カマドの焚き口部と考えられ、P_3は45㎝の円形、深さ36㎝で、第一カマドの貯蔵穴であろう。P_4も攪乱穴であ

る。床面は非常に固くしまり安定したレベルを呈している。

カマドは2ヶ所確認され、第一カマドは北壁中央部やや西寄りに位置し、N－30°－Wの主軸を呈す全長1.2 m、幅50 cmほどの細長い煙道部の掘り込みと、焚き口部分の掘り込みP_2が残存する。P_2の掘り込みは28 cmと深く、そして北壁に20 cmほどの段を設け煙道部へ移行し、煙り出し口は68°傾斜で立ち上がる。煙道部内で坏が出土した。

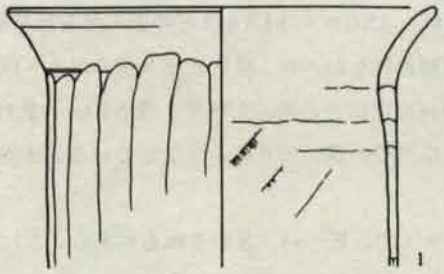
第二カマドは41号住居址により煙道部が破壊されている為に全容は明らかでないが、住居址と同一の主軸を呈し、粘土により袖部が構築され、先端に袖石を設けている。この袖石間は40 cmほどを測る。焚き口部は緩やかな半円状の浅い掘り込みで、東壁に15 cmの段を設け煙道部に移行する。焚き口部に長甕と坏が出土している。

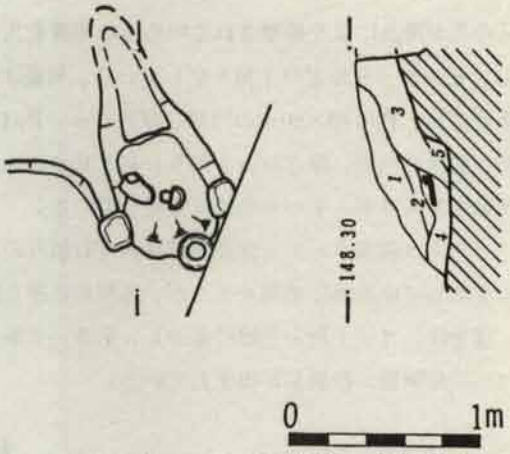


第99図　42号住居址実測図

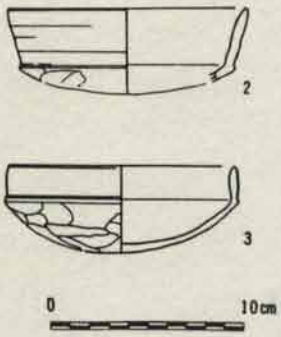
42号住居址埋土

1. 黒褐色土　サラッとしている
2. 黒色土　R粒を含む
3. 黒褐色土　FPを含む
4. 黒色土
5. 褐色土　多量のR粒・焼土粒含む
6. 暗褐色土　R粒含む
7. 褐色土　R粒含みソフト





第101図　42号住居址カマド実測図



第100図　42号住居址出土遺物実測図

42号住居址カマド

1. 黒褐色土　粘質を帯びる
2. 黒褐色土　焼土粒含む
3. 暗褐色土　焼土粒・焼土Bを多量に含む
4. 暗灰褐色粘土
5. 暗褐色土　粘質を帯びる

出土遺物（第100図）

1. 長甕　口径22.2㎝　胴部上位から口縁部片で、ほぼ直立する胴部から頸部のくびれを呈さず、斜方向に開く口縁部へ移行する。胴部は縦位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面に粘土紐痕、斜位のヘラ削りを施す。
色調－褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む
2. 坏　口径12.4㎝　底部欠損　浅めの丸底より明瞭な陵を呈し、口縁部は直立気味にやや開き、口唇部を鋭り気味に丸める。底部はヘラ削り、内面から外面口縁部横ナデ
色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む
3. 坏　口径11.4㎝　器高4.4㎝　深めの丸底より陵を呈し、口縁部は直立気味に内彎する。
色調－褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

43号住居址（第102図）

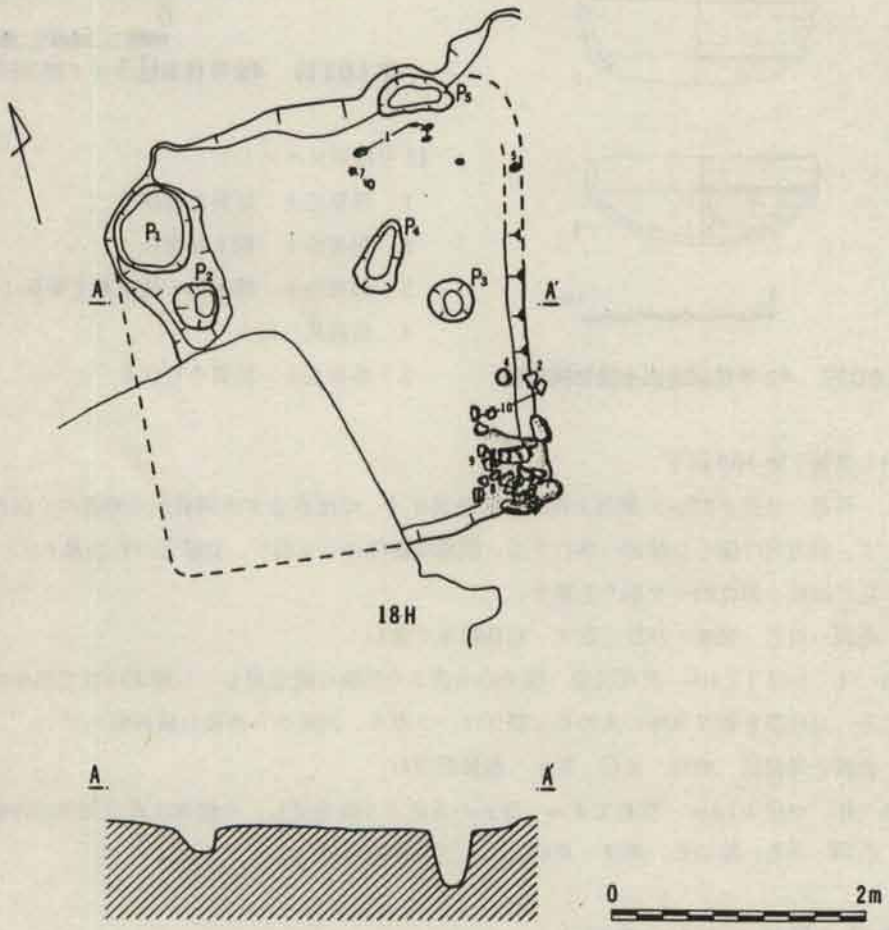
35B・Cグリットに確認され、18号住居址と重複関係にある。当住居址は予備調査の段階でカマド等の施設が検出されている。

北東方向には19号住居址、南東に20号住居址、西方には17号住居址が位置し、規模は、掘り

込み面が攪乱により破壊されている為に明確を欠くが、3.50m×3.15mほどの歪んだ方形を呈し，E－5°－Sほどの主軸を呈している。周濠は確認されなかった。柱穴状掘り込みは5ヶ所確認され、P_1は68×60㎝の円形、深さ12㎝、P_2は34㎝直径ほどの歪んだ円形、深さ20㎝、P_3は35㎝前後の円形、深さ45㎝を測り、P_4・P_5は歪んだ楕円形の浅い掘り込みを呈している。床面は軟弱であるが、レベル的には安定している。

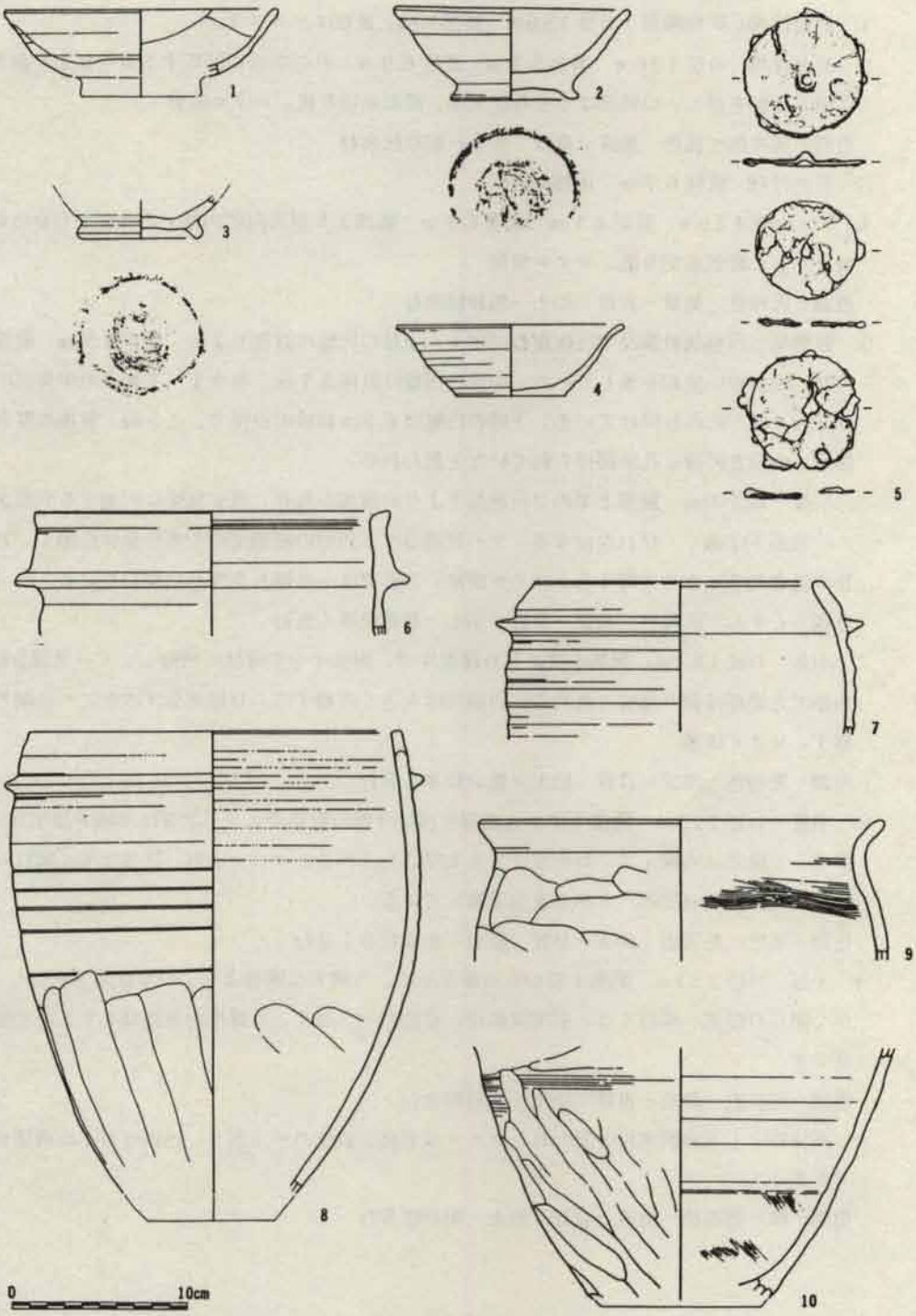
カマドは南東コーナー部に設置された石組みのカマドで、E－14°－Sの主軸を呈する。これも崩壊している為に明確を欠くが、馬蹄形に礫を配しているものと考えられる。

遺物は、カマド内と左脇に集中し、羽釜、土釜、高台付椀が見られる。北東コーナー付近では、灰釉陶器、鉄製品が出土している。



第102図　43号住居址実測図

出土遺物（第103図1～10）



第103図　43号住居址出土遺物実測図

1. 高台付埦（灰釉陶器）口径15.6㎝　底部欠損、施釉はハケヌリ

2. 高台付埦　口径13.6㎝　器高5.2㎝　底径6.9㎝　八の字状に開広する高台部より斜方向に開く体部を呈し、口唇部はやや外反気味、底部糸切り底、ロクロ成形

色調－黄褐色～褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

3. 高台付埦　底径6.7㎝　体部欠損

4. 坏　口径12.9㎝　器高4.1㎝　底径6.2㎝　底部より斜方向に内彎する体部から口唇部は外反する。底部糸切り底、ロクロ成形

色調－灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

5. 鉄製品　円盤状鉄製品で三枚重ねで出土。上段の円盤は直径6.7㎝、厚さ1.5㎜　前後を測り、中央部に突起を施している。中段の円盤は直径5.7㎝、厚さ1～1.8㎜で中央部に5.5㎜　ほどの孔と開けている。下段の円盤は6.3㎝前後の直径で、1.5㎜　前後の厚さを測り、中段と同様に孔が開けられていたと思われる。

6. 羽釜　口径20㎝　胴部上半のツバ状部下より口縁部が残存。直立気味に内彎する胴部よりツバ状部下は強くくびれを呈する。ツバ状部分は三角形の断面でやや水平気味に開く。口縁部は直立気味にやや内彎する。ロクロ成形、口唇部はヘラ削りを施し内斜している。

色調－くすんだ灰褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

7. 羽釜　口径16.4㎝、胴部中位より口縁部片で、胴部はやや球状に内彎し、ツバ状部分は三角形で先端部は鋭り気味に丸める。口縁部は大きく内彎する。口縁部分は水平にヘラ削りを施す。ロクロ成形

色調－黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

8. 羽釜　口径21.3㎝　胴部下半から底部欠損、寸胴の胴部で、ツバ状部は丸味を呈する三角形で、口縁部は内彎する。口唇部は水平気味におさめる。ロクロ成形、胴部下半は縦位のヘラ削り。内面に斜位のヘラ削りを若干施している。

色調－褐色～暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒多く含む

9. 土釜　口径23.1㎝　胴部上位から口縁部片で、内彎する胴部よりくの字状頸部を呈し、短かく開く口縁部へ移行する。胴部は斜位、横位のヘラ削り、口縁部内外面横ナデ、内面櫛描状ナデ

色調－暗褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

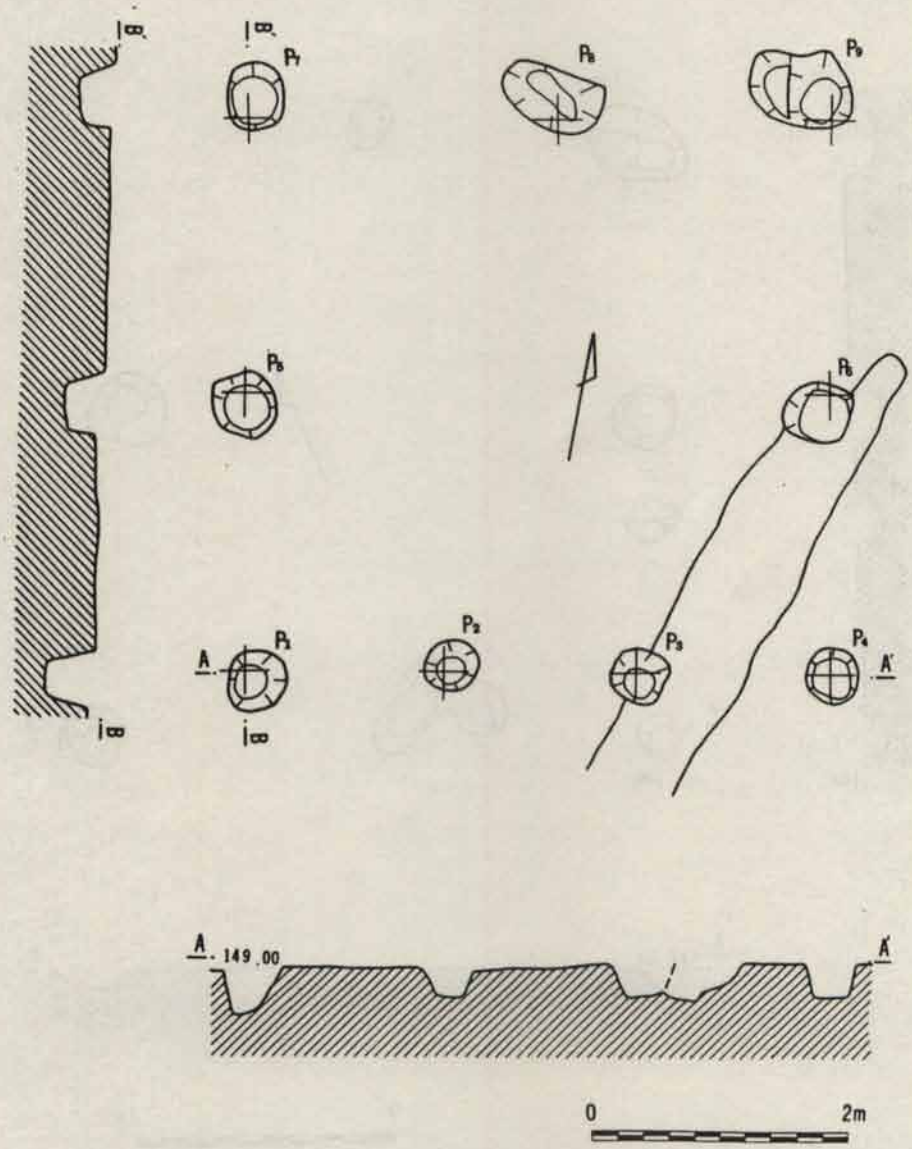
10. 胴部片、土釜の胴部片と思われ、ロクロ成形後、斜位のヘラ削り、内面は若干の櫛描状ナデが残る。

色調－暗～黒褐色　焼成－良好　胎土－粗砂粒含む

7. 掘立柱建築址遺構

13～16グリットに4棟の掘立柱建築址、18Cグリットに柱列址、16号住居址と17号住居址の間に1棟の計6遺構が検出されたが、それぞれ形態を異にしている。

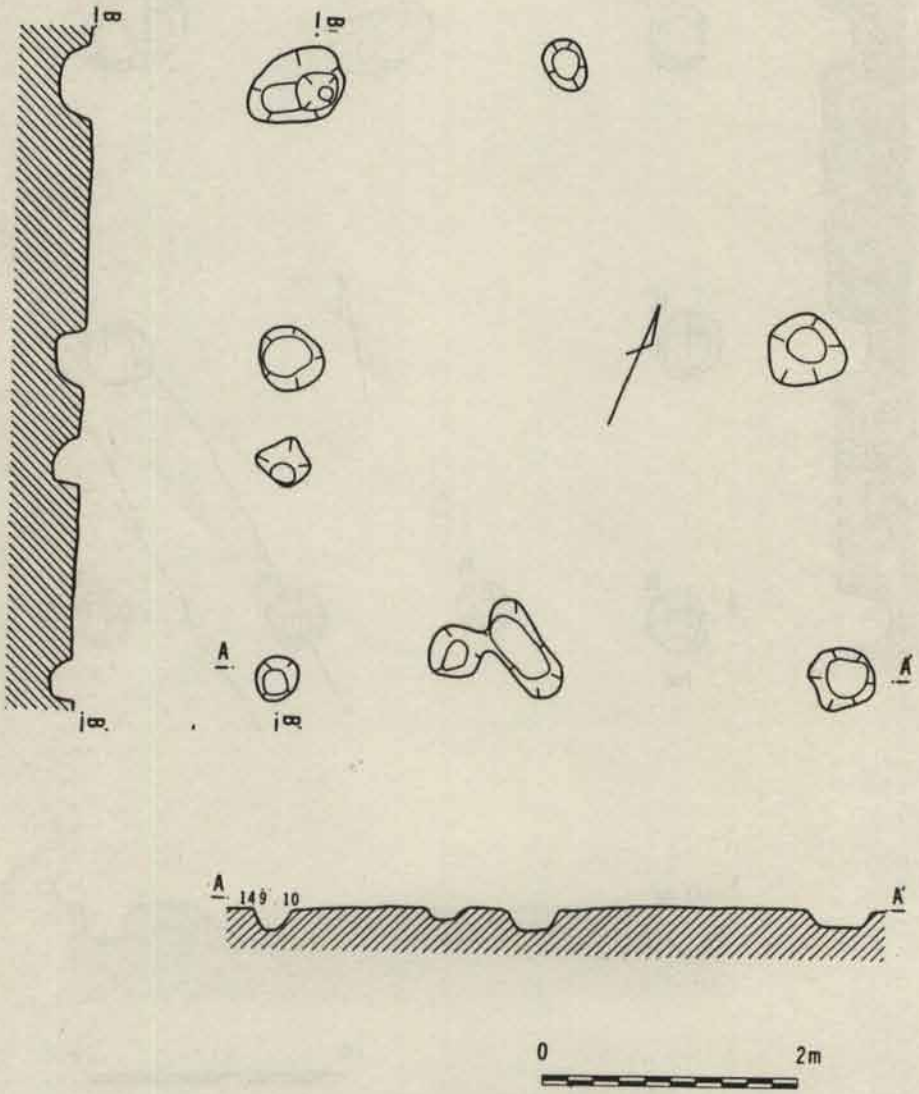
1号掘立柱建築址



第104図　1号掘立柱建築址実測図

14B、C、15B、Cグリットに位置し、4号掘立建築址と西側で重複し、15Cグリットでは耕作溝によって2ヶ所の柱穴が一部破壊されている。主軸はN－10°－Eを呈し、棟走は南北である。規模は4.5 m×4.5 mで15尺、桁行、染行とも2間の方形建物であるが、南側のみは柱間を3間としている。

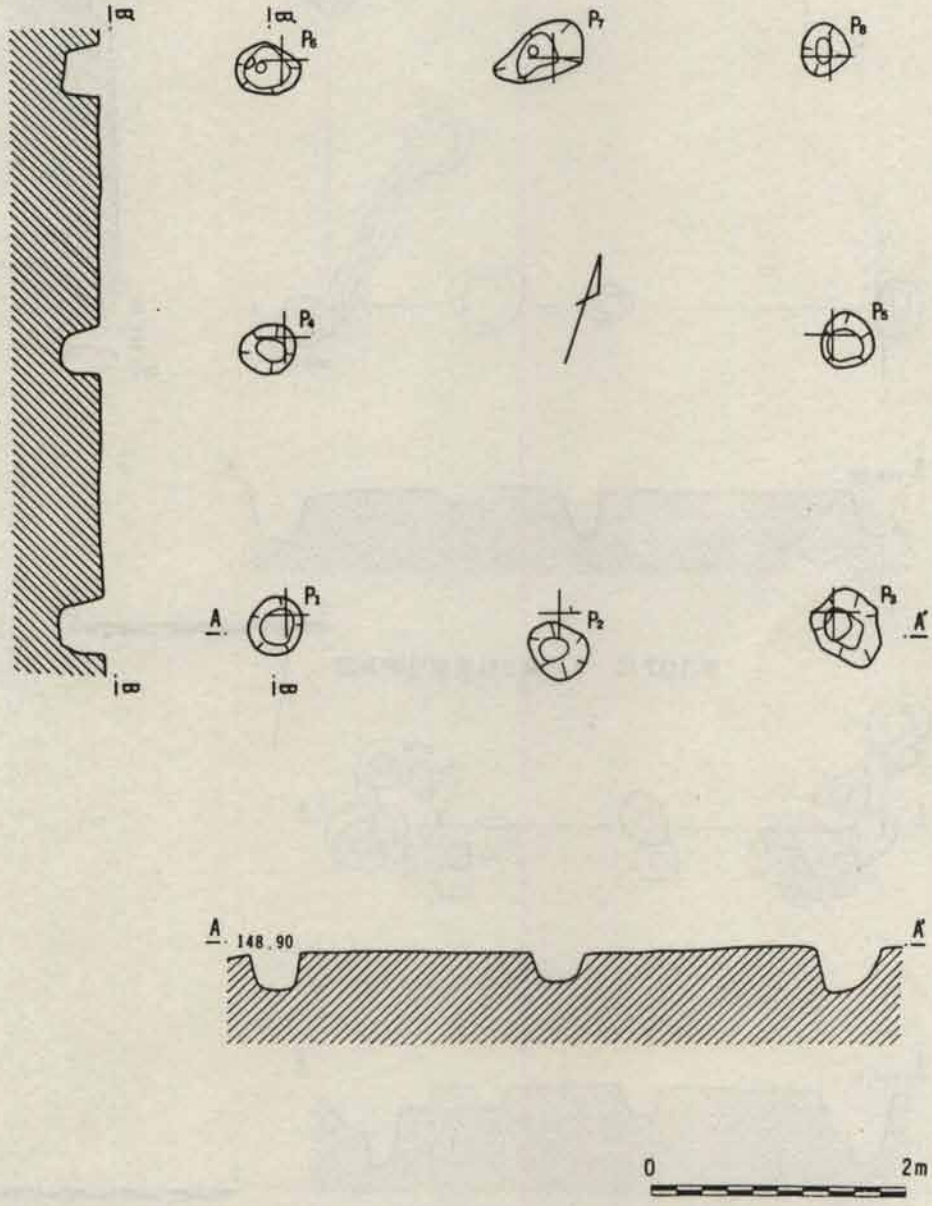
2号掘立建築址



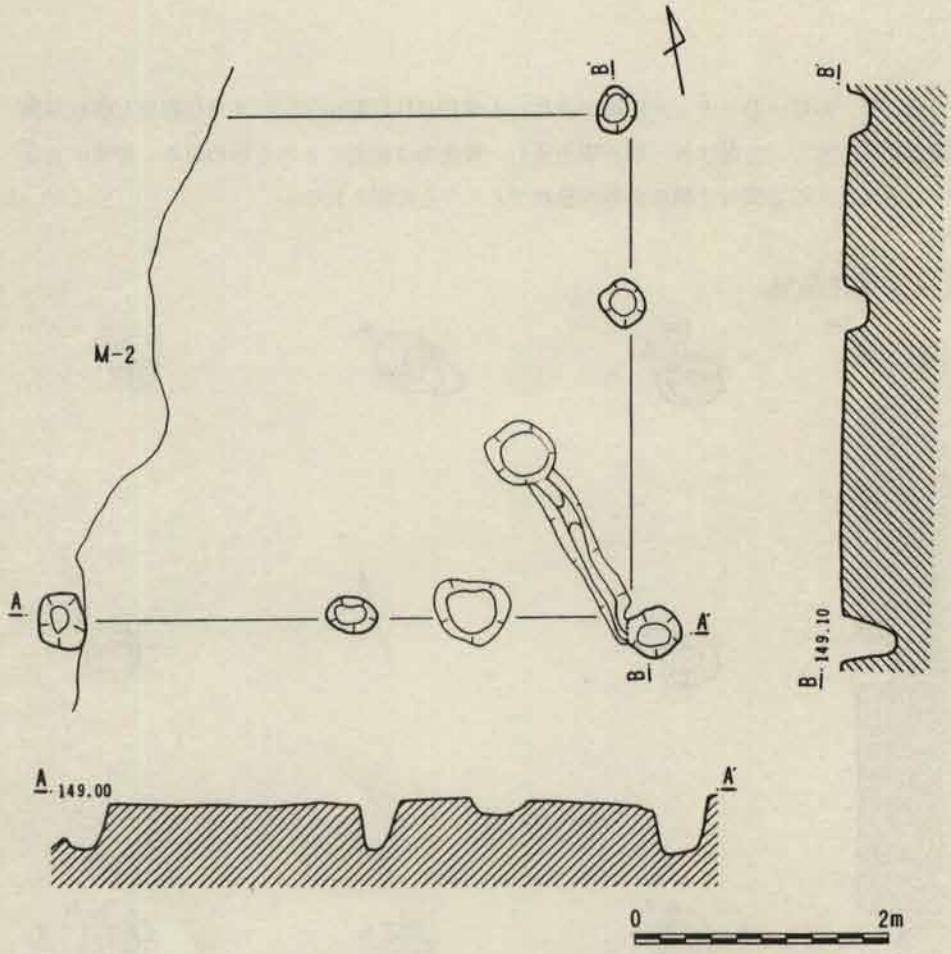
第105図　2号掘立柱建築址実測図

14C、D、15C、Dグリットに検出され、1号掘立柱建築址の北方、4号住居址と溝状遺構の東側に位置する。主軸はN－20°－Wを呈し、棟走向は南北にとると思われる。規模は4.5m×4.5mとする2間×2間の方形の建物であろうと推測される。

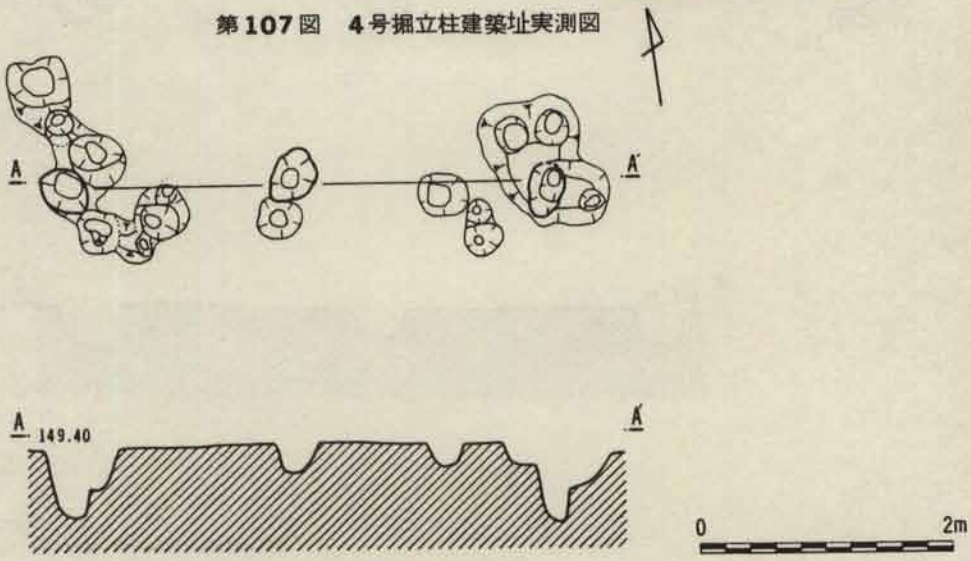
3号掘立柱建築址



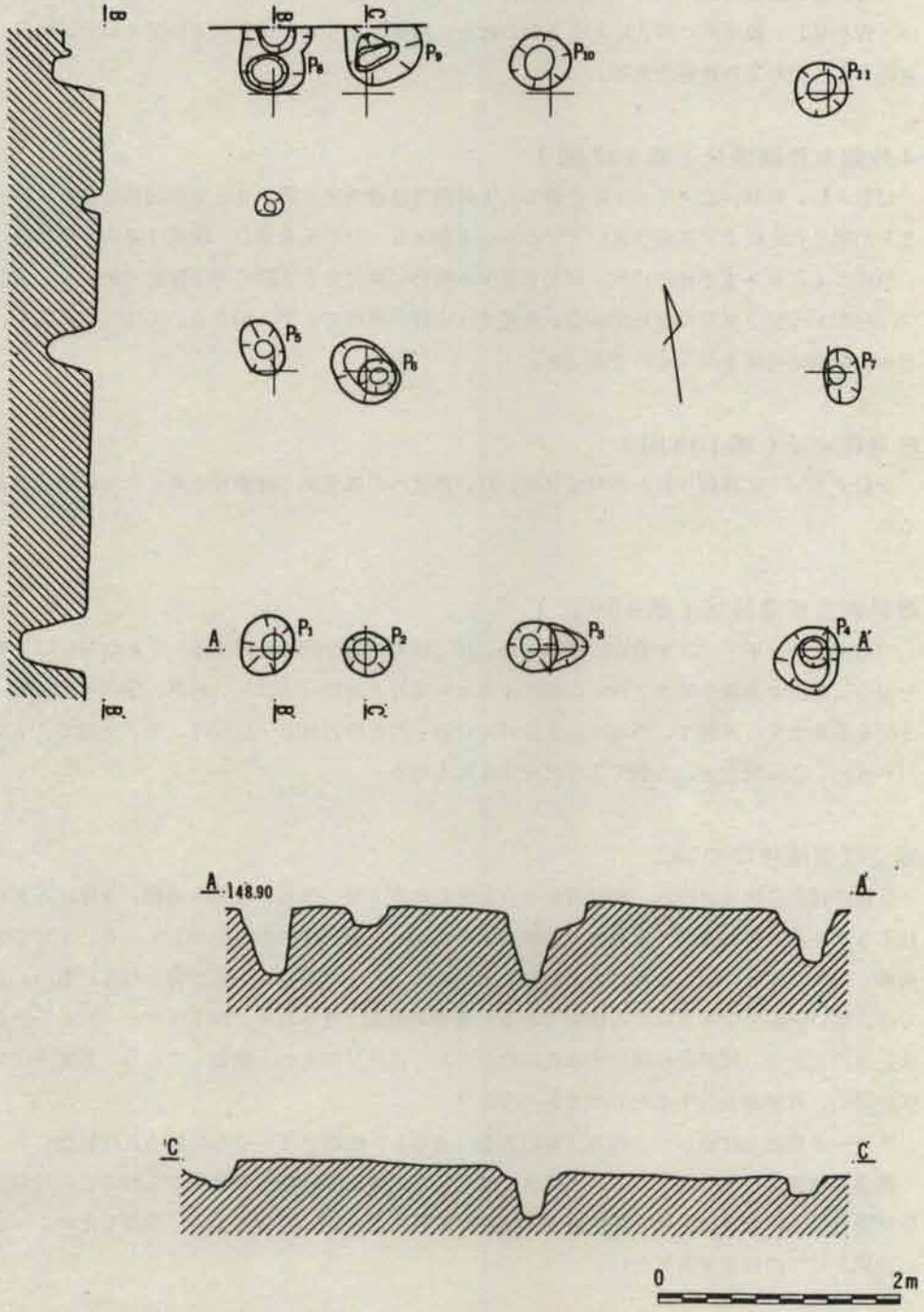
第106図　3号掘立柱建築址実測図



第107図　4号掘立柱建築址実測図



第108図　5号柱列址実測図



第109図　6号掘立柱建築址実測図

15B、C、16B、Cグリットに検出され、1号掘立柱建築址の東側に隣接する。主軸はN－19°－Wを呈し、棟走向は南北にとると思われる。規模は4.5 m×4.5 mで15尺×15尺、桁行、梁行とも2間の方形建物である。

4号掘立柱建築址（第107図）

12B、C、13B、Cグリットに位置し、1号掘立柱建築址と溝－2と重複関係にある。溝－2との切り合いにより明確を欠いているが、主軸はE－11°－Sを呈し、棟走は東西と思われる。規模は4.5 m×4.2 mの15尺×14尺を呈する桁行、梁行とも2間の方形建物であろう。東側では柱間が5尺－9尺の変形である。北側では中柱が検出できず、切り合い等の関係もあり、全体の把握は明確を欠くものであった。

5号柱列址（第108図）

18Cグリットに確認された柱列址と思われ、南北への追求から建築址と考えにくい遺構である。

6号掘立柱建築址（第109図）

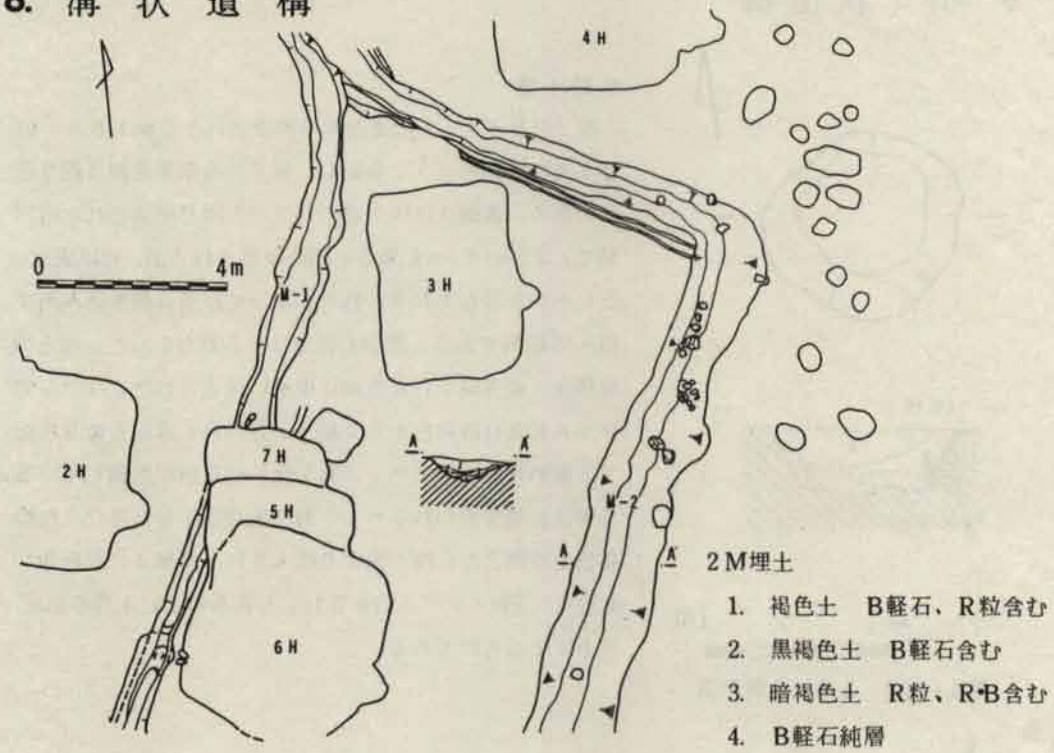
32Cグリットポイントを中心に検出され、16．17号住居址間に位置する。主軸はN－81°－Wを呈し、棟走は東西と考えられ、規模は4.5 m×4.5 mで15尺×15尺、桁行、梁行とも2間×2間を基本とする建物で、西側に庇を設けているものと思われる。柱間は、南、北側で、2.5尺－5尺－7.5尺、東、西側で7.5尺－7.5尺となる。

掘立柱建築址について

5棟の掘立柱建築址の内、明確であろうと思われる1号、3号、6号の遺構、3棟は基本設計15尺×15尺の2間×2間の方形建物であるが、三者三様の形態を呈しており、1号では南側に入り口部分が設けられたと思われ、2号では、入り口部分、庇部が見られないもの、3号は西側に庇部分が考えられる建物である。遺物の出土は見られず、埋土はローム粒、F•Pを含む黒褐色土で、時代を明確にするものはないが、住居址のそれと類似している。形態差は時代の違い、機能差から生じたものであろうか？

1号～4号掘立柱建築址は調査区域の西側に集中し、住居址1～9号に囲まれた状況にあり、掘立柱建築址を中心としてドーナツ状に住居址が占地しているものと推測される。6号掘立柱建築址は単独で確認され、住居址との関連は明確でないが、今後の調査に期待したい。一応、倉庫としての機能を考えたい。

8. 溝 状 遺 構



第110図　M－1．2実測図

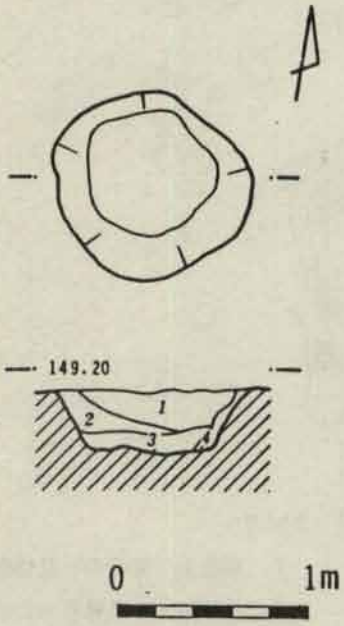
M－1

11A・B、12B．C．Dグリットに確認され、1．2号住居址と3号住居址間に走向し、7、5号住居址埋土を掘り込んでいる。調査区北方でM－2と重複し、M－2を掘り込んでいる。走向状態は重複部分より北西方向から南方に向い緩やかなカーブを描き、3号住居址の西側より直線に走向する。この部分の主軸はN－77°－Eを呈す。掘り込み幅は50㎝～1.05㎡で不均一であるが、深さは20㎝～25㎝を測り、南方に連れ深さを増す傾向にある⌣字形の掘り込みである。

M－2

12C．D、13A．B．C、14Cグリットに確認され、北方では3号住居址と4号住居址間を走向し、南側では掘立址群の西側にあたり、4号掘立柱建築址と重複している。走向状態はM－1との重複部分からE－25°－Sで直進し、直角に折れ南進する。規模は幅0.6～1.75㎡、深さ25～40㎝と南に連れ幅広く、そして深くなる。掘り込みは、⌣字形から薬研状に変化する。底面にB軽石がレンズ状に堆積する。出土遺物は無く、礫が混入するのみである。

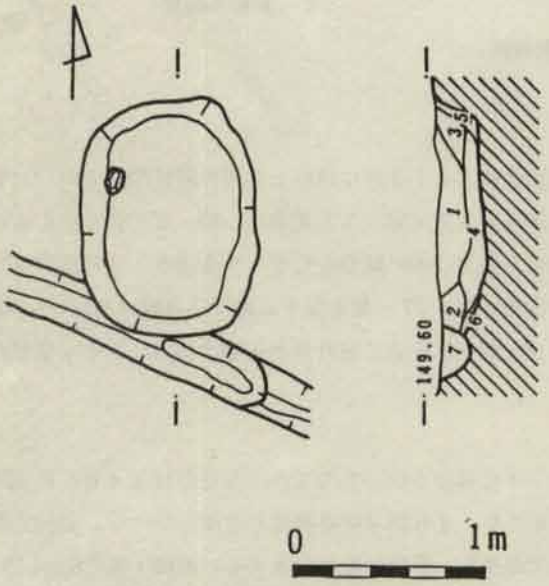
9 土壙状遺構



第111図　1号土壙実測図

1号土壙

22，23Bグリットにまたがり検出された長軸1.8 m×短軸1 mの楕円形プランを呈し、深さ30㎝前後を測る掘り込みである。底面はほぼ上端のプランと同じ縮少された楕円形で、75㎝×65㎝を測る。凹凸は見られるが、ほぼ安定したレベルを呈しており、固くしまっている。掘り込み角は45°～55°傾斜である。遺物の出土は見られなかった。埋土の堆積は、東方向から北方向に壁沿い流入された、ソフトでローム粒含む暗褐色土（4層）が見られ、底面を被う状況で3層のローム粒・ロームBを含む暗褐色が堆積している。上層は2層で見られるロームBを斑点状に含むソフトな暗褐色土が西方から南方向より流入され（2層），最終的な埋没は、FP・ローム粒を含む、しまりのよい1層の黒褐色土によるものである。

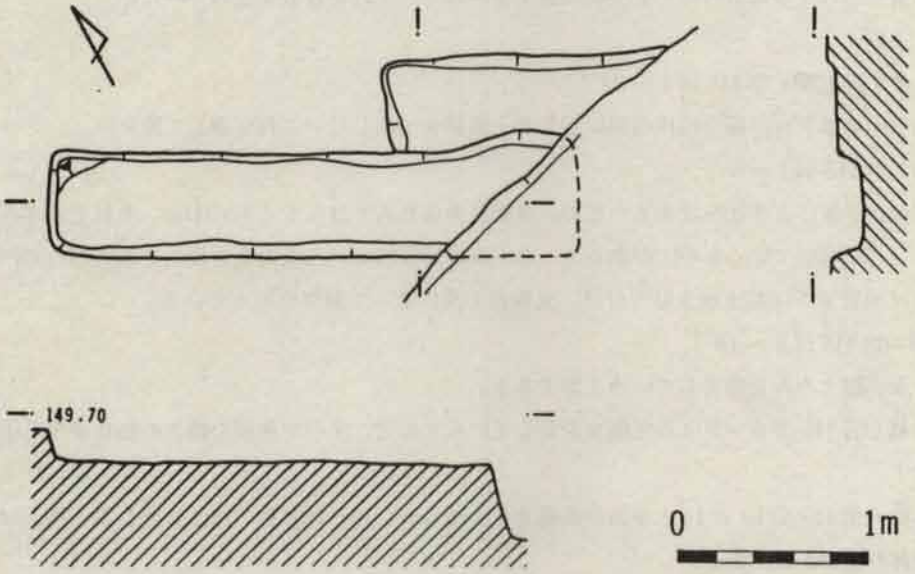


第112図　2号土壙実測図

2号土壙

28Cグリットに検出され、14号住居址の西に位置し、南側の掘り込み部分に耕作溝が重複するが、形状をさほど乱してはいない。規模は長軸1.25 m短軸0.9 mの楕円形プランを呈する、深さ25㎝ほどの掘り込みである。底面は中央部南寄りが最深部で南北に緩やかな傾斜を呈しているが、さほどの違いはない。遺物の出土は見られなかった。埋土は、1層－カーボン・ロームB含む暗褐色土、2層－ローム粒含む黒褐色土、3層－焼土粒・ローム粒含む暗褐色土4層－多量のカーボン・ローム粒含む黒褐色土　5層－ローム粒多く含む褐色土　6層　少量のローム粒含むソフトな黒褐色土、7層－褐色土となり、壁面が良く焼け、焼土化している。地主であった方の話しによると、この地（町道10号線以西の一部分の桑畑）を焼場と

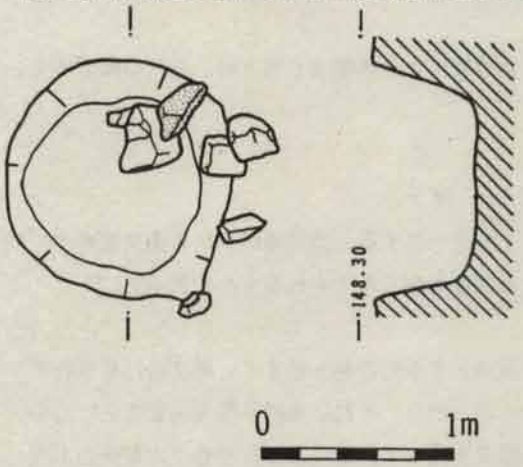
昔より言っており、以前この付近には五輪塔等の墓石が見られたと聞く。形状、壁面の焼土化、カーボンの含有等が火葬墓を推測させるが、今後の調査に期するものである。



第113図　3号A．B土壙実測図

3号A・B土壙

28，29Dグリット、14号住居址の北壁に重複する長方形土壙である。規模はA号で、2.8 m幅55㎝前後、深さ12～13㎝を測る。B号はA号に切られている為に明確を欠くが、ほぼ同様の形態が考えられる。埋土はソフトな褐色砂質土である。旧道路とほぼ直交し、耕作溝とほぼ平行にある。以上の事から耕作に使用されたと考えられる掘り込みである。



第114図　4号土壙実測図

4号土壙

41号住居址の床面中央部付近に検出された縄文時代の土壙である。規模は1.2 m前後の円形で、深さ53㎝ほどの掘り込みである。掘り込み傾斜は70°～80°で、底面は固くしまり、安定している。埋土はやや粘質を帯びるにぶい暗褐色土で、非常によくしまっている。遺物は小片1点が出土したが、もろくとりあげられなかった。前期の所産のものであろう。

10. 遺構以外からの縄文関係遺物

本遺跡からは遺構以外からも遺物の出土をみるが、それを若干まとめてみたい。

1. 土器

第1群土器（第115図1～24）

胎土中繊維を含み縄文時代前期に属する土器群を一括した。これら概して脆い。

1類（第115図1～5）

単軸絡条体による圧痕文をもつもの。単軸絡条体6Aに該当するもの(1)と、それを二本の条によって圧痕しているもの(2)がある。　3～5は比較的太い二条の条を幅広に軸に巻いている。2は口唇部下に粘土紐を貼り付け、丸棒状工具によって刺突を加えている。

2類（第115図6～14）

所謂、縄文のみを施文している土器である。

a種（第115図6～9）羽状縄文を呈しているもので、すべて単節の縄文の組合せで羽状をなす。

b種（第115図10～14）単節の斜縄文をもつもの、10、11はR、12はLである。13、14は原体の観察がむずかしい。

3類（第115図15～18）

連続爪型文を有するもの。15は口唇部に小突起をもち、内外面ともよく研磨されている。19は、太い無節の縄文をもつ、おそらく、口縁部下半は縄文が施されているものと思われる。

4類（第115図20、21）

半裁竹管による平行沈線を施しているもの。20は波状口縁で、21は斜縄文地に横、斜方向に施している。

5類（第115図22～24）

多条の波状沈線が施されているもの。23は半裁竹管による爪型文も施され、波状口縁と考えられよう。

第II群土器（第115図25～42　第116図43～78）

本群は、縄文時代前期後半の所謂、竹管文系土器を一括する。遺跡地における縄文期の中でも本群の土器量が最も多く、37・38号住居址との関連も深く考えられるものである。

1類（第115図25～33）

竹管による平行沈線、刺突文、連続爪型文を基調とするものを一括する。縄文地に半裁竹管による平行沈線と円形刺突文を施しているもの（25，26）、それに連続爪型文を加えているもの（27，28）がある。29～31は縄文地に連続爪型文を施している。32は口唇直下に幅狭の爪型文を施し、縄文を同じ爪型文で無文字と区画している。33は爪型文と平行沈線の組み合せ、34

は櫛歯状工具による連続刺突文が特徴的である。概して砂粒を含み、堅緻である。

2類（第115図35～42，第116図43～51）

浮線文を器面全体に施したもので、「く」の字状に内反するもの、内反しながら波状を呈するのや、開きながら波状を呈する深鉢型土器と考えられる。

a種（第115図35～38）縄文を地文とし、浮線に刻目を持つもの、縄文は単節の斜縄文である。

b種（第115図39～42.第116図43） 明らかに縄文を磨り消したと思われるもの。39は、「く」の字状に内反する波状口縁部片、細い浮線文との間に径1㎜程の管状工具で列点を設けている。Rの斜縄文を磨り消している。41は浮線が剝落し、42は棒状工具の背によって刻目がなされ、鋭利さがない。

c種（第116図44～51） 地文を持たないもの、44は波状口縁を呈し、浮線は明瞭な刻目がなく押捺によって貼り付けられている。45、46は「く」の字状に内彎する口縁部片で、46は波状する。概して砂粒を含み、堅緻でない。

3類（第116図52～56）

連続爪型文をもつもの。52は「く」の字状に内彎する口縁部に三条の爪型文を施している。53は地文を持たないが、54、55は縄文地を持つ。いずれも砂粒を含み堅緻である。

4類（第116図57～69）

櫛歯状工具によって主に文様を構成しているもの。縄文地をもつものとないものに分れる。

a種（第116図57、64～69）縄文を地文としないもの。57は、所謂、キャリパー型の深鉢で、くの字状に内彎する口縁部が波状を呈している。64～68は横方向の平行線によって文様構成し、13は斜方向も認められる。概して砂粒を含み堅緻である。

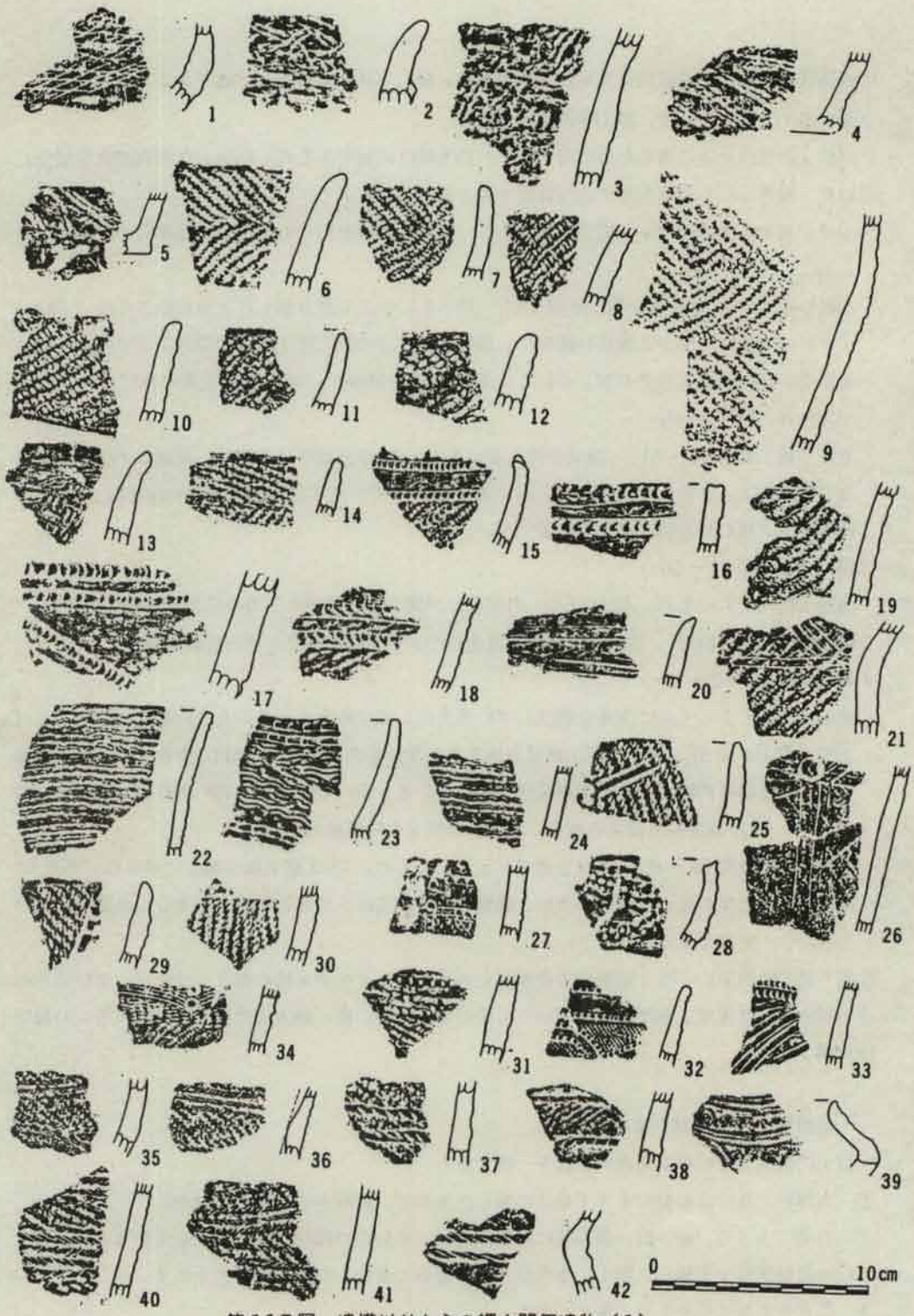
b種（第116図58～63）縄文を地文としているもの。58は縄文地が幅広に残され、条数が少ない。その他のものは条数が多い。観察できる地文は、単節の斜縄文である。色調は褐色のものが多く堅緻である。

5類（第116図70～78）幅狭の平行沈線とボタン状、カマボコ状の貼りつけを行っているものを一括する。沈線は丁寧に施されているものが多く、縦、横、斜方向に施文されている。口縁部は内彎する。

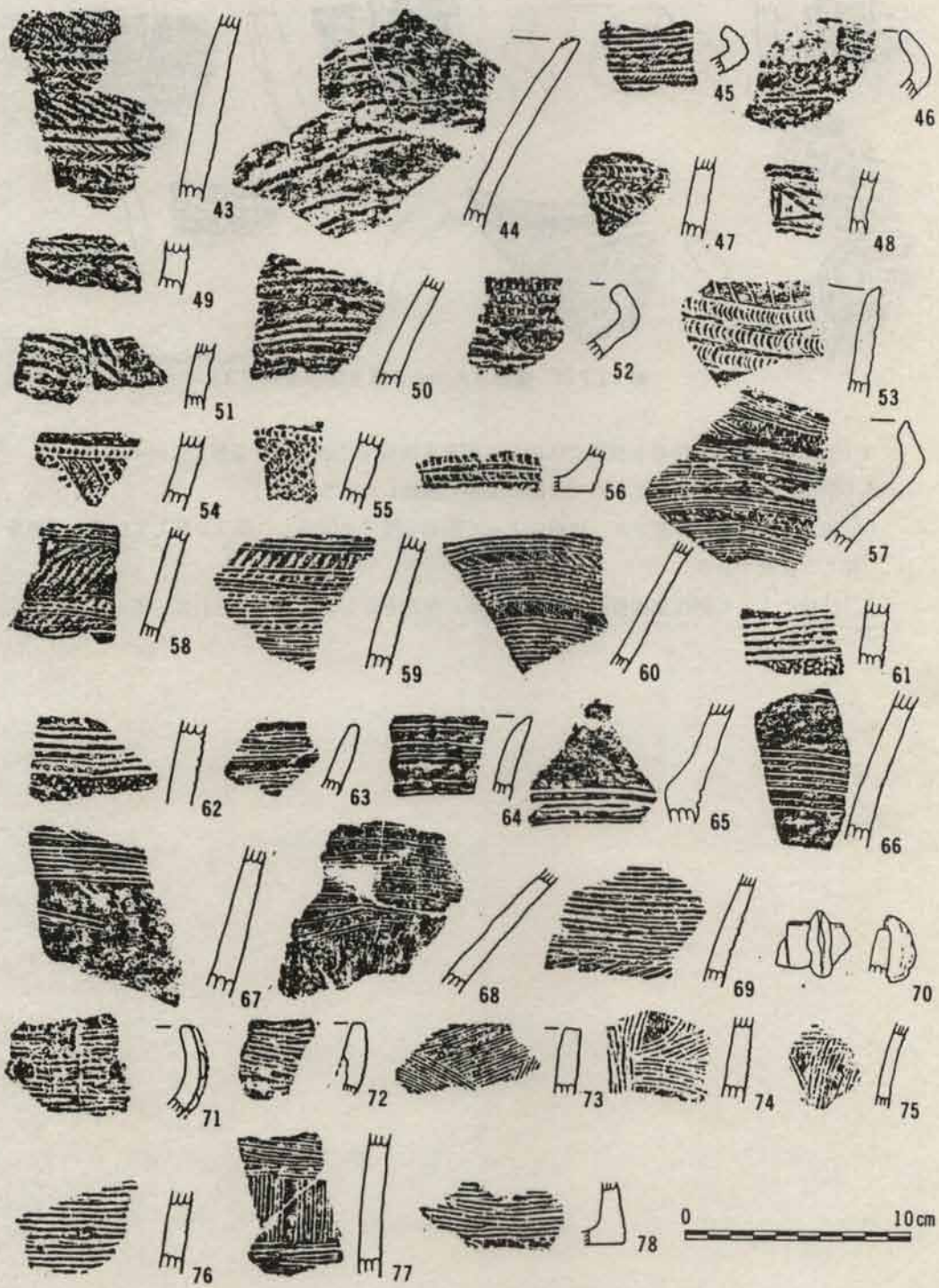
第Ⅲ群土器（第117図1～7）

以上に該当しない縄文時代の土器を一括する。

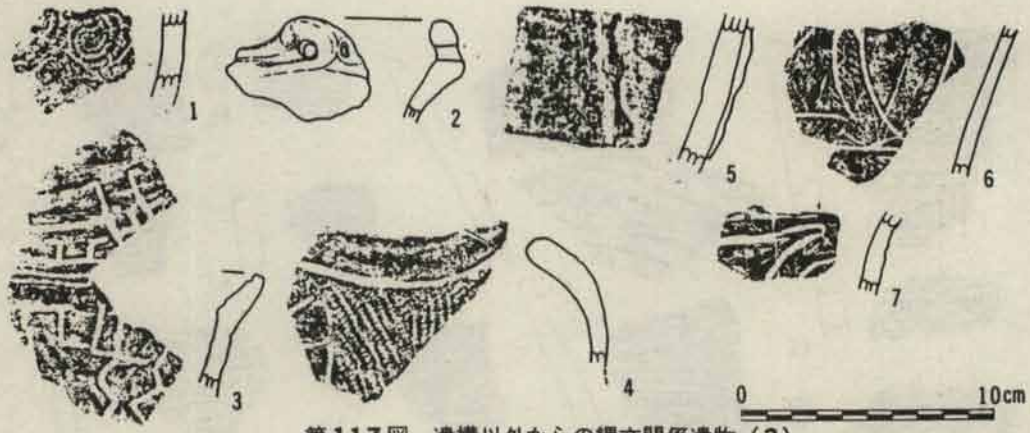
1. 丸棒状工具による刺突をうず巻状に施したもので、砂粒を多く含んでいる。
2. 竹管によって、横、縦、斜方向に沈線を設け、それが口縁部内面まで及んでいる。口唇部には連続爪型文を施し、胎土に金雲母・砂粒を多く含む。色調は黒褐色を呈す。
3. 孔を有する把手をもち、無文である。



第115図　遺構以外からの縄文関係遺物（1）



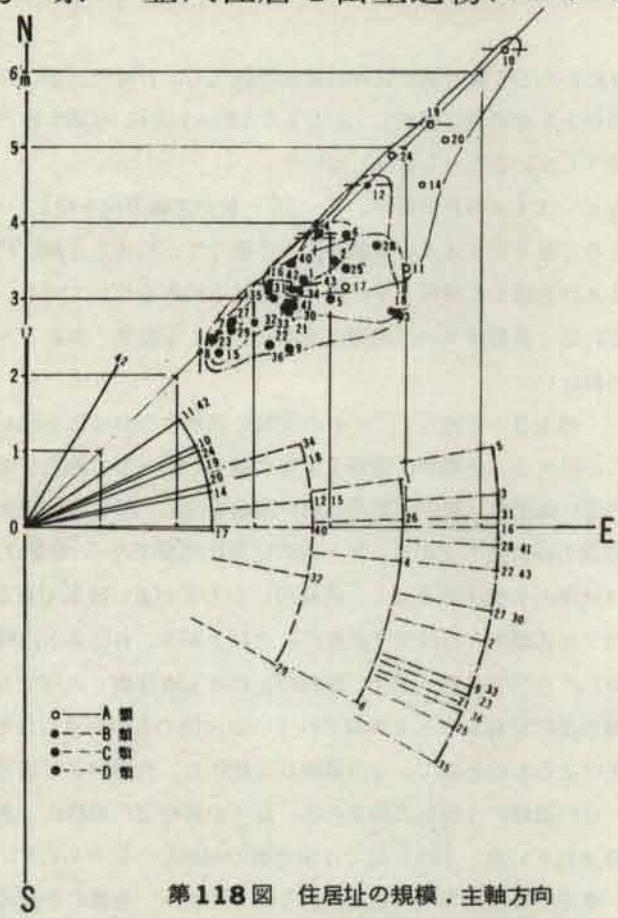
第116図　遺構以外からの縄文関係遺物（2）



第117図　遺構以外からの縄文関係遺物（3）

4. 口縁部と胴部文様帯を沈線で区画し、胴部も沈線で区画し縄文を施している。
5. 胴部に紐線文を施したもので指頭によって押捺している。
6. 内外面ともよく研磨され、沈線によって胴部文様帯を区画し、縄文を施している。黒色を呈し、堅緻である。
7. 沈線によって胴部文様帯を形成している。黒色を呈し、よく研磨されている。

11. 考　察　竪穴住居と出土遺物について



第118図　住居址の規模．主軸方向

本遺跡では縄文時代を除いて41軒の竪穴住居址（古墳時代～歴史時代）を確認したが、台地全体には大集落が推定され、今回の調査で極く一部の住居址が調査されただけである。住居は規模、主軸方向、出土遺物等から4つに分類でき、さらに細分が可能である。第118図によると、A類は、バラツキは見られるが全体に大型の正方形で、北方向に近い主軸が見られ、B類では、A類よりも小型化が進み、主軸方向も東偏を中心として南北にバラツキがあるが、A類よりも東偏よりの傾向が見られる。C類は軒数が少ない為に断言できない状況であるが、まとまりのある規模で、B類とほぼ同様な主軸を呈している。D類は規模にバラツキが少なくなり、小型化している。主軸方向も南偏よりに集中気味となる傾向が観察できる。

全体にA～D類に連れ、小型化する傾向と、主軸方向が北偏～東偏～南偏寄りと変化している事が認められる。

《編年試案》

本遺跡では大集落の一部の調査でもあり、今後の調査の進展に伴い、順次に編年を確立していきたく、今回は試案として作業を進行した。

A－1類

11号住居址と13号住居址にかかる土壙状掘り込みの遺物が該当し、11号住居址は良好なセットが出土した。埋土上面南側より中央部に傾斜して床面より20㎝上方に 堆積することから、ある年月をおいてＦＡが降下していることを意味している。

住居址は方形でなく、5ｍ×3.4ｍの長方形で、N－55°－Eの主軸方向を呈し、カマドは北壁の東寄りに住居址内に大きく張り出す古式の形態を呈する造りで、高坏を支脚に利用している。貯蔵穴はカマドより1ｍほど隔てて東壁よりに掘り込まれる円形を呈している。主柱穴はセンターライン上に確認される。遺物はカマド周辺に集中し、甕、小型甕、高坏、坏、坩、の器制で、壺の出土は見られない。

甕は内外面に櫛描状ナデ（刷毛目）を施し、「く」の字状に屈曲する口縁部を呈し、不安定な底部で、長胴化のきざしが見える。小型甕は胴部下半を欠損し、甑として利用したものであろうか？　高坏は脚柱部内面に輪積痕、膨み、裾部の強い屈曲を呈し、坏部の体部と口縁部が明瞭に区別され、直線的に斜方向に立ち上がる。坏と埦の区別は明瞭でなく、底部は、平底と丸底の二タイプがある。坩は体部が算盤玉状を呈し、直線的に立ち上がる口縁部である。土壙状掘り込み内出土の坩は、扁平な体部で、口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部が内彎する。11号住居址より若干新しい時期のものであろうか？　壺形の土器は土壙状掘り込みで口縁部が出土している。所謂複合口縁が単に沈線をもって表現されている段階のものが見られる。

ＦＡと床面の間に間層をはさむものとして、寺内遺跡6号住居址、鳥海戸2号住居址が紹介されている（注－1）が、寺内遺跡では放射状暗文の坏、高坏の脚柱部の短脚化、鳥海戸遺跡では須恵器の模倣坏が観察されている。当住居址では須恵器の模倣坏が認められず、櫛描状ナデ（刷毛目）の技法が坏、甕等に残り、カマドも初期的な造りであり、全体の特徴は和泉期の名残りを良く留めている。しかし甕に長胴化のきざしが見られることから、和泉期から鬼高期への過渡期に考えられ、6世紀初期頃の時代が考えられるが、今後、類例の増加に期待するものが大であります。

（注－1）考古学ジャーナル1979.1「群馬県における火山堆積物と遺跡」

A－2類

10号住居址の遺物が該当し、A－1類の堆積に比べて床面直上をおおう状況でＦＡが検出されたことから、ＦＡの降下期とほぼ同時期に比定される住居址で、群馬県群馬町保渡田遺跡の好例が報告されている。

10号住居址は調査区域内で約半分のスペースが調査されただけで、全容は明確を欠いているが、6.3ｍ×6ｍ前後を測る方形プランで、対角線上に主柱穴が設けられ、カマドは東壁中央部に位置しよう。遺物は貯蔵穴から南壁沿いに多く検出され、高坏、坩、甕、鉢形土器等の器

制が見られる。

甕はA－1類と同様内外面に櫛描状ナデ（刷毛目）を施し、「く」の字状に屈曲する口縁部を呈するが長胴化が進んでいる。坏と埦の区別は依然としてなく、手法に放射状暗文を施すものが見られる。高坏はA－1類とさほど変化ないが、10号住居址の約半分の調査で6個体の坏部と1個体の脚柱部が出土している。坏部は体部と口縁部が明瞭で斜方向へ開く口縁部を呈している。甜は口縁部が短化し、体部は扁平化しているが、櫛描状ナデを施している。（坏に須恵器の模倣が見られるが、埋土上層での出土である為，混入遺物と考える）

保渡田遺跡では須恵器の模倣坏の出現と他の形態坏の小型化が見られるが、当住居址では、A－1類と大差がない状況である。地域差等から生じた結果であろうか？

FAとの関連から南関東鬼高1式に包括され、6世紀前半の時代が考えられよう。

A－3～1類

19．20．24号住居址の遺物が該当しよう。3軒の住居址とも1辺5ｍ以上を測る方形を呈し、対角線上に主柱穴が見られ、東壁中央部付近にカマドを設け、壁をトンネル状にくりぬき煙道部を作り、住居址外へ細長く張り出す。主軸はN－75°－E前後を呈している。20号住居址は良好なセットを出土し、長甕、壺、丸底壺、甑、坏、埦の器制である。

長甕は小さい平底より砲弾状の胴部を呈し、頸部はややくびれ、「く」の字状に屈曲する口縁部へ移行し、最大径は口縁部で測り、ヘラ削りは数回に亘って施している。壺形土器は大形の球状胴部を呈するものと、小型の丸底壺が見られる。大形壺は口縁部が一旦直立し、そして短かく外反するものと、「く」の字状に屈曲するものが見られ、口唇部直下に一条の沈線が廻る。丸底壺は大形壺の小型化した形態に似る。甑は長胴のものでなく、植木鉢タイプのもので赤彩を施している。当住居址内には完形の長甕が3個体、底部欠損1個体、胴部下半欠損1個体が出土しているが、長甕と甑のセット関係を考えると、長甕の個体数は多いのではなかろうか？長甕と底部欠損、または胴部下半欠損のものが長甕と甑のセット関係と同様の使用方法をとったのか。 単独として使用する用途があったのであろうか？

坏はA－1、2類の形態は消え、須恵器の模倣坏となる。底部は丸底を呈し、外面に陵を設け、口縁部は大半が外反するが、直立気味のものもある。内面に黒色処理を施す坏が一点出土している。24号住居址には平底気味の丸底より直立気味に外反する坏、手捏ねのミニチュアが出土した。埦形土器は、坏形と19号住居址に見られる埦形のものがある。20号住居址の埋土中より短頸壺が出土している。

A－3～2類

14．17．42号住居址の遺物が該当しよう。A－3～1類の住居址に比べ小型化の傾向が見られ、長方形か正方形である。17．42号住居址とも北壁中央部付近に、住居址構築時のカマドが

設けられ、廃絶時期には東壁部に移動している共通点があり、北壁のカマドはA－3～1類住居址カマドと同形態を呈しているが、廃絶時の東カマドは形態を異にしている。17号住居址は真間期の形態のカマドで、42号住居址は東壁を利用し、段を設けて煙道部に移行する3～1類タイプで、14号住居址は袖部に長甕を利用し、「π」状を作り出している。廃絶時の時間差から生じたものであろうか？　3軒の住居址には主柱穴らしき掘り込みは確認できなかった。

長甕はA-3～1類よりも全体にスマートな砲弾状を呈し、頸部のくびれも弱まる傾向にある。壺形土器は前段階と同様を呈しているが、胴部はやや寸胴気味となろうか？　坏は全体に浅い体部となる傾向にあり、外反するもの、内傾する口縁部を呈するものがある。17号住居址南西コーナー部上層で、角状把手を設けている甑が1点見られる。

A－3類は南関東鬼高Ⅲ式に把握される土器群であろう。住居址が大型方形より小型化し、カマドの構造も変化を見い出している。埋土セクションにFPの堆積を観察できるが、混入の可能性が大である。土器等の形態から7世紀前半頃の所産のものであろう。

B－1類

34．42号住居址の遺物が該当しよう。3.5 m前後の方形プランで、N－80°－E前後の主軸を呈し、A類の住居址よりも東に近づいた主軸に変化し、カマドも東壁中央部より南寄りに位置する。遺物は長甕、坏、埦等が出土している。

長甕は底部がやや突出する丸底より、砲弾状胴部を呈し、ややくびれ、口縁部は大きく開広している。坏は、24号住居址出土の坏に似る平底気味の丸底より、直線的に斜方向に移行する口縁部となる。丸底より外面に軽い陵を呈し、口縁部は外反するもの。　所謂真間期の特徴となる口縁部が内彎する坏の形態がある。埦は真間期特有の坏の大型化したものである。42号住居址では、曲刃鎌、須恵蓋が出土している。

34号住居址の坏は画一的でなく、雑多な形態で10個体の坏が出土している。共に鬼高期の須恵器の模倣坏に見られる陵が残存する皿形の坏が認められると同時に、真間期特有の坏が共存する段階であるが、主体は後者が占めている。

B－2類

12，15，18，29，32号住居址の遺物が該当しよう。住居址は全体に小型化が進む傾向にあって、主軸方向も東方向に集中している。カマドは東壁中央部から南寄りに設けられている。主柱穴は確認できない。遺物は長甕、壺、坏、高坏、短頸壺等である。

長甕は、B－1類と似る形態のもの、こける様な底部から、やや胴張りを呈する胴部に移行し、頸部が強くくびれるもの等の形態が見られる。18号住居址では、底部欠損の長甕が完形の

長甕に挿入している状況で出土している。壺は「く」の字状に屈曲する口縁で、胴部は球状を呈している。口唇部下の沈線は見られない。坏は前段階より画一的で、手法、形態も安定している。高坏は18号住居址で脚部片が出土し、短頸壺は12号住居址に見られる。

B類は所謂真間期の所産のものであろう。住居址はA類より全体に小型化し、主軸は東方向を中心に変化している。B－1類は鬼高期の坏に見られる陵が残る浅い皿状の坏が見られ、B－2類に於いては、この陵をもつ坏が消え、所謂真間期特有の坏が画一的となって出土している。　土器の形態等から、7世紀後半から8世紀に位置されるものであろう。

C－1類

1号、4号住居址の遺物が該当しよう。2軒は調査区西側の町道251号線よりに検出され、調査区域内では両者とも全容が把握できない状況であった。遺物は，長甕、坏、須恵坏等である。

長甕は、B類に比べて頸部がくびれ、口縁部は斜方向に開き、胴部最大径と口縁部径が一致し、胴部下半は尻つぼみとなろう。坏は真間期の系統を引く丸底と平底を呈すものが見られ、底部は手持ヘラ削り、内面から口縁部は横ナデを施している。須恵坏は回転ヘラ削りの底部を呈している。1号住出土の糸切底の坏は埋土上層の混入遺物である。

長甕は、B類の「く」の字口縁を呈するものから「コ」の字口縁を呈する過渡期的な形態であるのではなかろうか？　坏の形態も真間期の様相を残存し、また平底を呈するものも出現している。

C類の土器群は、糸切り未調整坏が見られず、依然として土師器が大半を占めており、前段階の底部ヘラ削りの技法が残存している点で、8世紀後半頃の所産と考えられようか？

D－1類

所謂「コ」の字口縁の長甕、高台付埦の出現が見られる住居が該当しよう。2．5．9．16．21．23．27．28．30．31．35号住居址が相当し、　28号住居址を除き3ｍ前後の方形プランを呈し、東方向から南方向に主軸が集中している。遺物は、長甕、高台付埦、坏、台付小型甕、灰釉陶器等である。

長甕は所謂「コ」の字口縁のものと、C類の長甕が見られるが最大径は胴部上半に位置する形態に変化している。高台付埦は、土師質、須恵質、須恵質土師が見られる。　坏には、土師器、須恵器が見られ、須恵坏は糸切り底で未調整である。土師坏は底部手持ヘラ削りである。台付小型甕は八の字状に開く台部に小型の「コ」の字口縁を呈する長甕を接合したものである。土師器坏よりも須恵器坏、高台付埦が大半を占めている段階である。また灰釉陶器の住居址内への持ちこみが普遍化し始めている。

D－1類は、長甕の形態の変化、高台付埦の変化等が観察でき、さらに細分可能と思われる。

D－2類

22．33．36号住居址が該当しよう。全体に住居址が画一的に小型化し、主軸も東方向より南よりの傾斜に集中する。遺物は、長甕、坏、高台付埦、小型壺、土釜状土器等がある。

この2類での特長は、所謂「コ」の字口縁を呈する長甕が変化することにあり、「く」の字状口縁に退化したもの、二条の沈線によって「コ」の字口縁を意識し、器肉は肥大し、重厚な感を呈するものが見られ、「コ」の字口縁を呈する長甕の衰退期と思われる。また土釜状土器が出現することが掲げられる。高台付埦は、1類と同じで、土師質、須恵質、須恵質土師がある。高台部と体部との接合は雑である。坏は、土師質と須恵質があり、土師質の坏は、底部、体部にヘラ削りを施すもの、内面黒色処理を施したものが出土している。また33号住居址では石製模造品、36号住居址では鉄鏃が見られる。

D－3類

25．41．43号住居址が該当しよう。町道10号線以東に確認され、石組みをもつカマドに共通点がある。遺物は、羽釜、土釜、坏、高台付埦、灰釉陶器等であり、所謂「コ」の字口縁を呈する長甕は見られない。

羽釜は口縁部が直立するもの、内彎気味のもの、内傾する形態等が見られ、土師質、須恵質、瓦器質のものが見られる。土釜状土器は、「コ」の字口縁を呈す長甕より変化したものであろうか？　器肉を肥大して、口縁部を「く」の字状に屈曲させ、堅質の焼きを呈し、体形も長甕に似る。また脚台付甕と思われる器形の土器が出現するのもこの時期であろう。高台付埦は、土師質のものが多く見られる。

D類は所謂、国分期の所産のものである。長甕は「コ」の字口縁を呈するものが主体となり、2類に於いては衰退化が見られ、3類には、長甕に変わり土釜状の甕、羽釜が出現している。当遺跡では長甕と羽釜の共伴は見られない状況であり、2類のカマドから3類の石組みのカマドへの変化が見られる時点で羽釜が出現している。また高台付埦、坏の糸切り技法、灰釉陶器の搬入があり、細分化が可能であるが、広大な集落址の一端を垣間見た段階であり、今後、この地域に於いても開発等による破壊に対処する為の事前調査が必至な問題となっており、資料の増加を待ち、内容の充実を図りたい。

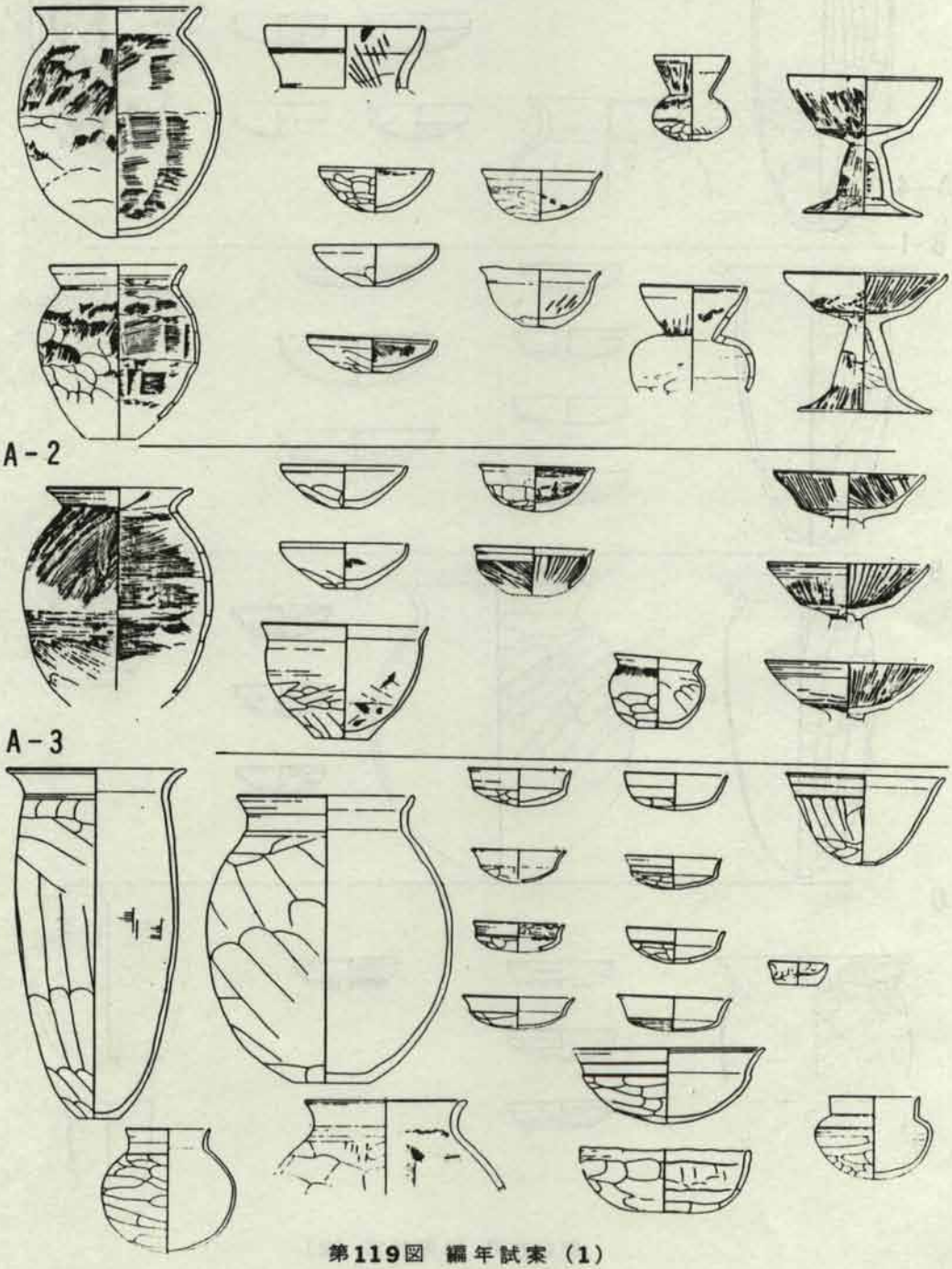
現段階では、D－1類を9世紀、D－2類を10世紀初め、D－3類を10世紀後半頃として一応把握しておきたい。

編 年 試 案

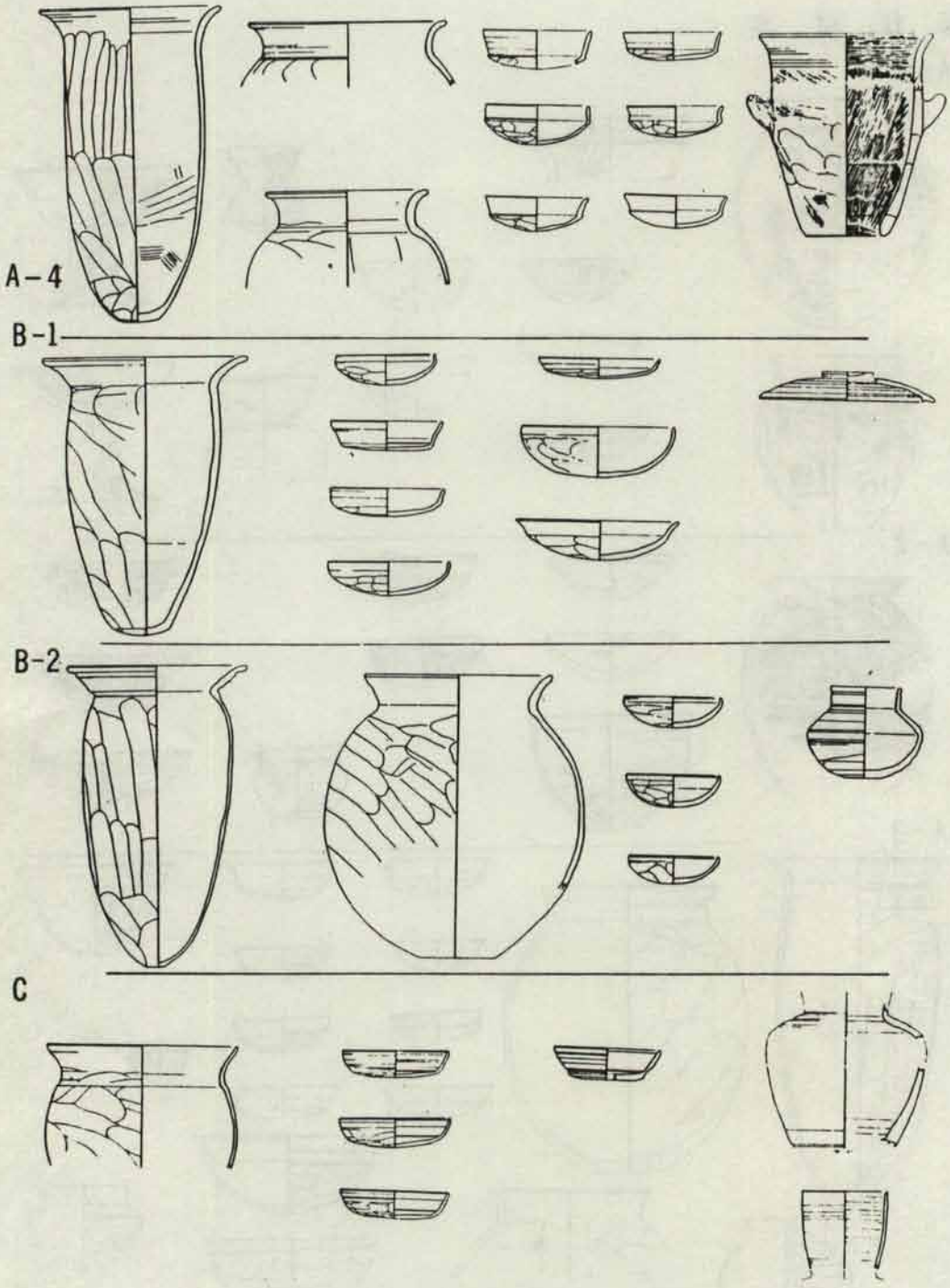
A-1

A-2

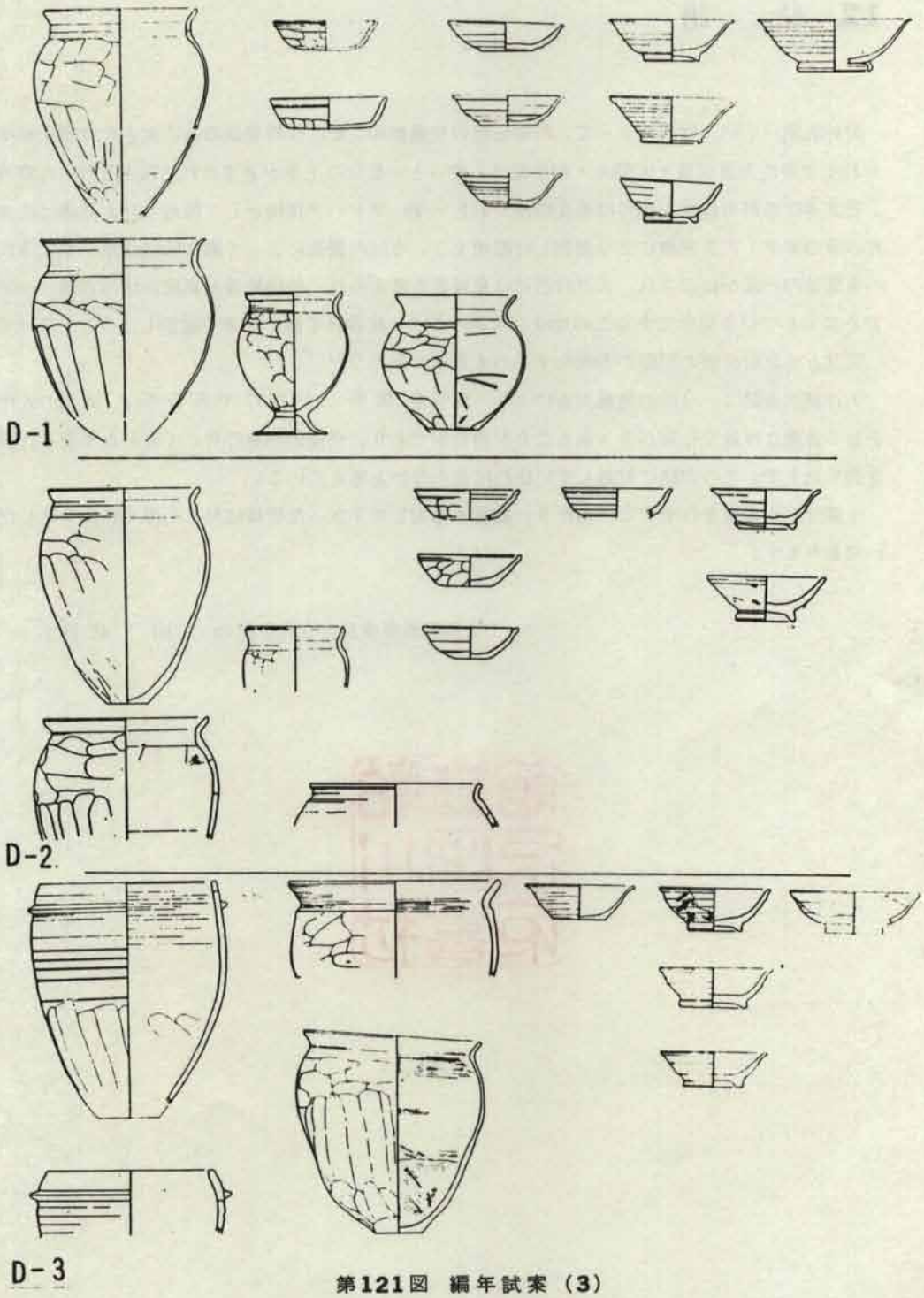
A-3



第119図 編年試案（1）



第120図 編年試案（2）



第121図 編年試案（3）

12. 結　語

仮称大胡バイパス建設によって、町中心部の交通緩和、更には町発展の為に大きな役割を期待される主要地方道前橋・大間々・桐生線は、やっと一部分の工事が着手された段階となった昨今、茂木寺院址の可能性を裏付ける瓦塔片（ＰＬ－49、プレハブ用地として借地した大原勝己氏所有の桑畑でゴミ穴を重機により掘削した際出土）、今回の調査によって縄文時代前期～平安時代の集落址の一部が確認され、また付近には墓址等も考えられ、故尾崎善左雄氏が堀越古墳との関連を提示している場所であるこの地は、大胡バイパス建設終了後、大きく変貌しようとしている。

開発と文化財保護の問題が表面化するのも真近であろう!!

天神風呂遺跡は、今回の発掘調査により一部分を解明しただけであるが、大胡の古代を語る貴重な埋蔵文化財が多々あることが明らかであり、今後の開発に対して充分な準備と計画を立てた上で、この問題に対処していかねばならないと考えている。

末筆ながら本書を作成するにあたり、助言・協力して下さった皆様に対し、厚く感謝するしだいであります。

（大胡町教育委員会文化財担当　　山下歳信）

相模原市立図書館

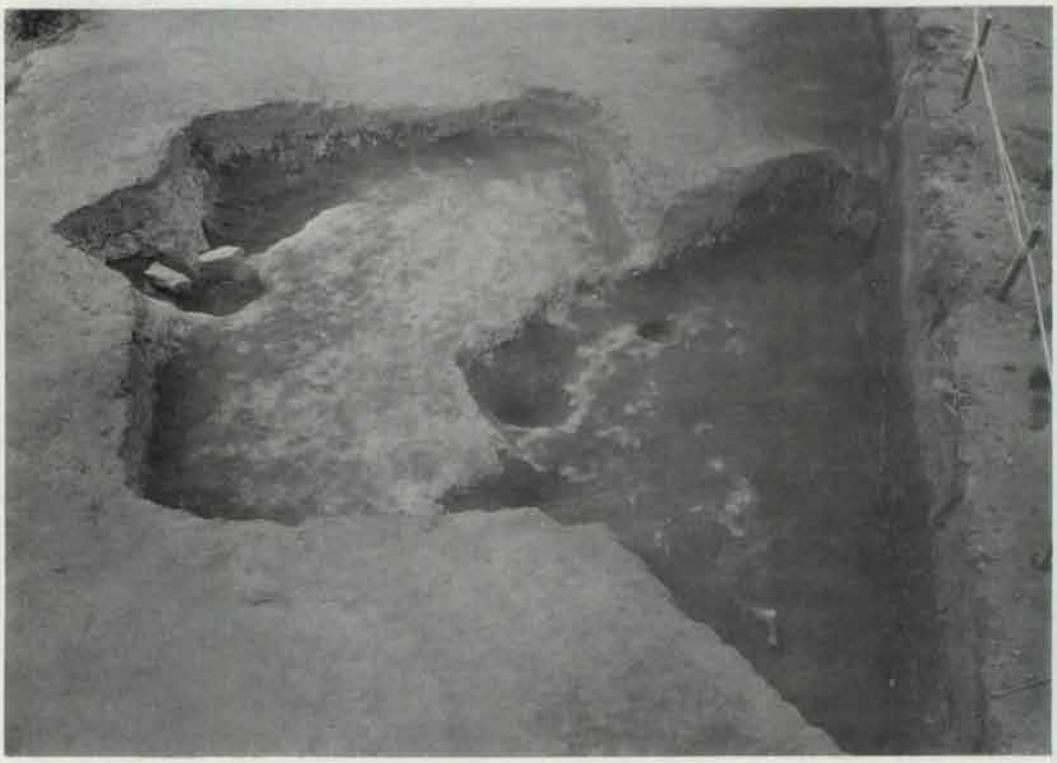
参　考　文　献

1. 大胡町誌
2. 大胡町小史　丸山知良著　大胡町教育委員会
3. 藤の台遺跡　Ⅲ　1980　藤の台遺跡調査会
4. 笠懸村稲荷山遺跡－笠懸村埋蔵文化財調査報告集第3集　1980.3　笠懸村教育委員会
5. 峯岸山遺跡発掘調査報告（第一次）　昭和49年度発掘　新里村教育委員会
6. 関山貝塚　埼玉県埋蔵文化財調査報告第三集　埼玉県教育委員会
7. 茨城県所作貝塚発掘調査報告　寺門義範　霞ヶ浦文化研究会
8. 上野国分寺隣接地域発掘調査報告　1978.3　群馬県教育委員会
9. 空沢遺跡　1978　渋川市教育委員会
10. 上武国道地域　埋蔵文化財発掘調査概報　Ⅲ　群馬県教育委員会
11. 〃　〃　Ⅳ　〃
12. 〃　〃　Ⅴ　〃
13. 群馬県史研究　8.　群馬県下の歴史時代の土器－井上唯雄　群馬県史編さん委員会
14. 考古学ジャーナル　1979.1　群馬県における火山堆積物と遺跡
15. 氣蓑神社前遺跡　1980　埼玉県遺跡調査会報告　第39集　埼玉県遺跡調査会
16. 宇佐久保遺跡　1979　〃　第38集　〃

発　掘　風　景

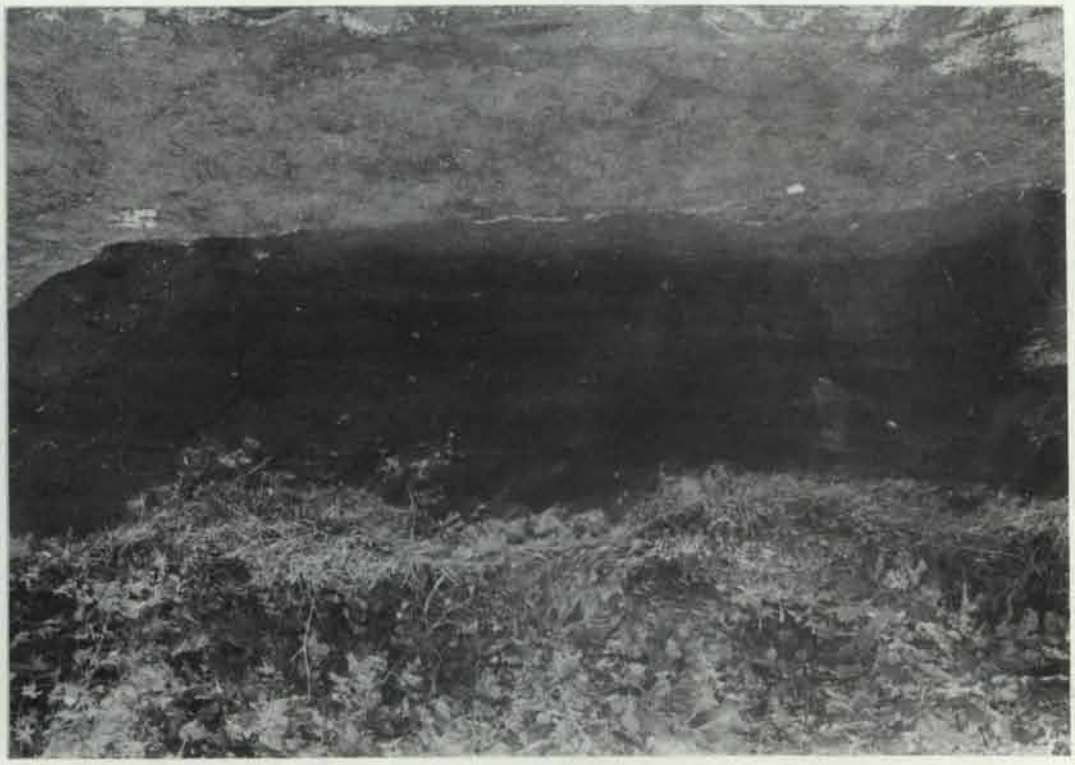
1. 遺跡遠景．赤城山を望む（南より）

2. 遺跡近景（西より）家と家の空間が調査区

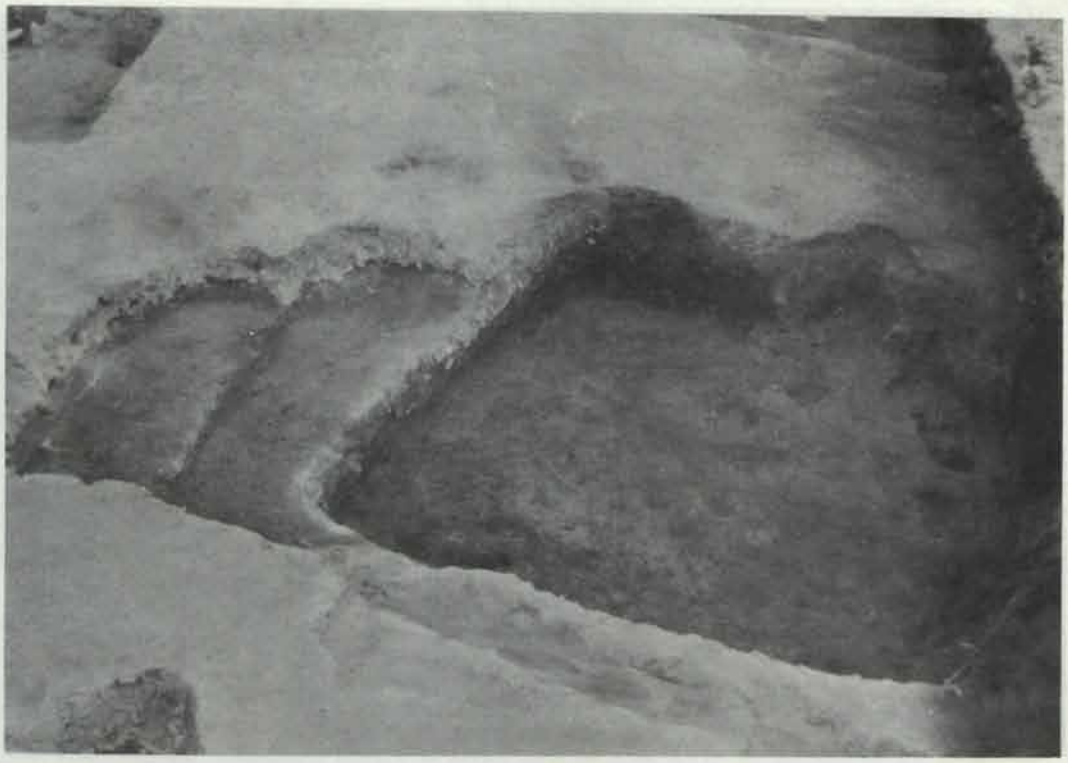


1. 1，2号住居址

2. 3号住居址

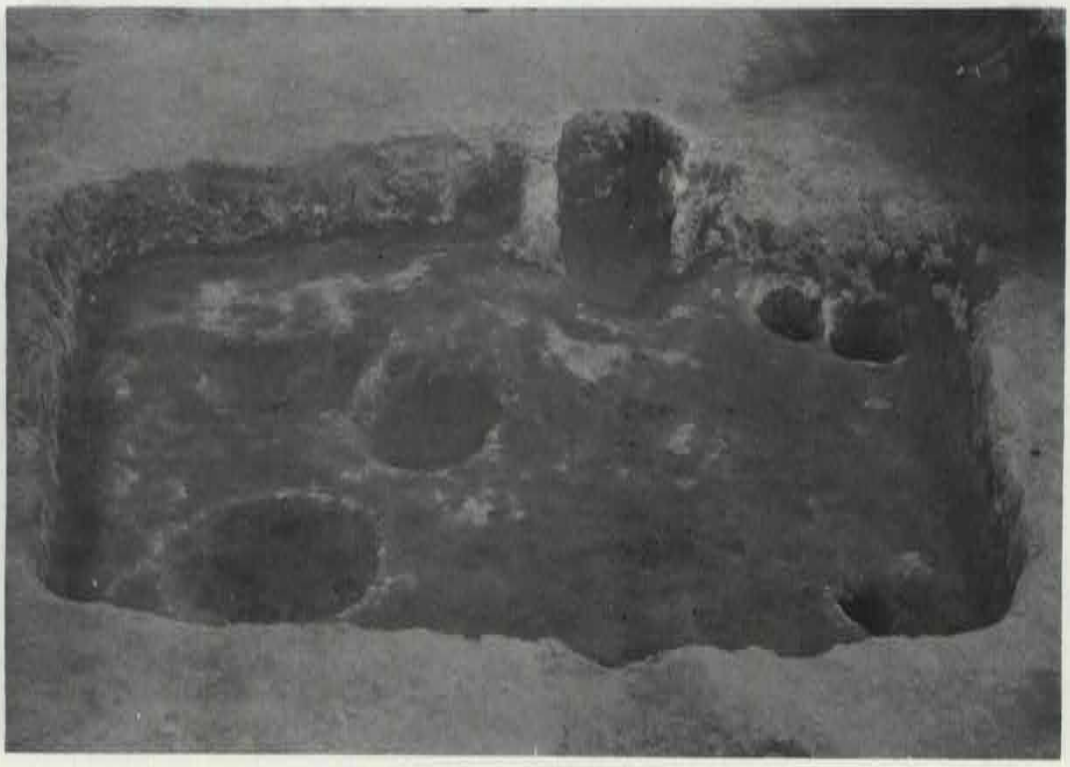


1. 4号住居址



2. 5，6，7号住居址

1. 8号住居址



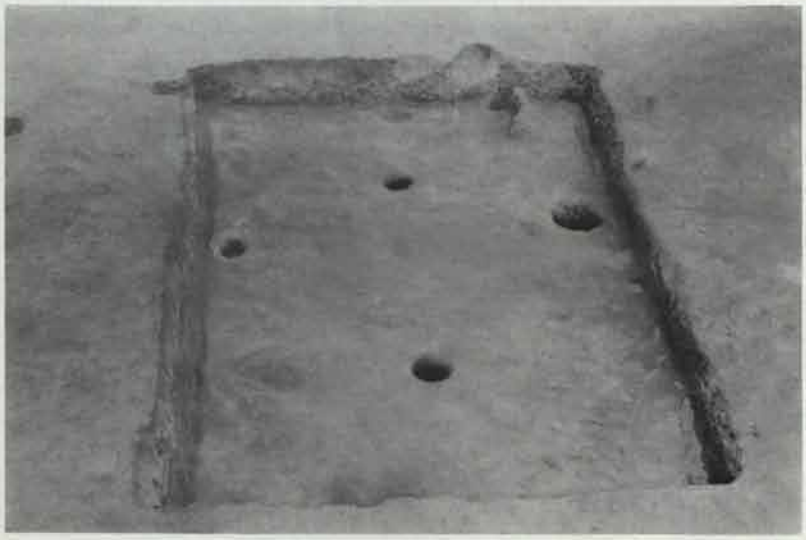
2. 9号住居址

1. 9号住居址カマド前面遺物出土状況

2. 10号住居址

1. １０号住居址遺物出土状況

2. １１号住居址カマド前面遺物出土状況

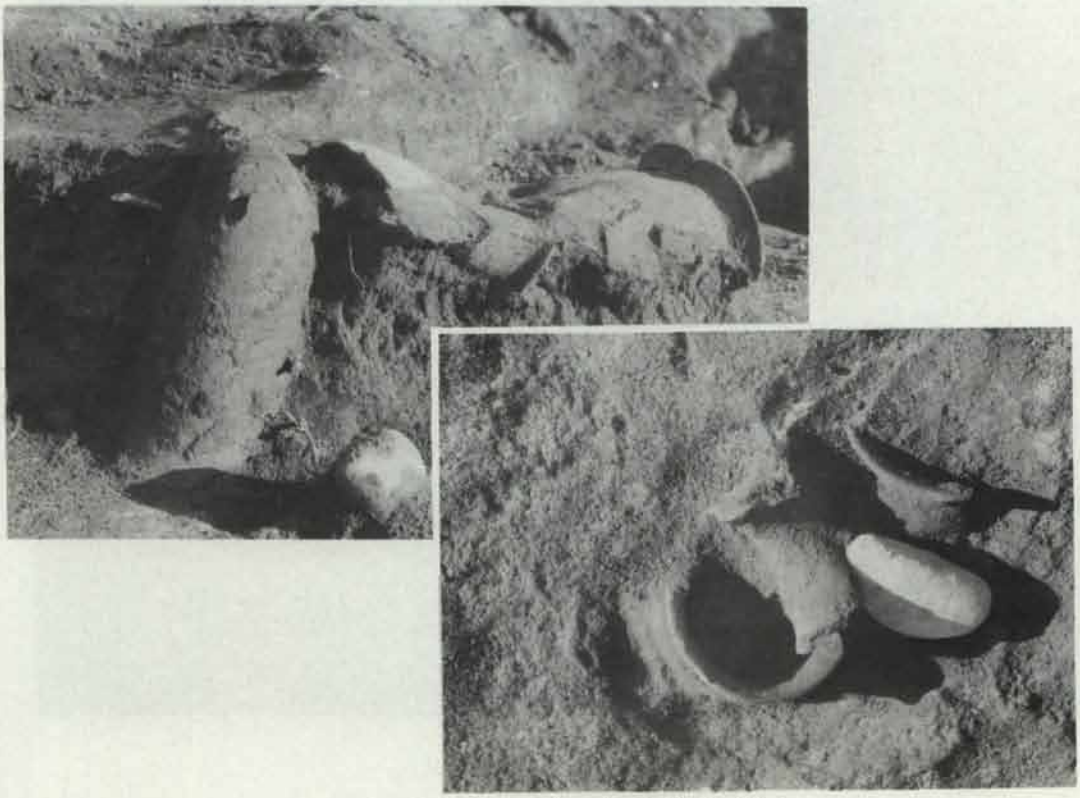


1. 11号住居址

2　11号住居址カマド

1. 12号住居址遺物出土状況

2. 13号住居址

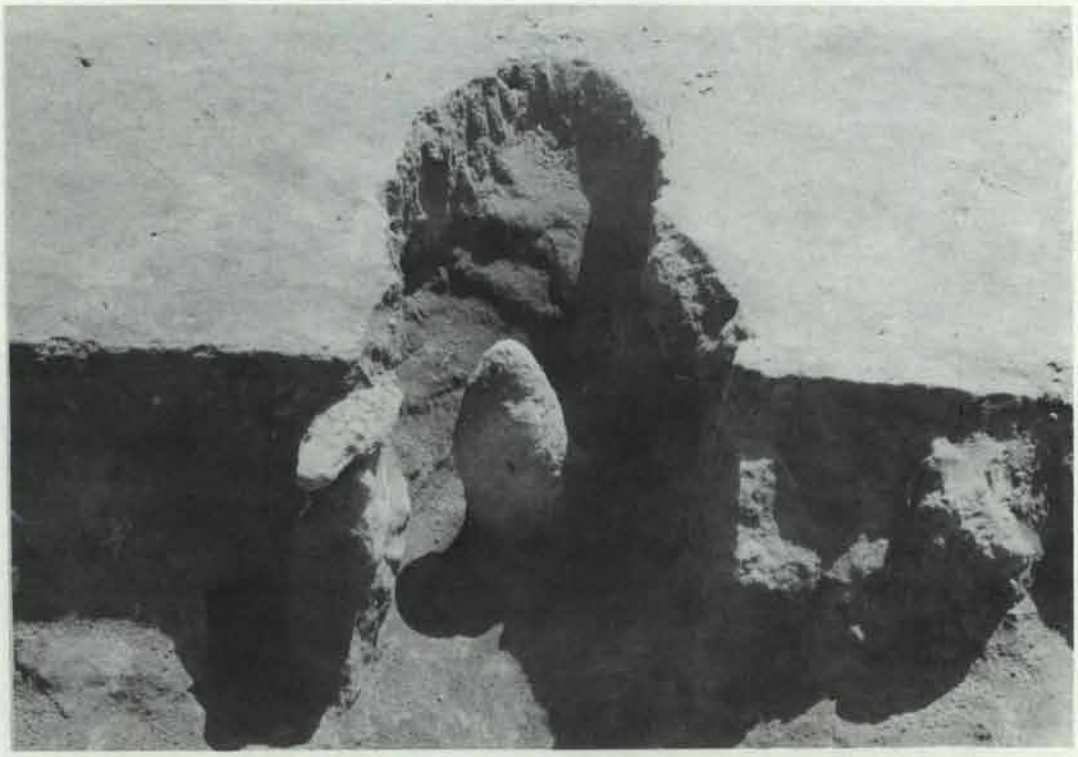


1. 14号住居址カマド，遺物出土状況

2. 15号住居址

1. 15号住居址遺物出土状況

2. 16号住居址

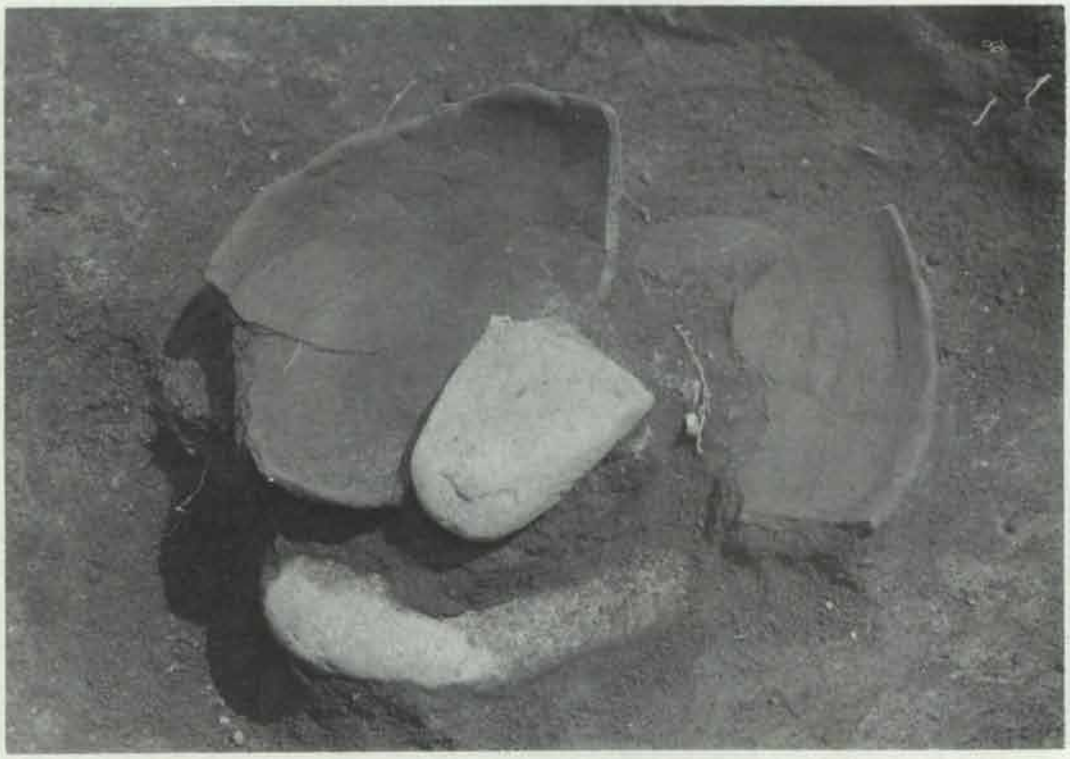


1. 16号住居址カマド

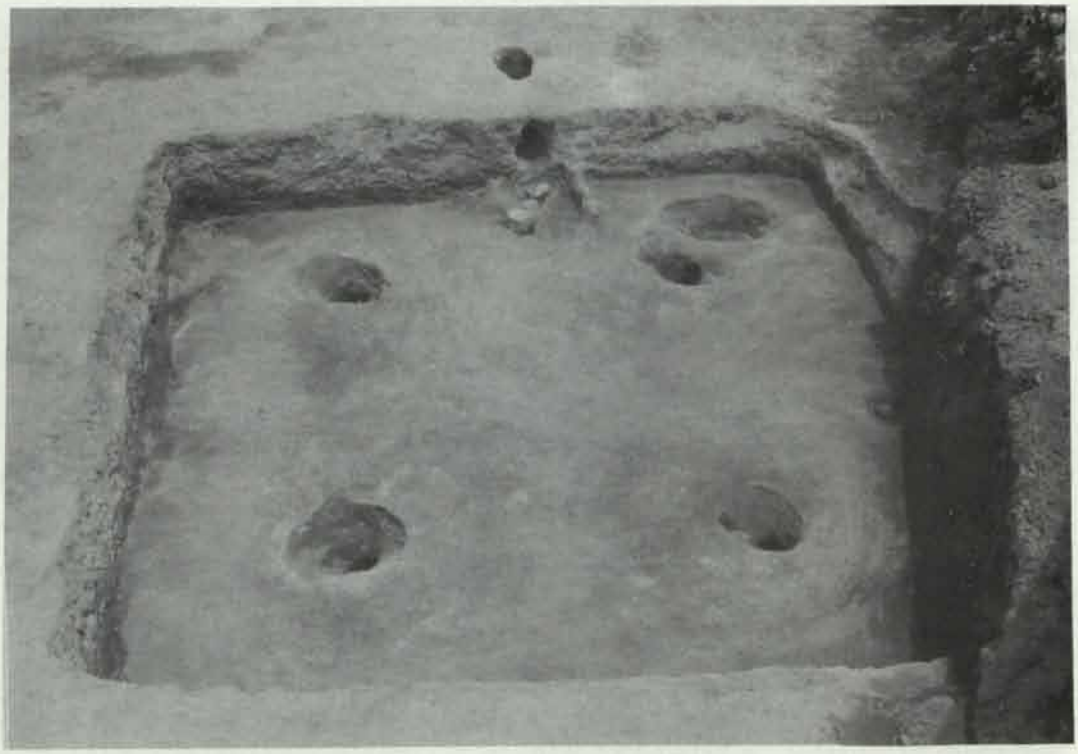
2. 17号住居址

1. 18号住居址

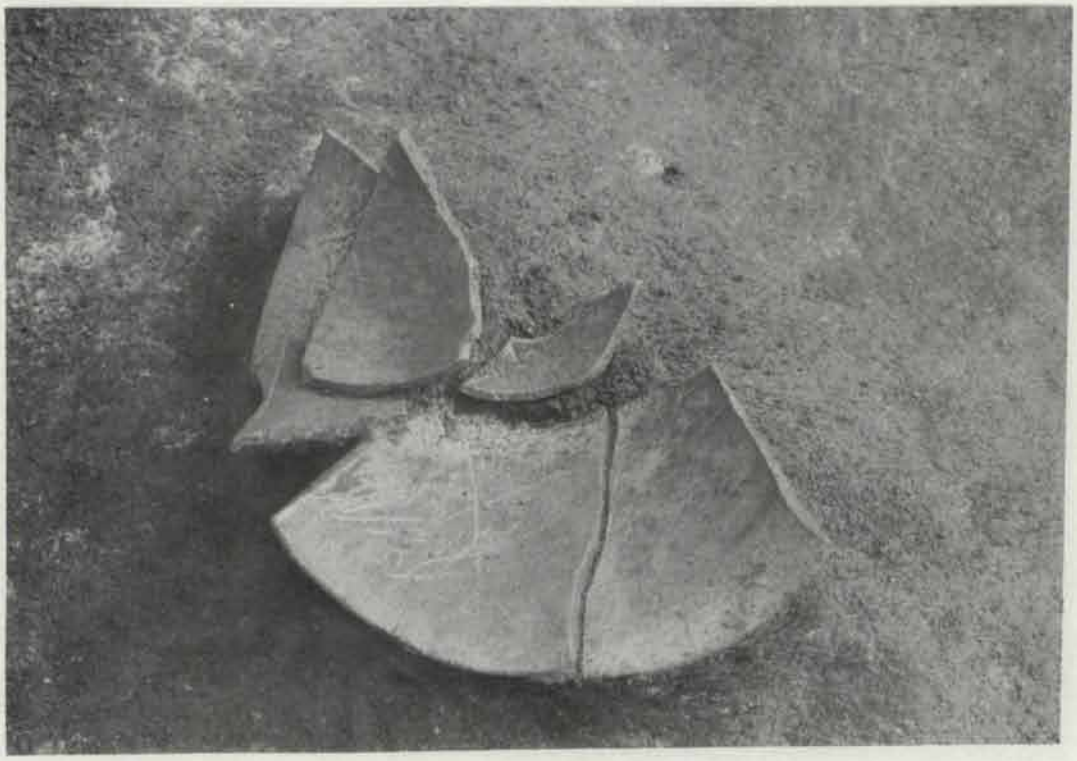
2. 19号住居址



1. 19号住居址遺物出土状況

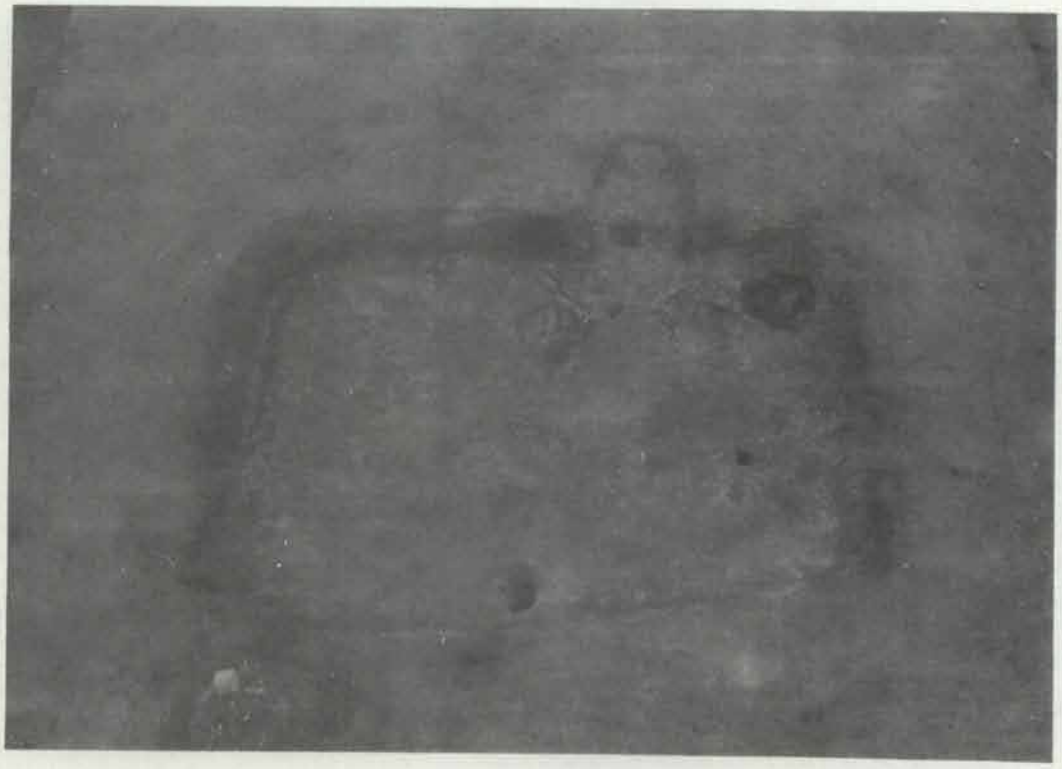


2. 20号住居址



1. 20号住居址 甑出土状況

2. 21，44号住居址



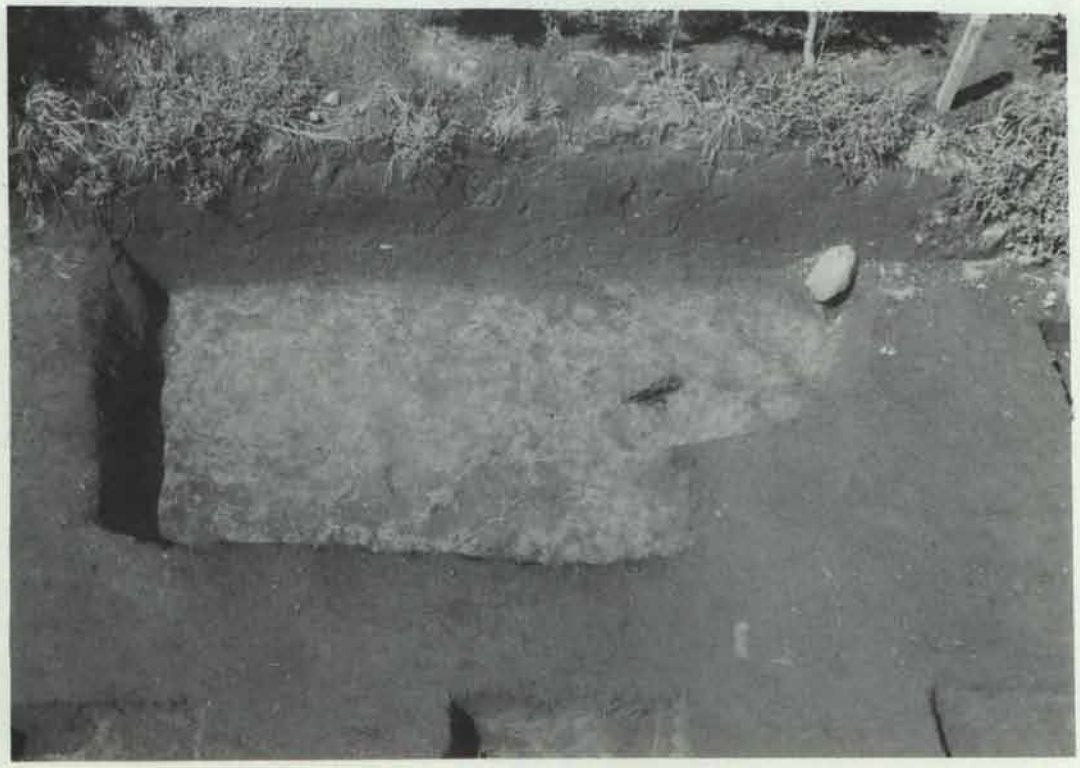
1. 22号住居址

2. 23，24号住居址

1. 24号住居址遺物出土状況

2. 25，26号住居址

1. 25号住居址カマド



2. 27A，B号住居址

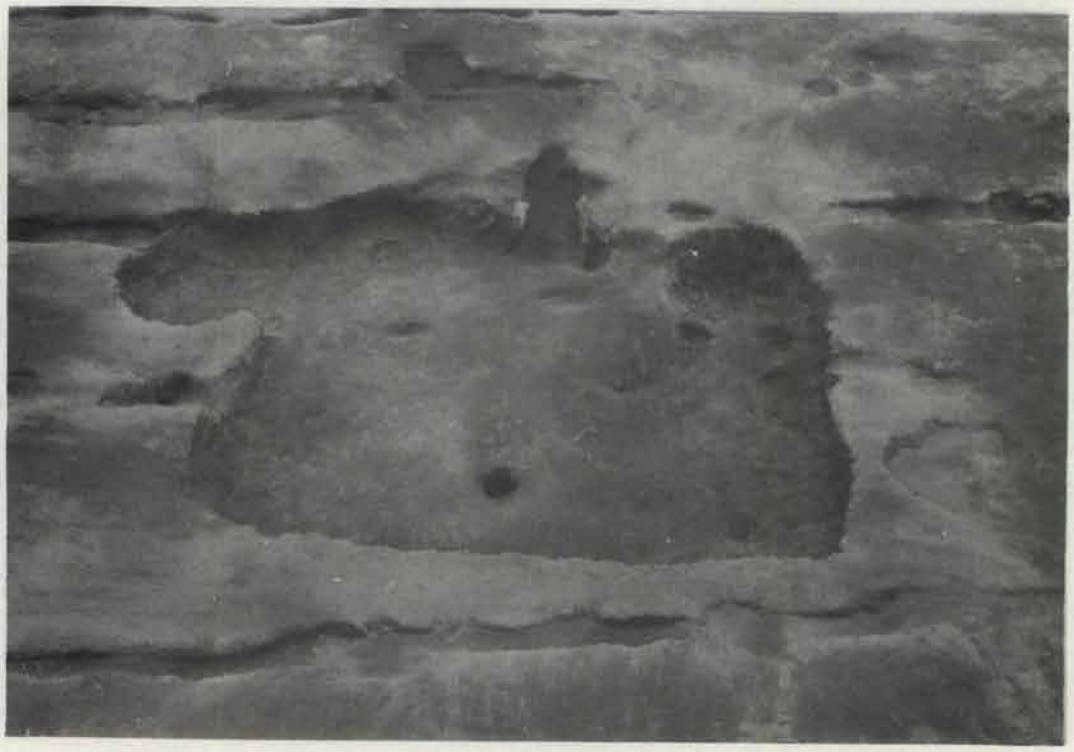
1. 28，29号住居址

2. 30，32号住居址

1. 31号住居址

2. 33，34号住居址

1. 35号住居址



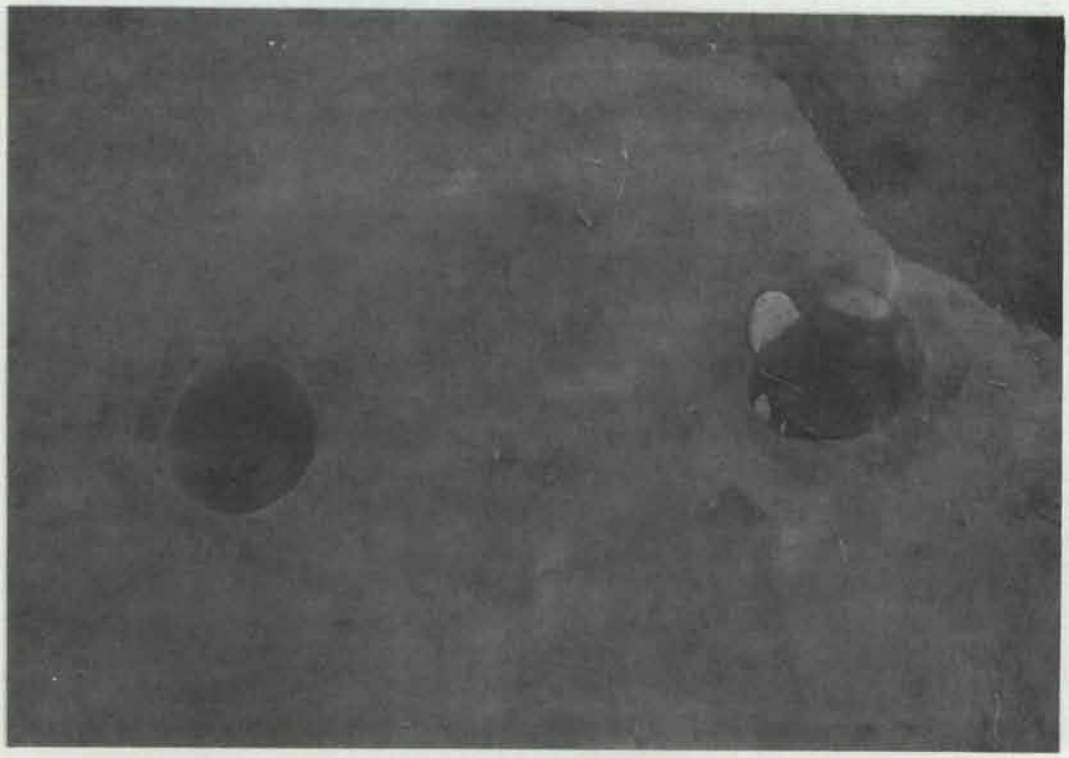
2. 35号住居址カマド

1. 36号住居址

2. 36号住居址カマド

1. 36号住居址墨書土器出土状況

2. 37，38号住居址



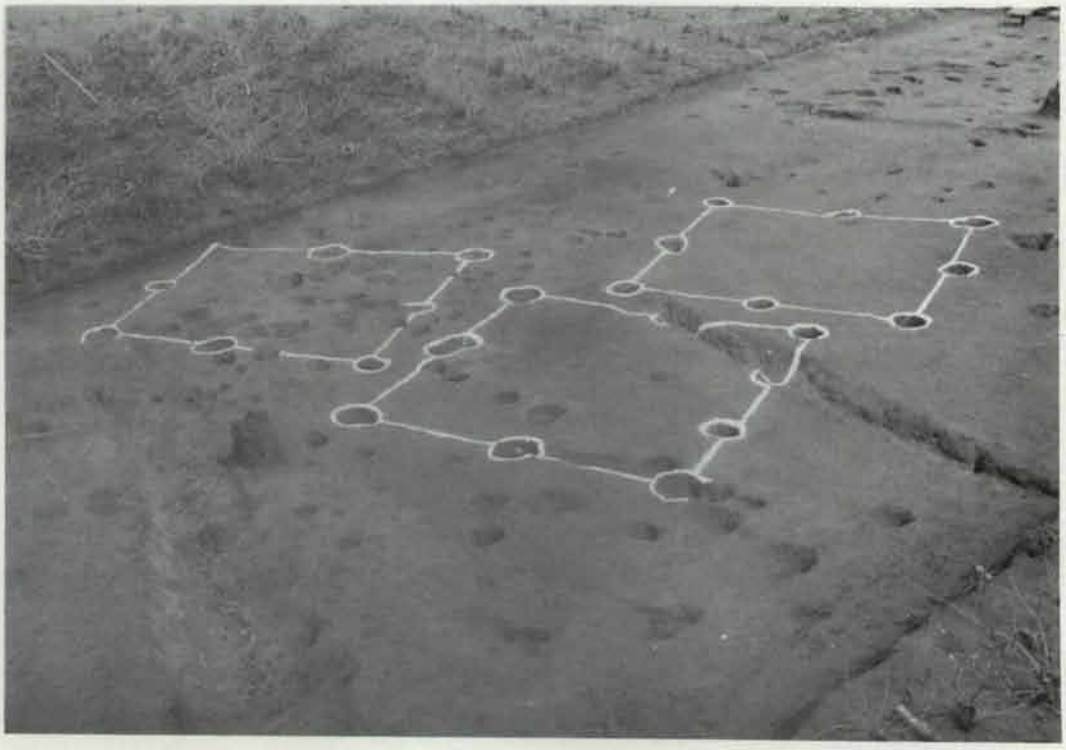
1. 38号住居址，埋甕出土状況

2. 39号住居址，羽口等出土状況

1. 40号住居址

2. 41号住居址

1. 42号住居址



2. 遺跡西側掘立柱建築址群（1，2，3B）

1. 6号掘立柱建築址

2. M－1，2．遺構

5図－2

5図－4

5図－1

5図－3

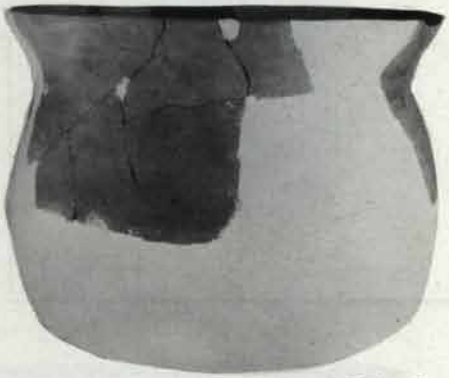
5図－7

5図－6

1. 1号住居址出土遺物

7図－3

2. 3号住居址出土遺物



9図－6

9図－5

9図－1

3. 4号住居址出土遺物

11図－1

11図－2

1. 5号住居址出土遺物

16図－4

16図－3

16図－5

2. 9号住居址出土遺物

18図－12

18図－14

18図－9

3. 10号住居址出土遺物

18図－1

18図－3

18図－7

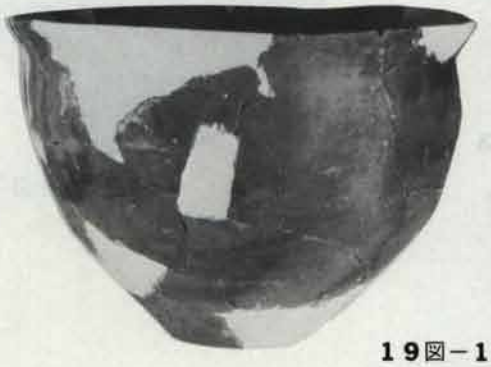
18図－2

18図－6

18図－5

18図－16

19図－17



19図－18

1. 10号住居址出土遺物

22図－7

22図－6

22図－9

22図－8

22図－1

22図－2

22図－3

22図－5

22図－4

1. 11号住居址出土遺物

23図－12

23図－11

23図－13

23図－14

1. 11号住居址出土遺物

25図－1

25図－4

2. 12号住居址出土遺物

25図－3

25図－2

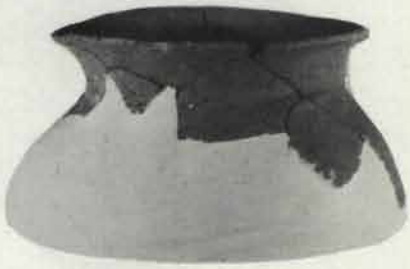
1. 12号住居址出土遺物

28図－2

2. 13号住居址出土遺物

30図－2

30図－4



31図－9

31図－12

31図－11

31図－13

3. 14号住居址出土遺物

33図－1

33図－4

33図－5

33図－3

33図－2

1. 15号住居址出土遺物

2. 16号住居址出土遺物

34図－2

38図－8

38図－7

38図－3

38図－2

3. 17号住居址出土遺物

44図－6

44図－8

44図－7

44図－5

44図－4

44図－9

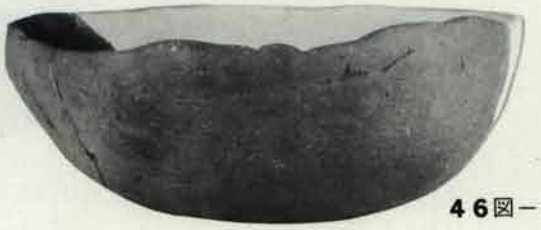
44図－2

44図－3

44図－1

1. 18号住居址出土遺物

46図－2



46図－1

46図－3，4　　2. 19号住居址出土遺物

48図－5

48図－9

48図－2

48図－6

48図－1

48図－11

50図－21

50図－22

50図－24

48図－10

50図－20

1. 20号住居址出土遺物

48図－13

49図－15

49図－16

48図－14

49図－17

49図－18

1. 20号住居址出土遺物

60図－11,12

60図－8

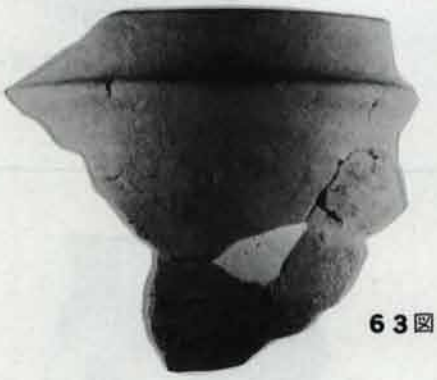
60図－1

60図－2

60図－3

60図－10

1. 24号住居址出土遺物



63図－14

62図－9

62図－3

62図－4

2. 25号住居址出土遺物

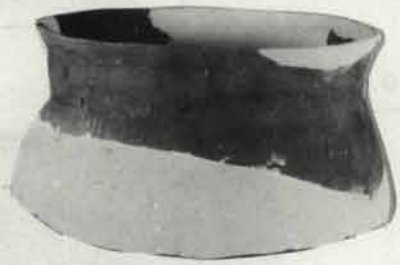
62図－2

62図－6

62図－12

62図－8

1. 25号住居址出土遺物



67図－4

67図－1

2. 27号住居址出土遺物

69図－16

69図－15

69図－13

3. 28号住居址出土遺物

69図－9

69図－10

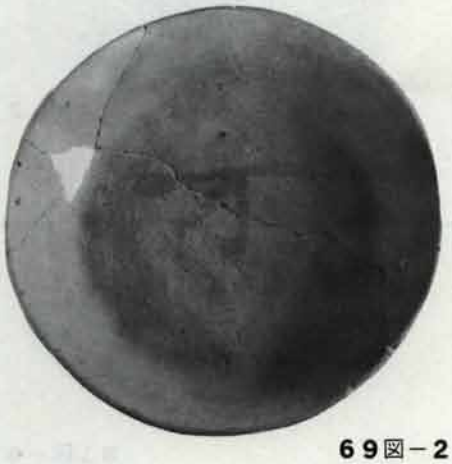
69図－8

69図－6

69図－4

69図－5

69図－1



69図－2

69図－1

69図－2

1. 28号住居址出土遺物

73図－4

1. 30号住居址出土遺物

76図－4

76図－5

76図－1

2. 31号住居址出土遺物

74図－2

3. 32号住居址出土遺物

79図－8

76図－1

4. 33号住居址出土遺物

81図－4

81図－3

81図－5

81図－2

5. 34号住居址出土遺物

81図－1

81図－9

81図－1

1. 34号住居址出土遺物

84図－1

84図－2

2. 35号住居址出土遺物

87図－1

87図－2

87図－1

87図－3

87図－6

87図－7

3. 36号住居址出土遺物

87図－4

87図－5

87図－16

87図－13

1. 36号住居址出土遺物

93図－2

93図－3

93図－1

2. 39号住居址出土遺物

96図－7

96図－6

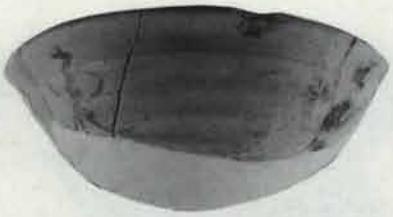
3. 40号住居址出土遺物

96図－4

96図－2

96図－1

1. 40号住居址出土遺物



98図－1

98図－2

2. 41号住居址出土遺物

98図－4

100図－2

3. 42号住居址出土遺物

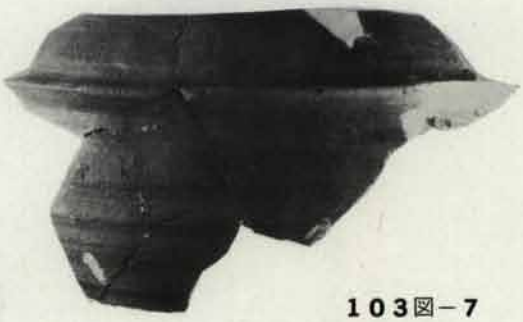
103図－1

103図－2

4. 43号住址出土遺物

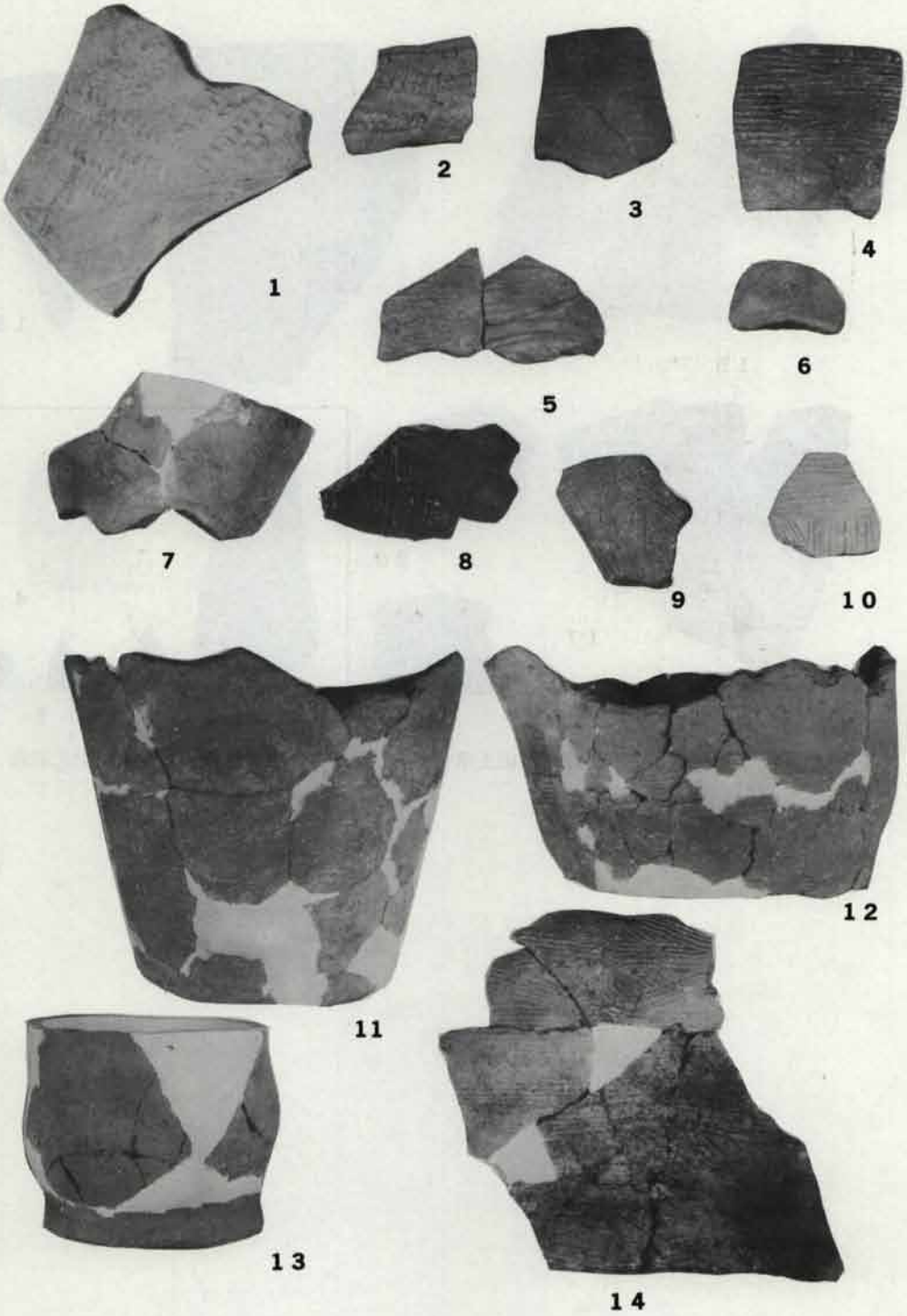
103図－8

103図－5

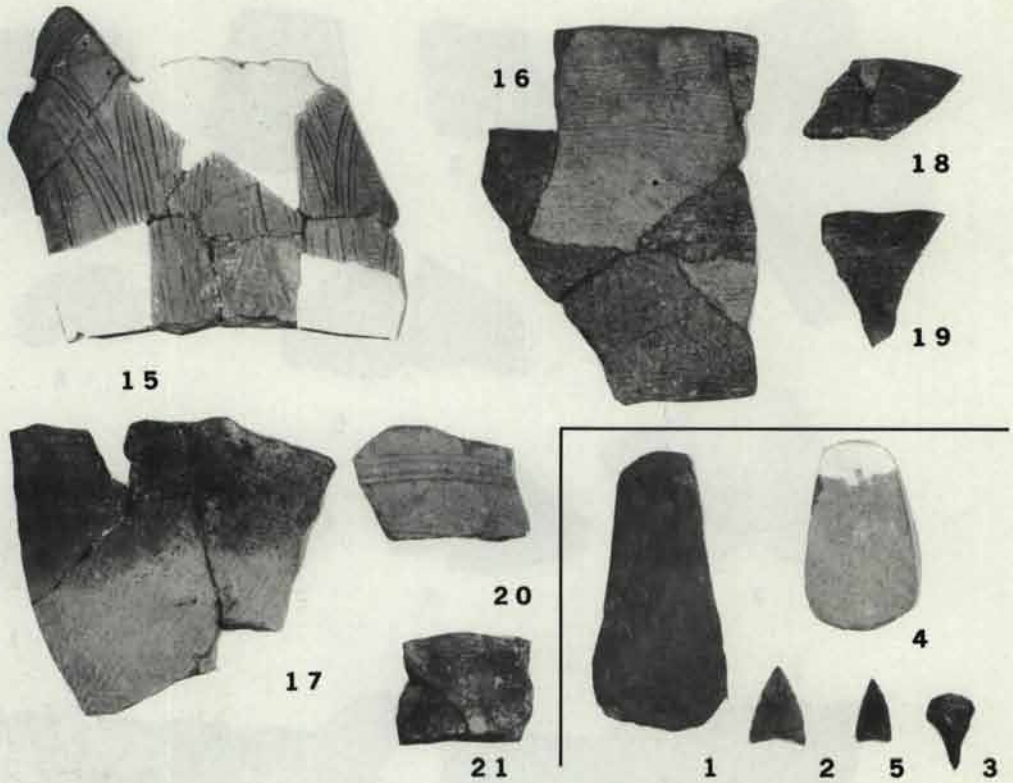


103図－7

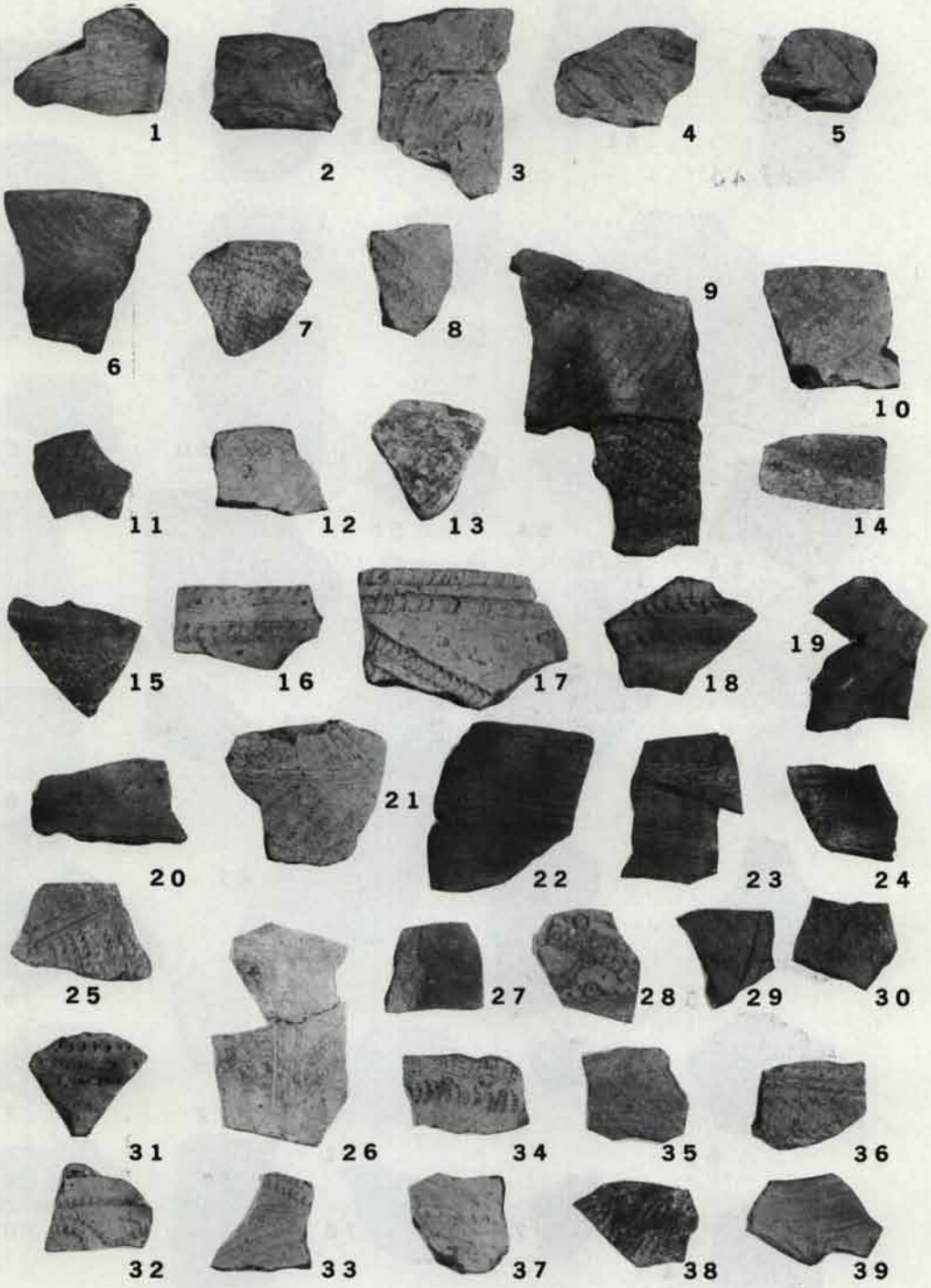
1. 43号住居址出土遺物



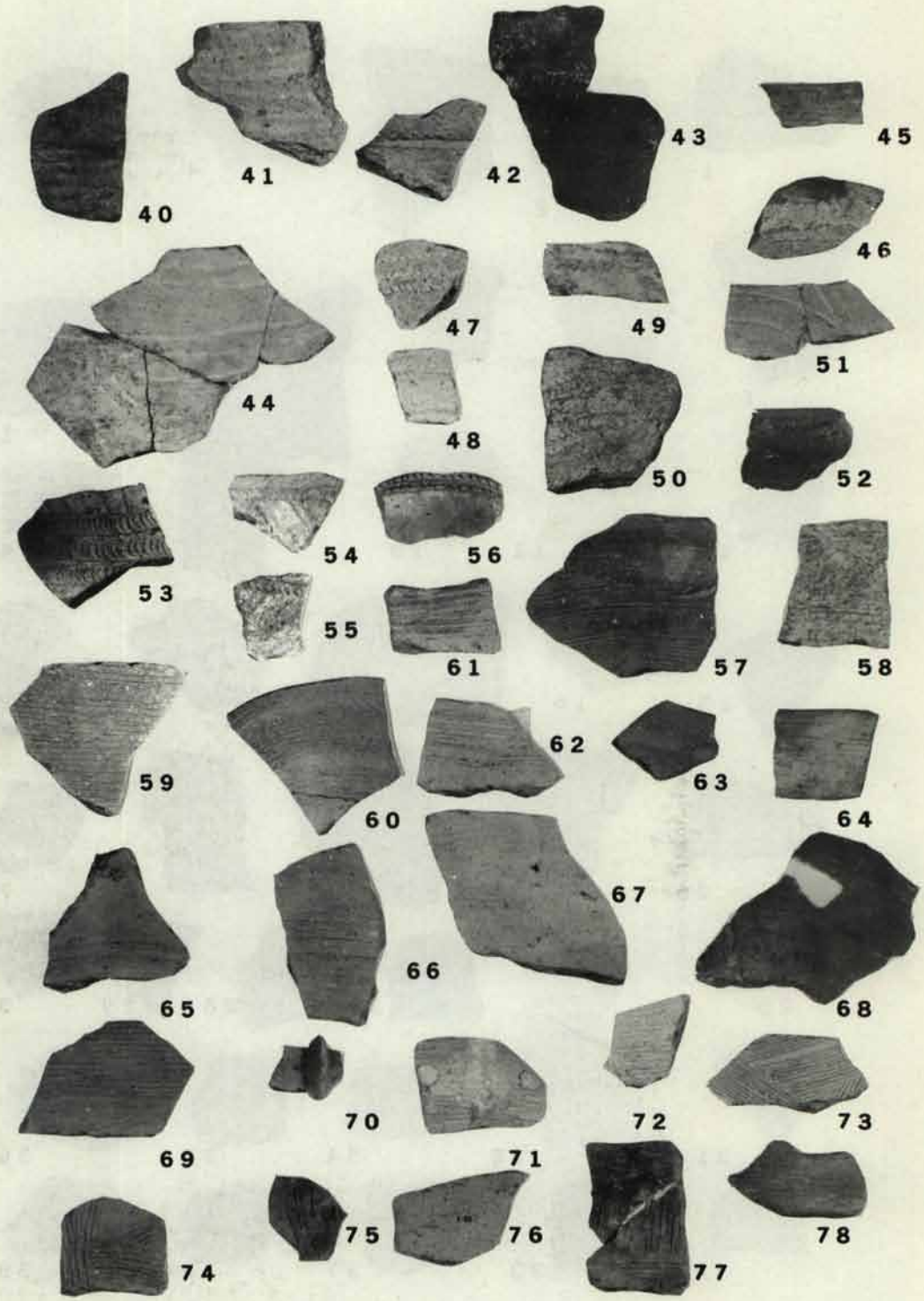
1. 37，38号住居址出土遺物



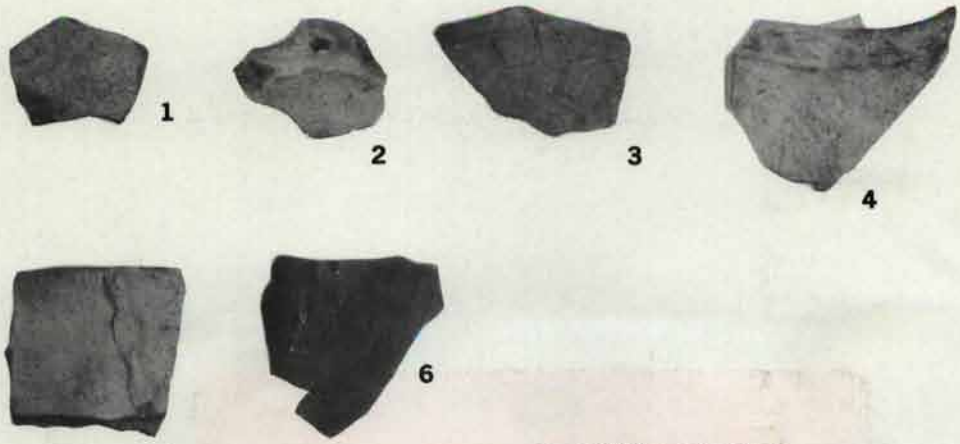
1. 37，38号住居址出土遺物　　2. 37，38号住居址出土石器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

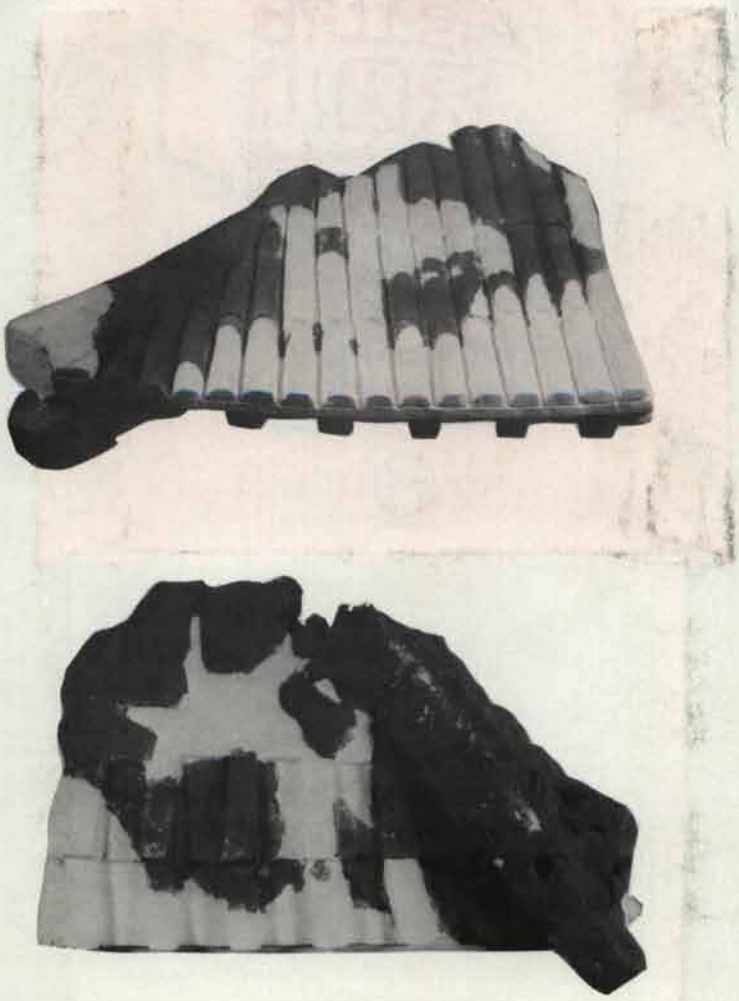
1. 遺構以外の出土遺物


40
41
42
43
45
46
44
47
49
51
48
50
52
53
54
56
55
61
57
58
59
60
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78

1. 遺構以外の出土遺物



1. 遺構以外の出土遺物



2. ゴミ穴出土瓦塔片

K221 81 2134

○必ず返す期限をまもりましょう。
○この本に目じるしを書きこんだり、折目をつけたり、よごしたりしないように大切に読みましょう。
○返さないうちにこの本を、他の人に貸すと本がなくなる原因になります。

Itoi
伊藤(株)製

天神風呂遺跡発掘調査報告書

印刷　昭和５６年３月３１日
発行　昭和５６年３月３１日
発行者　勢多郡大胡町堀越1115番地
大胡町教育委員会
執筆者　山下歳信
印刷所　関東印刷工業有限会社